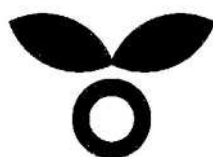
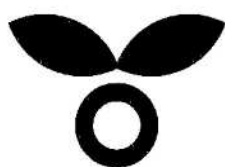


高津区区民生活に関わるニーズ調査 報 告 書



2025（令和7）年3月

高 津 区



高 津 区

はじめに

少子高齢化、アフターコロナ時代の生活様式、デジタル技術の急速な進展など、社会の状況は近年大きく変化しています。これに伴い、地域で暮らす人々の生活も大きく変わりつつあり、地域の課題も複雑化・多様化しています。

高津区役所では、身近な行政サービスの提供に加えて、市民・地域の団体や事業者など多様な主体と連携して、地域が持つ魅力や特性を活かしながら地域課題の解決に取り組むことが必要と考えています。

地域には、防犯・防災対策、子育て支援、地域包括ケアシステム構築、地域におけるつながりづくりなどの施策を進める上で様々な課題がありますが、地域と連携して課題解決に取り組んでいくにあたっては、区政の主役である区民のニーズを把握し、区民の視点に立って区政を進めていくことが大切です。

そのため、高津区では、地域で抱える課題について、区民がどのような意識や意見を持っているかを把握し、地域の声をより一層反映できる施策のあり方や解決手法についての検討を行う際の資料とするため、「高津区区民生活に関わるニーズ調査」を平成18年度より実施しています（2012（平成24）年度からは4年毎）。

今回の調査では、前回調査から引き続き「区役所業務に対する要望と評価」、「まちの課題・問題点」、「区事業の認知度と評価」、「地域防災」、「自身の健康」、「地域におけるつながり・コミュニティ」についてお尋ねするとともに、新たに「公共施設や公共空間の整備」、「高齢者支援」という2つのテーマを調査項目に取り上げています。

この調査結果を区が行う施策・事業に反映し、区民本位のよりよい区政運営に活かしてまいります。

2025（令和7）年3月
高津区長 高橋 友弘

I	調査概要	1
II	調査回答者の属性	7
III	調査結果	13
	1. 区の施策について	
	（1）区役所業務の評価	15
	（2）区役所業務への要望	18
	（3）放置自転車対策	21
	（4）街の安全を守るための対策	24
	（5）地震や風水害対策	27
	（6）より健康になるために必要な支援や仕組み	31
	（7）高齢者が生きがいを持って生活するために必要な支援や仕組み	34
	（8）子育て支援	37
	（9）地域住民のつながりを深める手法	40
	（10）市民活動支援	44
	（11）区の情報提供	46
	（12）区民の意見を区政に反映するための手法	49
	（13）「花と緑のまちづくり」推進	52
	（14）「音楽のまち」推進	54
	（15）区のイメージアップ	56
	（16）区の地域資源の魅力の効果的な発信	58
	（17）区役所の窓口サービス向上	60
	（18）区民と行政が協力してまちづくりを進める仕組み	63
	（19）地域の地球温暖化緩和策	66
	（20）地球温暖化に伴う自然災害への適応策	68
	（21）スポーツ振興	70
	（22）生涯学習を盛んにするための手法	72
	（23）まちの課題・問題点	74
	2. 区の取り組みについて	
	（1）各取り組みの認知度・評価	79
	（2）各取り組みへの参加状況・評価	86
	（3）各広報媒体等の閲覧状況・評価	101

目 次

3. 地域防災について

- (1) 大規模地震発生時の「不安度」…………… 105
- (2) 大規模地震発生時の「不安内容」…………… 110
- (3) 災害に対する不安…………… 113
- (4) 町内会・自治会等主催の防災訓練参加有無…………… 117
- (5) 町内会・自治会等主催の防災訓練に参加しない理由…………… 122
- (6) 防災力を高めるために必要なこと…………… 127
- (7) 大規模災害発生への備え…………… 129
- (8) 大規模災害発生に備え、特に準備をしていない理由…………… 133
- (9) ペットの防災対策…………… 137
- (10) 避難方法について検討していること…………… 139

4. 自身の健康について

- (1) 健康診断の受診状況…………… 141
- (2) 健康診断後の対応…………… 144
- (3) 健康診断を受診していない理由…………… 146

5. 公共施設や公共空間の整備について

- (1) 公園の利用頻度…………… 148
- (2) 公園を訪れる目的…………… 150
- (3) 居心地の良い駅前広場づくりのために望む機能…………… 152
- (4) 区役所や出張所にあったらよいと思うもの…………… 154

6. 地域におけるつながり・コミュニティについて

- (1) 気軽に挨拶できる相手…………… 156
- (2) 困ったときに相談できる人の有無…………… 158
- (3) 困ったときの相談相手…………… 160
- (4) 直近1週間の外出状況…………… 162
- (5) 「ソーシャルデザインセンター（SDC）」の認知度…………… 164

7. 高齢者支援について

- (1) 地域包括支援センターの認知度…………… 166
- (2) 安心して暮らし続けるために必要な知識…………… 168

IV 使用した調査票…………… 171

I 調査概要

I 調査概要

1. 調査の目的

高津区の次年度以降の事業計画等において、区民ニーズ、必要性及び緊急性が高い課題等に対応する事業を効果的・重点的に実施するため、「区民がどのような施策・事業を執行してほしいと思っているのか」、「高津区で実施している施策・事業が区民にどのように評価されているか」等を調査・分析するために実施した。

2. 調査の方法

- (1) 調査地域 川崎市高津区全域
- (2) 調査対象 川崎市高津区在住の満18歳以上の男女個人（外国人を含む。）
- (3) 標本数 2,000
- (4) 抽出方法 令和6年9月末現在の住民基本台帳から層化二段無作為抽出
- (5) 調査方法 郵送配布、郵送回収及びインターネット回答
- (6) 調査期間 令和6年9月17日～9月30日
- (7) 調査委託機関 株式会社エスピー研

3. 主要な調査項目

- (1) 区役所業務に対する評価と要望
- (2) 区役所の施策・事業についての手法
- (3) まちの課題・問題点
- (4) 区役所の取り組みの認知度と評価
- (5) 地域防災について
- (6) 自身の健康について
- (7) 公共施設や公共空間の整備について
- (8) 地域におけるつながり・コミュニティについて
- (9) 高齢者支援について

4. 回収結果

標 本 数	有効回収数	有効回収率
2,000	706	35.3%

<地区別回収結果>

町 名		18歳以上人口（構成比）		標本数	有効回収数（構成比）		有効回収率
高津地区	宇奈根	1,326	（ 0.7%）	13	3	（ 0.4%）	23.1%
	梶ヶ谷	9,058	（ 4.6%）	91	35	（ 5.0%）	38.5%
	上作延	9,380	（ 4.7%）	94	38	（ 5.4%）	40.4%
	北見方	8,066	（ 4.1%）	81	21	（ 3.0%）	25.9%
	久 地	11,264	（ 5.7%）	113	34	（ 4.8%）	30.1%
	坂 戸	7,872	（ 4.0%）	79	33	（ 4.7%）	41.8%
	下作延	20,122	（ 10.1%）	202	62	（ 8.8%）	30.7%
	下野毛	3,470	（ 1.7%）	35	8	（ 1.1%）	22.9%
	諏 訪	5,881	（ 3.0%）	59	31	（ 4.4%）	52.5%
	瀬 田	736	（ 0.4%）	7	1	（ 0.1%）	14.3%
	久 本	10,957	（ 5.5%）	110	31	（ 4.4%）	28.2%
	二 子	13,095	（ 6.6%）	132	46	（ 6.5%）	34.8%
	溝 口	14,341	（ 7.2%）	144	56	（ 7.9%）	38.9%
	向ヶ丘	2,147	（ 1.1%）	22	9	（ 1.3%）	40.9%
	高津地区・計	117,715	（ 59.1%）	1,183	408	（ 57.8%）	34.5%
橘地区	明 津	2,835	（ 1.4%）	28	4	（ 0.6%）	14.3%
	蟹ヶ谷	7,021	（ 3.5%）	71	27	（ 3.8%）	38.0%
	子母口・ 子母口富士見台	8,342	（ 4.2%）	84	33	（ 4.7%）	39.3%
	新 作	13,926	（ 7.0%）	140	67	（ 9.5%）	47.9%
	末 長	18,576	（ 9.3%）	187	65	（ 9.2%）	34.8%
	千 年	11,334	（ 5.7%）	114	42	（ 5.9%）	36.8%
	千年新町	2,661	（ 1.3%）	27	6	（ 0.8%）	22.2%
	野 川	3,958	（ 2.0%）	40	10	（ 1.4%）	25.0%
	久 末	12,670	（ 6.4%）	127	38	（ 5.4%）	29.9%
	橘地区・計	81,323	（ 40.9%）	817	292	（ 41.4%）	35.7%
無 回 答					6	（ 0.8%）	
全体・計		199,038	（100.0%）	2,000	706	（100.0%）	35.3%

※18歳以上人口は、令和6年9月末現在の住民基本台帳による

5. 標本誤差

標本誤差（サンプル誤差）はおおよそ下記の通りである。標本誤差は次の式によって得られる。標本誤差の幅は、比率算出の基数（n）及び回答の比率（P）によって異なる。

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{2 \times \frac{N - n}{N - 1} \times \frac{P(1 - P)}{n}}$$

N = 母集団数（高津区の18歳以上の人口）
 n = 比率算出の基数（サンプル数）
 P = 回答の比率（%）

回答比率(P) 基数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
706	± 3.19	± 4.26	± 4.88	± 5.21	± 5.32
500	± 3.79	± 5.06	± 5.80	± 6.20	± 6.32
300	± 4.90	± 6.53	± 7.48	± 8.00	± 8.16
100	± 8.49	± 11.31	± 12.96	± 13.86	± 14.14

※上表は $\frac{N - n}{N - 1} \approx 1$ として算出している。なお、この表の計算式の信頼度は95%である。

●この表の見方

例えば、「ある設問の回答者数が706で、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±5.21%以内（54.79～65.21%）である」とみることができる。

6. 報告書の見方

- （1）この報告書の設問および図表中のnとは、設問に対する回答者数で、比率算出の基数を示す。
- （2）回答の比率（%）はnを基数として算出し、小数点以下第2位を四捨五入して小数点以下第1位までを示した。従って、それぞれの回答の比率を足し上げた値とは異なる場合がある。
- （3）本文図表の選択肢表記は、語句を簡略化している場合がある。
- （4）回答者数が20に満たないものについては、図示するに留め、この報告書の中では特に取りあげていない。
- （5）クロス集計の図表では、分析軸となる質問（性別、性・年齢別など）に無回答だった人については掲載していない。そのため、各層のnの合計が総数とは一致しない場合がある。
- （6）統計数値を考察するにあたっては、表現をおおむね以下のとおりとしている。

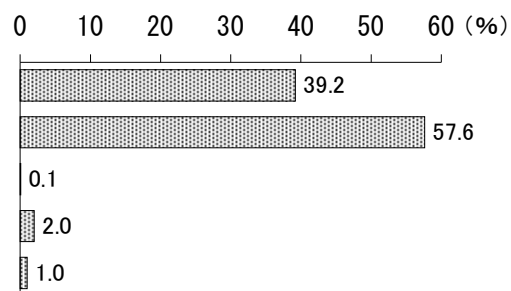
例	表現
19.5～20.4%	2割
20.5～20.9%	約2割
21.0～23.9%	2割を超える
24.0～26.4%	2割半ば
26.5～28.9%	3割近く
29.0～29.4%	約3割
29.5～30.4%	3割

Ⅱ 調査回答者の属性

Ⅱ 調査回答者の属性

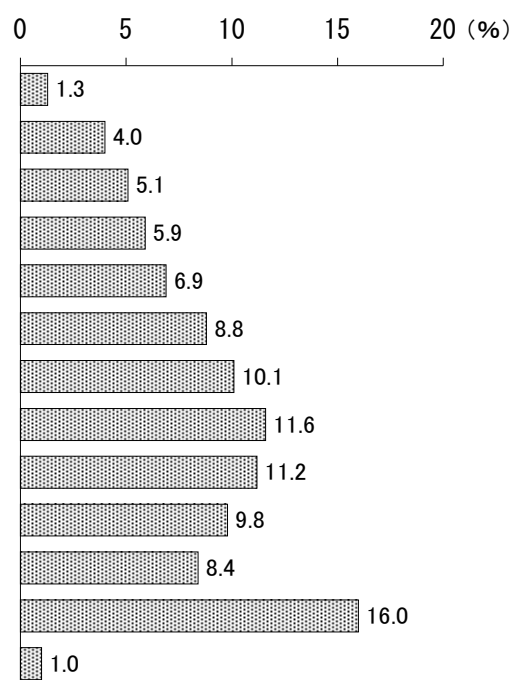
(1) 性別【F 1】

	n	構成比
男 性	277	39.2%
女 性	407	57.6
その他	1	0.1
回答したくない	14	2.0
(無 回 答)	7	1.0
合 計	706	100.0



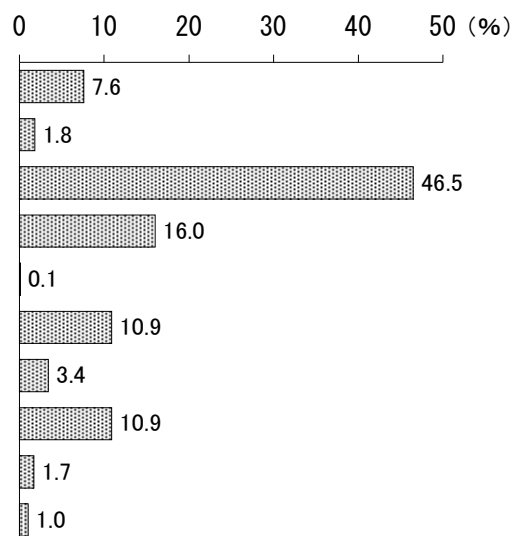
(2) 年齢【F 2】

	n	構成比
18～19歳	9	1.3%
20～24歳	28	4.0
25～29歳	36	5.1
30～34歳	42	5.9
35～39歳	49	6.9
40～44歳	62	8.8
45～49歳	71	10.1
50～54歳	82	11.6
55～59歳	79	11.2
60～64歳	69	9.8
65～69歳	59	8.4
70歳以上	113	16.0
(無 回 答)	7	1.0
合 計	706	100.0

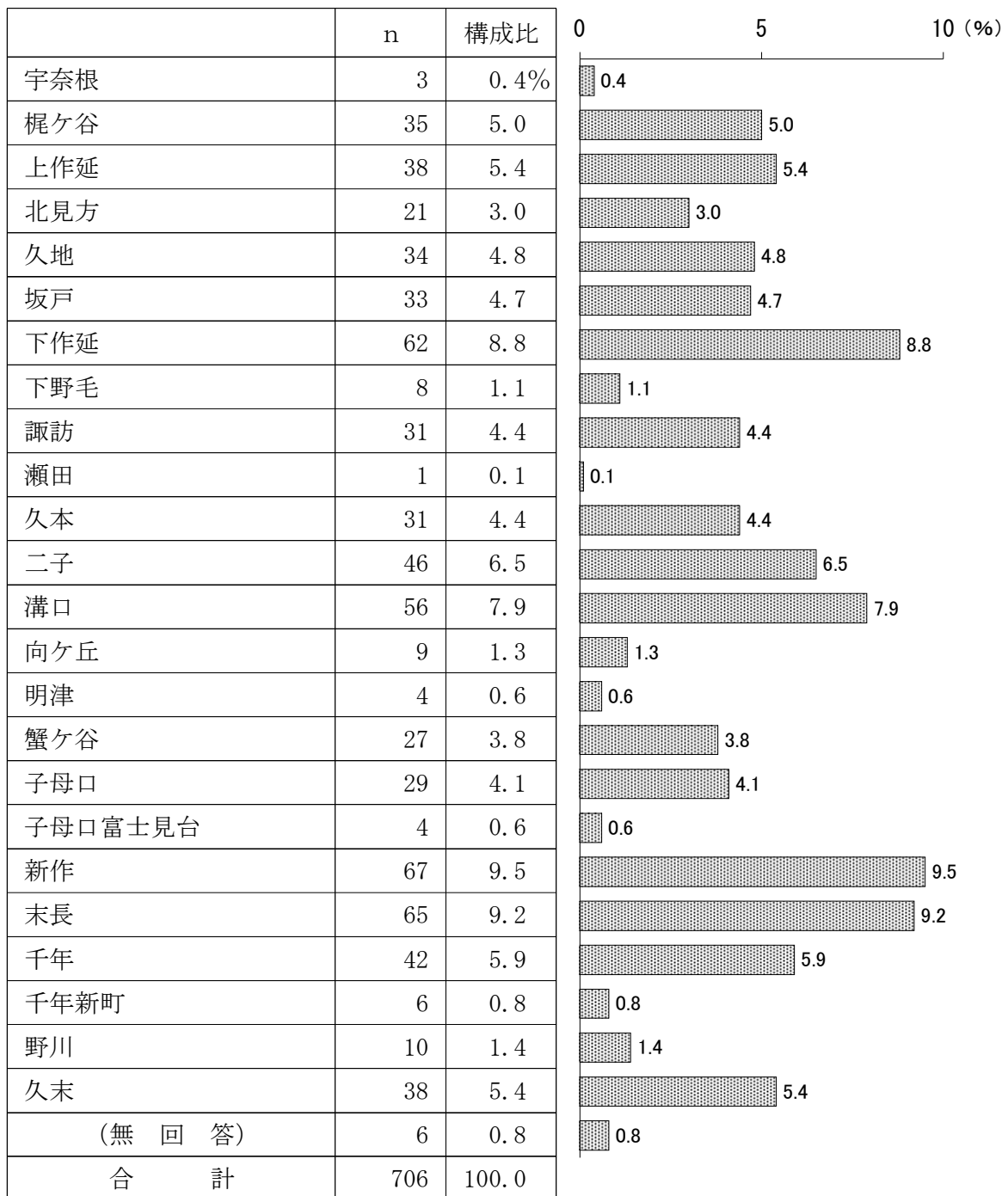


(3) 職業【F 3】

	n	構成比
自営業主	54	7.6%
家族従業（家業手伝い）	13	1.8
勤め（全日）	328	46.5
勤め（パートタイム）	113	16.0
内職	1	0.1
主婦（仕事はしていない）	77	10.9
学生	24	3.4
無職	77	10.9
その他	12	1.7
(無 回 答)	7	1.0
合 計	706	100.0

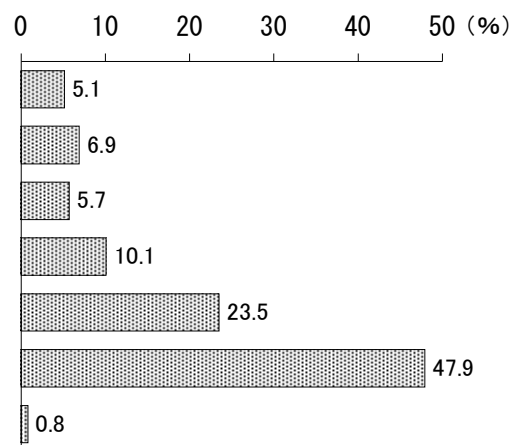


(4) 居住地区【F 4】



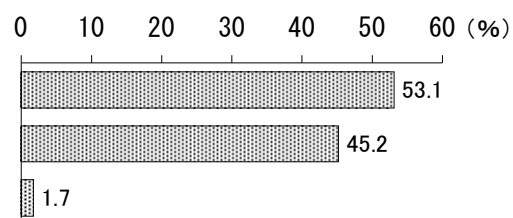
(5) 居住年数【F 5】

	n	構成比
1 年未満	36	5.1%
1 年～3 年未満	49	6.9
3 年～5 年未満	40	5.7
5 年～10 年未満	71	10.1
10 年～20 年未満	166	23.5
20 年以上	338	47.9
(無 回 答)	6	0.8
合 計	706	100.0



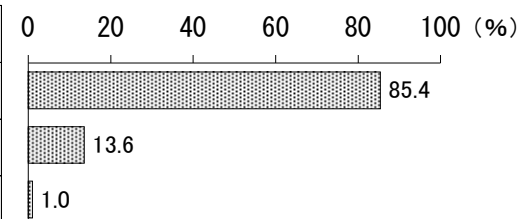
(6) 町内会・自治会加入【F 6】

	n	構成比
はい (加入している)	375	53.1%
いいえ (加入していない)	319	45.2
(無 回 答)	12	1.7
合 計	706	100.0



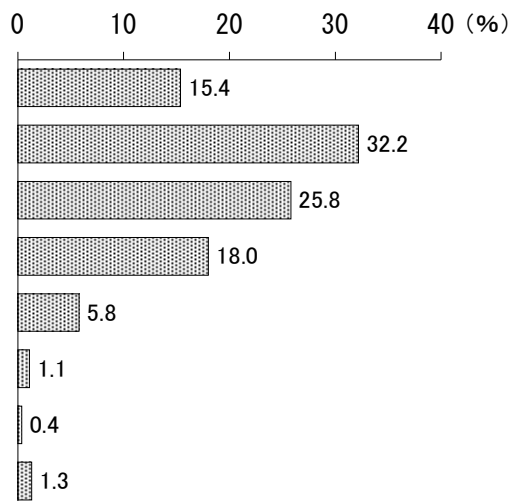
(7) インターネット利用状況【F 7】

	n	構成比
はい (利用している)	603	85.4%
いいえ (利用していない)	96	13.6
(無 回 答)	7	1.0
合 計	706	100.0



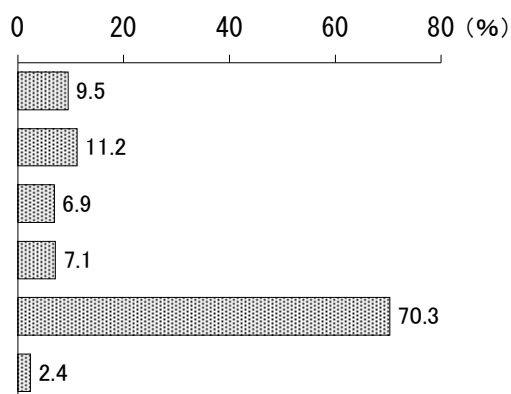
(8) 同居家族人数【F 8】

	n	構成比
1 人	109	15.4%
2 人	227	32.2
3 人	182	25.8
4 人	127	18.0
5 人	41	5.8
6 人	8	1.1
7 人以上	3	0.4
(無 回 答)	9	1.3
合 計	706	100.0



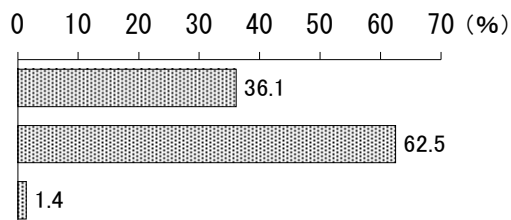
(9) 子どもの成長段階【F 9】

	n	構成比
未就学児	67	9.5%
小学生	79	11.2
中学生	49	6.9
高校生	50	7.1
いない	496	70.3
(無 回 答)	17	2.4
合 計	706	100.0



(10) 65 歳以上の方との同居（高齢者世帯）【F 10】

	n	構成比
いる	255	36.1%
いない	441	62.5
(無 回 答)	10	1.4
合 計	706	100.0



Ⅲ 調査結果

Ⅲ 調査結果

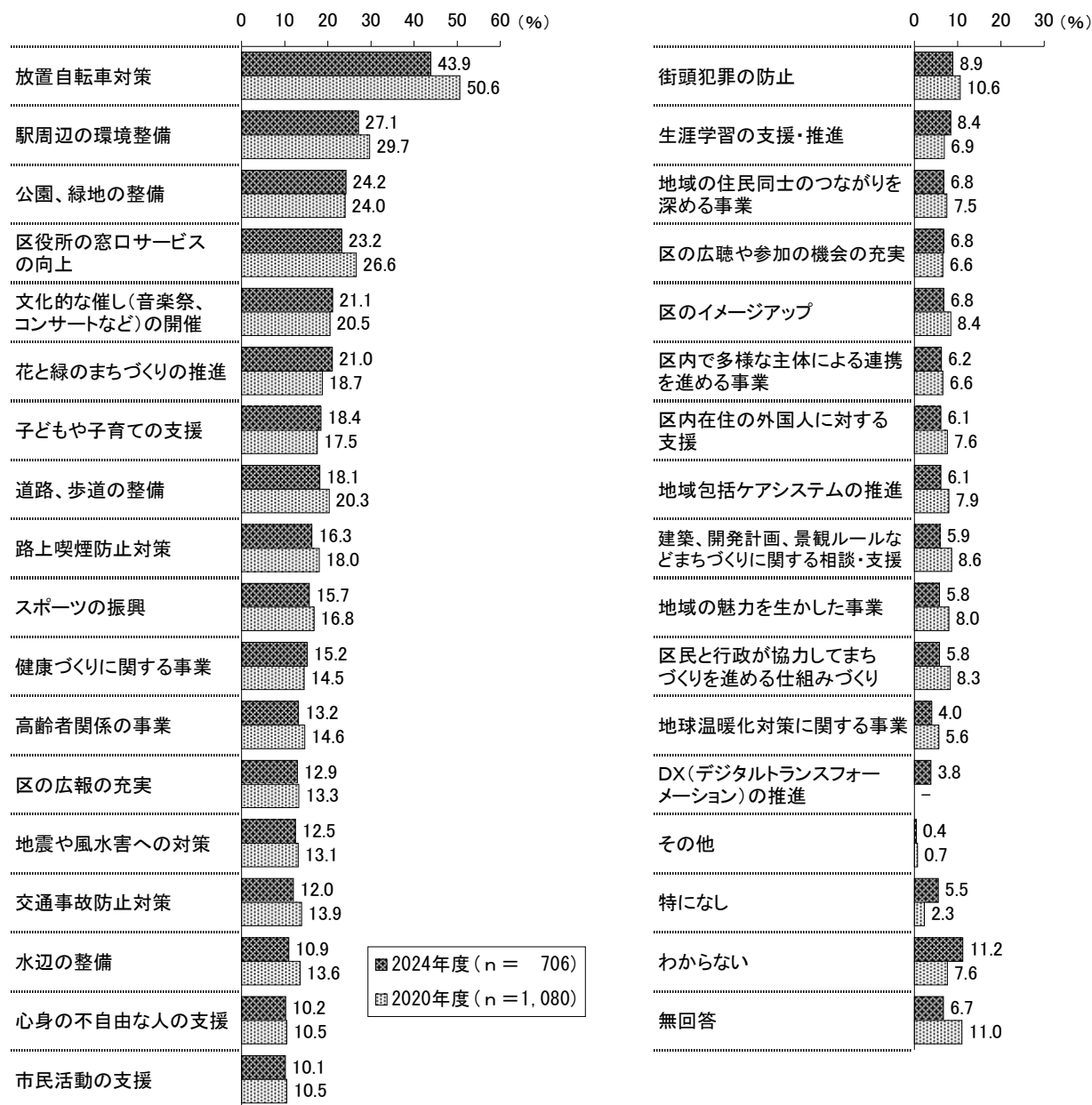
1. 区の施策について

(1) 区役所業務の評価

問1 次にあげる区役所の仕事で、よくやっていると思われるものは、どれですか。

(いくつでも○)

図1-1 区役所業務の評価



※「DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進」は、2024年度に追加された選択肢

※DX: デジタル技術を活用してビジネスモデルや職場文化を変革すること、また、それにより顧客満足度の向上や業務効率化を図ること

※広聴: 行政機関などが広く一般の人の意見や要望などを聞くこと

※参加: 市民の参加の下で市政が行われ、市民の意思を自治体運営に反映すること。(この調査では、区民の皆さまの声を区政に反映することを指します。)

※生涯学習: 人々が生涯にわたって、様々な場や機会において行う学習

※地域包括ケアシステム: 住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、自助・互助・共助・公助の適切な役割分担のもと、住まい・医療・介護・予防・福祉・生活支援などが切れ目なく、一体的に提供される体制づくり

区役所業務の評価を聞いたところ、「放置自転車対策」(43.9%)が4割を超えて最も高く、次いで「駅周辺の環境整備」(27.1%)、「公園、緑地の整備」(24.2%)、「区役所の窓口サービスの向上」(23.2%)となっている。

2020年度と比較すると、「放置自転車対策」は6.7ポイント、「区役所の窓口サービスの向上」は3.4ポイント、それぞれ減少している。(図1-1)

図1-2 区役所業務の評価(性別、性・年代別)ー上位10項目

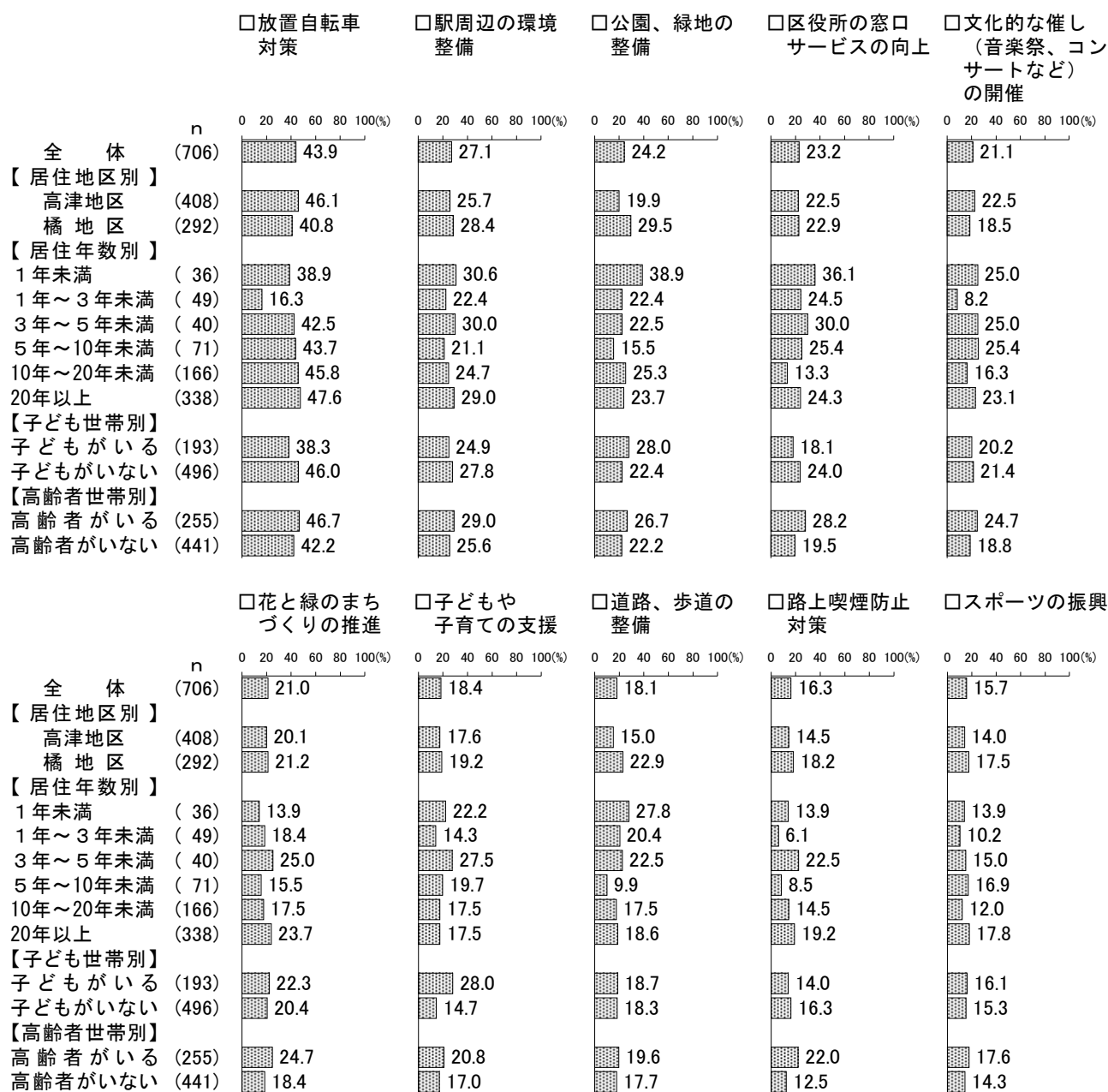


性別にみると、「放置自転車対策」は女性(46.9%)が男性(39.0%)より7.9ポイント、「文化的な催し(音楽祭、コンサートなど)の開催」は女性(23.6%)が男性(17.7%)より5.9ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「公園、緑地の整備」は男性(26.4%)が女性(23.1%)より3.3ポイント、「区役所の窓口サービスの向上」は男性(24.9%)が女性(21.6%)より3.3ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別にみると、「放置自転車対策」は女性60歳代(61.2%)で6割を超えて高くなっている。「区役所の窓口サービスの向上」は男性60歳代(35.6%)と男性70歳以上(34.8%)で3割半ばと高くなっている。(図1-2)

図 1-3 区役所業務の評価（居住地区別、居住年数別、子ども世帯別、高齢者世帯別）

ー上位10項目



居住地区別にみると、「公園、緑地の整備」は橘地区（29.5%）が高津地区（19.9%）より 9.6 ポイント高くなっている。一方、「放置自転車対策」は高津地区（46.1%）が橘地区（40.8%）より 5.3 ポイント高くなっている。

居住年数別にみると、「放置自転車対策」は 20 年以上（47.6%）で 5 割近くと高くなっている。「公園、緑地の整備」は 1 年未満（38.9%）で 4 割近くと高くなっている。

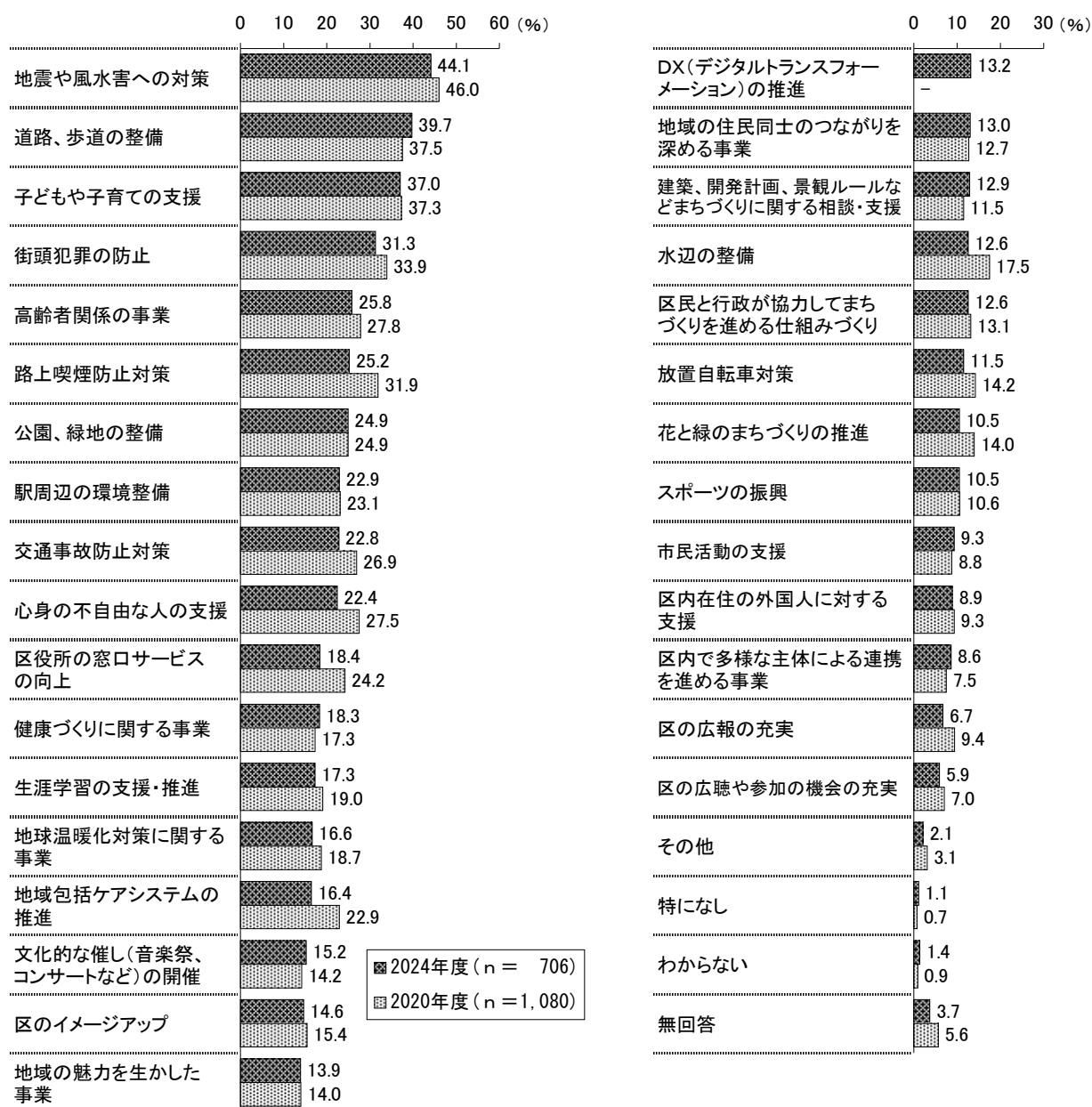
子ども世帯別にみると、「子どもや子育ての支援」は子どもがいる世帯（28.0%）が子どもがいない世帯（14.7%）より 13.3 ポイント高くなっている。

高齢者世帯別にみると、「路上喫煙防止対策」は高齢者がある世帯（22.0%）が高齢者がいない世帯（12.5%）より 9.5 ポイント高くなっている。（図 1-3）

(2) 区役所業務への要望

問2 今後、特に力を入れてほしいとお考えのものは、どれですか。(いくつでも○)

図1-4 区役所業務への要望



※「DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進」は、2024年度に追加された選択肢

※DX: デジタル技術を活用してビジネスモデルや職場文化を変革すること、また、それにより顧客満足度の向上や業務効率化を図ること

※広聴: 行政機関などが広く一般の人の意見や要望などを聞くこと

※参加: 市民の参加の下で市政が行われ、市民の意思を自治体運営に反映すること。(この調査では、区民の皆さまの声を区政に反映することを指します。)

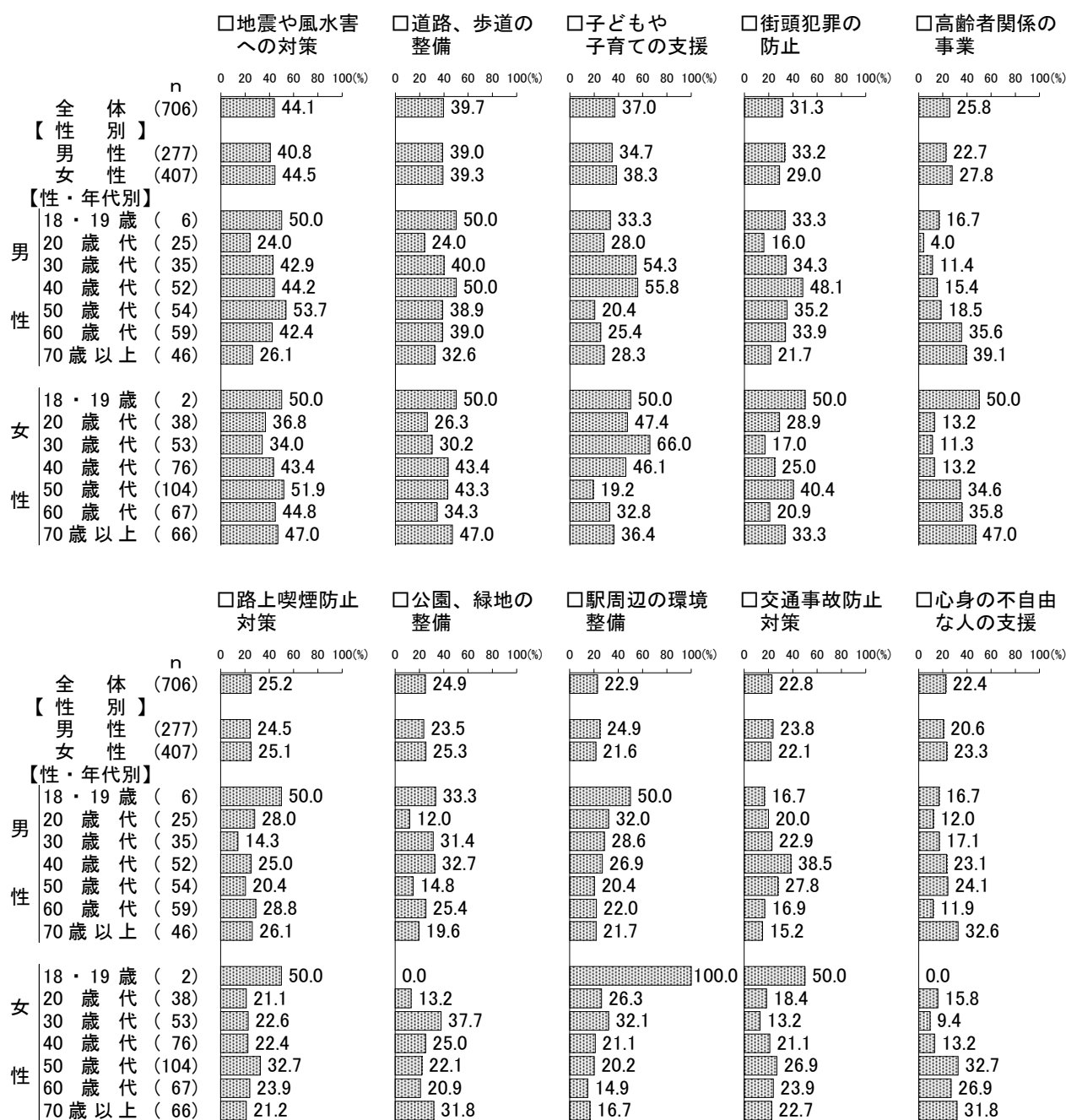
※生涯学習: 人々が生涯にわたって、様々な場や機会において行う学習

※地域包括ケアシステム: 住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、自助・互助・共助・公助の適切な役割分担のもと、住まい・医療・介護・予防・福祉・生活支援などが切れ目なく、一体的に提供される体制づくり

区役所業務への要望を聞いたところ、「地震や風水害への対策」(44.1%)が4割半ばで最も高く、次いで「道路、歩道の整備」(39.7%)、「子どもや子育ての支援」(37.0%)、「街頭犯罪の防止」(31.3%)となっている。

2020年度と比較すると、「路上喫煙防止対策」は6.7ポイント、「地域包括ケアシステムの推進」は6.5ポイント、それぞれ減少している。(図1-4)

図 1-5 区役所業務への要望（性別、性・年代別）－上位10項目



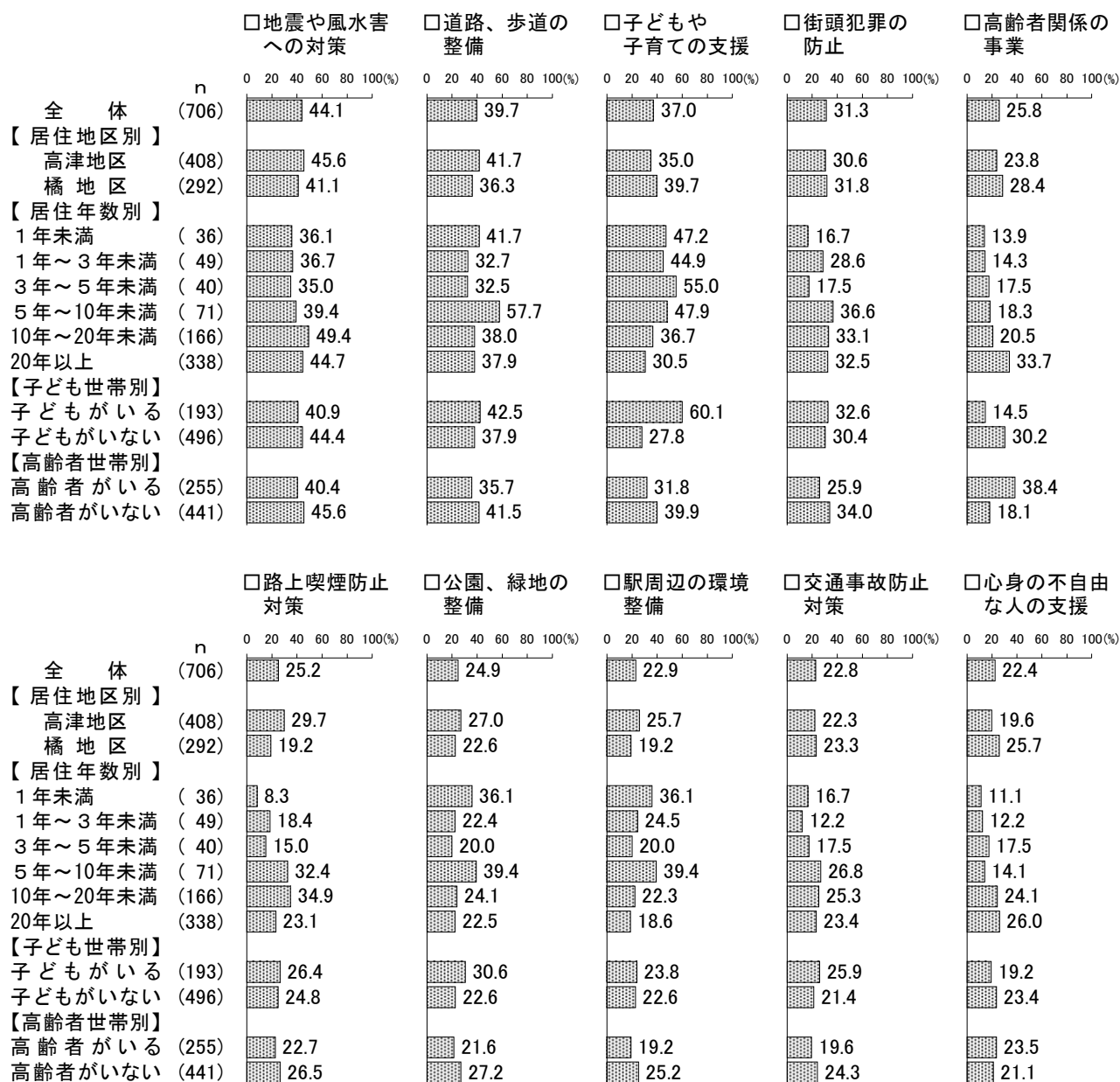
性別にみると、「高齢者関係の事業」は女性（27.8%）が男性（22.7%）より 5.1 ポイント高くなっている。一方、「街頭犯罪の防止」は男性（33.2%）が女性（29.0%）より 4.2 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「地震や風水害への対策」は男性 50 歳代（53.7%）と女性 50 歳代（51.9%）で 5 割を超えて高くなっている。「道路、歩道の整備」は男性 40 歳代（50.0%）で 5 割と高くなっている。「子どもや子育ての支援」は女性 30 歳代（66.0%）で 6 割半ばと高くなっている。

（図 1-5）

図 1-6 区役所業務への要望（居住地区別、居住年数別、子ども世帯別、高齢者世帯別）

—上位10項目



居住地区別にみると、「路上喫煙防止対策」は高津地区（29.7%）が橘地区（19.2%）より 10.5 ポイント高くなっている。一方、「心身の不自由な人の支援」は橘地区（25.7%）が高津地区（19.6%）より 6.1 ポイント高くなっている。

居住年数別にみると、「道路、歩道の整備」は 5 年～10 年未満（57.7%）で 6 割近くと高くなっている。

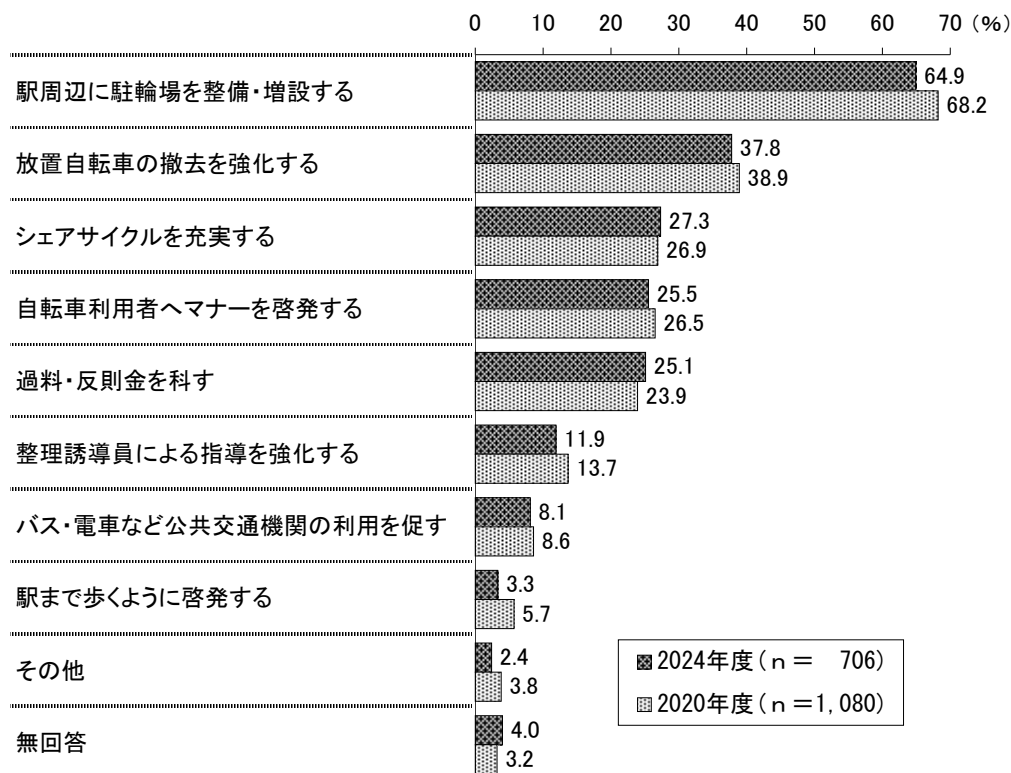
子ども世帯別にみると、「子どもや子育ての支援」は子どもがいる世帯（60.1%）が子どもがいない世帯（27.8%）より 32.3 ポイント高くなっている。一方、「高齢者関係の事業」は子どもがいない世帯（30.2%）が子どもがいる世帯（14.5%）より 15.7 ポイント高くなっている。

高齢者世帯別にみると、「高齢者関係の事業」は高齢者がいる世帯（38.4%）が高齢者がいない世帯（18.1%）より 20.3 ポイント高くなっている。（図 1-6）

(3) 放置自転車対策

問3 放置自転車対策としては、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

図1-7 放置自転車対策



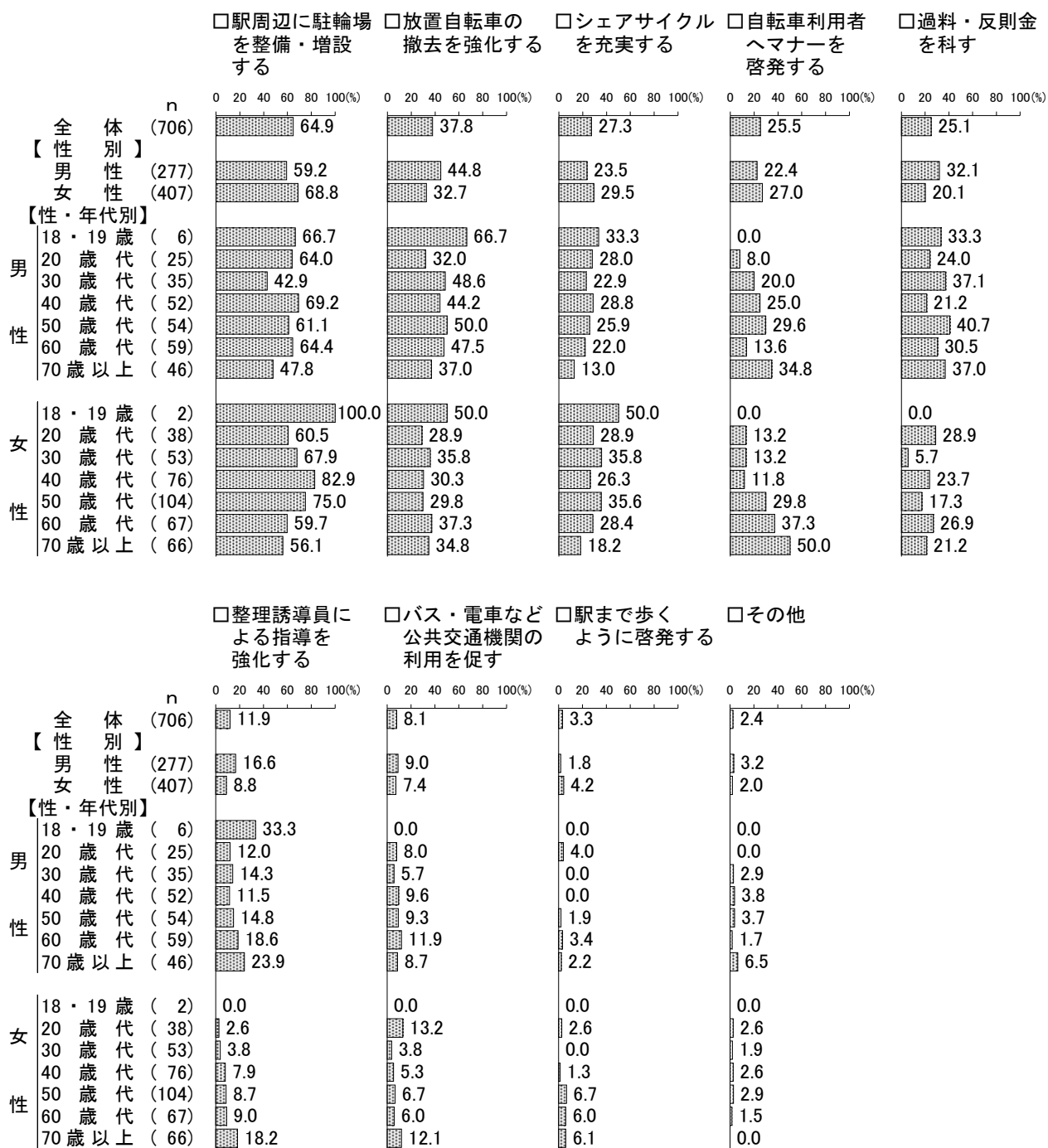
※「シェアサイクルを充実する」は、2020年度では「自転車共用システムを導入する」としていた

放置自転車対策を聞いたところ、「駅周辺に駐輪場を整備・増設する」(64.9%)が6割半ばで最も高く、次いで「放置自転車の撤去を強化する」(37.8%)、「シェアサイクルを充実する」(27.3%)、「自転車利用者へマナーを啓発する」(25.5%)となっている。

2020年度と比較すると、「駅周辺に駐輪場を整備・増設する」は3.3ポイント減少している。

(図1-7)

図 1-8 放置自転車対策（性別、性・年代別）

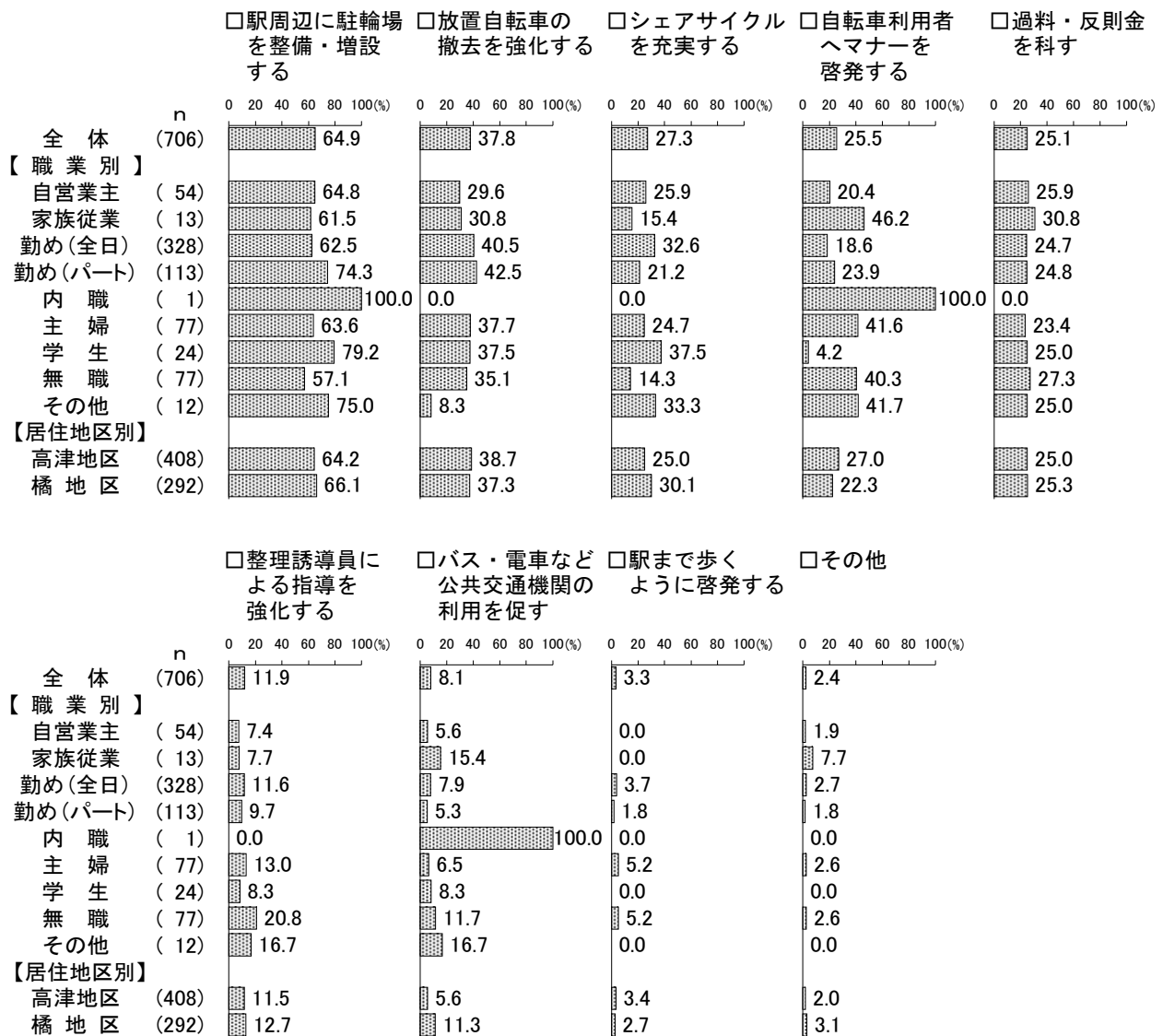


性別にみると、「放置自転車の撤去を強化する」は男性（44.8%）が女性（32.7%）より 12.1 ポイント、「過料・反則金を科す」は男性（32.1%）が女性（20.1%）より 12.0 ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「駅周辺に駐輪場を整備・増設する」は女性（68.8%）が男性（59.2%）より 9.6 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「駅周辺に駐輪場を整備・増設する」は女性 40 歳代（82.9%）で 8 割を超えて高くなっている。「放置自転車の撤去を強化する」は男性 50 歳代（50.0%）で 5 割と高くなっている。「自転車利用者へマナーを啓発する」は女性 70 歳以上（50.0%）で 5 割と高くなっている。

（図 1-8）

図 1-9 放置自転車対策（職業別、居住地区別）



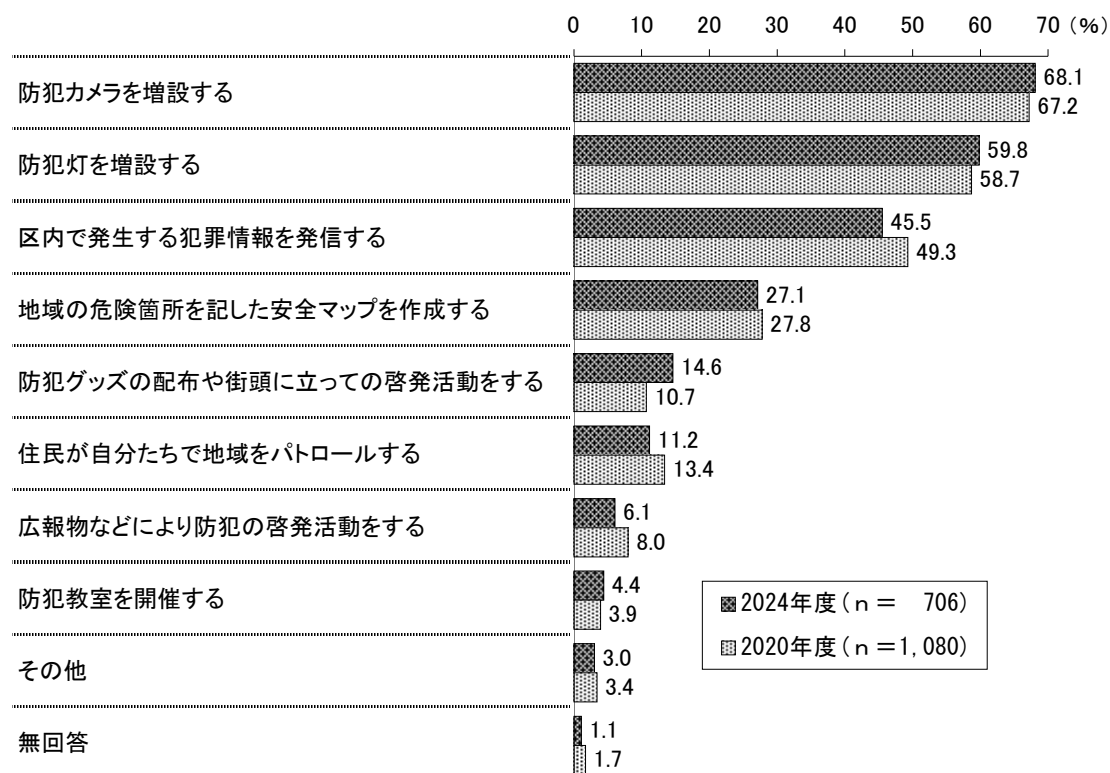
職業別にみると、「駅周辺に駐輪場を整備・増設する」は学生（79.2%）で約8割と高くなっている。「放置自転車の撤去を強化する」は勤め（パートタイム）（42.5%）で4割を超えて高くなっている。

居住地区別にみると「バス・電車など公共交通機関の利用を促す」は橘地区（11.3%）が高津地区（5.6%）より5.7ポイント高くなっている。一方、「自転車利用者へマナーを啓発する」は高津地区（27.0%）が橘地区（22.3%）より4.7ポイント高くなっている。（図1-9）

(4) 街の安全を守るための対策

問4 街の安全を守るためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

図1-10 街の安全を守るための対策

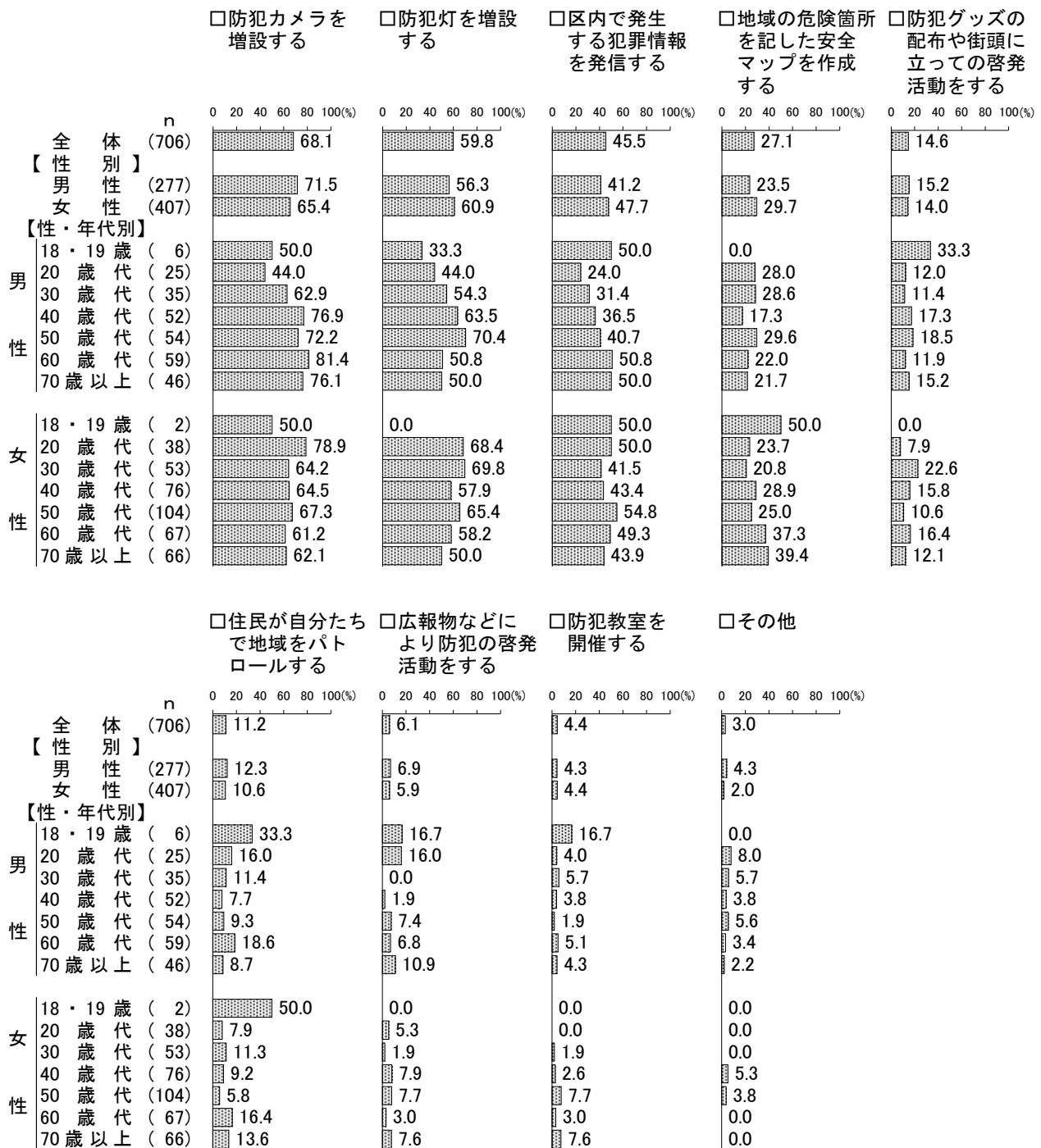


街の安全を守るための対策を聞いたところ、「防犯カメラを増設する」(68.1%)が7割近くで最も高く、次いで「防犯灯を増設する」(59.8%)、「区内で発生する犯罪情報を発信する」(45.5%)、「地域の危険箇所を記した安全マップを作成する」(27.1%)となっている。

2020年度と比較すると、「防犯グッズの配布や街頭に立っての啓発活動をする」は3.9ポイント増加している。一方、「区内で発生する犯罪情報を発信する」は3.8ポイント減少している。

(図1-10)

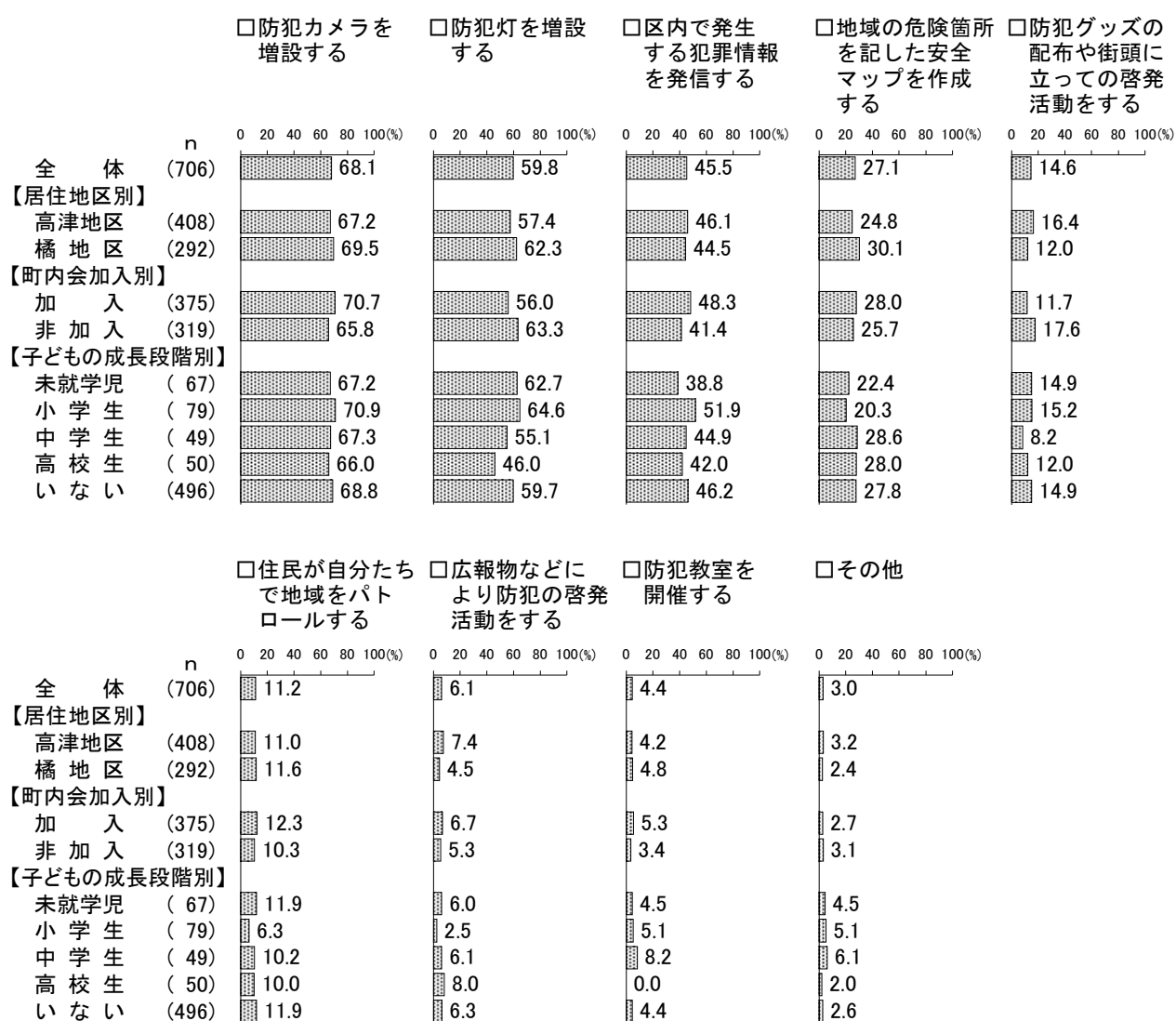
図 1-11 街の安全を守るための対策（性別、性・年代別）



性別にみると、「区内で発生する犯罪情報を発信する」は女性（47.7%）が男性（41.2%）より 6.5 ポイント、「地域の危険箇所を記した安全マップを作成する」は女性（29.7%）が男性（23.5%）より 6.2 ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「防犯カメラを増設する」は男性（71.5%）が女性（65.4%）より 6.1 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「防犯カメラを増設する」は男性 60 歳代（81.4%）で 8 割を超えて高くなっている。「防犯灯を増設する」は男性 50 歳代（70.4%）と女性 30 歳代（69.8%）で 7 割と高くなっている。（図 1-11）

図 1-12 街の安全を守るための対策（居住地区別、町内会加入別、子どもの成長段階別）



居住地区別にみると、「地域の危険箇所を記した安全マップを作成する」は橘地区（30.1%）が高津地区（24.8%）より 5.3 ポイント高くなっている。一方、「防犯グッズの配布や街頭に立っての啓発活動をする」は高津地区（16.4%）が橘地区（12.0%）より 4.4 ポイント高くなっている。

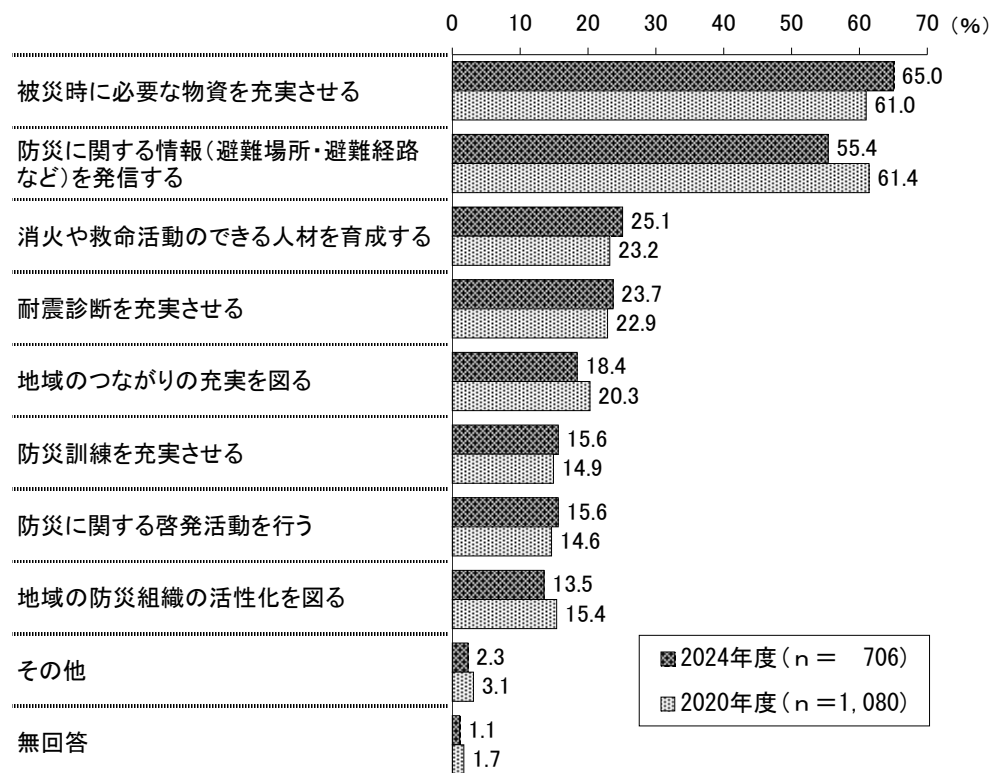
町内会加入別にみると、「防犯灯を増設する」は非加入（63.3%）が加入（56.0%）より 7.3 ポイント高くなっている。一方、「区内で発生する犯罪情報を発信する」は加入（48.3%）が非加入（41.4%）より 6.9 ポイント高くなっている。

子どもの成長段階別にみると、「防犯カメラを増設する」は小学生がいる世帯（70.9%）で約 7 割と高くなっている。「防犯灯を増設する」は小学生がいる世帯（64.6%）で 6 割半ばと高くなっている。（図 1-12）

(5) 地震や風水害対策

問5 地震や風水害への対策としては、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

図1-13 地震や風水害対策



地震や風水害対策を聞いたところ、「被災時に必要な物資を充実させる」(65.0%)が6割半ばで最も高く、次いで「防災に関する情報(避難場所・避難経路など)を発信する」(55.4%)、「消火や救命活動のできる人材を育成する」(25.1%)、「耐震診断を充実させる」(23.7%)となっている。

2020年度と比較すると、「被災時に必要な物資を充実させる」は4.0ポイント増加している。一方、「防災に関する情報(避難場所・避難経路など)を発信する」は6.0ポイント減少している。

(図1-13)

図 1-14 地震や風水害対策（性別、性・年代別）

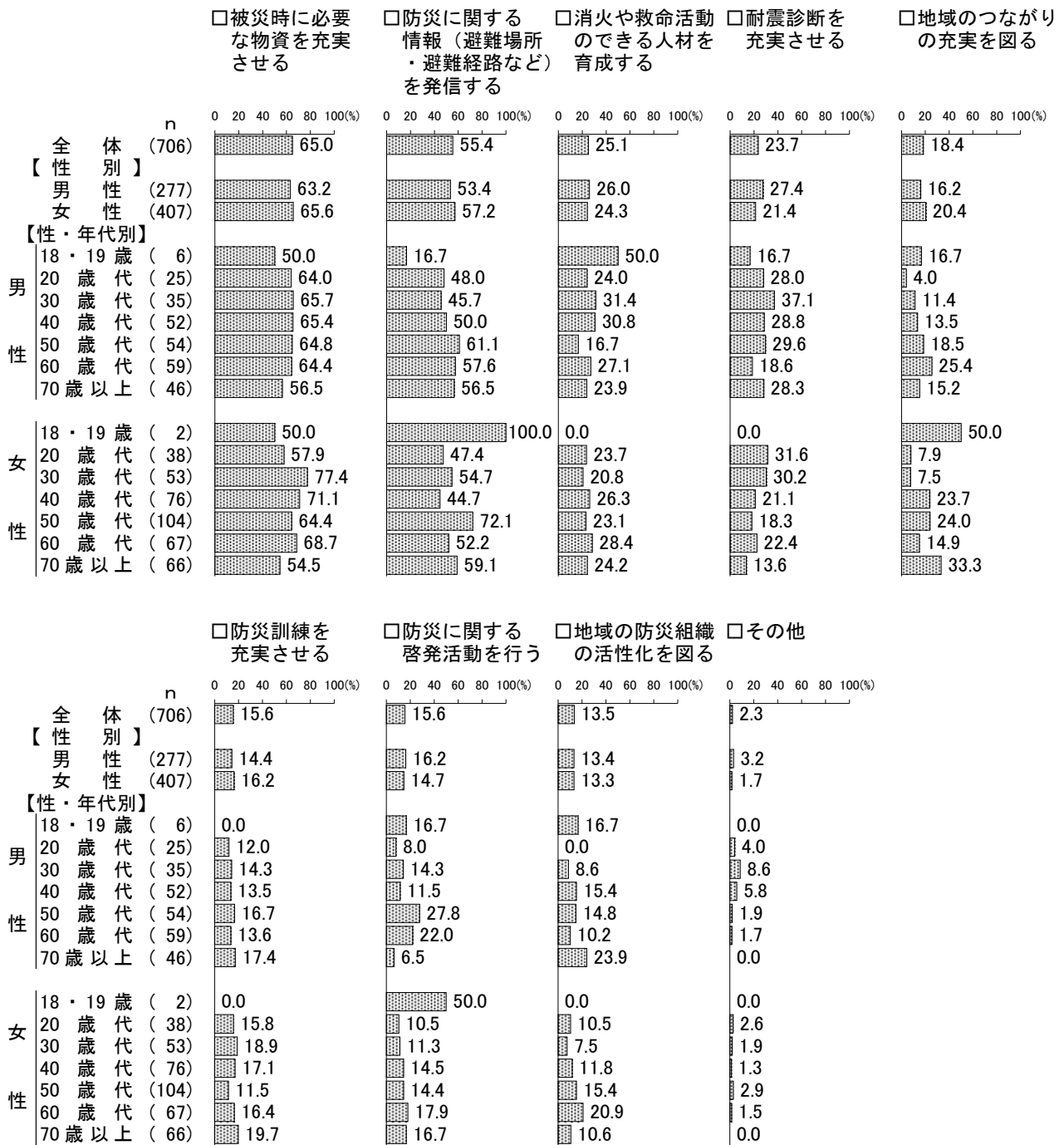
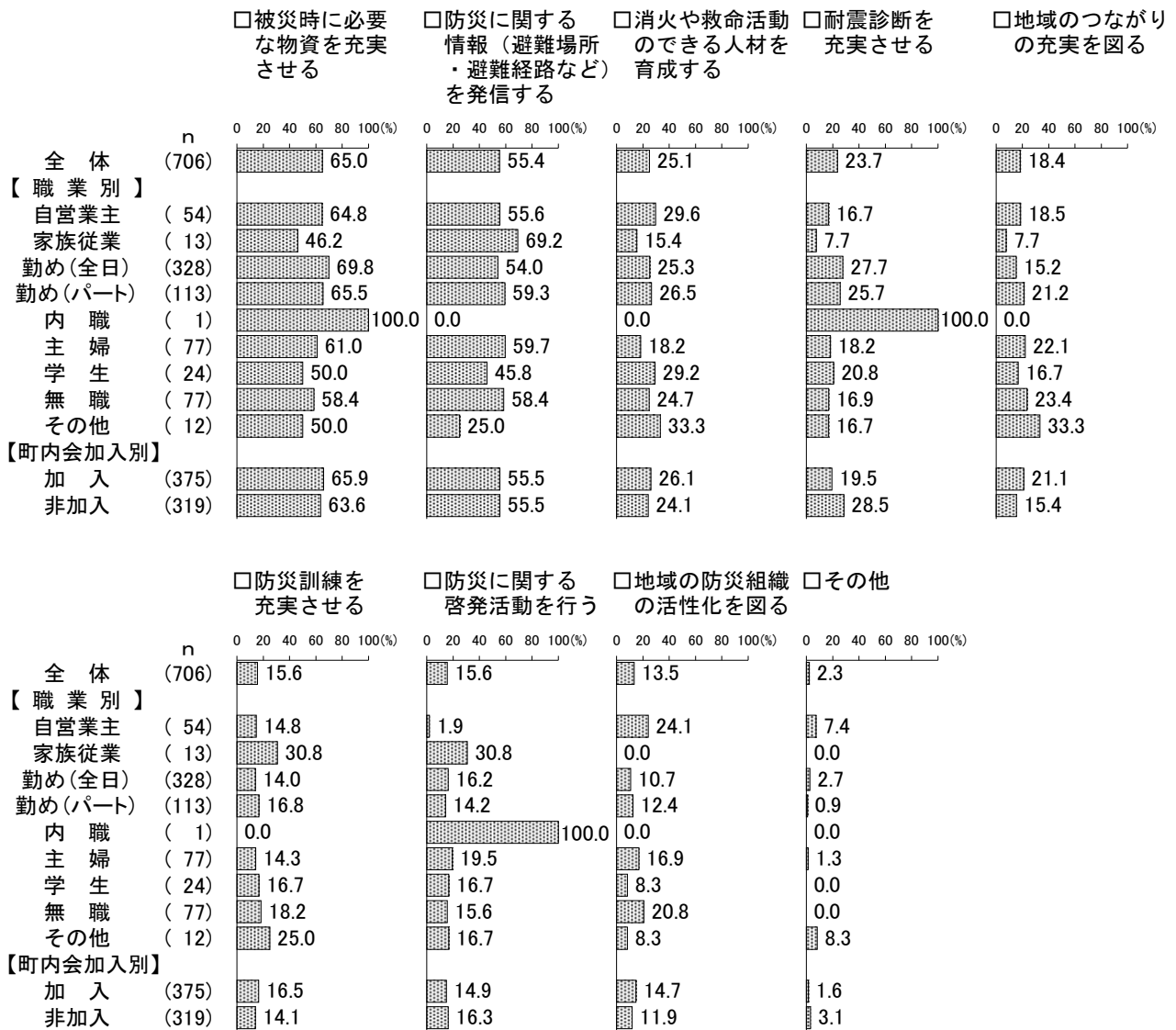


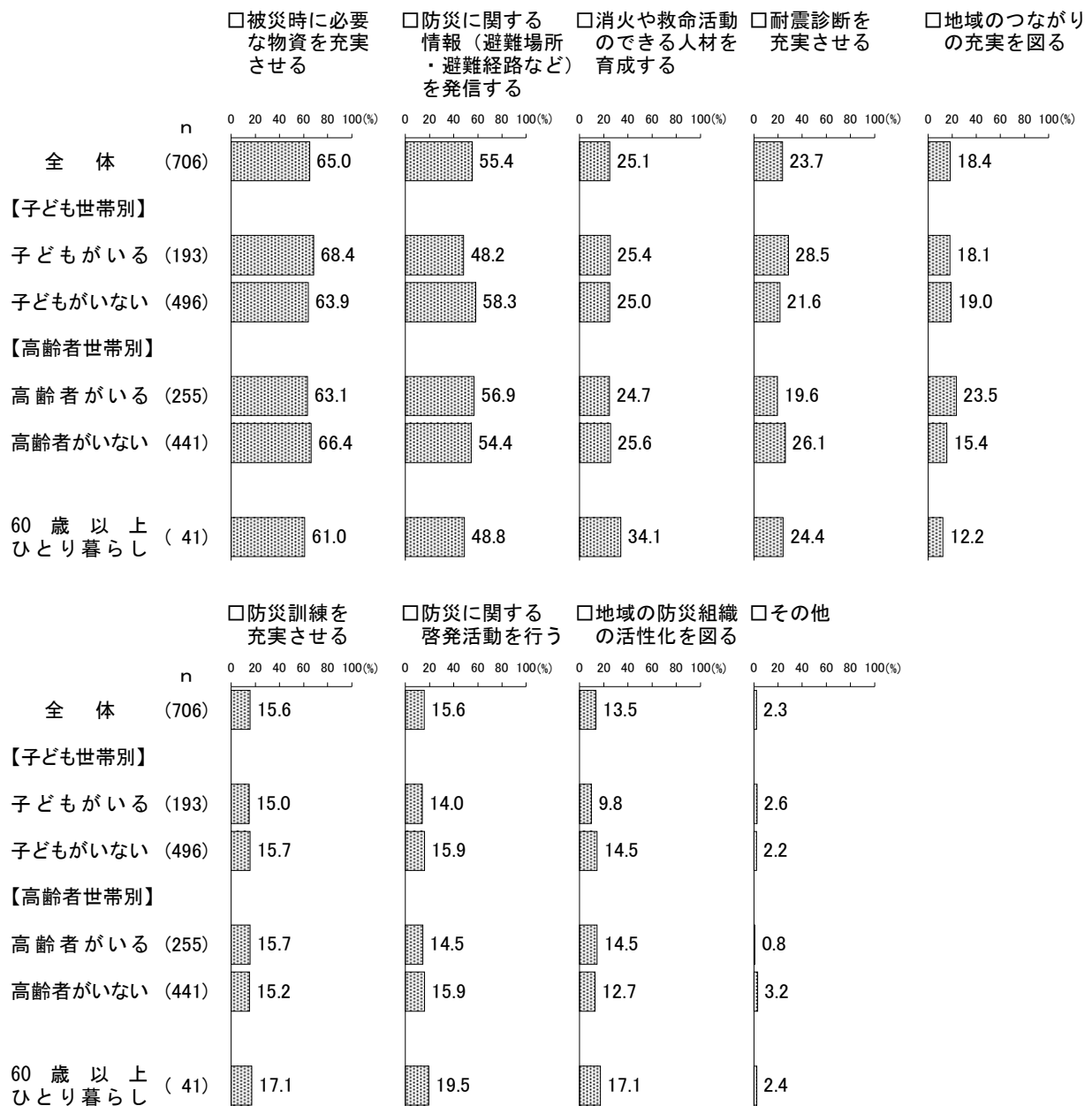
図 1-15 地震や風水害対策（職業別、町内会加入別）



職業別にみると、「被災時に必要な物資を充実させる」は勤め（全日）（69.8%）で7割と高くなっている。「防災に関する情報（避難場所・避難経路など）を発信する」は主婦（仕事はしていない）（59.7%）と勤め（パートタイム）（59.3%）で約6割と高くなっている。

町内会加入別にみると、「耐震診断を充実させる」は非加入（28.5%）が加入（19.5%）より9.0ポイント高くなっている。一方、「地域のつながりの充実を図る」は加入（21.1%）が非加入（15.4%）より5.7ポイント高くなっている。（図 1-15）

図 1-16 地震や風水害対策（子ども世帯別、高齢者世帯別、60歳以上ひとり暮らし）



子ども世帯別にみると、「防災に関する情報（避難場所・避難経路など）を発信する」は子どもがいない世帯（58.3%）が子どもがいる世帯（48.2%）より 10.1 ポイント高くなっている。一方、「耐震診断を充実させる」は子どもがいる世帯（28.5%）が子どもがいない世帯（21.6%）より 6.9 ポイント高くなっている。

高齢者世帯別にみると、「地域のつながりの充実を図る」は高齢者がいる世帯（23.5%）が高齢者がいない世帯（15.4%）より 8.1 ポイント高くなっている。一方、「耐震診断を充実させる」は高齢者がいない世帯（26.1%）が高齢者がいる世帯（19.6%）より 6.5 ポイント高くなっている。

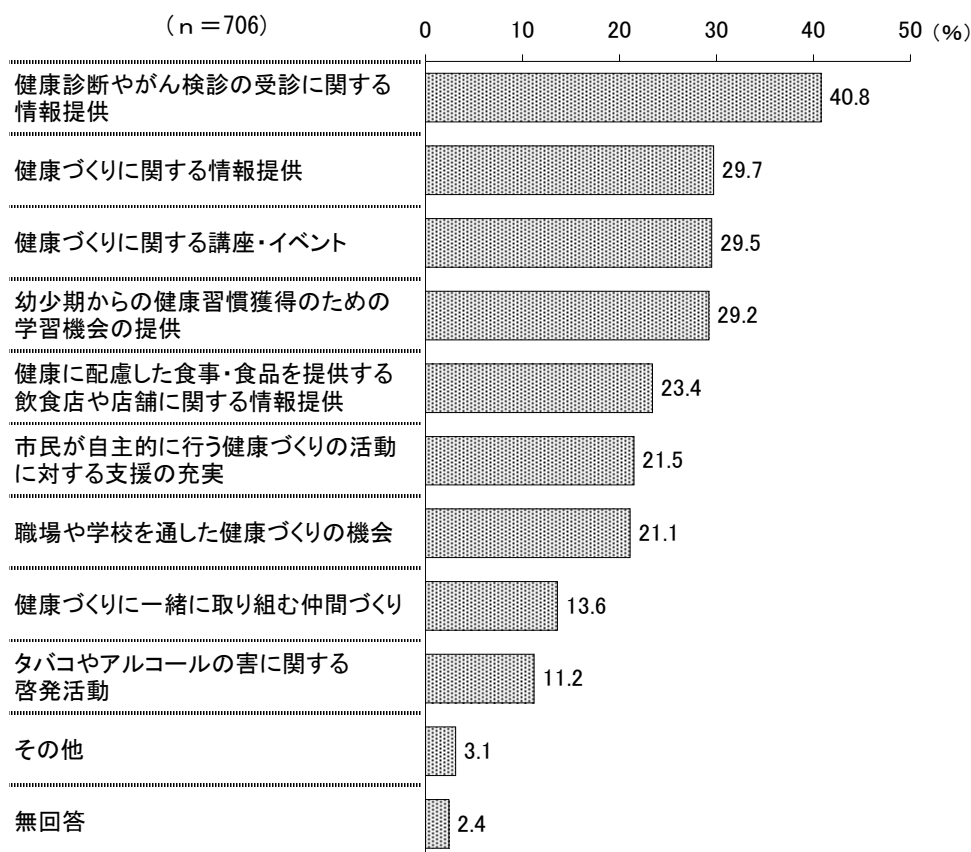
60 歳以上ひとり暮らし世帯では、「被災時に必要な物資を充実させる」（61.0%）が 6 割を超えて最も高く、次いで「防災に関する情報（避難場所・避難経路など）を発信する」（48.8%）となっている。（図 1-16）

(6) より健康になるために必要な支援や仕組み (2024年度新設)

問6 区民がより健康になるために、どのような支援や仕組みがあるとよいでしょうか。

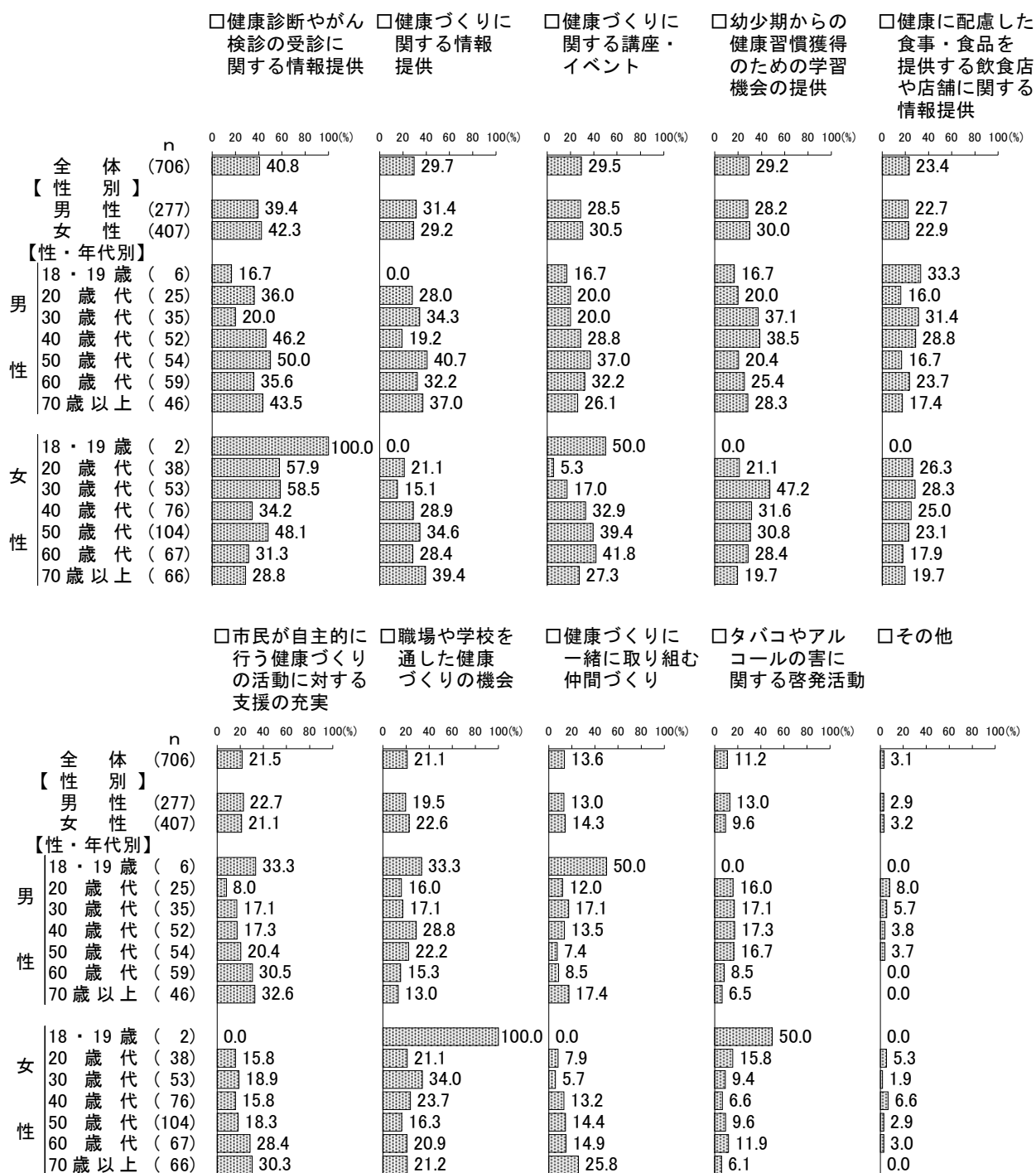
(3つまで○)

図1-17 より健康になるために必要な支援や仕組み



より健康になるために必要な支援や仕組みを聞いたところ、「健康診断やがん検診の受診に関する情報提供」(40.8%)が約4割で最も高く、次いで「健康づくりに関する情報提供」(29.7%)、「健康づくりに関する講座・イベント」(29.5%)、「幼少期からの健康習慣獲得のための学習機会の提供」(29.2%)となっている。(図1-17)

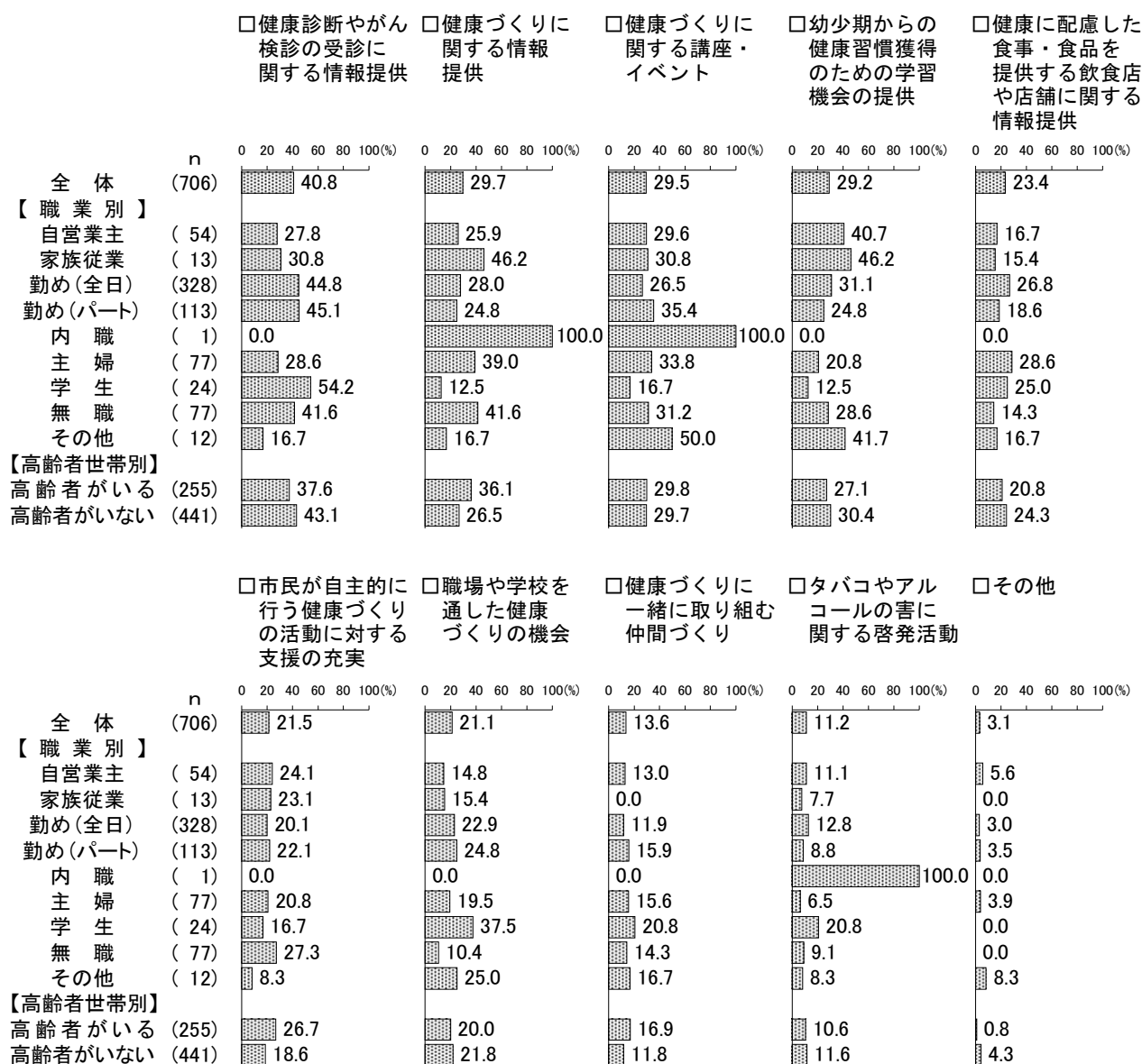
図 1-18 より健康になるために必要な支援や仕組み（性別、性・年代別）



性別にみると、「タバコやアルコールの害に関する啓発活動」は男性（13.0%）が女性（9.6%）より 3.4 ポイント高くなっている。一方、「職場や学校を通じた健康づくりの機会」は女性（22.6%）が男性（19.5%）より 3.1 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「健康診断やがん検診の受診に関する情報提供」は女性 20 歳代（57.9%）と女性 30 歳代（58.5%）で 6 割近くと高くなっている。「健康づくりに関する講座・イベント」は女性 60 歳代（41.8%）で 4 割を超えて高くなっている。「幼少期からの健康習慣獲得のための学習機会の提供」は女性 30 歳代（47.2%）で 5 割近くと高くなっている。（図 1-18）

図 1-19 より健康になるために必要な支援や仕組み（職業別、高齢者世帯別）



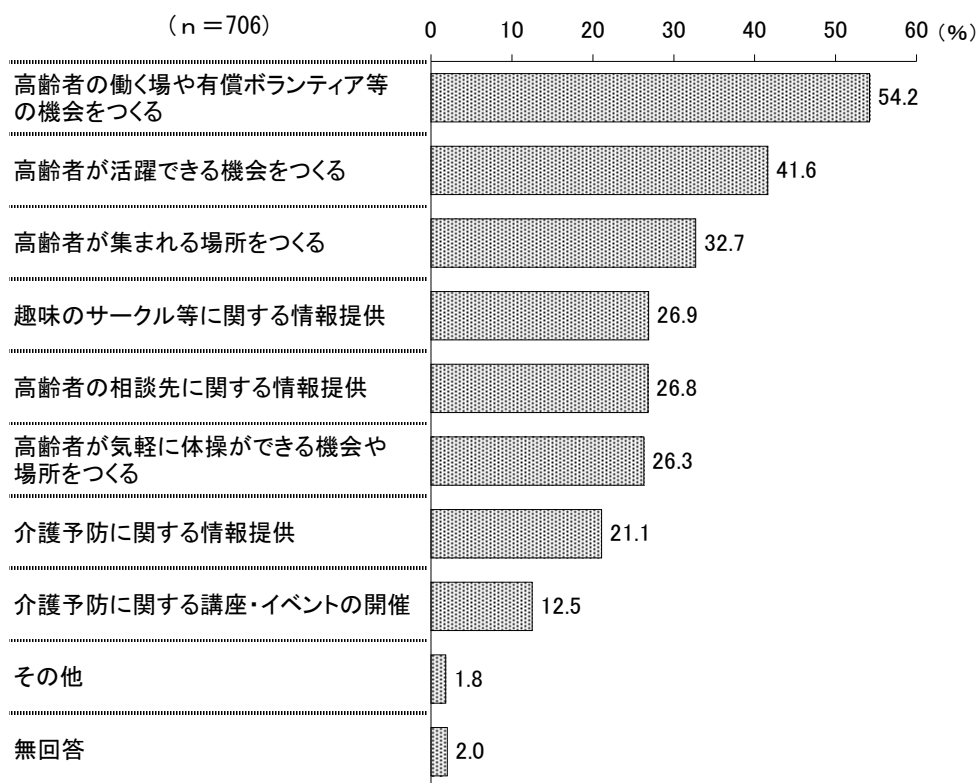
職業別にみると、「健康診断やがん検診の受診に関する情報提供」は学生（54.2%）で5割半ばと高くなっている。「健康づくりに関する情報提供」は無職（41.6%）で4割を超えて高くなっている。

高齢者世帯別にみると、「健康づくりに関する情報提供」は高齢者がいる世帯（36.1%）が高齢者がいない世帯（26.5%）より 9.6 ポイント、「市民が自主的に行う健康づくりの活動に対する支援の充実」は高齢者がいる世帯（26.7%）が高齢者がいない世帯（18.6%）より 8.1 ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「健康診断やがん検診の受診に関する情報提供」は高齢者がいない世帯（43.1%）が高齢者がいる世帯（37.6%）より 5.5 ポイント高くなっている。（図 1-19）

(7) 高齢者が生きがいを持って生活するために必要な支援や仕組み（2024年度新設）

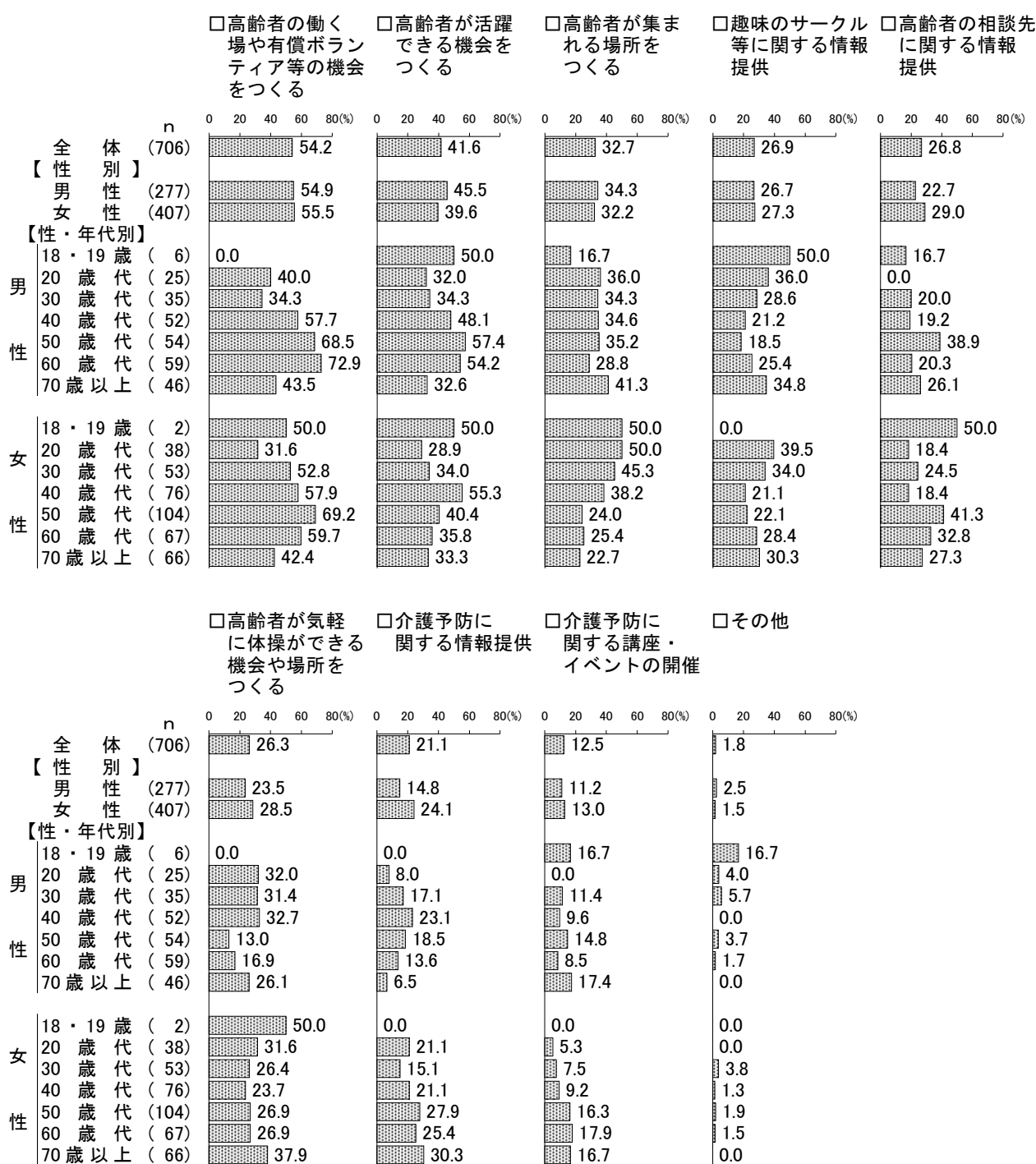
問7 高齢者がいきいきと生きがいを持って生活するためには、どのような支援や仕組みがあるとよいでしょうか。（3つまで○）

図1-20 高齢者が生きがいを持って生活するために必要な支援や仕組み



高齢者が生きがいを持って生活するために必要な支援や仕組みを聞いたところ、「高齢者の働く場や有償ボランティア等の機会をつくる」（54.2%）が5割半ばで最も高く、次いで「高齢者が活躍できる機会をつくる」（41.6%）、「高齢者が集まれる場所をつくる」（32.7%）、「趣味のサークル等に関する情報提供」（26.9%）となっている。（図1-20）

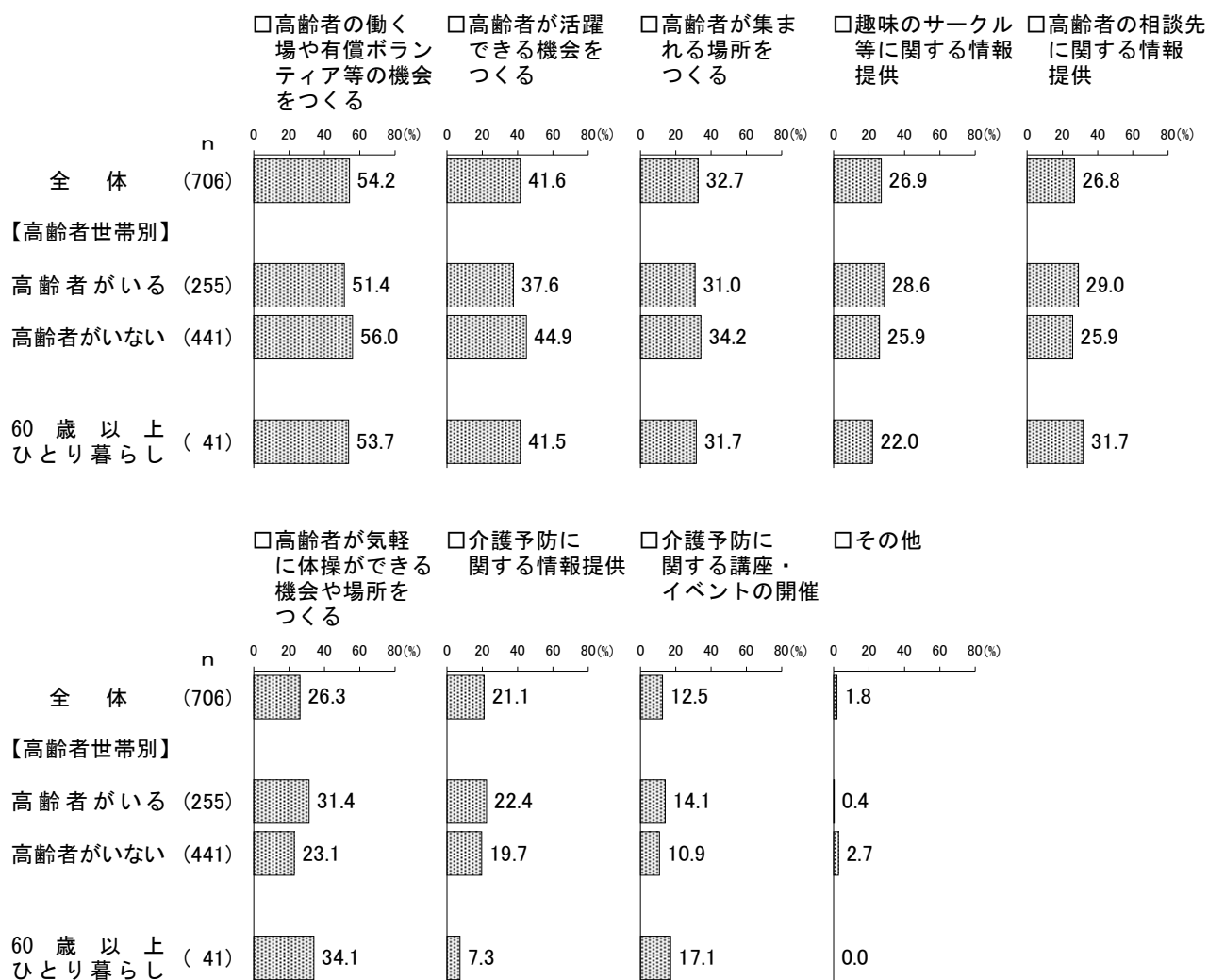
図 1-21 高齢者が生きがいを持って生活するために必要な支援や仕組み（性別、性・年代別）



性別にみると、「介護予防に関する情報提供」は女性（24.1%）が男性（14.8%）より 9.3 ポイント高くなっている。一方、「高齢者が活躍できる機会をつくる」は男性（45.5%）が女性（39.6%）より 5.9 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「高齢者の働く場や有償ボランティア等の機会をつくる」は男性 60 歳代（72.9%）で 7 割を超えて高くなっている。「高齢者が活躍できる機会をつくる」は男性 50 歳代（57.4%）で 6 割近くと高くなっている。「高齢者が集まれる場所をつくる」は女性 20 歳代（50.0%）で 5 割と高くなっている。（図 1-21）

図 1-22 高齢者が生きがいを持って生活するために必要な支援や仕組み
(高齢者世帯別、60歳以上ひとり暮らし)



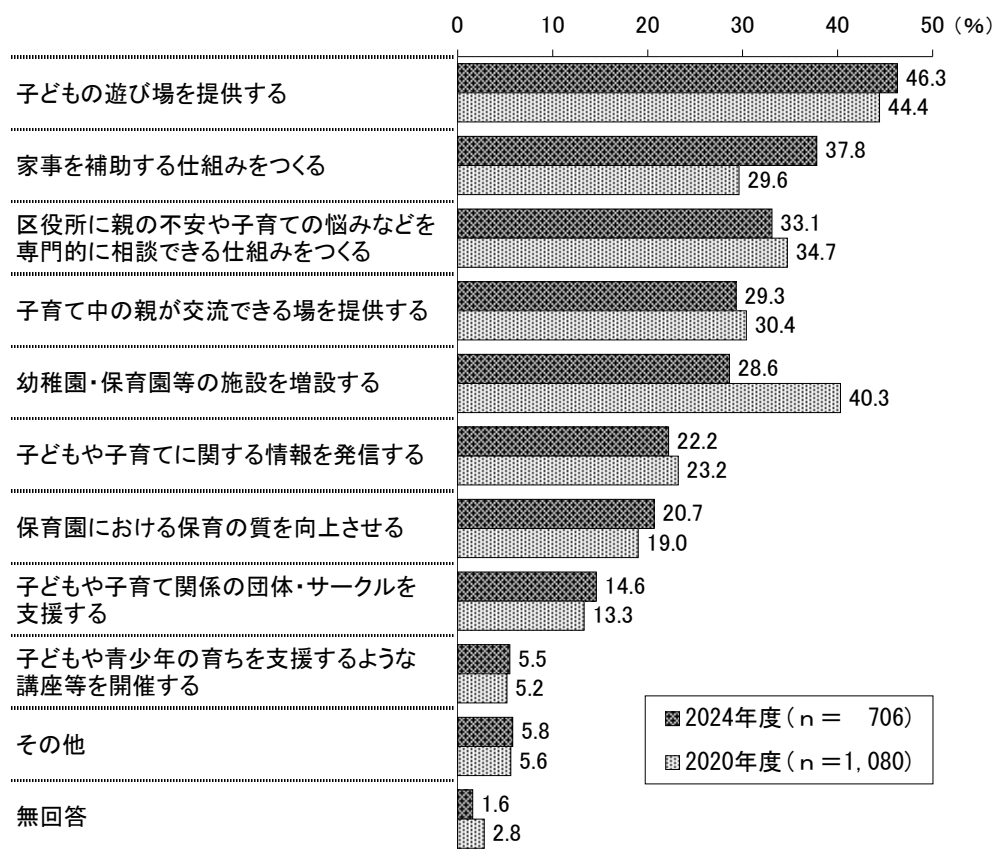
高齢者世帯別にみると、「高齢者が気軽に体操ができる機会や場所をつくる」は高齢者がいる世帯（31.4%）が高齢者がいない世帯（23.1%）より 8.3 ポイント高くなっている。一方、「高齢者が活躍できる機会をつくる」は高齢者がいない世帯（44.9%）が高齢者がいる世帯（37.6%）より 7.3 ポイント高くなっている。

60 歳以上ひとり暮らし世帯では、「高齢者の働く場や有償ボランティア等の機会をつくる」（53.7%）が 5 割を超えて最も高く、次いで「高齢者が活躍できる機会をつくる」（41.5%）となっている。（図 1-22）

(8) 子育て支援

問8 子どもや子育てを支援するためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

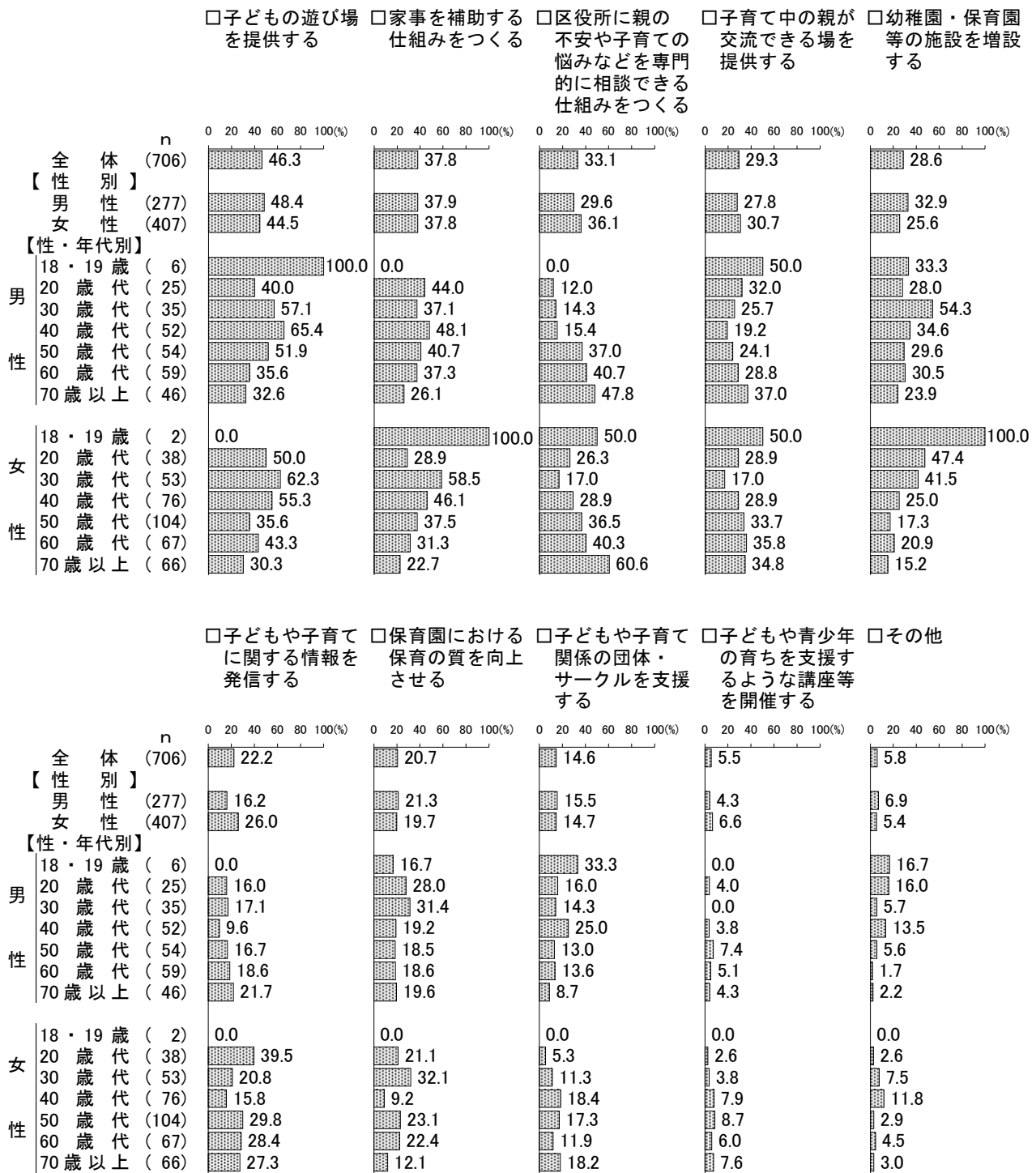
図1-23 子育て支援



子どもや子育てを支援するための手法を聞いたところ、「子どもの遊び場を提供する」(46.3%)が4割半ばで最も高く、次いで「家事を補助する仕組みをつくる」(37.8%)、「区役所に親の不安や子育ての悩みなどを専門的に相談できる仕組みをつくる」(33.1%)、「子育て中の親が交流できる場を提供する」(29.3%)となっている。

2020年度と比較すると、「家事を補助する仕組みをつくる」は8.2ポイント増加している。一方、「幼稚園・保育園等の施設を増設する」は11.7ポイント減少している。(図1-23)

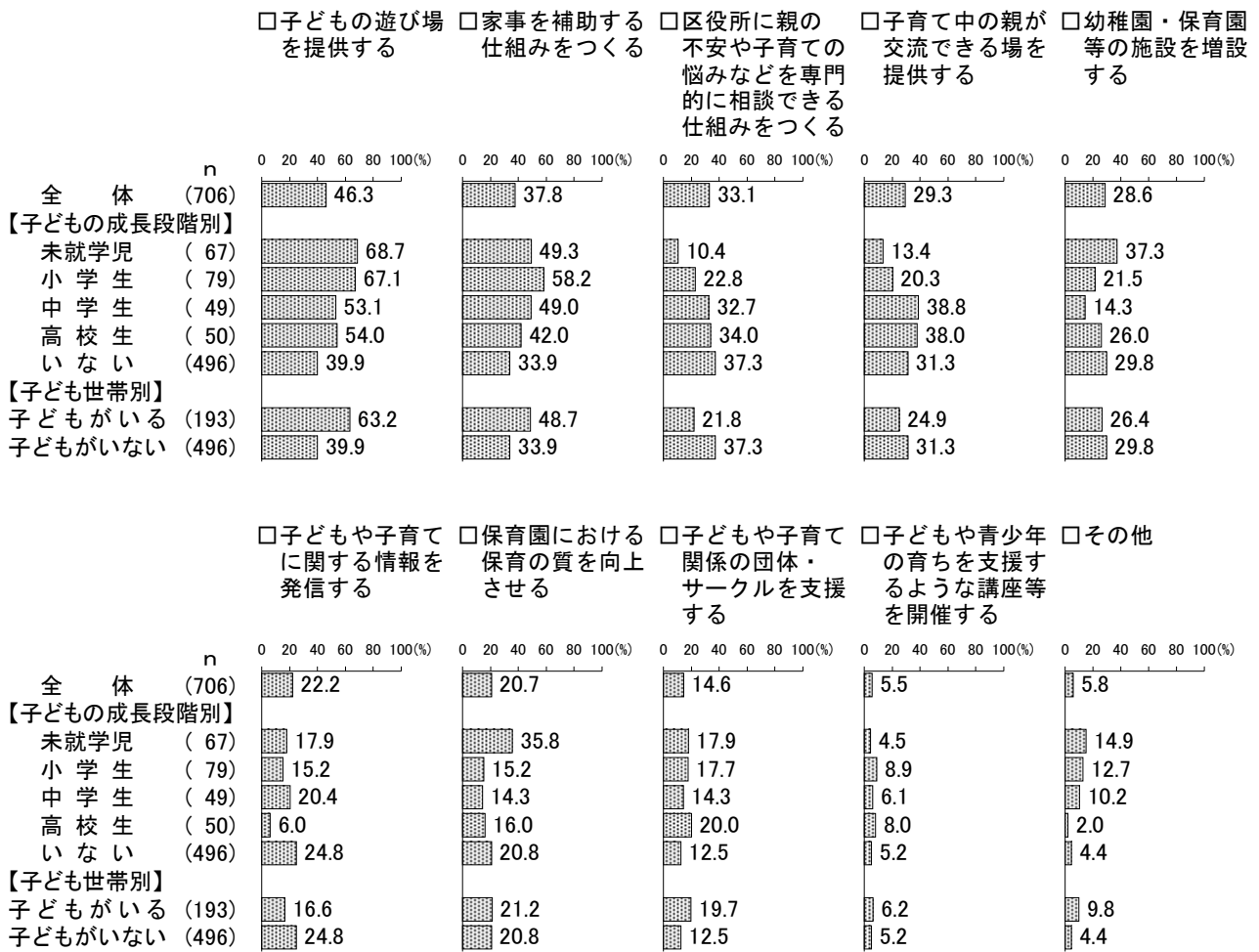
図 1-24 子育て支援（性別、性・年代別）



性別にみると、「子どもや子育てに関する情報を発信する」は女性（26.0%）が男性（16.2%）より 9.8 ポイント高くなっている。一方、「幼稚園・保育園等の施設を増設する」は男性（32.9%）が女性（25.6%）より 7.3 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「子どもの遊び場を提供する」は男性 40 歳代（65.4%）で 6 割半ばと高くなっている。「家事を補助する仕組みをつくる」は女性 30 歳代（58.5%）で 6 割近くと高くなっている。「区役所に親の不安や子育ての悩みなどを専門的に相談できる仕組みをつくる」は女性 70 歳以上（60.6%）で約 6 割と高くなっている。（図 1-24）

図 1-25 子育て支援（子どもの成長段階別、子ども世帯別）



子どもの成長段階別にみると、「子どもの遊び場を提供する」は未就学児がいる世帯（68.7%）と小学生がいる世帯（67.1%）で7割近くと高くなっている。「家事を補助する仕組みをつくる」は小学生がいる世帯（58.2%）で6割近くと高くなっている。

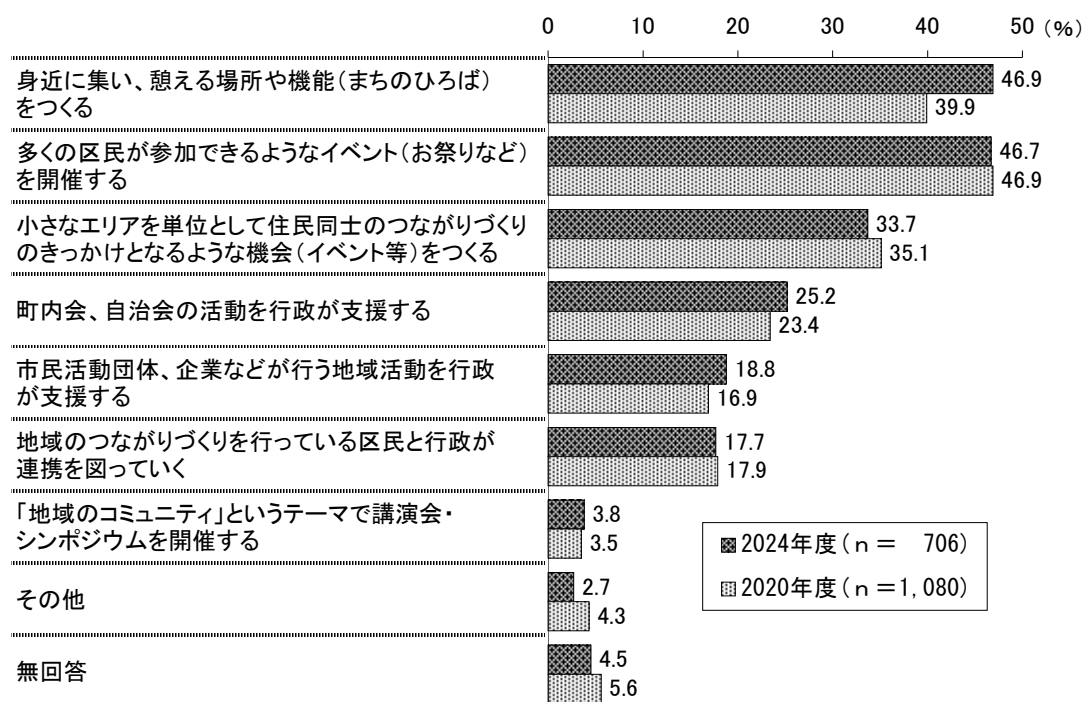
子ども世帯別にみると、「子どもの遊び場を提供する」は子どもがいる世帯（63.2%）が子どもがいない世帯（39.9%）より23.3ポイント高くなっている。一方、「区役所に親の不安や子育ての悩みなどを専門的に相談できる仕組みをつくる」は子どもがいない世帯（37.3%）が子どもがいる世帯（21.8%）より15.5ポイント高くなっている。（図1-25）

（９）地域住民のつながりを深める手法

問９ 地域の住民同士のつながりを深めるためには、どのような手法がよいでしょうか。

（３つまで○）

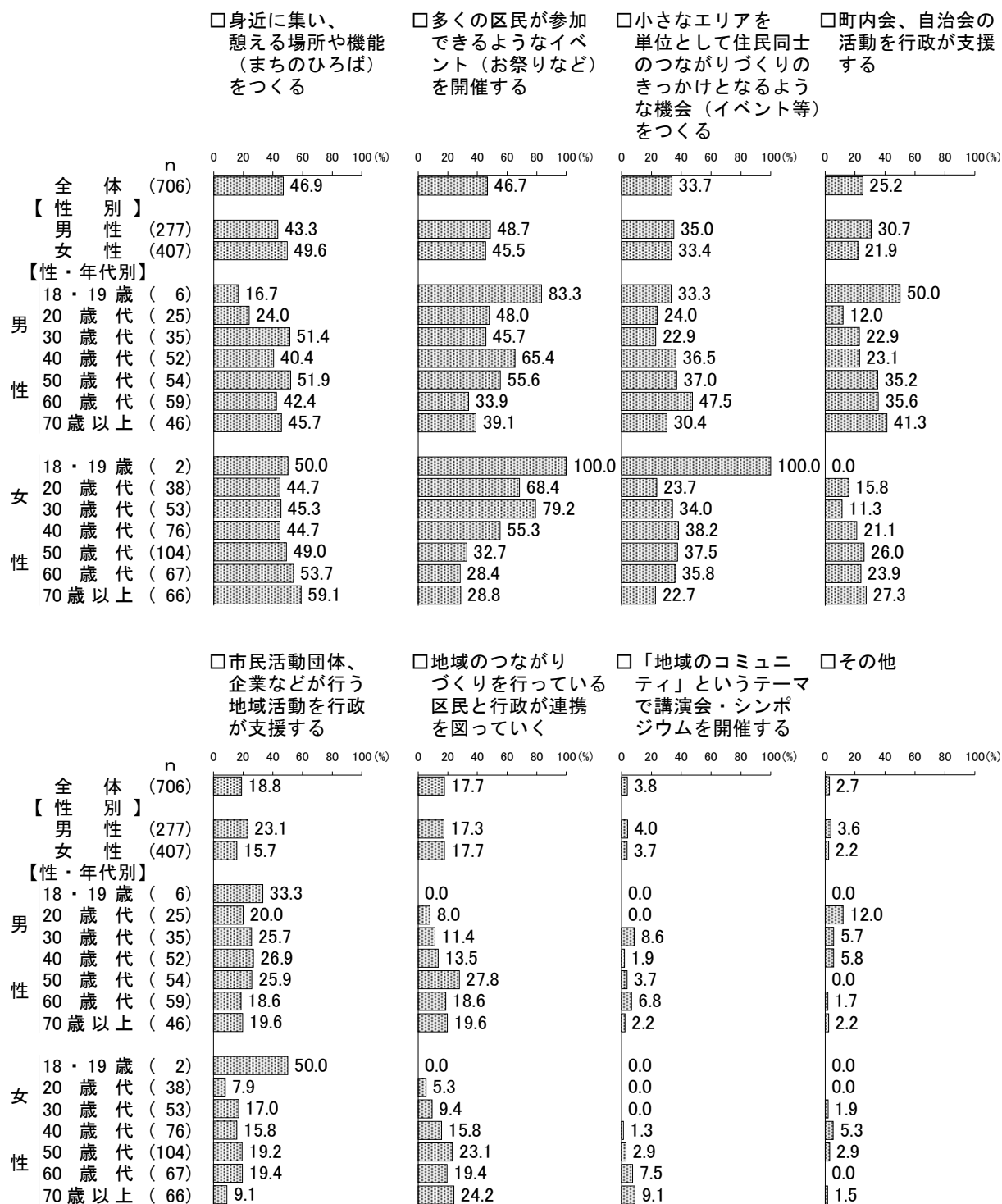
図 1-26 地域住民のつながりを深める手法



地域の住民同士のつながりを深めるための手法を聞いたところ、「身近に集い、憩える場所や機能（まちのひろば）をつくる」（46.9%）と「多くの区民が参加できるようなイベント（お祭りなど）を開催する」（46.7%）がともに5割近くで高く、次いで「小さなエリアを単位として住民同士のつながりづくりのきっかけとなるような機会（イベント等）をつくる」（33.7%）、「町内会、自治会の活動を行政が支援する」（25.2%）となっている。

2020年度と比較すると、「身近に集い、憩える場所や機能（まちのひろば）をつくる」は7.0ポイント増加している。（図1-26）

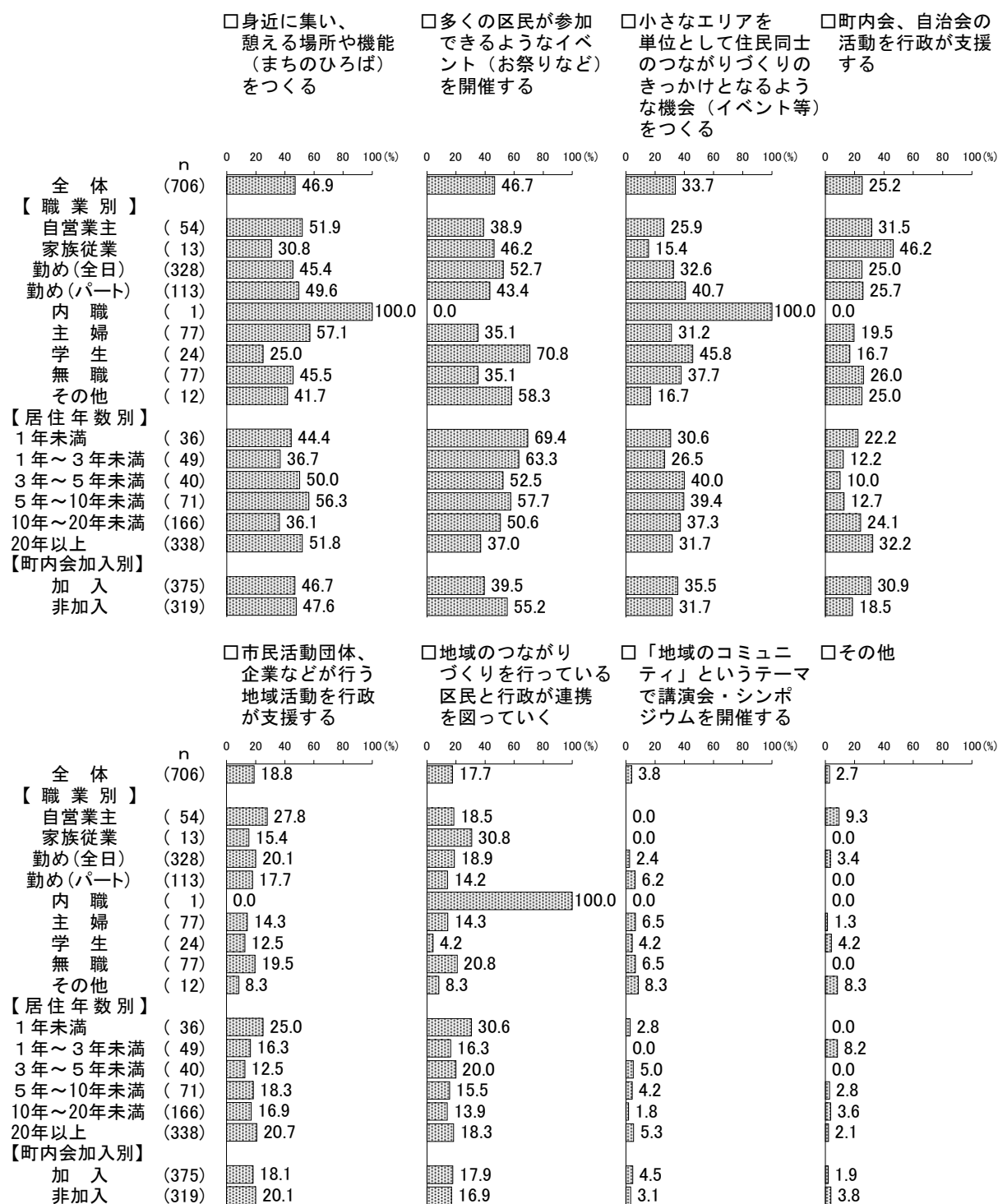
図 1-27 地域住民のつながりを深める手法（性別、性・年代別）



性別にみると、「町内会、自治会の活動を行政が支援する」は男性（30.7%）が女性（21.9%）より 8.8 ポイント高くなっている。一方、「身近に集い、憩える場所や機能（まちのひろば）をつくる」は女性（49.6%）が男性（43.3%）より 6.3 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「身近に集い、憩える場所や機能（まちのひろば）をつくる」は女性 70 歳以上（59.1%）で約 6 割と高くなっている。「多くの区民が参加できるようなイベント（お祭りなど）を開催する」は女性 30 歳代（79.2%）で約 8 割と高くなっている。（図 1-27）

図 1-28 地域住民のつながりを深める手法（職業別、居住年数別、町内会加入別）

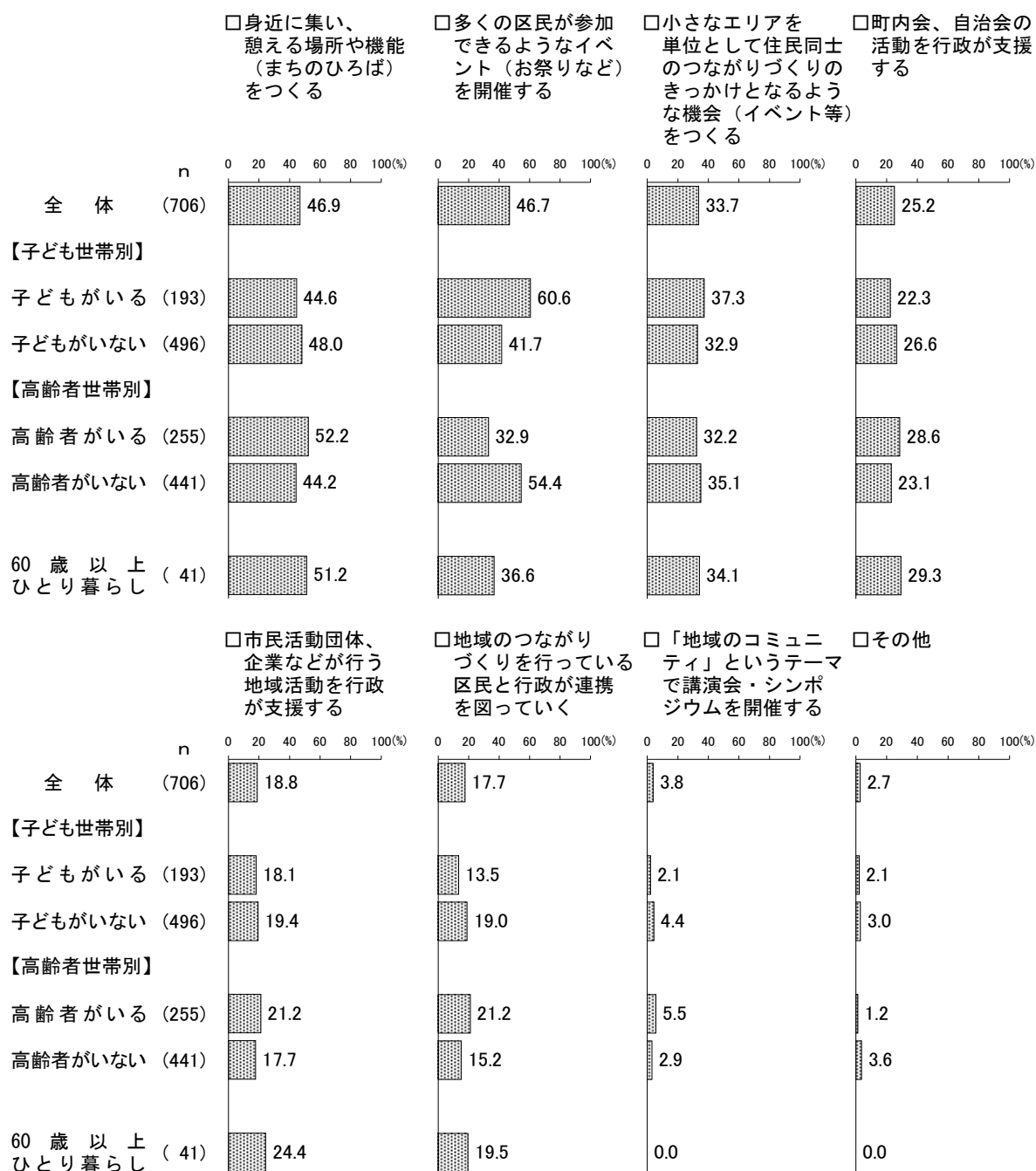


職業別にみると、「身近に集い、憩える場所や機能（まちのひろば）をつくる」は主婦（仕事はしていない）（57.1%）で6割近くと高くなっている。「多くの区民が参加できるようなイベント（お祭りなど）を開催する」は学生（70.8%）で約7割と高くなっている。

居住年数別にみると、「多くの区民が参加できるようなイベント（お祭りなど）を開催する」は1年未満（69.4%）で約7割と高くなっている。

町内会加入別にみると、「多くの区民が参加できるようなイベント（お祭りなど）を開催する」は非加入（55.2%）が加入（39.5%）より15.7ポイント高くなっている。一方、「町内会、自治会の活動を行政が支援する」は加入（30.9%）が非加入（18.5%）より12.4ポイント高くなっている。（図1-28）

図 1-29 地域住民のつながりを深める手法（子ども世帯別、高齢者世帯別、60歳以上ひとり暮らし）



子ども世帯別にみると、「多くの区民が参加できるようなイベント（お祭りなど）を開催する」は子どもがいる世帯（60.6%）が子どもがいない世帯（41.7%）より 18.9 ポイント高くなっている。一方、「地域のつながりづくりを行っている区民と行政が連携を図っていく」は子どもがいない世帯（19.0%）が子どもがいる世帯（13.5%）より 5.5 ポイント高くなっている。

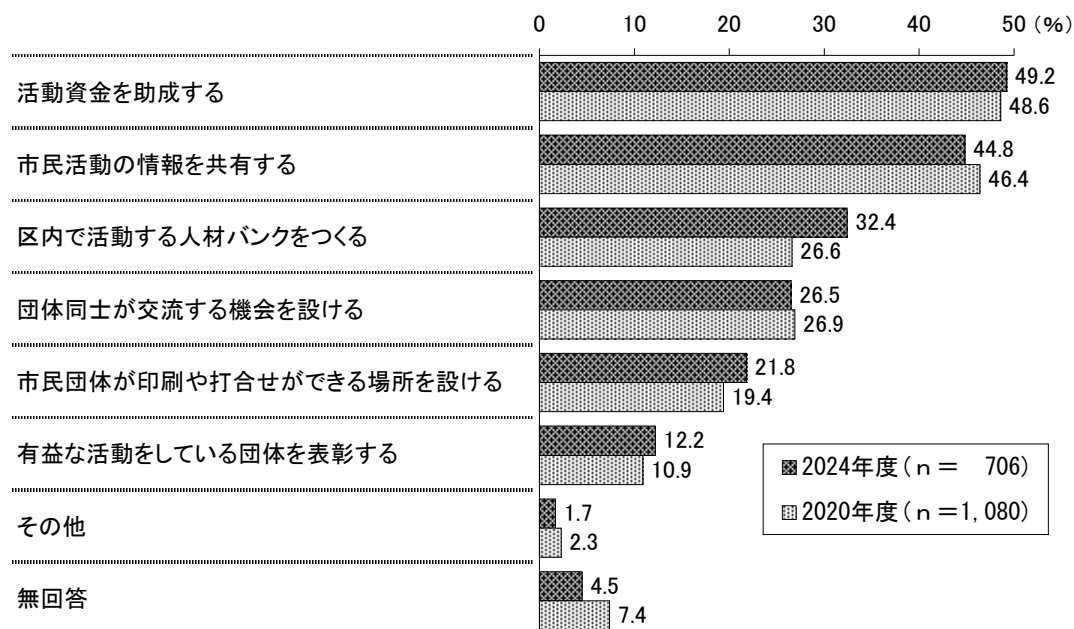
高齢者世帯別にみると、「多くの区民が参加できるようなイベント（お祭りなど）を開催する」は高齢者がいない世帯（54.4%）が高齢者がいる世帯（32.9%）より 21.5 ポイント高くなっている。一方、「身近に集い、憩える場所や機能（まちのひろば）をつくる」は高齢者がいる世帯（52.2%）が高齢者がいない世帯（44.2%）より 8.0 ポイント高くなっている。

60歳以上ひとり暮らし世帯では、「身近に集い、憩える場所や機能（まちのひろば）をつくる」（51.2%）が5割を超えて最も高く、次いで「多くの区民が参加できるようなイベント（お祭りなど）を開催する」（36.6%）となっている。（図 1-29）

(10) 市民活動支援

問 10 市民活動の支援としては、どのような手法がよいでしょうか。（3つまで○）

図 1-30 市民活動支援

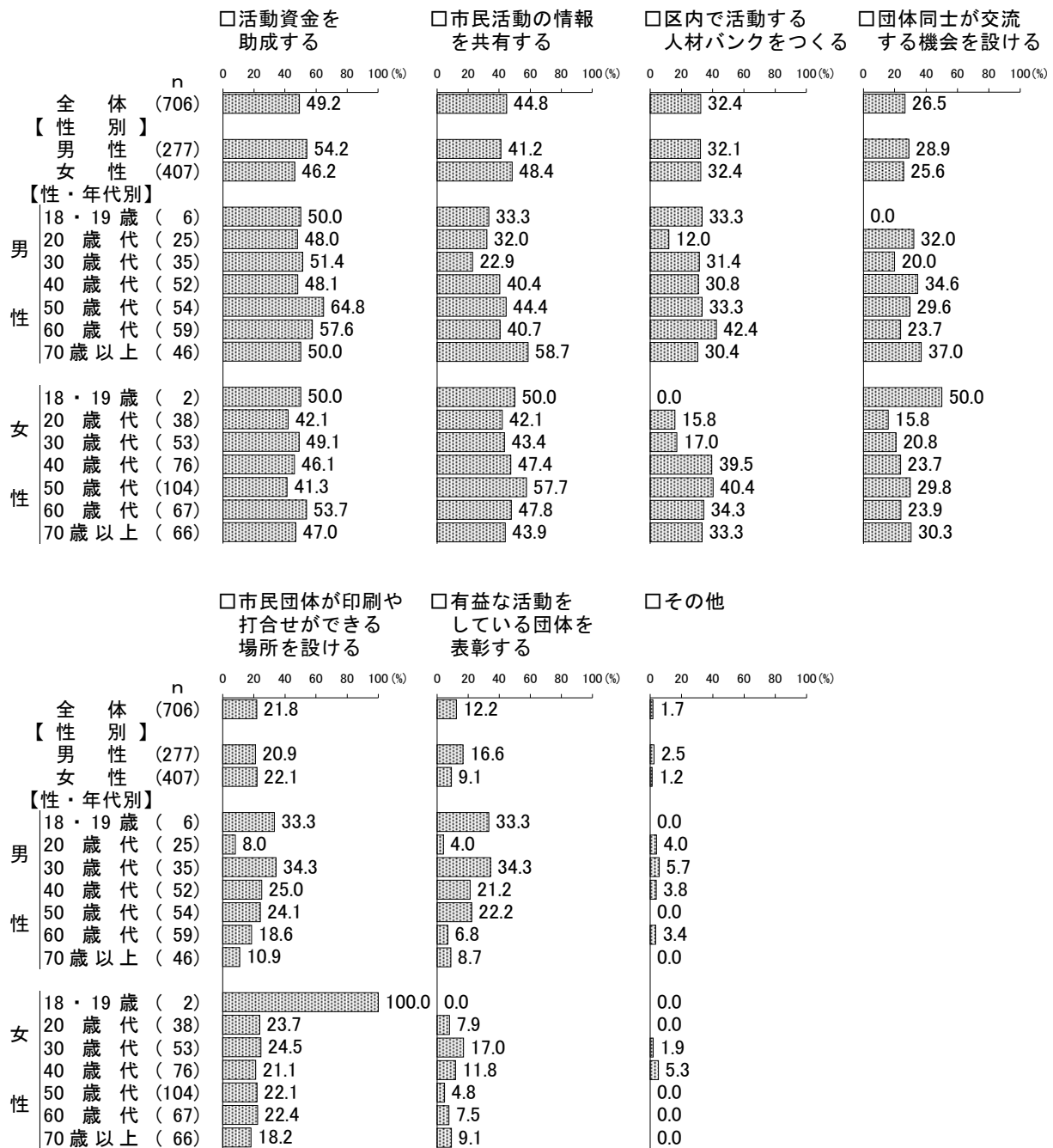


市民活動の支援の手法を聞いたところ、「活動資金を助成する」（49.2％）が約5割で最も高く、次いで「市民活動の情報を共有する」（44.8％）、「区内で活動する人材バンクをつくる」（32.4％）、「団体同士が交流する機会を設ける」（26.5％）となっている。

2020年度と比較すると、「区内で活動する人材バンクをつくる」は5.8ポイント増加している。

（図 1-30）

図 1-31 市民活動支援（性別、性・年代別）



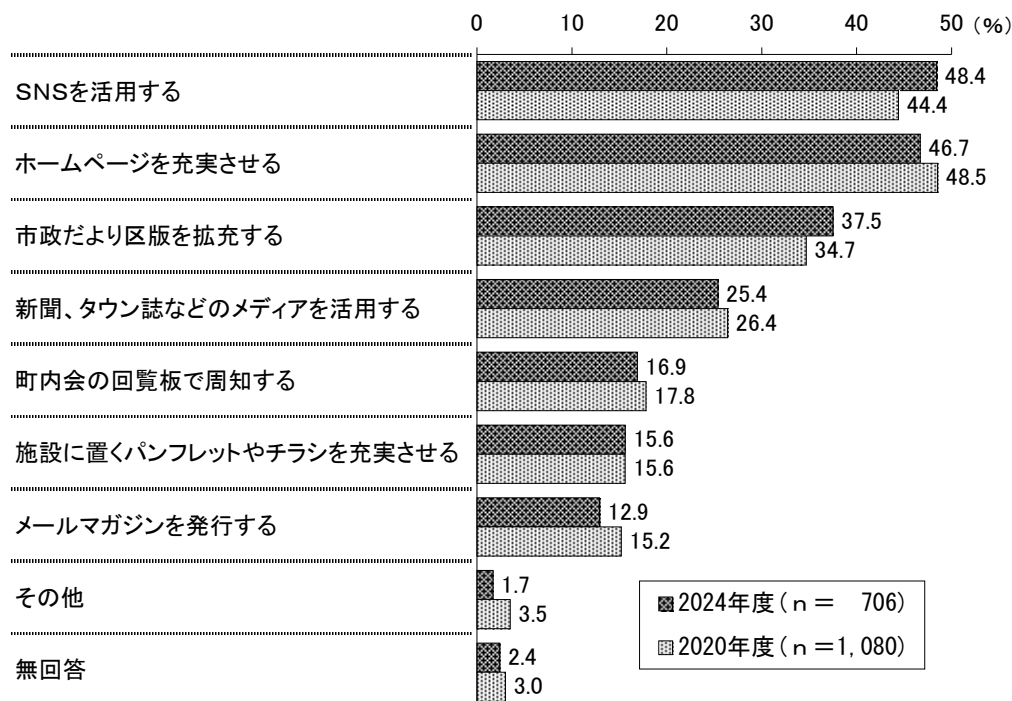
性別にみると、「活動資金を助成する」は男性（54.2％）が女性（46.2％）より 8.0 ポイント高くなっている。一方、「市民活動の情報を共有する」は女性（48.4％）が男性（41.2％）より 7.2 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「活動資金を助成する」は男性 50 歳代（64.8％）で 6 割半ばと高くなっている。「市民活動の情報を共有する」は男性 70 歳以上（58.7％）と女性 50 歳代（57.7％）で 6 割近くと高くなっている。「区内で活動する人材バンクをつくる」は男性 60 歳代（42.4％）で 4 割を超えて高くなっている。（図 1-31）

(11) 区の情報提供

問 11 区の情報を提供するためには、どのような手法がよいでしょうか。（3つまで○）

図 1-32 区の情報提供

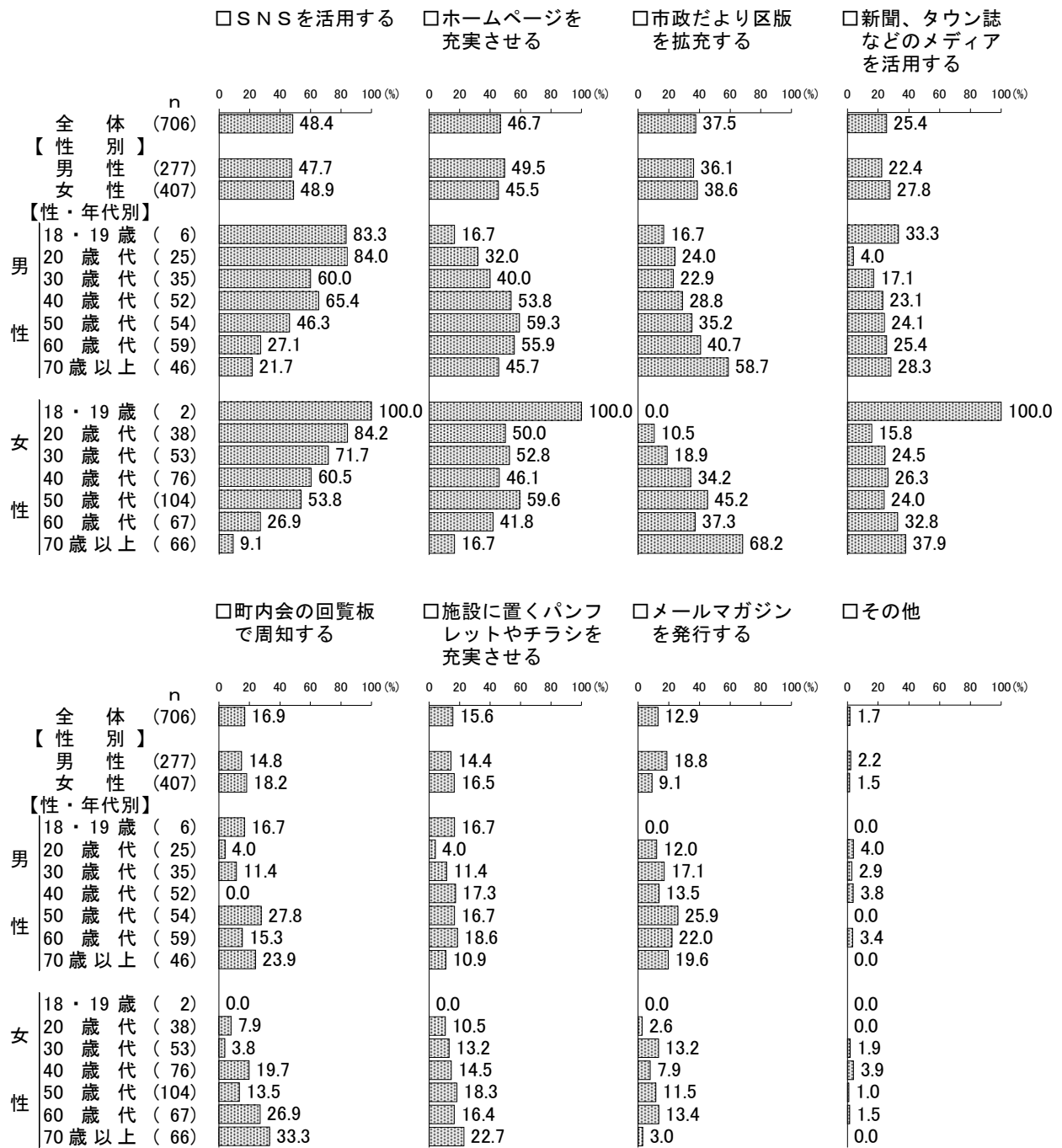


※「町内会の回覧板で周知する」は、2020年度では「町内会で回覧する」としていた

区の情報を提供するための手法を聞いたところ、「SNSを活用する」(48.4%)と「ホームページを充実させる」(46.7%)がともに5割近くで高く、次いで「市政だより区版を拡充する」(37.5%)、「新聞、タウン誌などのメディアを活用する」(25.4%)となっている。

2020年度と比較すると、「SNSを活用する」は4.0ポイント増加している。(図1-32)

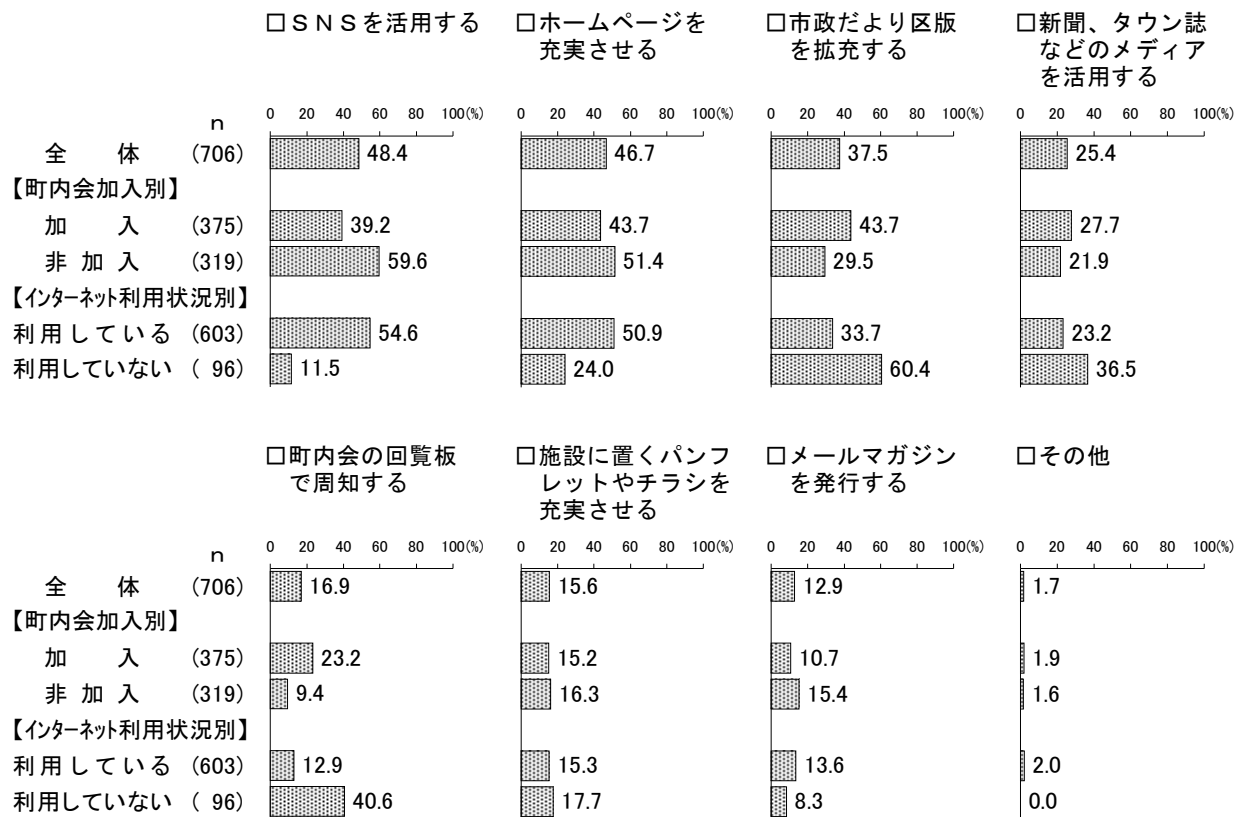
図 1-33 区の情報提供（性別、性・年代別）



性別にみると、「メールマガジンを発行する」は男性（18.8%）が女性（9.1%）より 9.7 ポイント高くなっている。一方、「新聞、タウン誌などのメディアを活用する」は女性（27.8%）が男性（22.4%）より 5.4 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「SNSを活用する」は女性 20 歳代（84.2%）と男性 20 歳代（84.0%）で 8 割半ばと高くなっている。「ホームページを充実させる」は女性 50 歳代（59.6%）と男性 50 歳代（59.3%）で約 6 割と高くなっている。「市政だより区版を拡充する」は女性 70 歳以上（68.2%）で 7 割近く、男性 70 歳以上（58.7%）で 6 割近くと高くなっている。（図 1-33）

図 1-34 区の情報提供（町内会加入別、インターネット利用状況別）



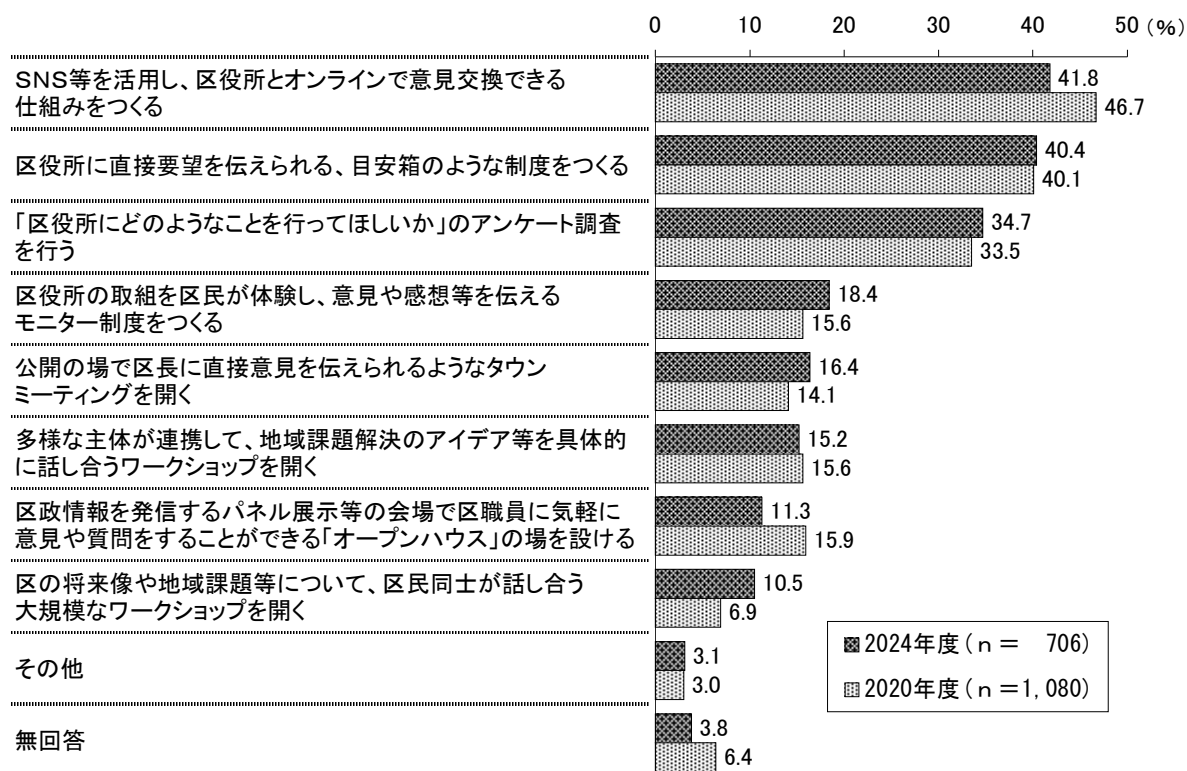
町内会加入別にみると、「SNSを活用する」は非加入（59.6%）が加入（39.2%）より 20.4 ポイント高くなっている。一方、「市政だより区版を拡充する」は加入（43.7%）が非加入（29.5%）より 14.2 ポイント、「町内会の回覧板で周知する」は加入（23.2%）が非加入（9.4%）より 13.8 ポイント、それぞれ高くなっている。

インターネット利用状況別にみると、「SNSを活用する」は利用している人（54.6%）が利用していない人（11.5%）より 43.1 ポイント、「ホームページを充実させる」は利用している人（50.9%）が利用していない人（24.0%）より 26.9 ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「町内会の回覧板で周知する」は利用していない人（40.6%）が利用している人（12.9%）より 27.7 ポイント、「市政だより区版を拡充する」は利用していない人（60.4%）が利用している人（33.7%）より 26.7 ポイント、それぞれ高くなっている。（図 1-34）

(12) 区民の意見を区政に反映するための手法

問 12 区民の意見を収集し、または、区民の意見を区政に反映するためには、どのような手法がよいでしょうか。（3つまで○）

図 1-35 区民の意見を区政に反映するための手法



※「SNS等を活用し、区役所とオンラインで意見交換できる仕組みをつくる」は、2020年度では「SNS等を活用し、区役所と電子上で意見交換できる仕組みをつくる」としていた

※タウンミーティング：行政などが市民に対して行う対話型の集会

※ワークショップ：参加者が主体的に参加し、体験しながら学ぶイベントや講座、グループ学習など

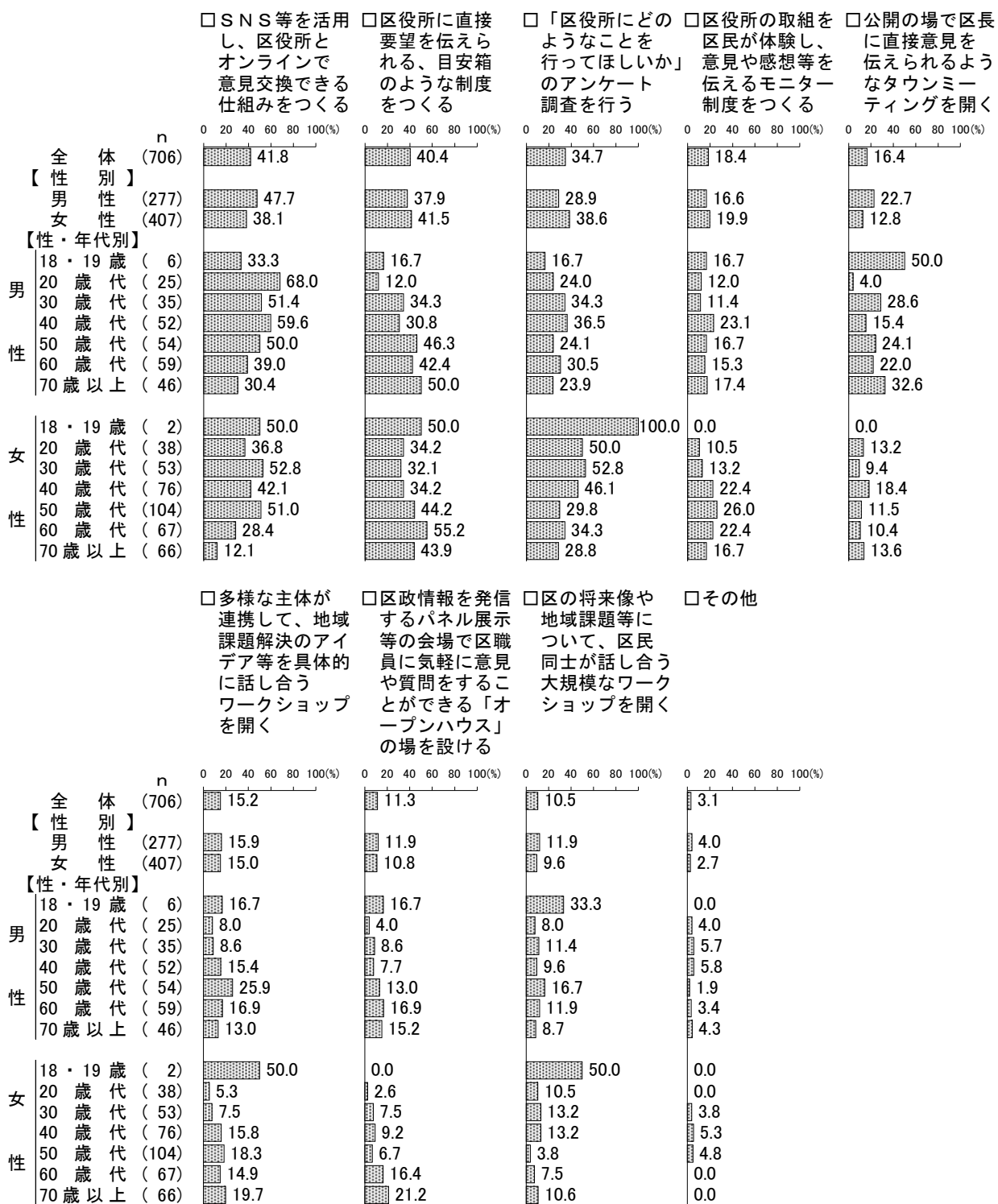
※多様な主体：区内の企業や市民活動団体、町内会・自治会など

※オープンハウス：パネルの展示やリーフレット資料の配布により、事業や、その進め方に関する情報を区から提供するとともに、参加者がその場で担当の区職員に対して質問・意見できる市民参加の機会

区民の意見を区政に反映するための手法を聞いたところ、「SNS等を活用し、区役所とオンラインで意見交換できる仕組みをつくる」（41.8%）が4割を超えて最も高く、次いで「区役所に直接要望を伝えられる、目安箱のような制度をつくる」（40.4%）、「『区役所にどのようなことを行ってほしいか』のアンケート調査を行う」（34.7%）、「区役所の取組を区民が体験し、意見や感想等を伝えるモニター制度をつくる」（18.4%）となっている。

2020年度と比較すると、「区の将来像や地域課題等について、区民同士が話し合う大規模なワークショップを開く」は3.6ポイント増加している。一方、「SNS等を活用し、区役所とオンラインで意見交換できる仕組みをつくる」は4.9ポイント、「区政情報を発信するパネル展示等の会場で区職員に気軽に意見や質問をすることができる『オープンハウス』の場を設ける」は4.6ポイント、それぞれ減少している。（図1-35）

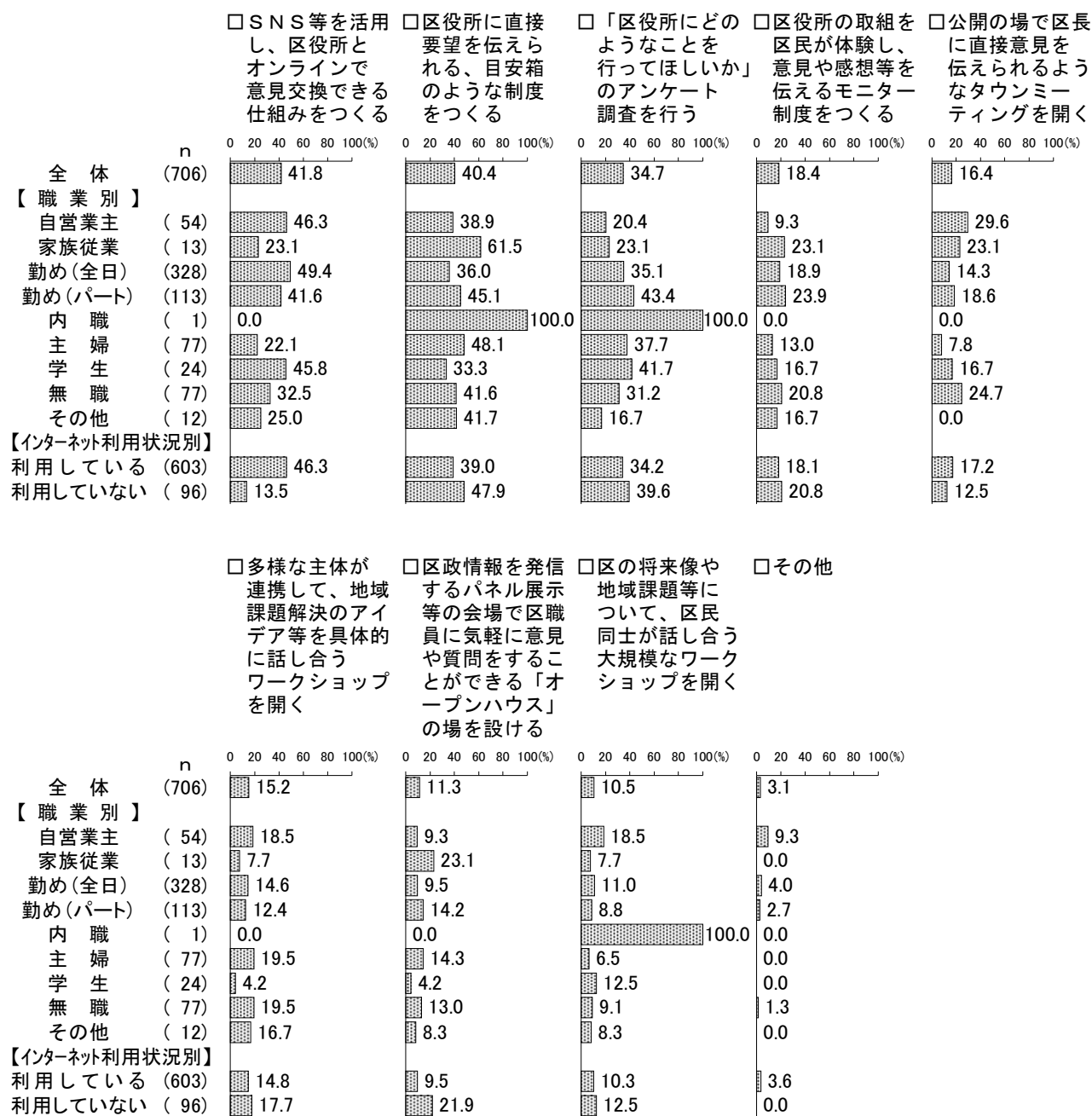
図 1-36 区民の意見を区政に反映するための手法（性別、性・年代別）



性別にみると、「公開の場で区長に直接意見を伝えられるようなタウンミーティングを開く」は男性（22.7%）が女性（12.8%）より 9.9 ポイント高くなっている。一方、『「区役所にどのようなことを行ってほしいか」のアンケート調査を行う』は女性（38.6%）が男性（28.9%）より 9.7 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「SNS等を活用し、区役所とオンラインで意見交換できる仕組みをつくる」は男性 20 歳代（68.0%）で 7 割近くと高くなっている。「区役所に直接要望を伝えられる、目安箱のような制度をつくる」は女性 60 歳代（55.2%）で 5 割半ばと高くなっている。（図 1-36）

図 1-37 区民の意見を区政に反映するための手法（職業別、インターネット利用状況別）



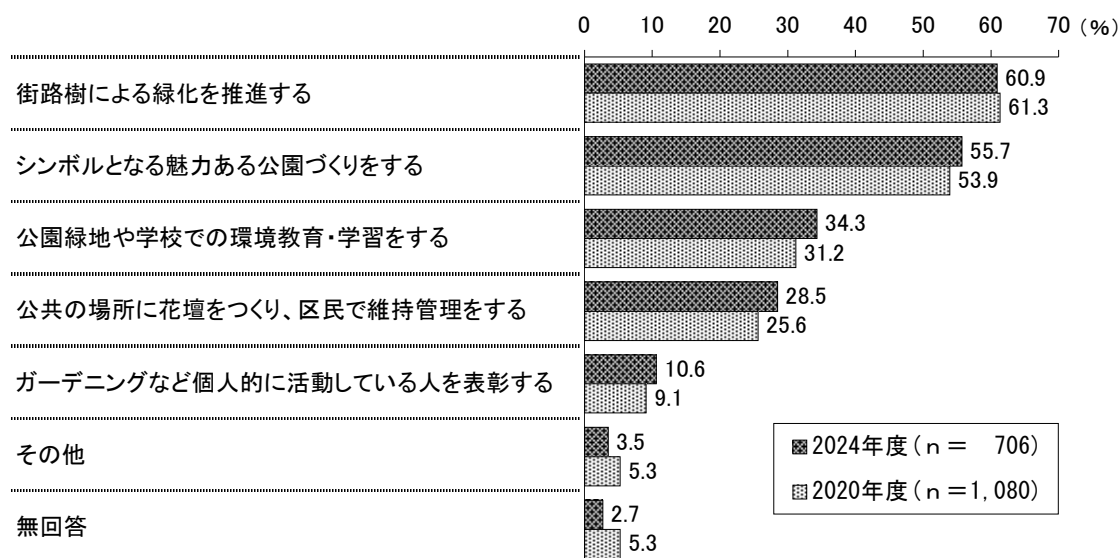
職業別にみると、「SNS等を活用し、区役所とオンラインで意見交換できる仕組みをつくる」は勤め(全日)(49.4%)で約5割と高くなっている。「区役所に直接要望を伝えられる、目安箱のような制度をつくる」は主婦(仕事はしていない)(48.1%)で5割近くと高くなっている。

インターネット利用状況別にみると、「SNS等を活用し、区役所とオンラインで意見交換できる仕組みをつくる」は利用している人(46.3%)が利用していない人(13.5%)より32.8ポイント高くなっている。一方、「区政情報を発信するパネル展示等の会場で区職員に気軽に意見や質問をすることができる『オープンハウス』の場を設ける」は利用していない人(21.9%)が利用している人(9.5%)より12.4ポイント高くなっている。(図1-37)

(13)「花と緑のまちづくり」推進

問 13 川崎市は令和 6 年度に市制 100 周年を迎えましたが、高津区が取り組んでいる「花と緑のまちづくり」を推進していくためには、どのようにしたらよいでしょうか。
(3 つまで○)

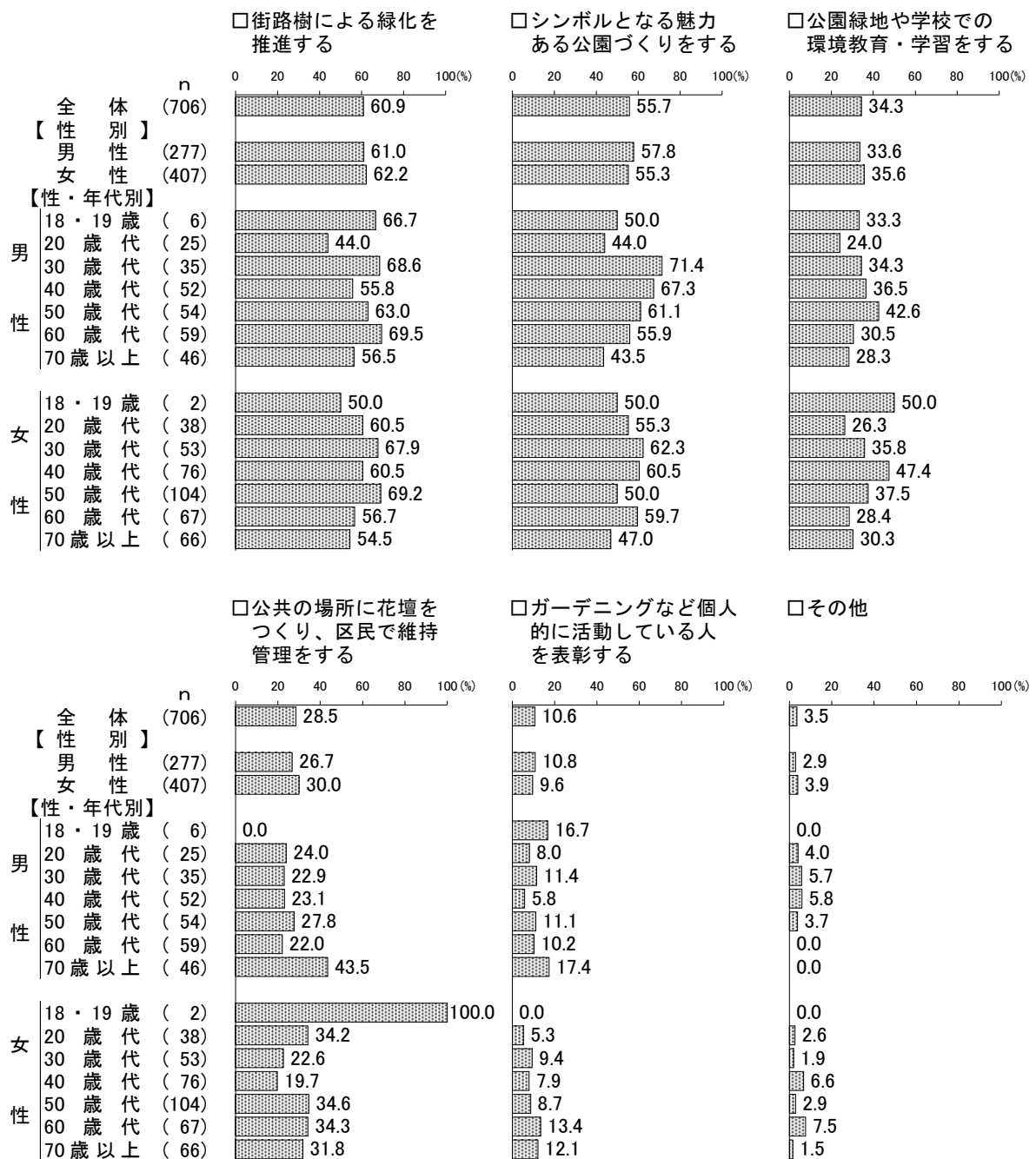
図 1-38 「花と緑のまちづくり」推進



「花と緑のまちづくり」を推進していくためには、どのようにしたらよいか聞いたところ、「街路樹による緑化を推進する」(60.9%)が約6割で最も高く、次いで「シンボルとなる魅力ある公園づくりをする」(55.7%)、「公園緑地や学校での環境教育・学習をする」(34.3%)、「公共の場所に花壇をつくり、区民で維持管理をする」(28.5%)となっている。

2020年度と比較すると、「公園緑地や学校での環境教育・学習をする」は3.1ポイント増加している。(図1-38)

図 1-39 「花と緑のまちづくり」推進（性別、性・年代別）



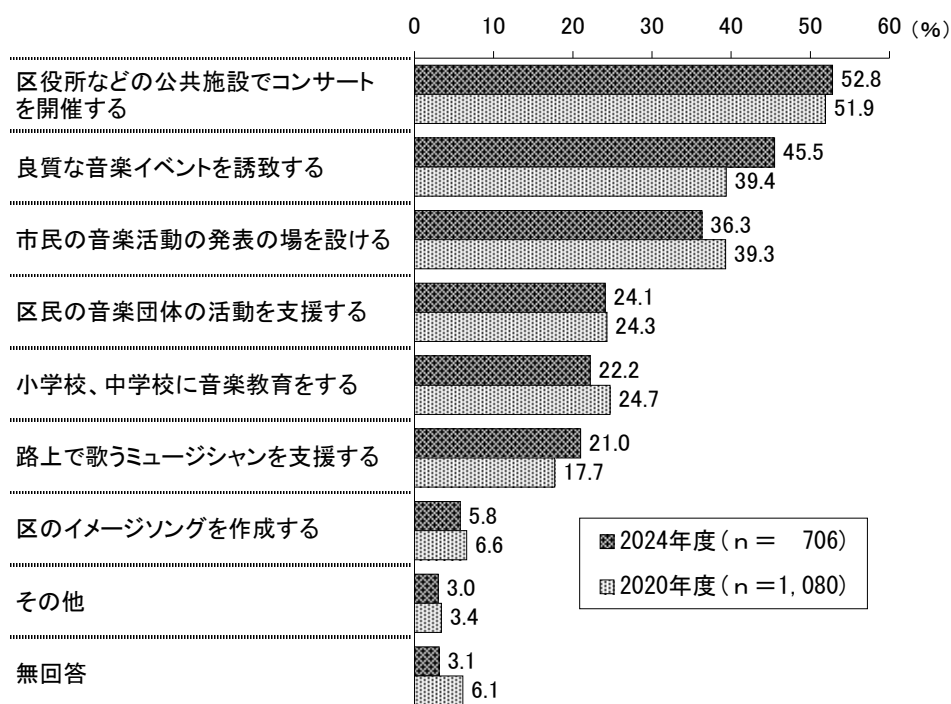
性別にみると、「公共の場所に花壇をつくり、区民で維持管理をする」は女性（30.0％）が男性（26.7％）より 3.3 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「街路樹による緑化を推進する」は男性 60 歳代（69.5％）と女性 50 歳代（69.2％）で約 7 割と高くなっている。「シンボルとなる魅力ある公園づくりをする」は男性 30 歳代（71.4％）で 7 割を超えて高くなっている。「公園緑地や学校での環境教育・学習をする」は女性 40 歳代（47.4％）で 5 割近くと高くなっている。（図 1-39）

(14)「音楽のまち」推進

問 14 川崎市が掲げている「音楽のまち」を高津区において推進するためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

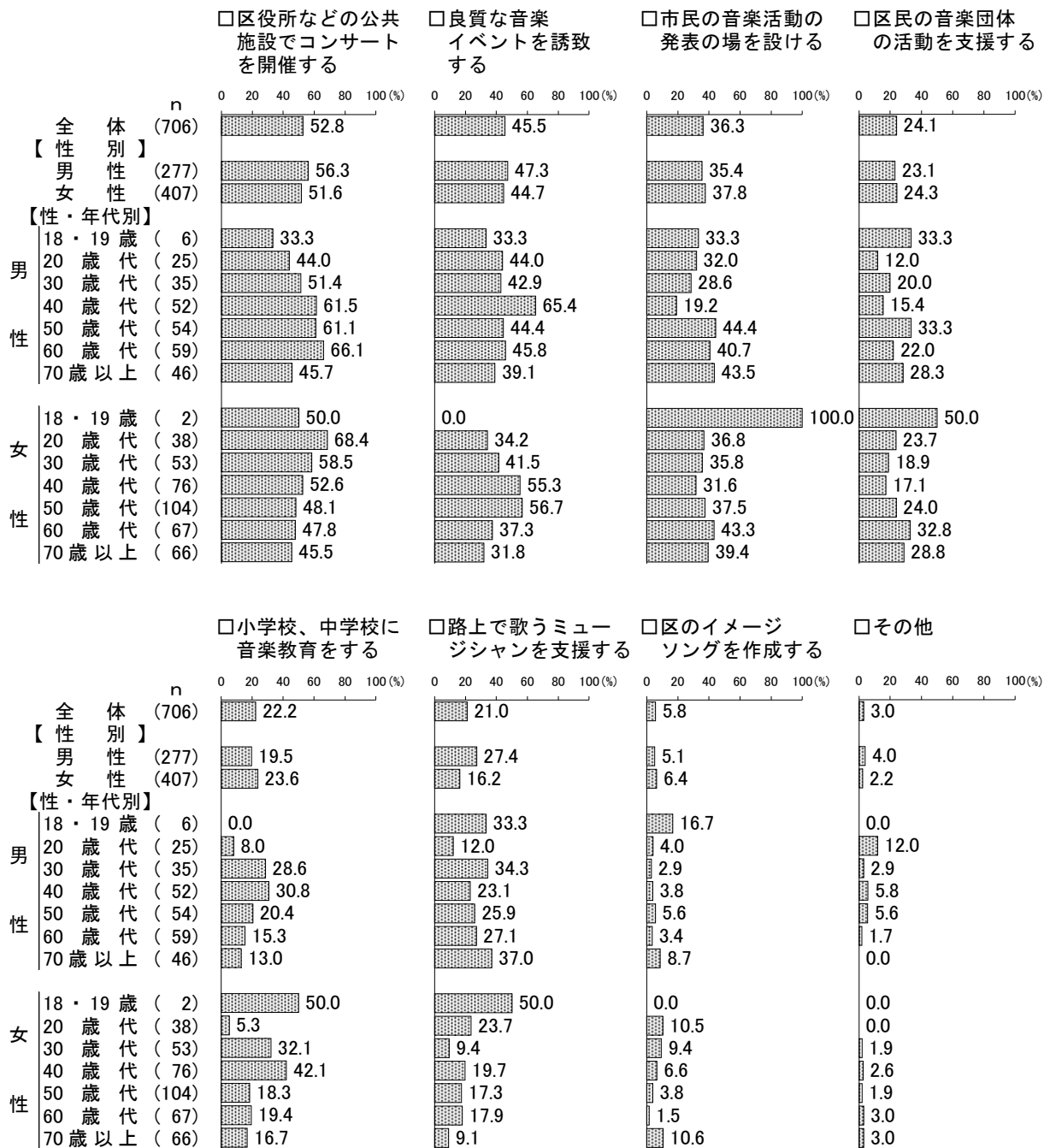
図 1-40 「音楽のまち」推進



高津区において「音楽のまち」を推進するための手法を聞いたところ、「区役所などの公共施設でコンサートを開催する」(52.8%)が5割を超えて最も高く、次いで「良質な音楽イベントを誘致する」(45.5%)、「市民の音楽活動の発表の場を設ける」(36.3%)、「区民の音楽団体の活動を支援する」(24.1%)となっている。

2020年度と比較すると、「良質な音楽イベントを誘致する」は6.1ポイント、「路上で歌うミュージシャンを支援する」は3.3ポイント、それぞれ増加している。一方、「市民の音楽活動の発表の場を設ける」は3.0ポイント減少している。(図1-40)

図 1-41 「音楽のまち」推進（性別、性・年代別）



性別にみると、「路上で歌うミュージシャンを支援する」は男性（27.4%）が女性（16.2%）より 11.2 ポイント高くなっている。一方、「小学校、中学校に音楽教育をする」は女性（23.6%）が男性（19.5%）より 4.1 ポイント高くなっている。

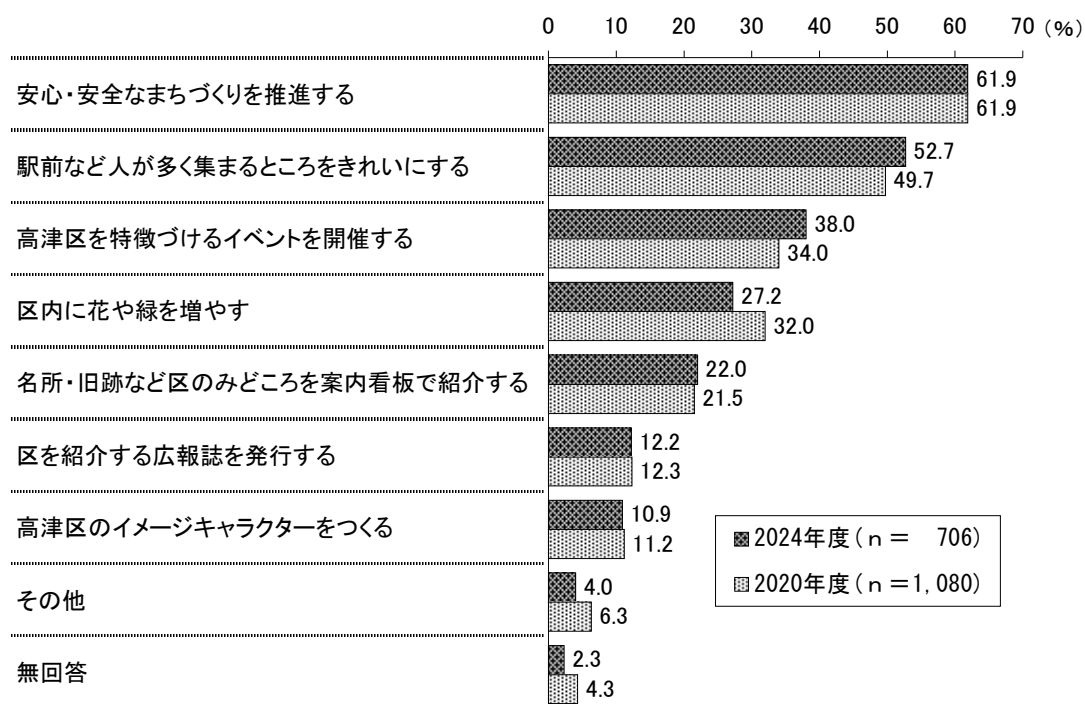
性・年代別にみると、「区役所などの公共施設でコンサートを開催する」は女性 20 歳代（68.4%）で 7 割近くと高くなっている。「良質な音楽イベントを誘致する」は男性 40 歳代（65.4%）で 6 割半ばと高くなっている。「小学校、中学校に音楽教育をする」は女性 40 歳代（42.1%）で 4 割を超えて高くなっている。（図 1-41）

(15) 区のイメージアップ

問 15 区のイメージアップを図るためには、どのような手法がよいでしょうか。

(3つまで○)

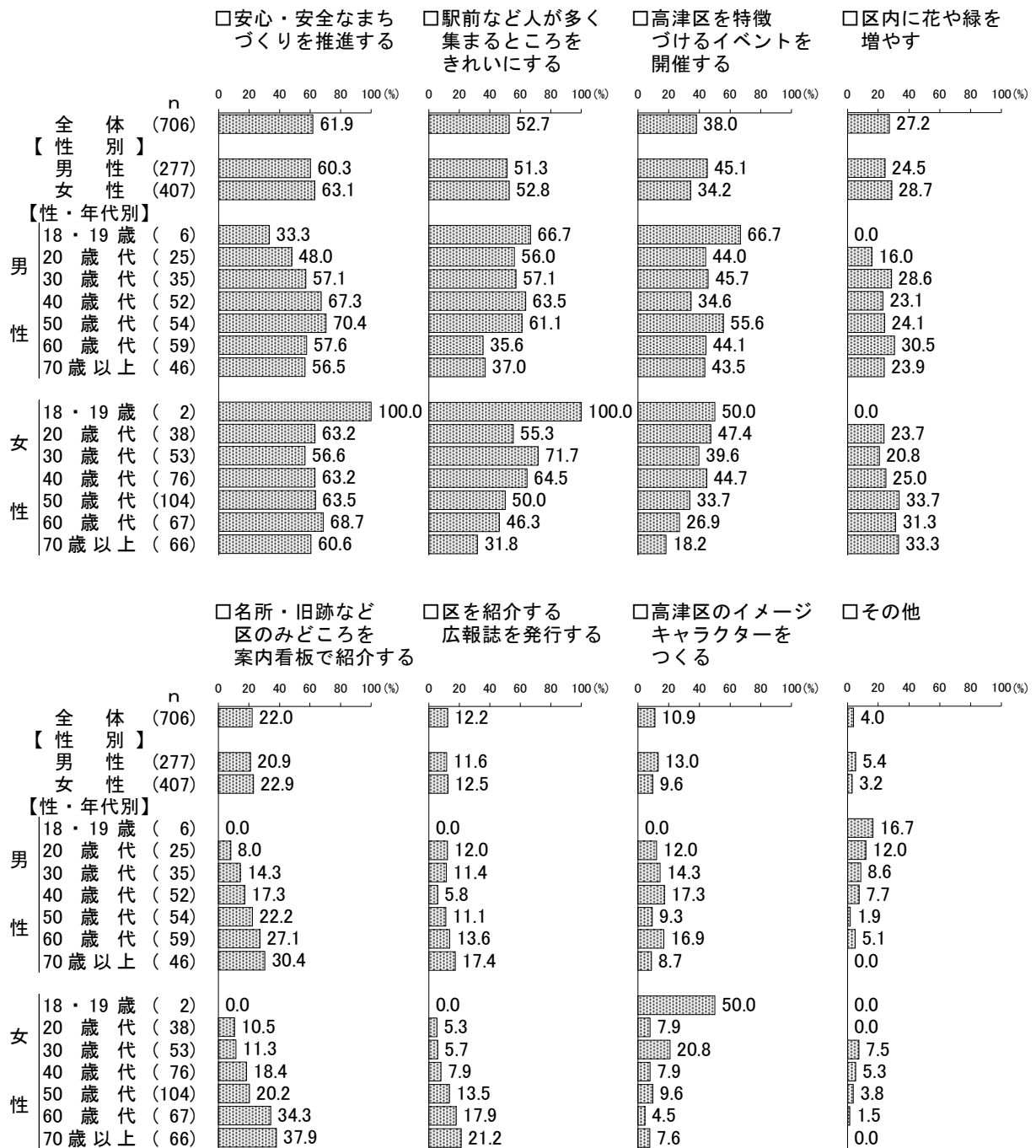
図 1-42 区のイメージアップ



区のイメージアップを図るための手法を聞いたところ、「安心・安全なまちづくりを推進する」(61.9%)が6割を超えて最も高く、次いで「駅前など人が多く集まるところをきれいにする」(52.7%)、「高津区を特徴づけるイベントを開催する」(38.0%)、「区内に花や緑を増やす」(27.2%)となっている。

2020年度と比較すると、「高津区を特徴づけるイベントを開催する」は4.0ポイント、「駅前など人が多く集まるところをきれいにする」は3.0ポイント、それぞれ増加している。一方、「区内に花や緑を増やす」は4.8ポイント減少している。(図1-42)

図 1-43 区のイメージアップ（性別、性・年代別）



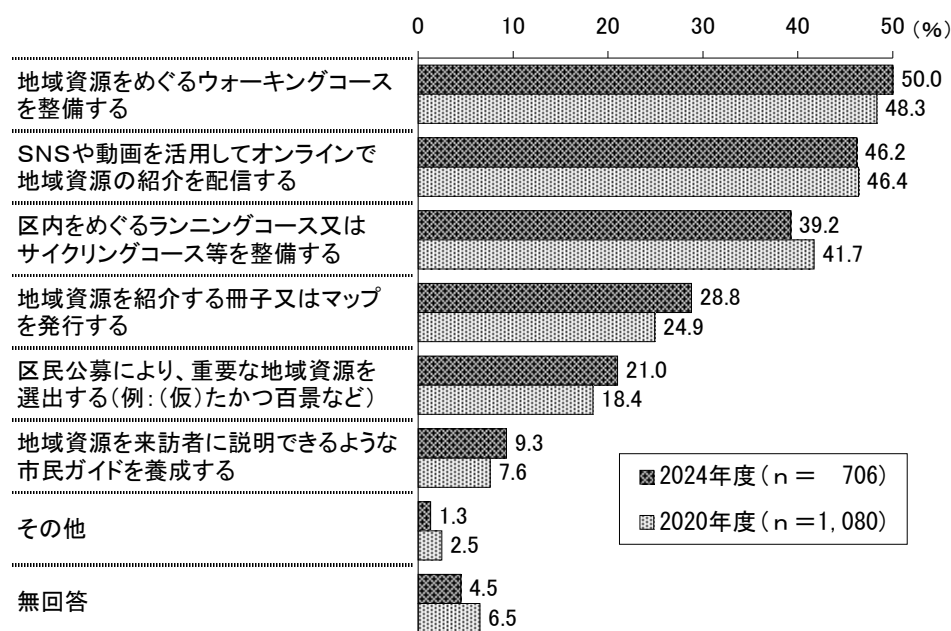
性別にみると、「高津区を特徴づけるイベントを開催する」は男性（45.1%）が女性（34.2%）より 10.9 ポイント高くなっている。一方「区内に花や緑を増やす」は女性（28.7%）が男性（24.5%）より 4.2 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「安心・安全なまちづくりを推進する」は男性 50 歳代（70.4%）で 7 割と高くなっている。「駅前など人が多く集まるところをきれいにする」は女性 30 歳代（71.7%）で 7 割を超えて高くなっている。「高津区を特徴づけるイベントを開催する」は男性 50 歳代（55.6%）で 5 割半ばと高くなっている。（図 1-43）

(16) 区の地域資源の魅力の効果的な発信

問 16 区の地域資源の魅力をより効果的に発信するためには、どのような手法がよいでしょうか。（3つまで○）

図 1-44 区の地域資源の魅力の効果的な発信

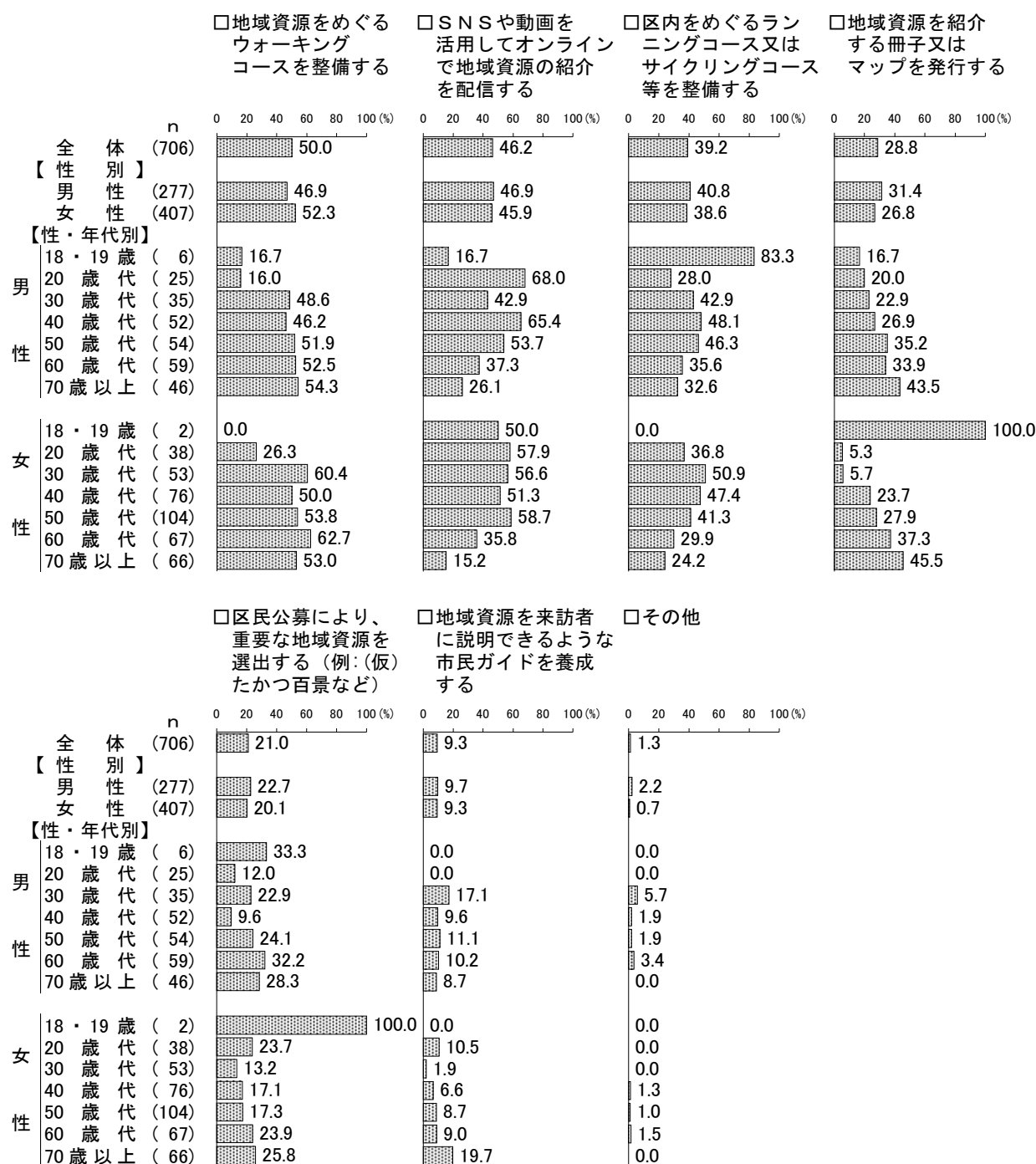


※「SNSや動画を活用してオンラインで地域資源の紹介を配信する」は、2020年度では「SNSや動画を活用してインターネット等で地域資源を紹介する」としていた

区の地域資源の魅力をより効果的に発信するための手法を聞いたところ、「地域資源をめぐるウォーキングコースを整備する」(50.0%)が5割で最も高く、次いで「SNSや動画を活用してオンラインで地域資源の紹介を配信する」(46.2%)、「区内をめぐるランニングコース又はサイクリングコース等を整備する」(39.2%)、「地域資源を紹介する冊子又はマップを発行する」(28.8%)となっている。

2020年度と比較すると、「地域資源を紹介する冊子又はマップを発行する」は3.9ポイント増加している。(図1-44)

図 1-45 区の地域資源の魅力の効果的な発信（性別、性・年代別）



性別にみると、「地域資源をめぐるウォーキングコースを整備する」は女性（52.3%）が男性（46.9%）より 5.4 ポイント高くなっている。一方、「地域資源を紹介する冊子又はマップを発行する」は男性（31.4%）が女性（26.8%）より 4.6 ポイント高くなっている。

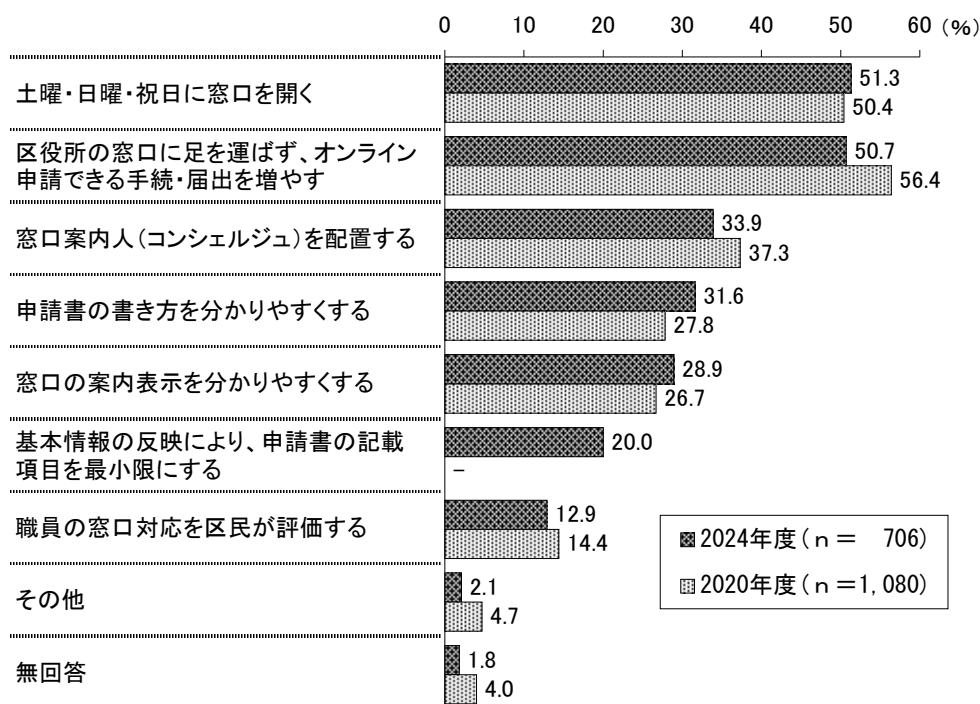
性・年代別にみると、「地域資源をめぐるウォーキングコースを整備する」は女性 60 歳代（62.7%）で 6 割を超えて高くなっている。「SNS や動画を活用してオンラインで地域資源の紹介を配信する」は男性 20 歳代（68.0%）で 7 割近くと高くなっている。（図 1-45）

(17) 区役所の窓口サービス向上

問 17 区役所の窓口サービスを向上させるにはどのような手法がよいでしょうか。

(3つまで○)

図 1-46 区役所の窓口サービス向上



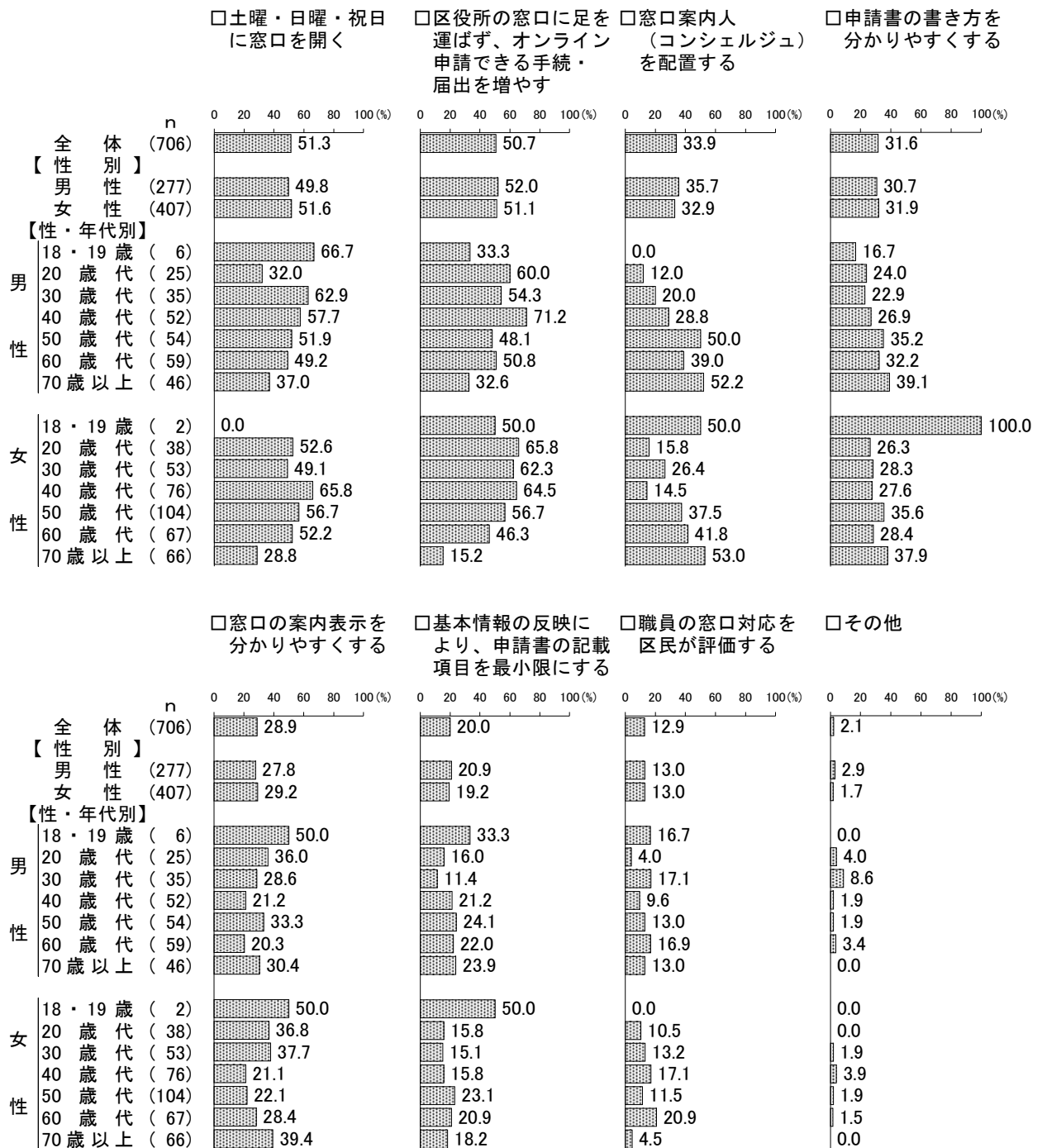
※「区役所の窓口に通わず、オンライン申請できる手続・届出を増やす」は、2020年度では「区役所の窓口に通わず、インターネット・郵送で行える手続・届出を増やす」としていた

※「基本情報の反映により、申請書の記載項目を最小限にする」は、2024年度に追加された選択肢

区役所の窓口サービスを向上させるための手法を聞いたところ、「土曜・日曜・祝日に窓口を開く」(51.3%)が5割を超えて最も高く、次いで「区役所の窓口に通わず、オンライン申請できる手続・届出を増やす」(50.7%)、「窓口案内人(コンシェルジュ)を配置する」(33.9%)、「申請書の書き方を分かりやすくする」(31.6%)となっている。

2020年度と比較すると、「申請書の書き方を分かりやすくする」は3.8ポイント増加している。一方、「区役所の窓口に通わず、オンライン申請できる手続・届出を増やす」は5.7ポイント、「窓口案内人(コンシェルジュ)を配置する」は3.4ポイント、それぞれ減少している。(図1-46)

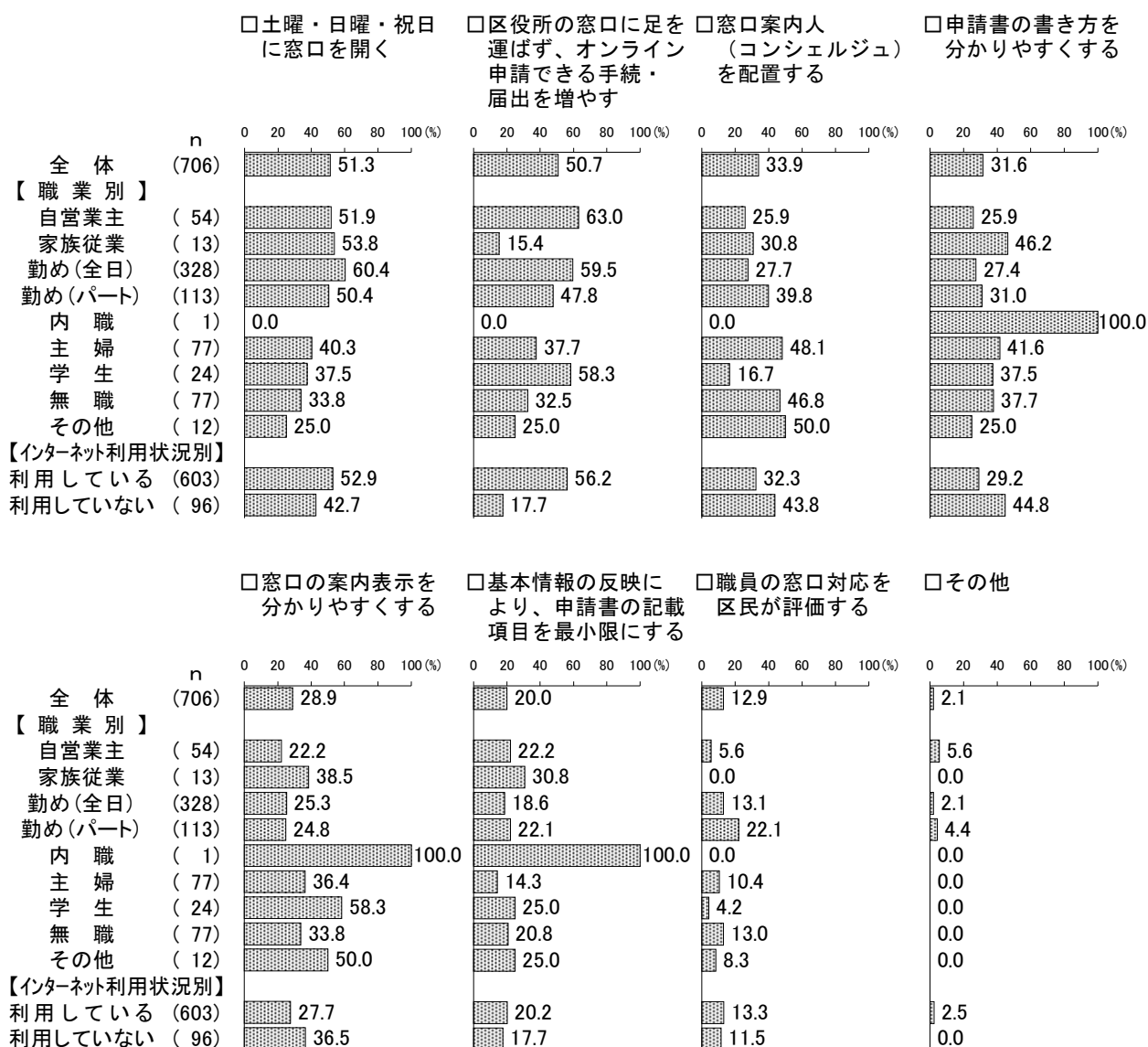
図 1-47 区役所の窓口サービス向上（性別、性・年代別）



性別にみると、大きな違いはみられない。

性・年代別にみると、「土曜・日曜・祝日に窓口を開く」は女性 40 歳代（65.8%）で 6 割半ばと高くなっている。「区役所の窓口足を運ばず、オンライン申請できる手続・届出を増やす」は男性 40 歳代（71.2%）で 7 割を超えて高くなっている。「窓口案内人（コンシェルジュ）を配置する」は女性 70 歳以上（53.0%）と男性 70 歳以上（52.2%）で 5 割を超えて高くなっている。（図 1-47）

図1-48 区役所の窓口サービス向上（職業別、インターネット利用状況別）



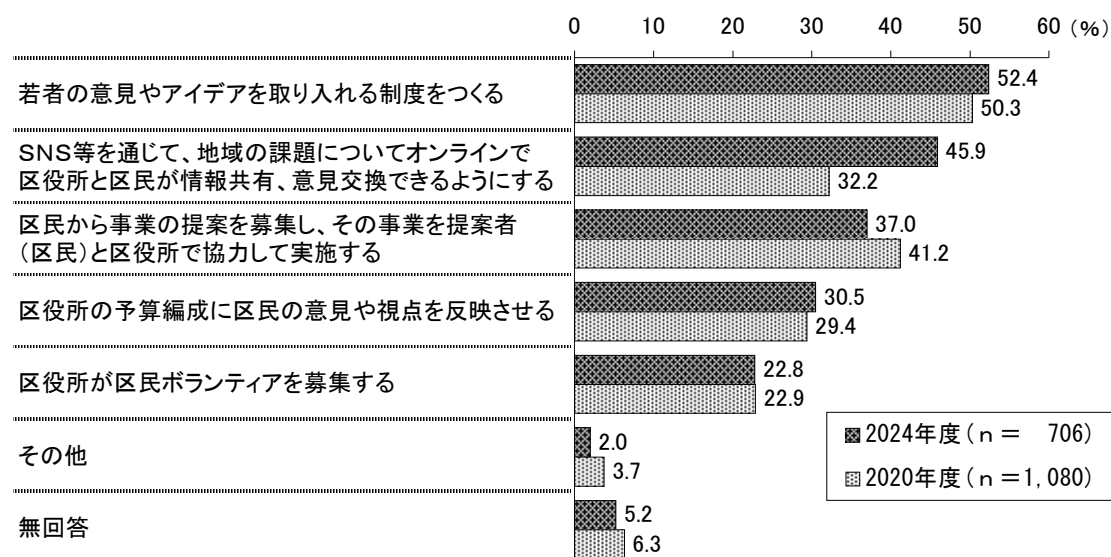
職業別にみると、「土曜・日曜・祝日に窓口を開く」は勤め（全日）（60.4%）で6割と高くなっている。「区役所の窓口足運ばず、オンライン申請できる手続・届出を増やす」は自営業主（63.0%）で6割を超えて高くなっている。「窓口の案内表示を分かりやすくする」は学生（58.3%）で6割近くと高くなっている。

インターネット利用状況別にみると、「区役所の窓口足運ばず、オンライン申請できる手続・届出を増やす」は利用している人（56.2%）が利用していない人（17.7%）より38.2ポイント高くなっている。一方、「申請書の書き方を分かりやすくする」は利用していない人（44.8%）が利用している人（29.2%）より15.6ポイント高くなっている。（図1-48）

(18) 区民と行政が協力してまちづくりを進める仕組み

問 18 区民と行政が協力してまちづくりを進める仕組みとしては、どのようなものがよいでしょうか。（3つまで○）

図 1-49 区民と行政が協力してまちづくりを進める仕組み

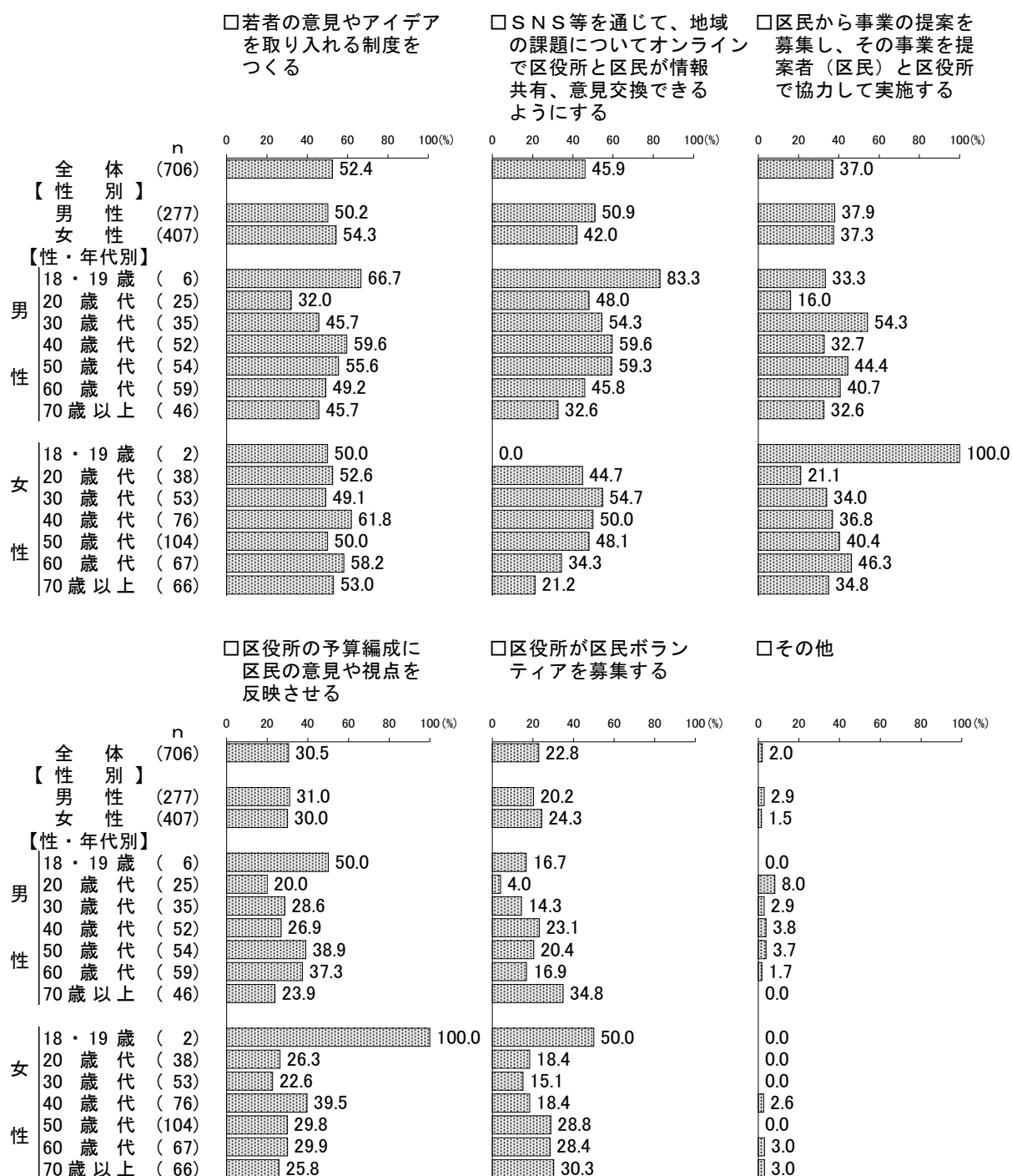


※「SNS等を通じて、地域の課題についてオンラインで区役所と区民が情報共有、意見交換できるようにする」は、2020年度では「電子会議室（掲示板）を設けて、地域の課題について、区役所と区民が情報共有、意見交換できるようにする」としていた

区民と行政が協力してまちづくりを進める仕組みとしては、どのようなものがよいか聞いたところ、「若者の意見やアイデアを取り入れる制度をつくる」（52.4%）が5割を超えて最も高く、次いで「SNS等を通じて、地域の課題についてオンラインで区役所と区民が情報共有、意見交換できるようにする」（45.9%）、「区民から事業の提案を募集し、その事業を提案者（区民）と区役所で協力して実施する」（37.0%）、「区役所の予算編成に区民の意見や視点を反映させる」（30.5%）となっている。

2020年度と比較すると、「区民から事業の提案を募集し、その事業を提案者（区民）と区役所で協力して実施する」は4.2ポイント減少している。（図1-49）

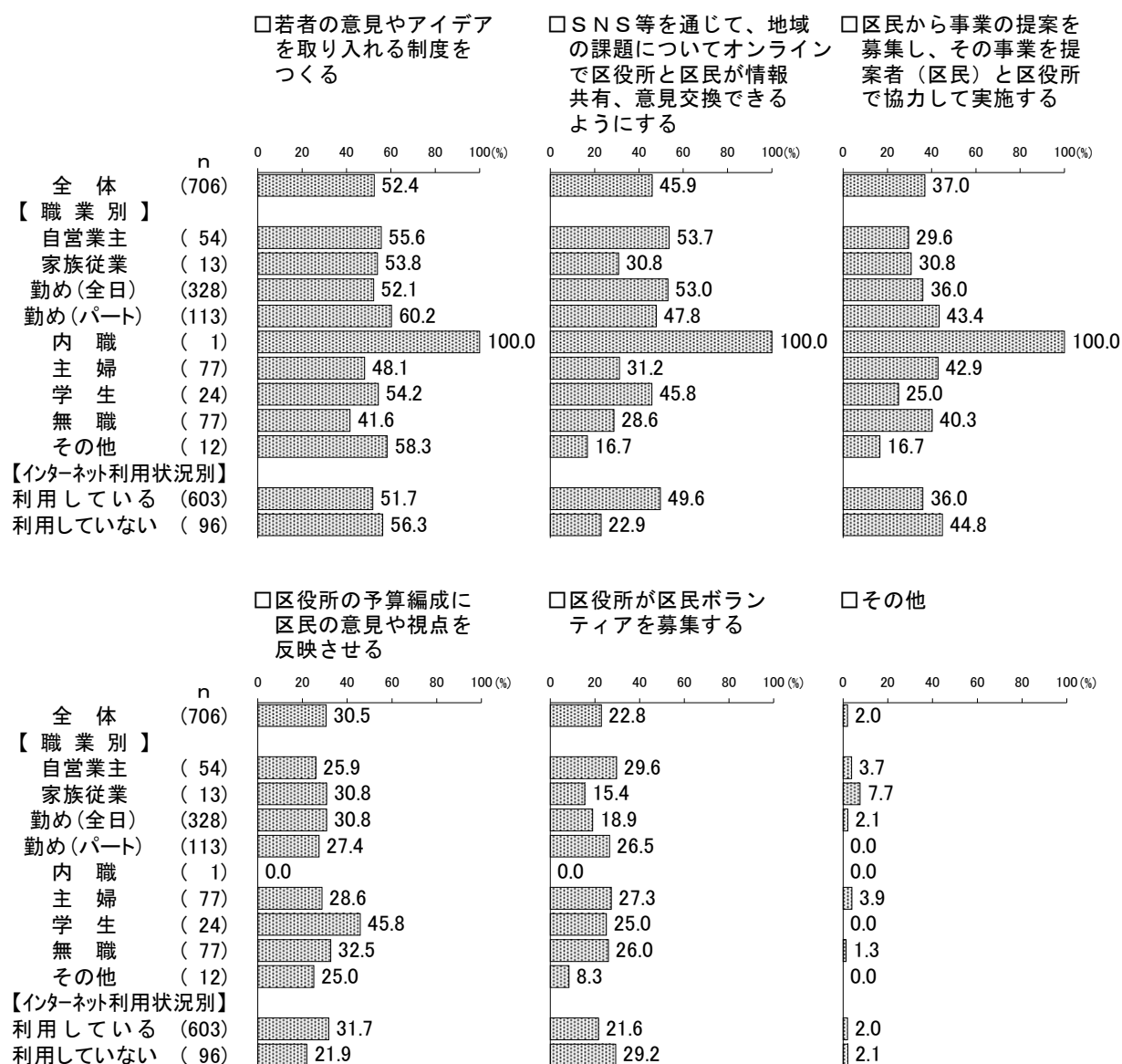
図 1-50 区民と行政が協力してまちづくりを進める仕組み（性別、性・年代別）



性別にみると、「SNS等を通じて、地域の課題についてオンラインで区役所と区民が情報共有、意見交換できるようにする」は男性（50.9%）が女性（42.0%）より 8.9 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「若者の意見やアイデアを取り入れる制度をつくる」は女性 40 歳代（61.8%）で 6 割を超えて高くなっている。「SNS等を通じて、地域の課題についてオンラインで区役所と区民が情報共有、意見交換できるようにする」は男性 40 歳代（59.6%）と男性 50 歳代（59.3%）で約 6 割と高くなっている。（図 1-50）

図 1-51 区民と行政が協力してまちづくりを進める仕組み（職業別、インターネット利用状況別）



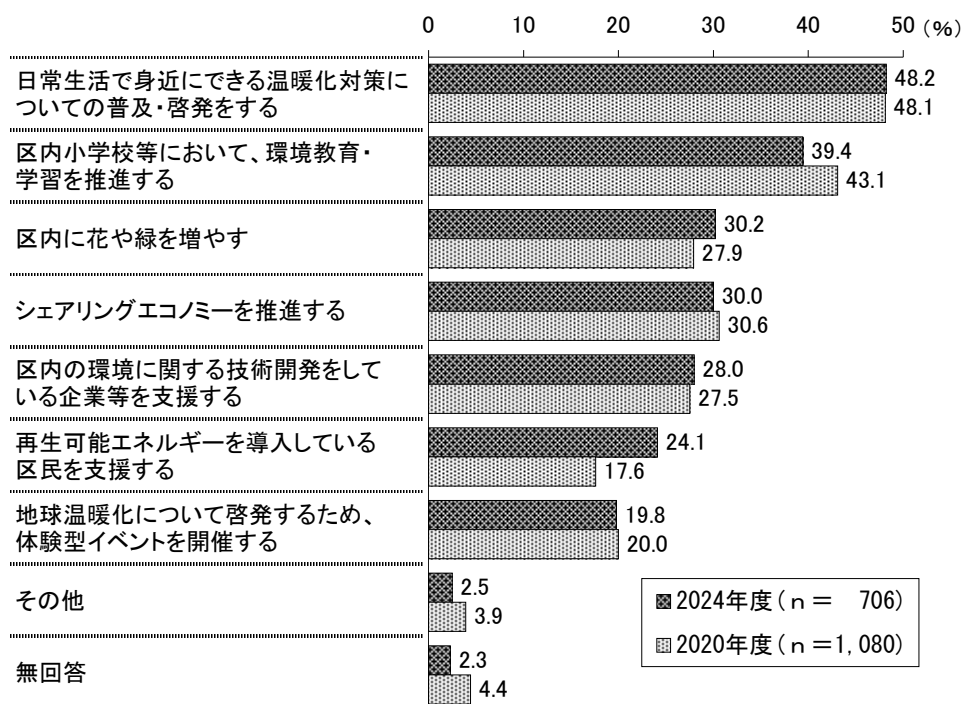
職業別にみると、「若者の意見やアイデアを取り入れる制度をつくる」は勤め（パートタイム）（60.2%）で6割と高くなっている。「SNS等を通じて、地域の課題についてオンラインで区役所と区民が情報共有、意見交換できるようにする」は自営業主（53.7%）と勤め（全日）（53.0%）で5割を超えて高くなっている。

インターネット利用状況別にみると、「SNS等を通じて、地域の課題についてオンラインで区役所と区民が情報共有、意見交換できるようにする」は利用している人（49.6%）が利用していない人（22.9%）より26.7ポイント高くなっている。一方、「区民から事業の提案を募集し、その事業を提案者（区民）と区役所で協力して実施する」は利用していない人（44.8%）が利用している人（36.0%）より8.8ポイント高くなっている。（図1-51）

(19) 地域の地球温暖化緩和策

問 19 地域における地球温暖化の緩和策としては、どのような手法がよいでしょうか。
(3つまで○)

図 1-52 地域の地球温暖化緩和策



※「地球温暖化について啓発するため、体験型イベントを開催する」は、2020 年度では「環境問題について啓発するため、環境に関する体験型イベントを開催する」としていた

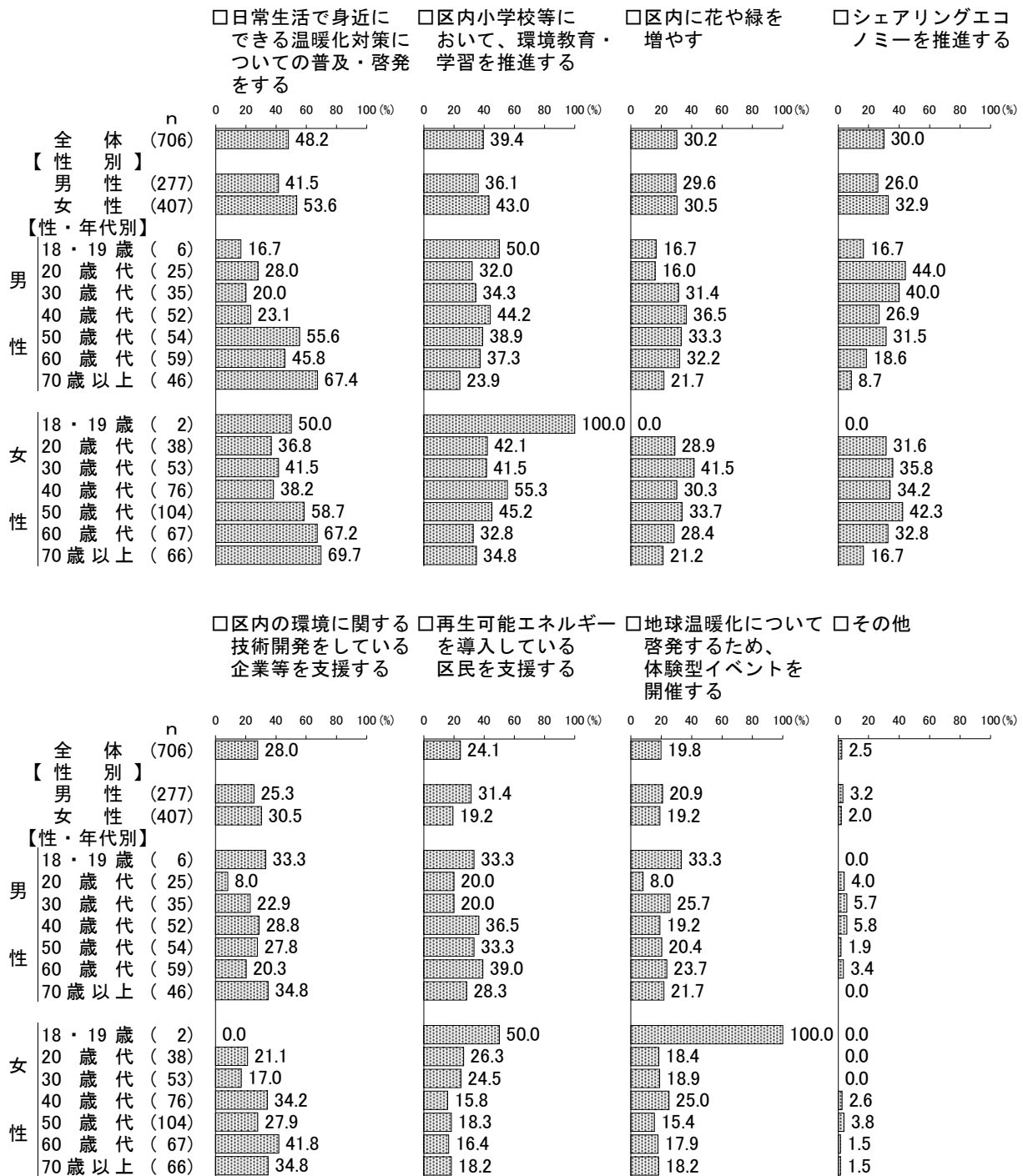
※緩和策：温暖化の原因となる温室効果ガスの排出を抑制するための取り組み

※シェアリングエコノミー：物・サービス・場所などを、多くの人と共有・交換して利用する社会的な仕組み（自転車、自動車、傘など）

地域における地球温暖化の緩和策としての手法を聞いたところ、「日常生活で身近にできる温暖化対策についての普及・啓発をする」（48.2%）が5割近くで最も高く、次いで「区内小学校等において、環境教育・学習を推進する」（39.4%）、「区内に花や緑を増やす」（30.2%）、「シェアリングエコノミーを推進する」（30.0%）となっている。

2020 年度と比較すると、「再生可能エネルギーを導入している区民を支援する」は 6.5 ポイント増加している。一方、「区内小学校等において、環境教育・学習を推進する」は 3.7 ポイント減少している。（図 1-52）

図 1-53 地域の地球温暖化緩和策（性別、性・年代別）



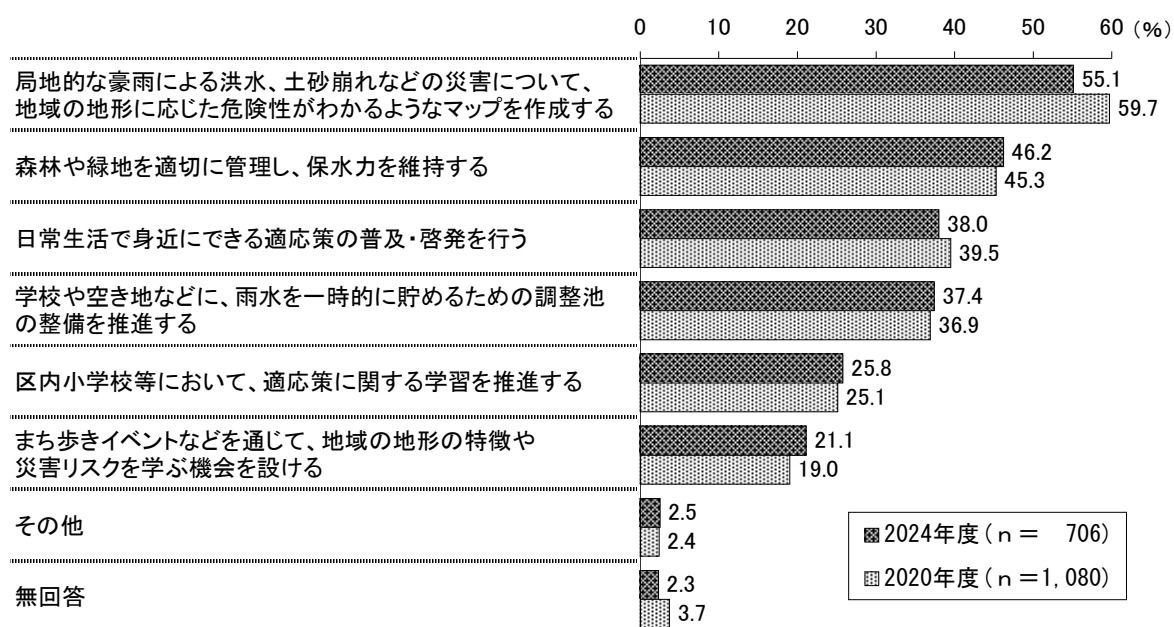
性別にみると、「再生可能エネルギーを導入している区民を支援する」は男性（31.4%）が女性（19.2%）より 12.2 ポイント高くなっている。一方、「日常生活で身近にできる温暖化対策についての普及・啓発をする」は女性（53.6%）が男性（41.5%）より 12.1 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「日常生活で身近にできる温暖化対策についての普及・啓発をする」は女性 70 歳以上（69.7%）で 7 割と高くなっている。「区内小学校等において、環境教育・学習を推進する」は女性 40 歳代（55.3%）で 5 割半ばと高くなっている。「シェアリングエコノミーを推進する」は男性 20 歳代（44.0%）で 4 割半ばと高くなっている。（図 1-53）

(20) 地球温暖化に伴う自然災害への適応策

問 20 地域における地球温暖化に伴う自然災害への適応策として、どのような手法がよいでしょうか。（3つまで○）

図 1-54 地球温暖化に伴う自然災害への適応策

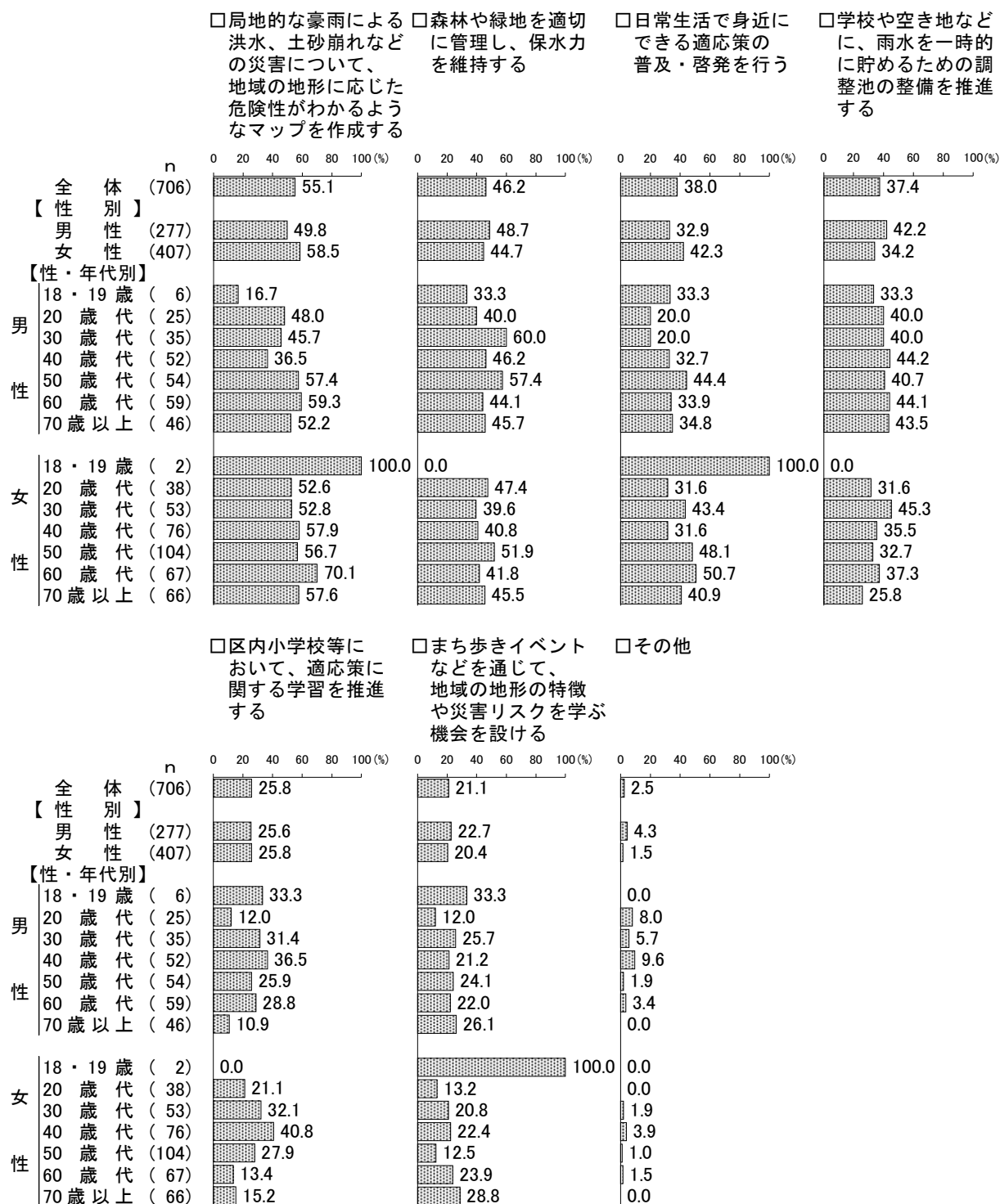


※適応策：ゲリラ豪雨による洪水や土砂崩れなどの地球温暖化の影響に「適応」するための取り組み（雨水の貯留や地面の保水力向上など）

地域における地球温暖化に伴う自然災害への適応策としての手法を聞いたところ、「局地的な豪雨による洪水、土砂崩れなどの災害について、地域の地形に応じた危険性がわかるようなマップを作成する」（55.1%）が5割半ばで最も高く、次いで「森林や緑地を適切に管理し、保水力を維持する」（46.2%）、「日常生活で身近にできる適応策の普及・啓発を行う」（38.0%）、「学校や空き地などに、雨水を一時的に貯めるための調整池の整備を推進する」（37.4%）となっている。

2020年度と比較すると、「局地的な豪雨による洪水、土砂崩れなどの災害について、地域の地形に応じた危険性がわかるようなマップを作成する」は4.6ポイント減少している。（図1-54）

図 1-55 地球温暖化に伴う自然災害への適応策（性別、性・年代別）



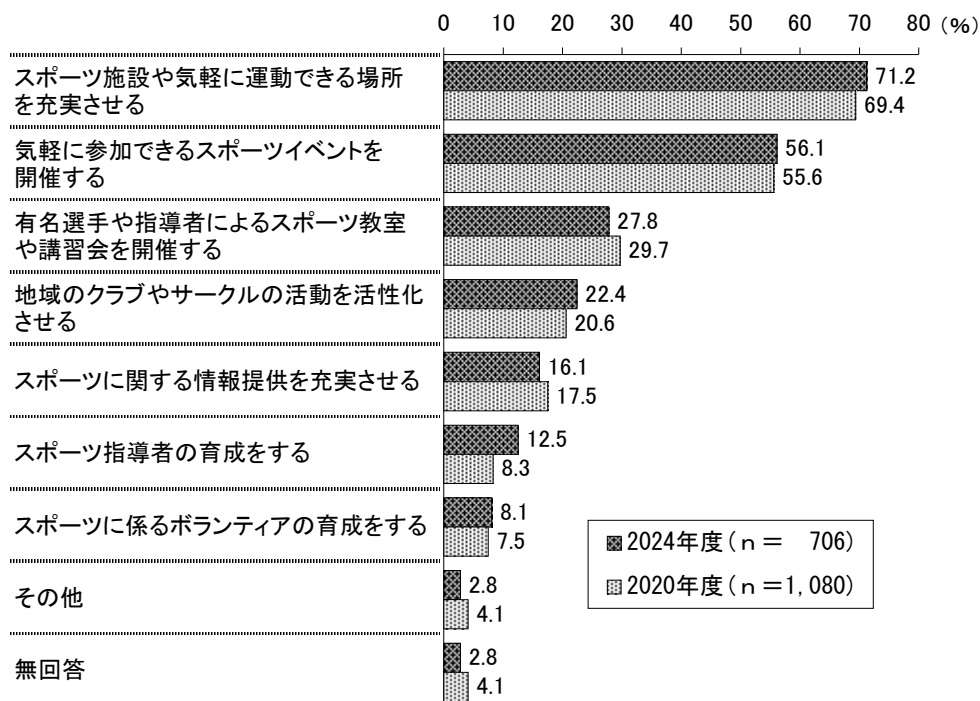
性別にみると、「日常生活で身近にできる適応策の普及・啓発を行う」は女性（42.3%）が男性（32.9%）より 9.4 ポイント高くなっている。一方、「学校や空き地などに、雨水を一時的に貯めるための調整池の整備を推進する」は男性（42.2%）が女性（34.2%）より 8.0 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「局地的な豪雨による洪水、土砂崩れなどの災害について、地域の地形に応じた危険性がわかるようなマップを作成する」は女性 60 歳代（70.1%）で 7 割と高くなっている。「森林や緑地を適切に管理し、保水力を維持する」は男性 30 歳代（60.0%）で 6 割と高くなっている。（図 1-55）

(21) スポーツ振興

問 21 スポーツを振興するためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

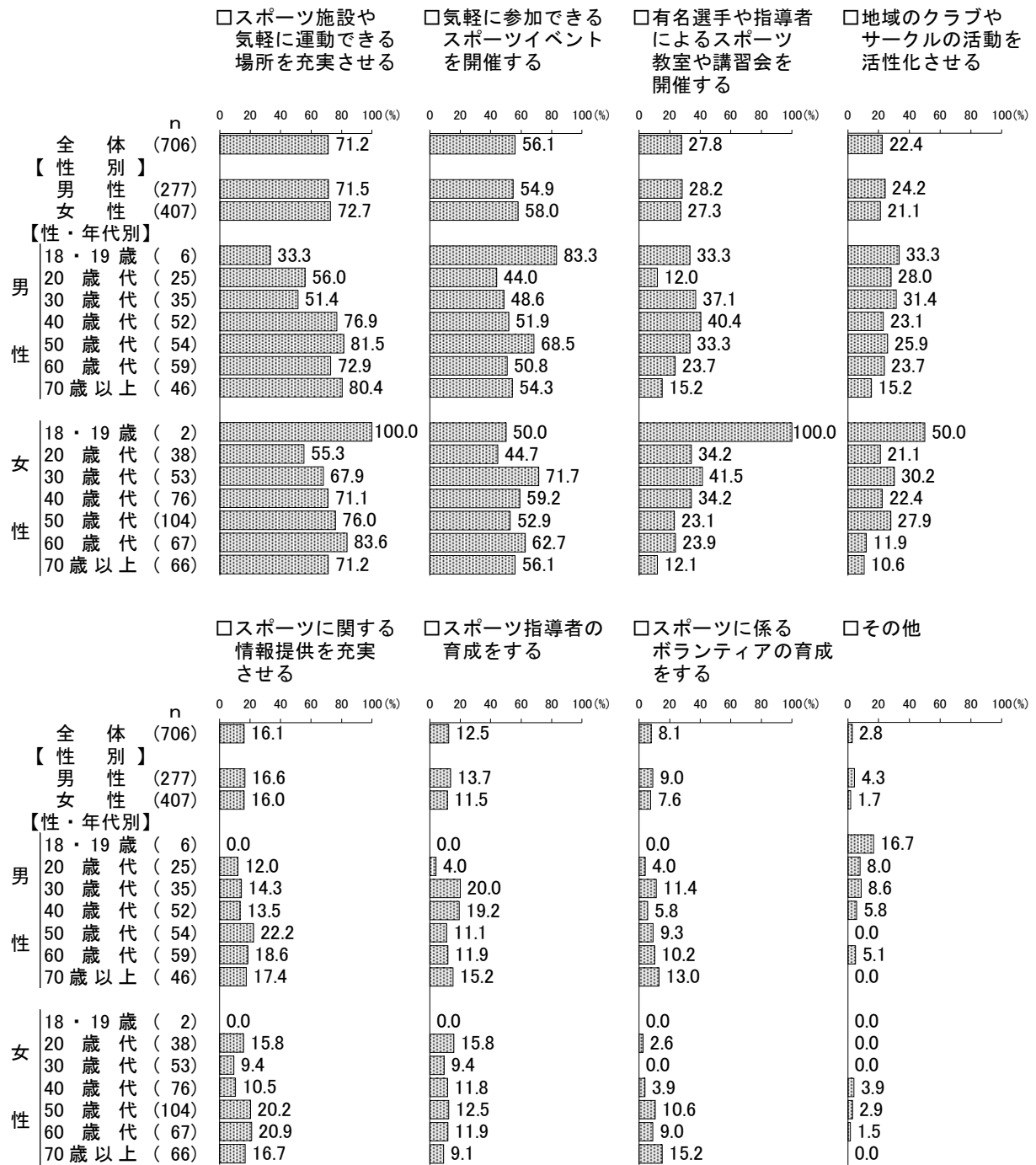
図 1-56 スポーツ振興



スポーツを振興するための手法を聞いたところ、「スポーツ施設や気軽に運動できる場所を充実させる」(71.2%)が7割を超えて最も高く、次いで「気軽に参加できるスポーツイベントを開催する」(56.1%)、「有名選手や指導者によるスポーツ教室や講習会を開催する」(27.8%)、「地域のクラブやサークルの活動を活性化させる」(22.4%)となっている。

2020年度と比較すると、「スポーツ指導者の育成をする」は4.2ポイント増加している。(図1-56)

図 1-57 スポーツ振興（性別、性・年代別）



性別にみると、「気軽に参加できるスポーツイベントを開催する」は女性(58.0%)が男性(54.9%)より 3.1 ポイント高くなっている。一方、「地域のクラブやサークルの活動を活性化させる」は男性(24.2%)が女性(21.1%)より 3.1 ポイント高くなっている。

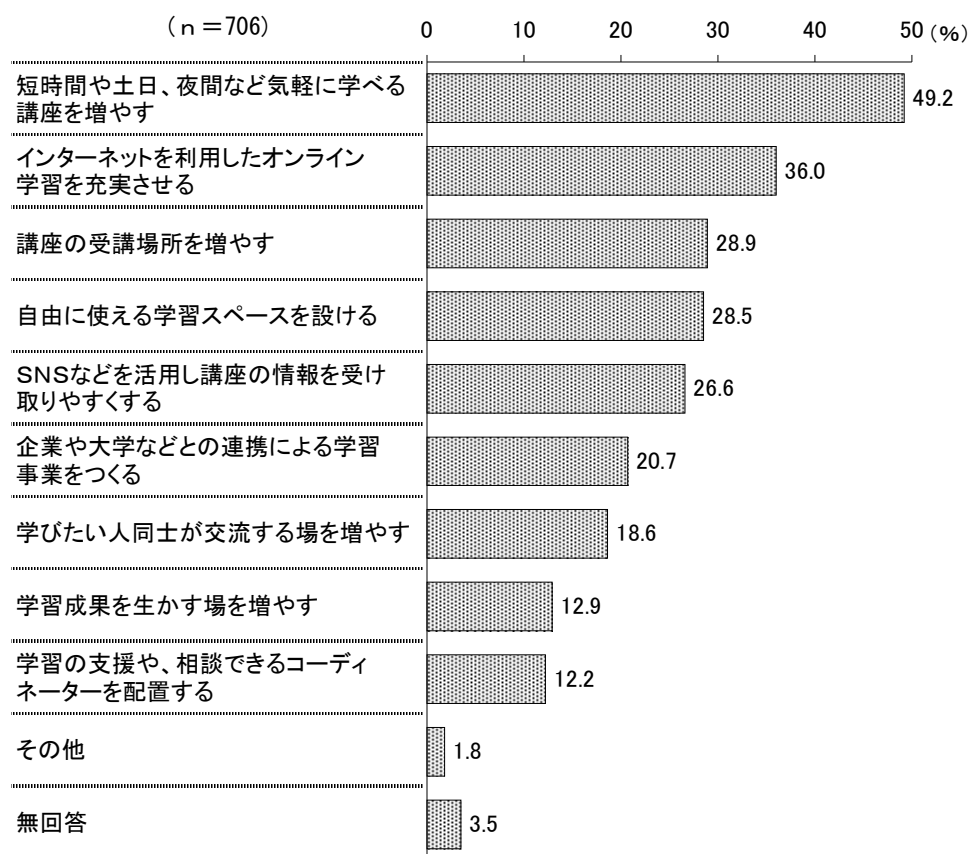
性・年代別にみると、「スポーツ施設や気軽に運動できる場所を充実させる」は女性60歳代(83.6%)と男性50歳代(81.5%)で8割を超えて高くなっている。「気軽に参加できるスポーツイベントを開催する」は女性30歳代(71.7%)で7割を超えて高くなっている。(図1-57)

(22) 生涯学習を盛んにするための手法（2024年度新設）

問 22 生涯学習を盛んにしていくためには、どのような手法がよいでしょうか。

（3つまで○）

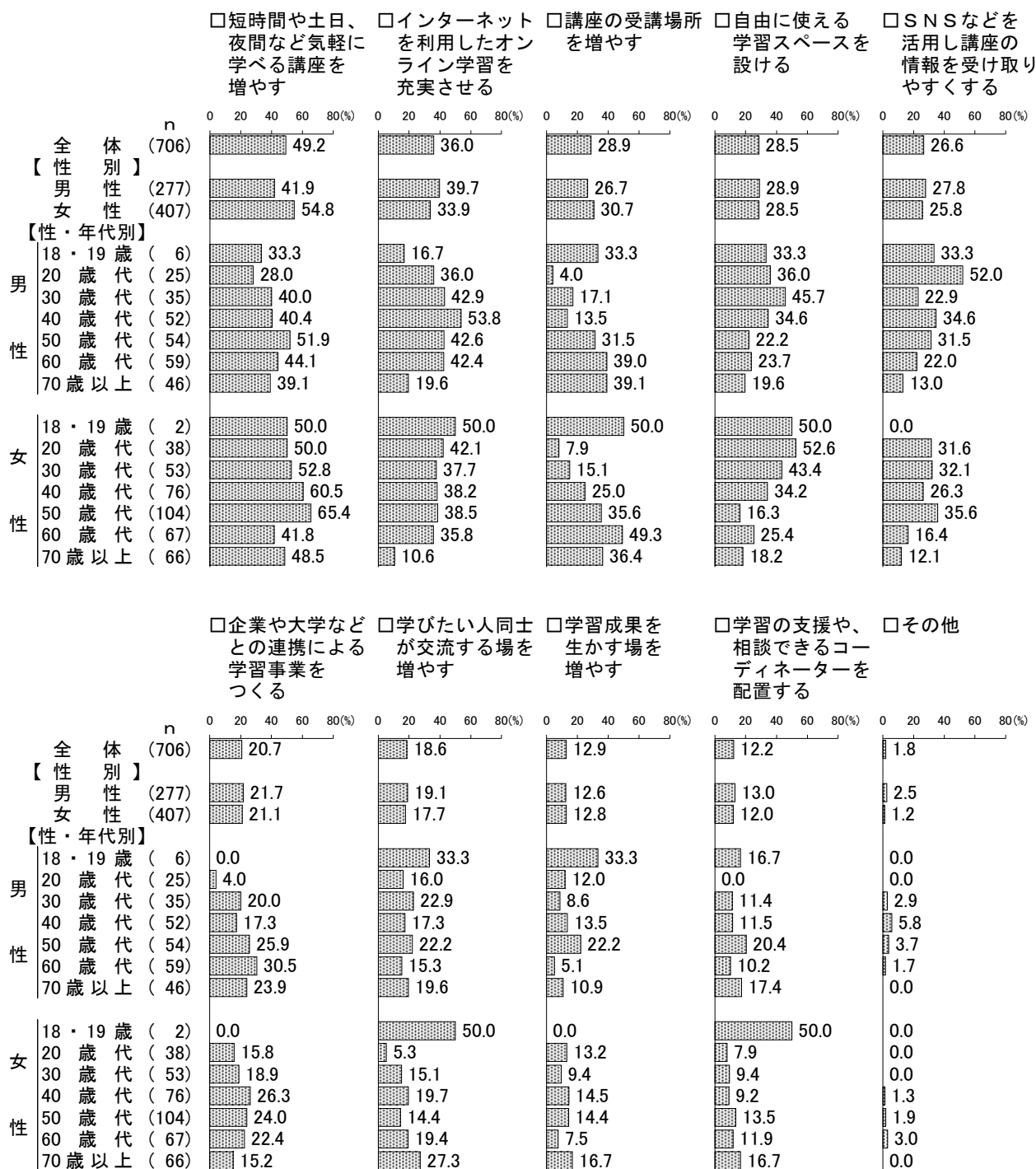
図 1-58 生涯学習を盛んにするための手法



※生涯学習：人々が生涯に行うあらゆる学びのことで、文化活動、スポーツ活動、レクリエーション活動、ボランティア活動、趣味など様々な場や機会において行う学習のことです

生涯学習を盛んにするための手法を聞いたところ、「短時間や土日、夜間など気軽に学べる講座を増やす」（49.2％）が約5割で最も高く、次いで「インターネットを利用したオンライン学習を充実させる」（36.0％）、「講座の受講場所を増やす」（28.9％）、「自由に使える学習スペースを設ける」（28.5％）となっている。（図1-58）

図 1-59 生涯学習を盛んにするための手法（性別、性・年代別）



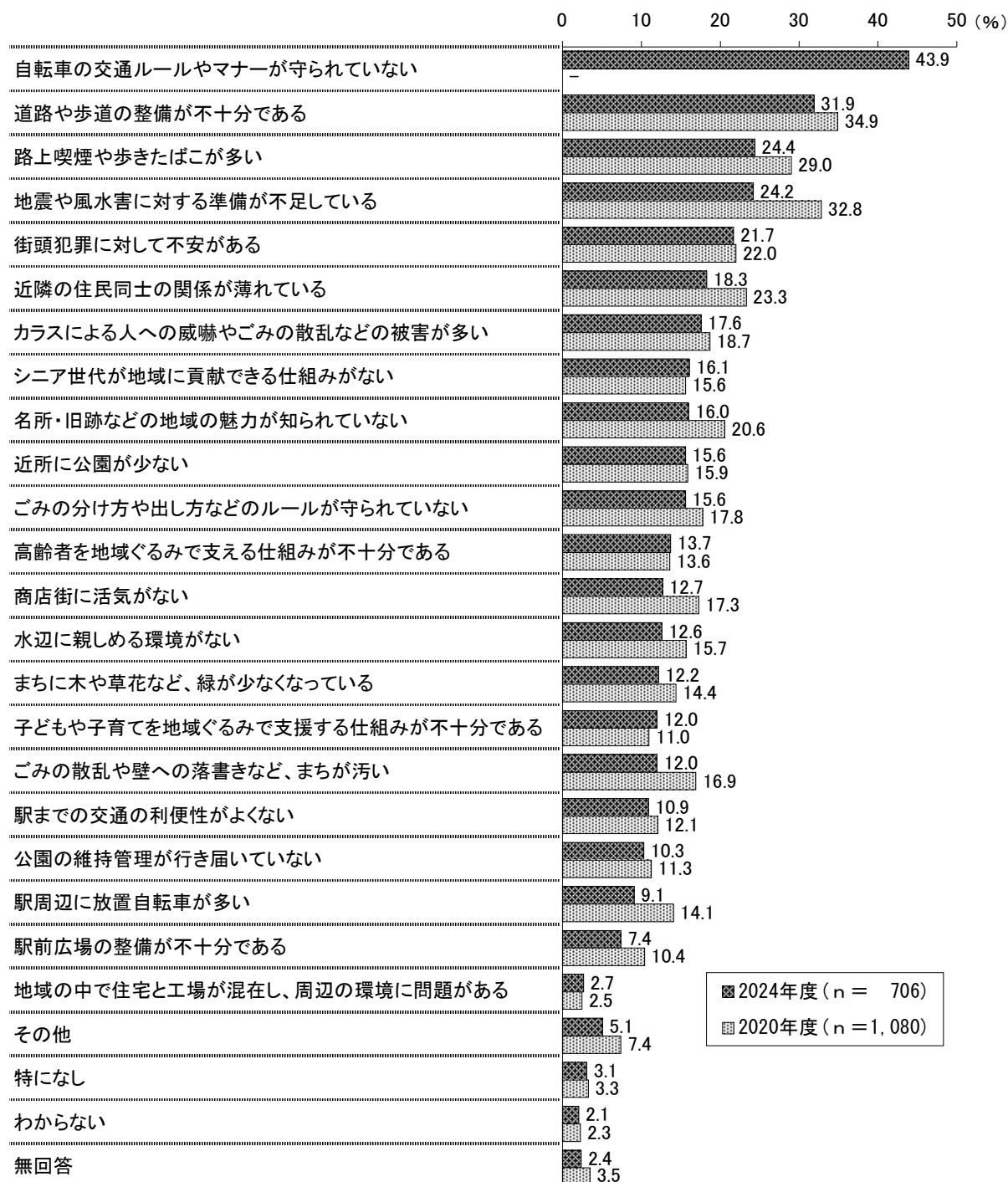
性別にみると、「短時間や土日、夜間など気軽に学べる講座を増やす」は女性（54.8%）が男性（41.9%）より 12.9 ポイント高くなっている。一方、「インターネットを利用したオンライン学習を充実させる」は男性（39.7%）が女性（33.9%）より 5.8 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「短時間や土日、夜間など気軽に学べる講座を増やす」は女性 50 歳代（65.4%）で 6 割半ばと高くなっている。「インターネットを利用したオンライン学習を充実させる」は男性 40 歳代（53.8%）で 5 割を超えて高くなっている。（図 1-59）

(23) まちの課題・問題点

問 23 あなたのまち（お住まいの地域や区内の生活圏）の課題・問題点と思うものは何ですか。（いくつでも○）

図 1-60 まちの課題・問題点



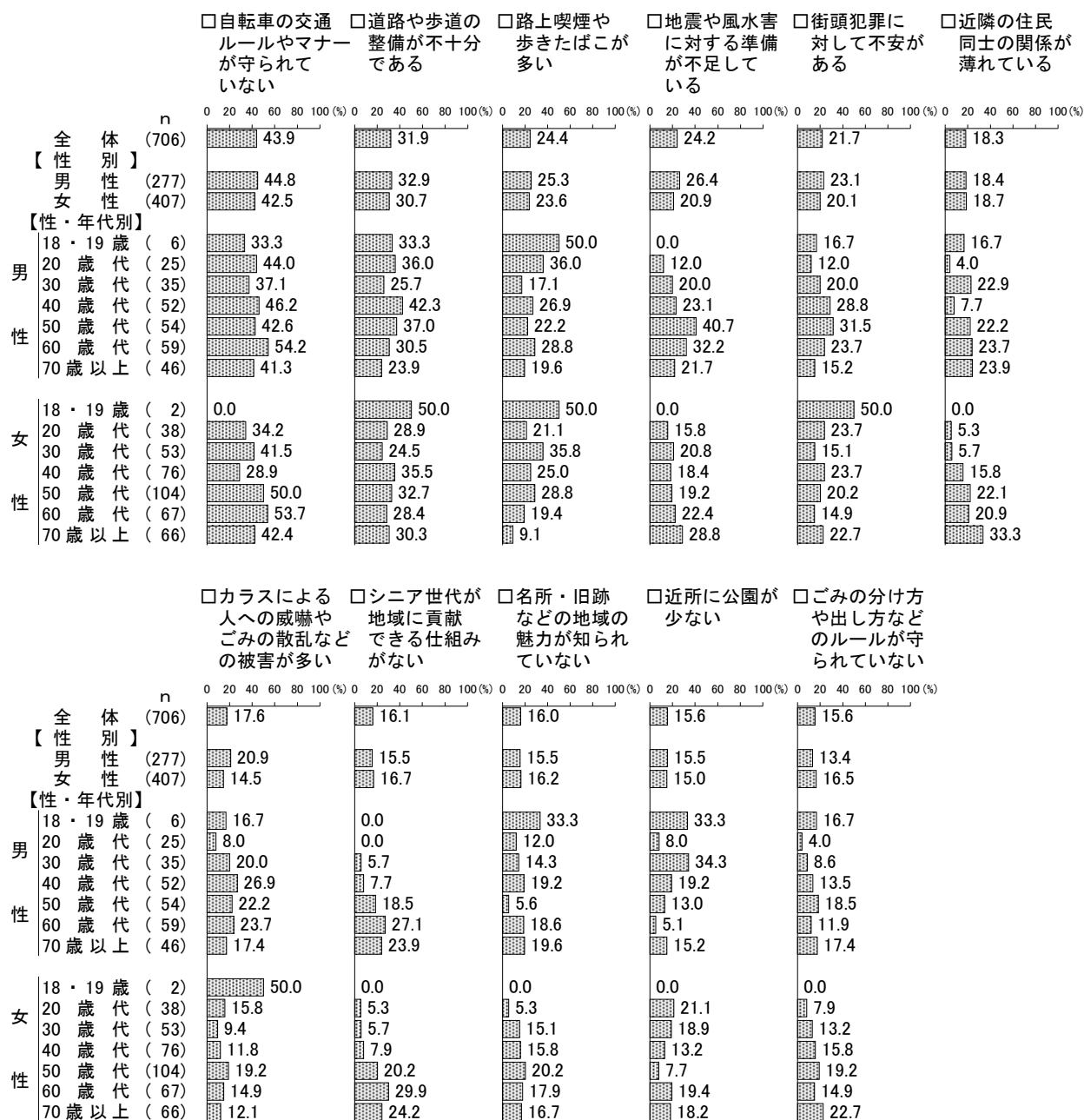
※「自転車の交通ルールやマナーが守られていない」は、2024年度に追加された選択肢

※「街頭犯罪に対して不安がある」は、2020年度では「子どもの登下校時の安全対策や街頭犯罪に対して不安がある」としていた

まちの課題・問題点を聞いたところ、「自転車の交通ルールやマナーが守られていない」(43.9%)が4割を超えて最も高く、次いで「道路や歩道の整備が不十分である」(31.9%)、「路上喫煙や歩きたばこが多い」(24.4%)、「地震や風水害に対する準備が不足している」(24.2%)となっている。

2020年度と比較すると、「地震や風水害に対する準備が不足している」は8.6ポイント、「近隣の住民同士の関係が薄れている」と「駅周辺に放置自転車が多い」はともに5.0ポイント、それぞれ減少している。(図1-60)

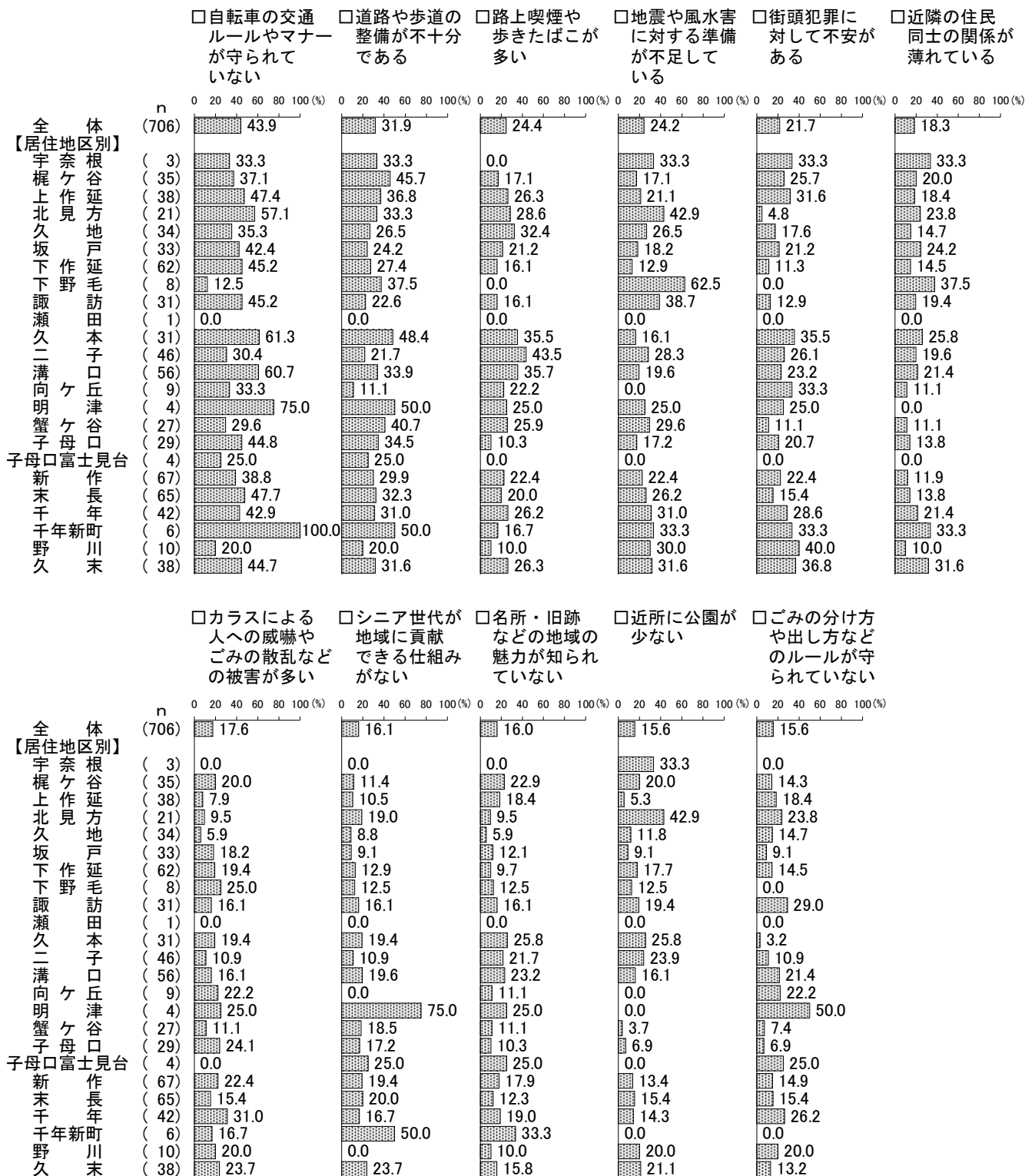
図1-61 まちの課題・問題点（性別、性・年代別）ー上位10項目



性別にみると、「カラスによる人への威嚇やごみの散乱などの被害が多い」は男性（20.9%）が女性（14.5%）より6.4ポイント高くなっている。

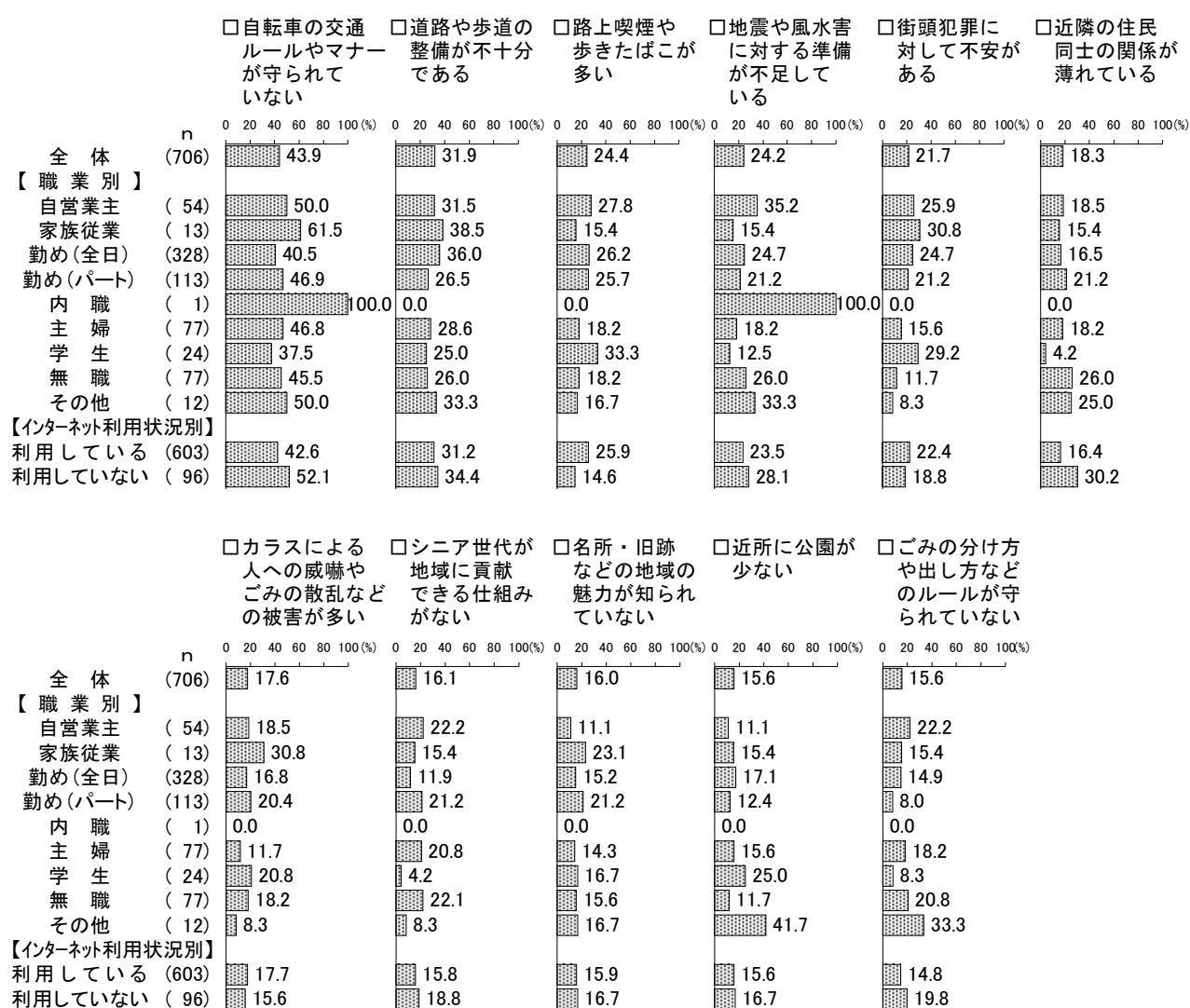
性・年代別にみると、「自転車の交通ルールやマナーが守られていない」は男性60歳代（54.2%）で5割半ばと高くなっている。「道路や歩道の整備が不十分である」は男性40歳代（42.3%）で4割を超えて高くなっている。(図1-61)

図 1-62 まちの課題・問題点（居住地区別）－上位10項目



居住地区別にみると、「自転車の交通ルールやマナーが守られていない」は久本（61.3%）と溝口（60.7%）で6割台と高くなっている。「道路や歩道の整備が不十分である」は久本（48.4%）で5割近くと高くなっている。「路上喫煙や歩きたばこが多い」は二子（43.5%）で4割を超えて高くなっている。（図 1-62）

図 1-63 まちの課題・問題点（職業別、インターネット利用状況別）ー上位10項目

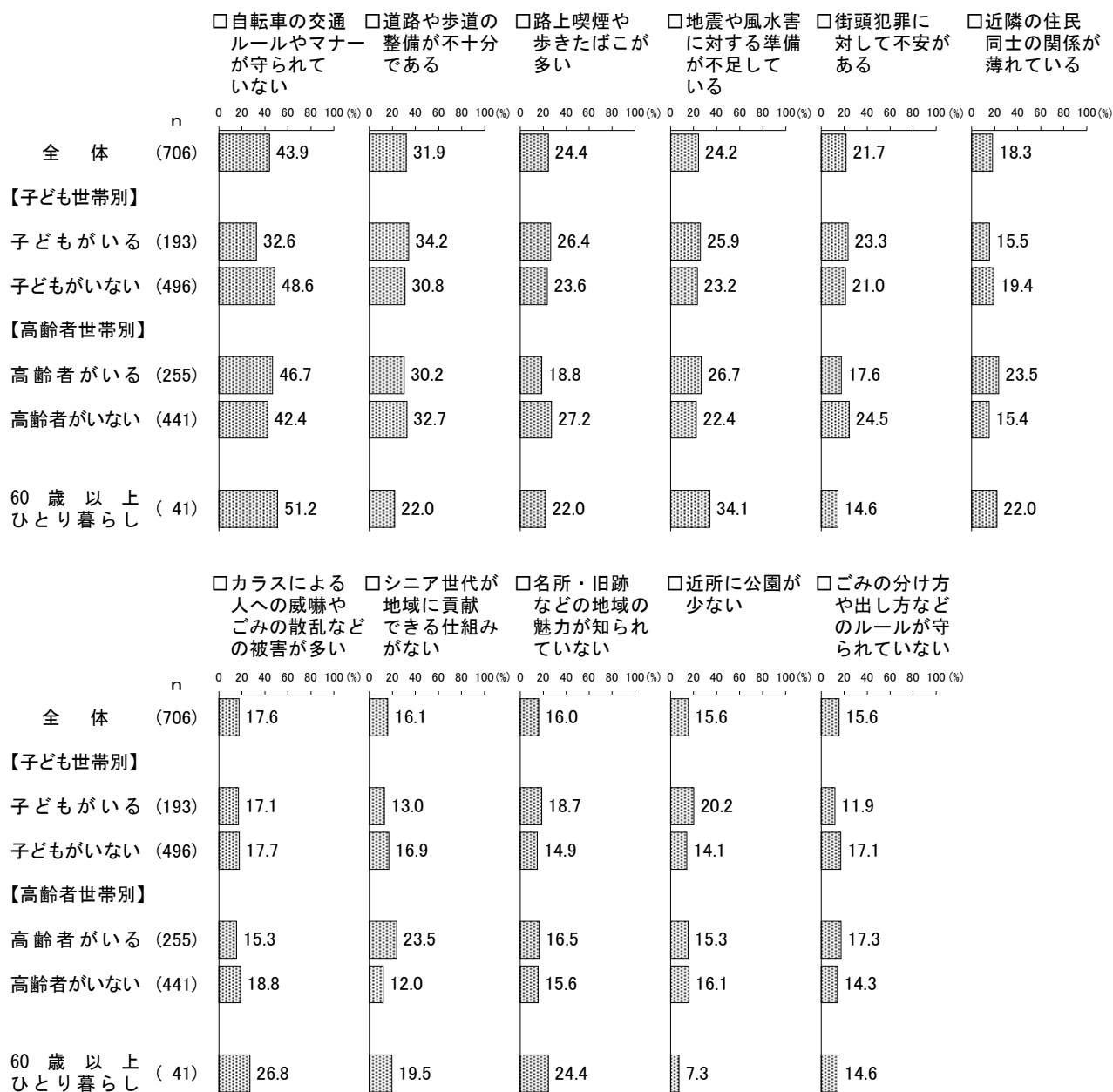


職業別にみると、「自転車の交通ルールやマナーが守られていない」は自営業主（50.0％）で5割と高くなっている。「道路や歩道の整備が不十分である」は勤め（全日）（36.0％）で3割半ばと高くなっている。「地震や風水害に対する準備が不足している」は自営業主（35.2％）で3割半ばと高くなっている。

インターネット利用状況別にみると、「近隣の住民同士の関係が薄れている」は利用していない人（30.2％）が利用している人（16.4％）より13.8ポイント高くなっている。一方、「路上喫煙や歩きたばこが多い」は利用している人（25.9％）が利用していない人（14.6％）より11.3ポイント高くなっている。（図1-63）

図 1-64 まちの課題・問題点（子ども世帯別、高齢者世帯別、60歳以上ひとり暮らし）

—上位10項目



子ども世帯別にみると、「自転車の交通ルールやマナーが守られていない」は子どもがいない世帯（48.6%）が子どもがいる世帯（32.6%）より 16.0 ポイント高くなっている。一方、「近所に公園が少ない」は子どもがいる世帯（20.2%）が子どもがいない世帯（14.1%）より 6.1 ポイント高くなっている。

高齢者世帯別にみると、「シニア世代が地域に貢献できる仕組みがない」は高齢者がいる世帯（23.5%）が高齢者がいない世帯（12.0%）より 11.5 ポイント高くなっている。一方、「路上喫煙や歩きたばこが多い」は高齢者がいない世帯（27.2%）が高齢者がいる世帯（18.8%）より 8.4 ポイント高くなっている。

60歳以上ひとり暮らし世帯では、「自転車の交通ルールやマナーが守られていない」（51.2%）が5割を超えて最も高く、次いで「地震や風水害に対する準備が不足している」（34.1%）となっている。（図 1-64）

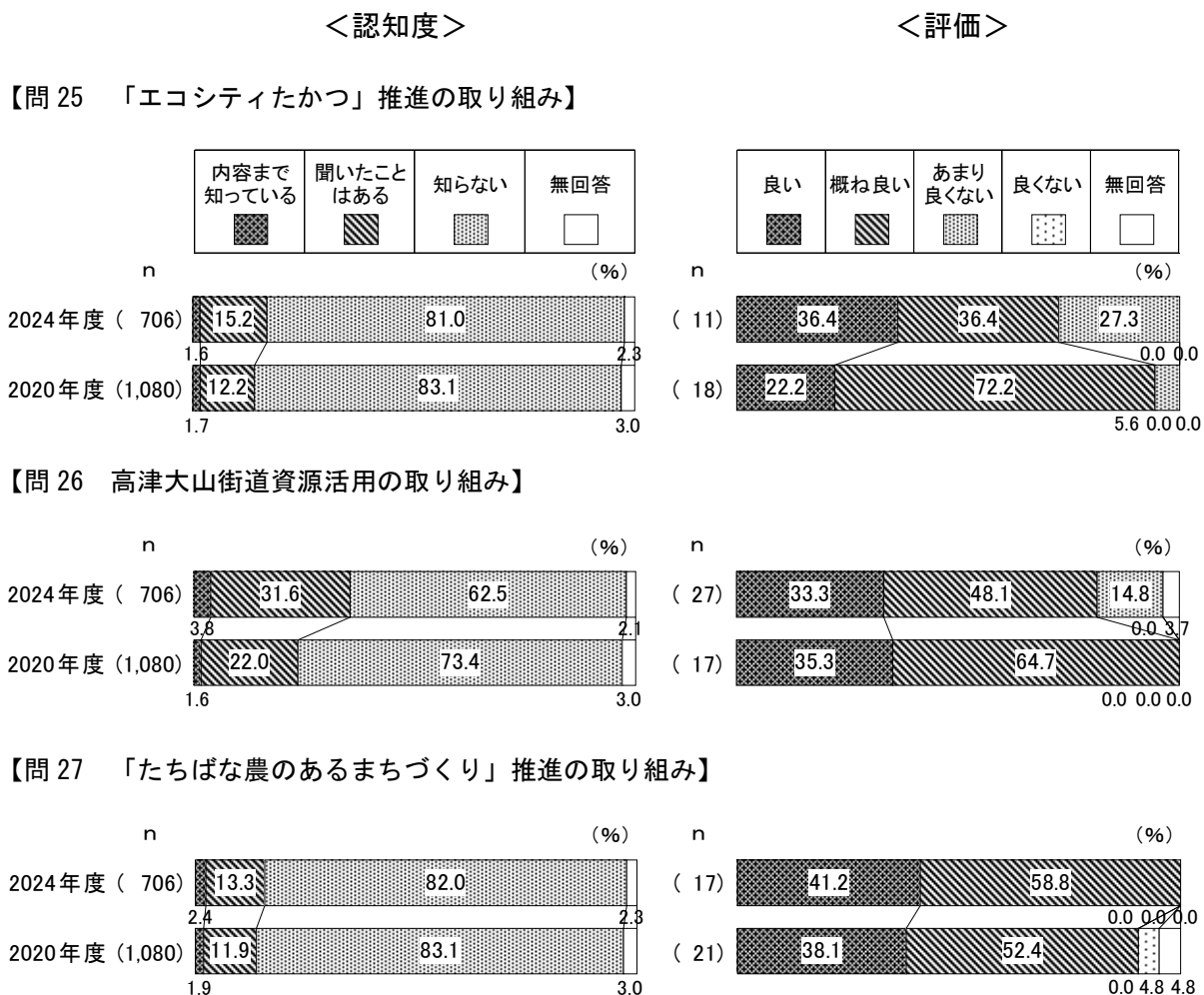
2. 区の取り組みについて

(1) 各取り組みの認知度・評価 ①

問 あなたは高津区の行っている取り組みについてご存知でしょうか。

(1) については取り組みの認知度およびその取り組みの評価について該当するものに○をつけてください。(認知度について、「内容まで知っている」を選んだ方のみ評価について○をつけてください)

図 2-1 各取り組みの認知度・評価 ①



各取り組みの認知度・評価の<認知度>をみると、「内容まで知っている」は【「エコシティたかつ」推進の取り組み】が1.6%、【高津大山街道資源活用の取り組み】が3.8%、【「たちばな農のあるまちづくり」推進の取り組み】が2.4%となっている。

2020年度と比較すると、「聞いたことはある」は【高津大山街道資源活用の取り組み】で9.6ポイント増加している。

<評価>をみると、「良い」は【「エコシティたかつ」推進の取り組み】が36.4%、【高津大山街道資源活用の取り組み】が33.3%、【「たちばな農のあるまちづくり」推進の取り組み】が41.2%となっている。

2020年度との比較は、基数が少ないため参考に図示する。(図 2-1)

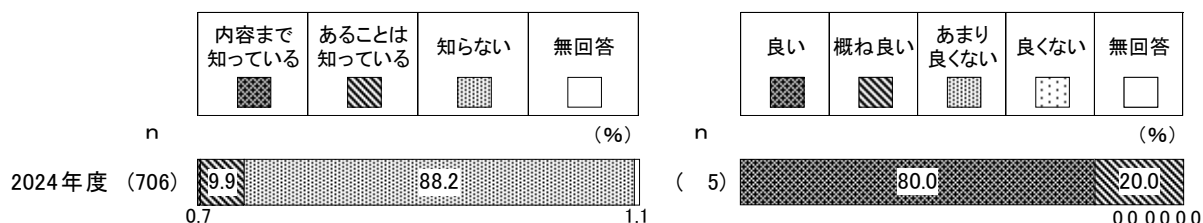
(1) 各取り組みの認知度・評価 ②

図 2-2 各取り組みの認知度・評価 ②

<認知度>

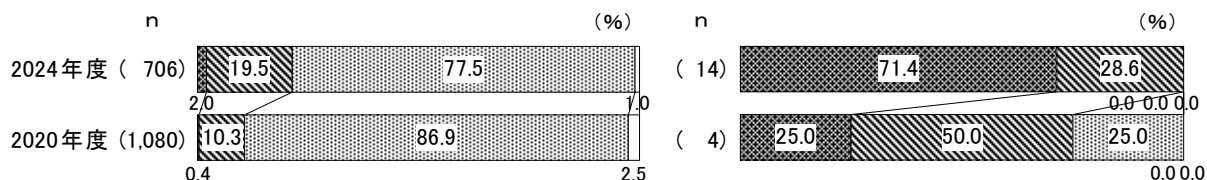
<評価>

【問 36 市民活動団体支援の取り組み】



※「市民活動団体支援の取り組み」は、2024 年度に追加された取り組み

【問 42 高津区ふるさとアーカイブ】



各取り組みの認知度・評価の<認知度>をみると、「内容まで知っている」は【市民活動団体支援の取り組み】が 0.7%、【高津区ふるさとアーカイブ】が 2.0%となっている。「あることは知っている」は【市民活動団体支援の取り組み】が 9.9%、【高津区ふるさとアーカイブ】が 19.5%となっている。

2020 年度と比較すると、「あることは知っている」は【高津区ふるさとアーカイブ】で 9.2 ポイント増加している。

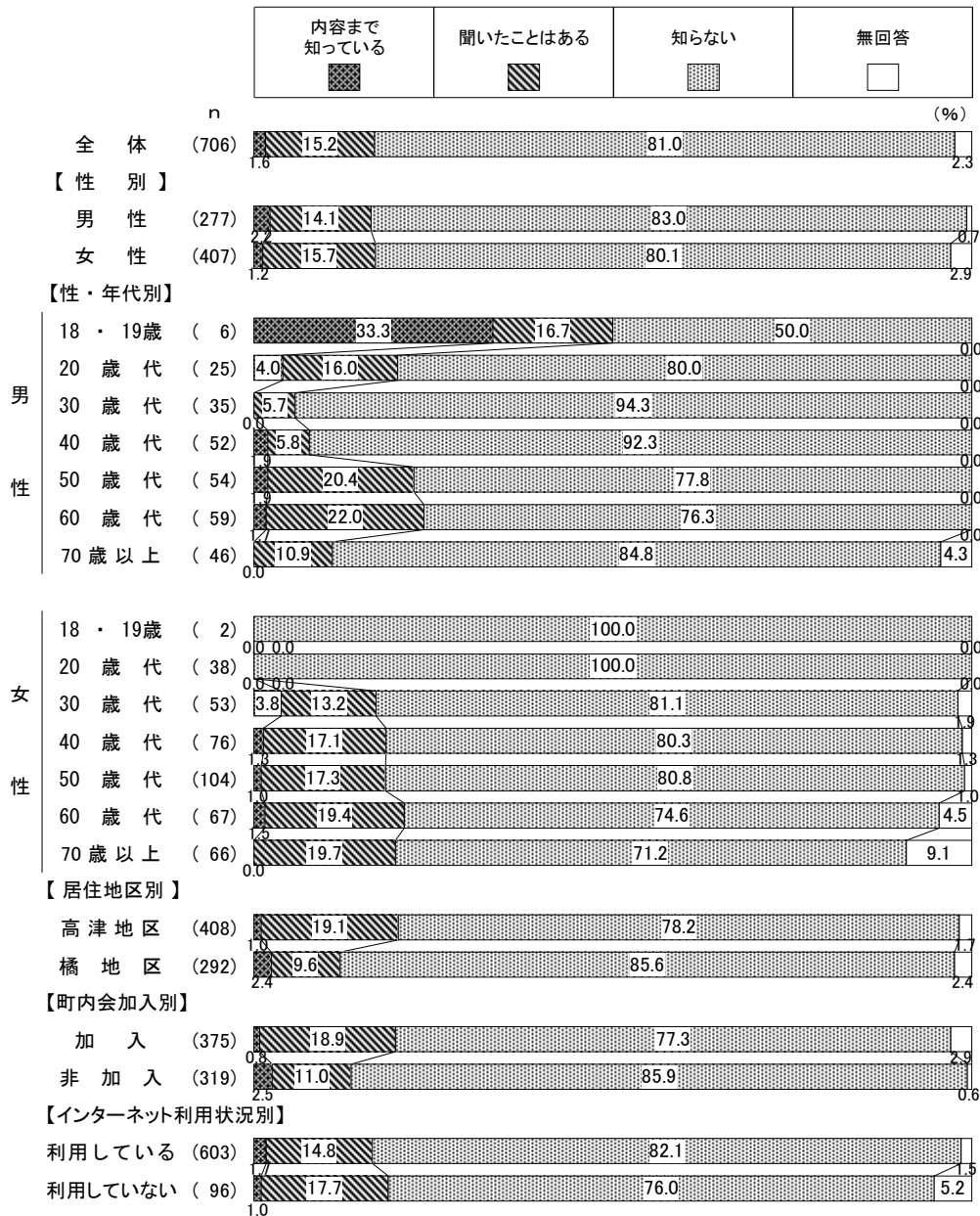
<評価>をみると、「良い」は【市民活動団体支援の取り組み】が 80.0%、【高津区ふるさとアーカイブ】が 71.4%となっている。

2020 年度との比較は、基数が少ないため参考に図示する。(図 2-2)

図 2-3 各取り組みの認知度(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)

【問25 「エコシティたかつ」推進の取り組み】

内容：地域の多様な主体が協力して、総合的かつ多面的に地球温暖化などの環境問題に取り組む「エコシティたかつ」推進方針に沿って、緑ヶ丘霊園内の森の整備を行う「たかつ水と緑の探検隊」や区内小学校においてビオトープを整備し、それを活用した環境学習支援を行う「学校流域プロジェクト」区内に自生する希少な植物を地域の学校・団体・事業者等との協働により保全・育成する「みどりの里親」など様々なプロジェクトを実施している。



性別にみると、大きな違いはみられない。

性・年代別にみると、「聞いたことはある」は男性60歳代（22.0%）で2割を超えて高くなっている。

居住地区別にみると、「聞いたことはある」は高津地区（19.1%）が橘地区（9.6%）より9.5ポイント高くなっている。

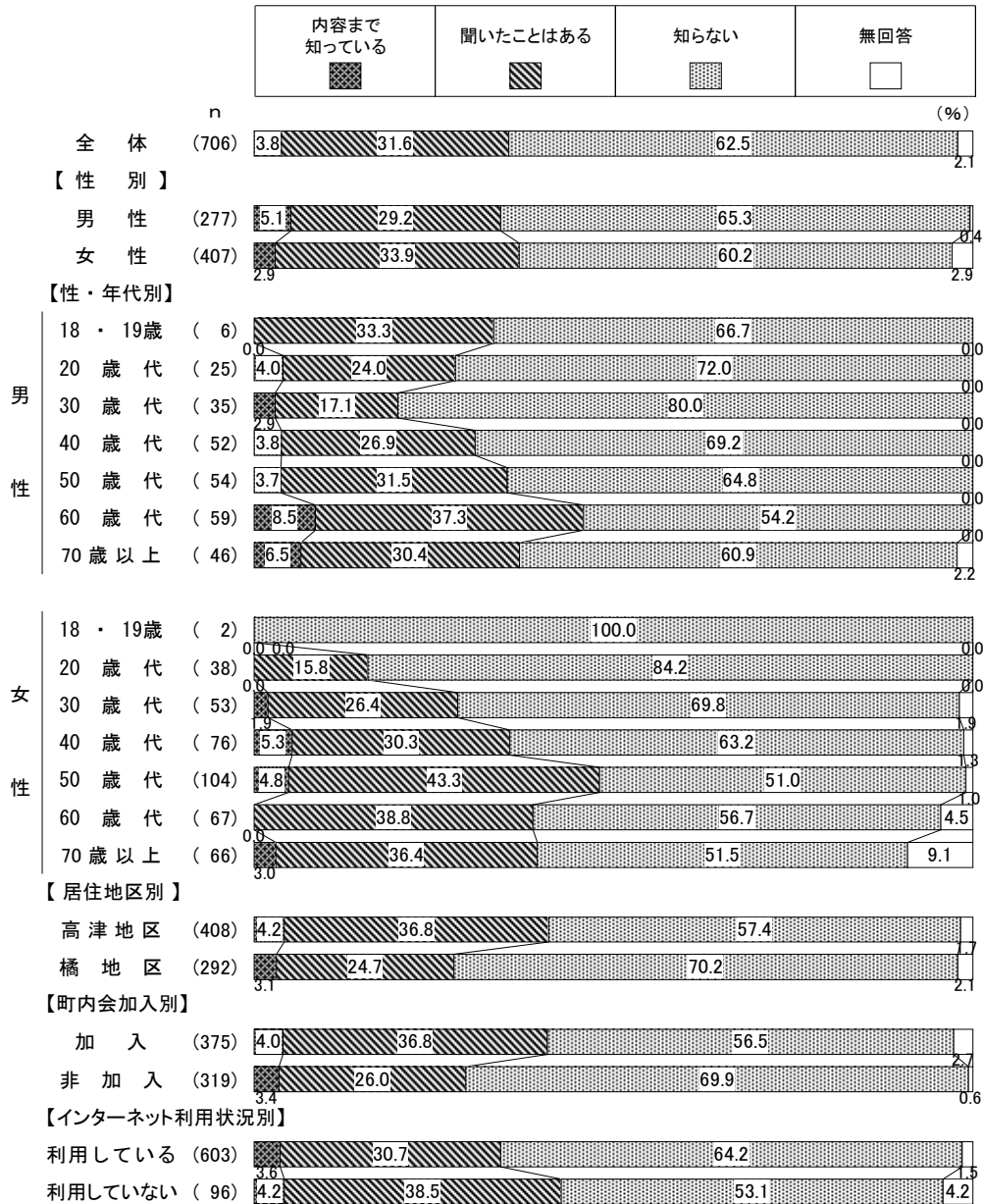
町内会加入別にみると、「聞いたことはある」は加入（18.9%）が非加入（11.0%）より7.9ポイント高くなっている。

インターネット利用状況別にみると、「知らない」は利用している人（82.1%）が利用していない人（76.0%）より6.1ポイント高くなっている。（図 2-3）

図 2-4 各取り組みの認知度(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)

【問26 高津大山街道資源活用の取り組み】

内容：大山街道及び周辺に残っている歴史的・文化的な資源を保全・活用し、魅力的な空間創造と地域活性化を図ることを目的として、市民から提案事業を募集し実施する「まちの企画室」や世田谷区と連携し大山街道沿いを歩く歴史ウォーキング、地元店舗が出店し開催する食イベントなどを行っている。



性別にみると、「聞いたことはある」は女性（33.9％）が男性（29.2％）より 4.7 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「聞いたことはある」は女性50歳代（43.3％）で4割を超えて高くなっている。

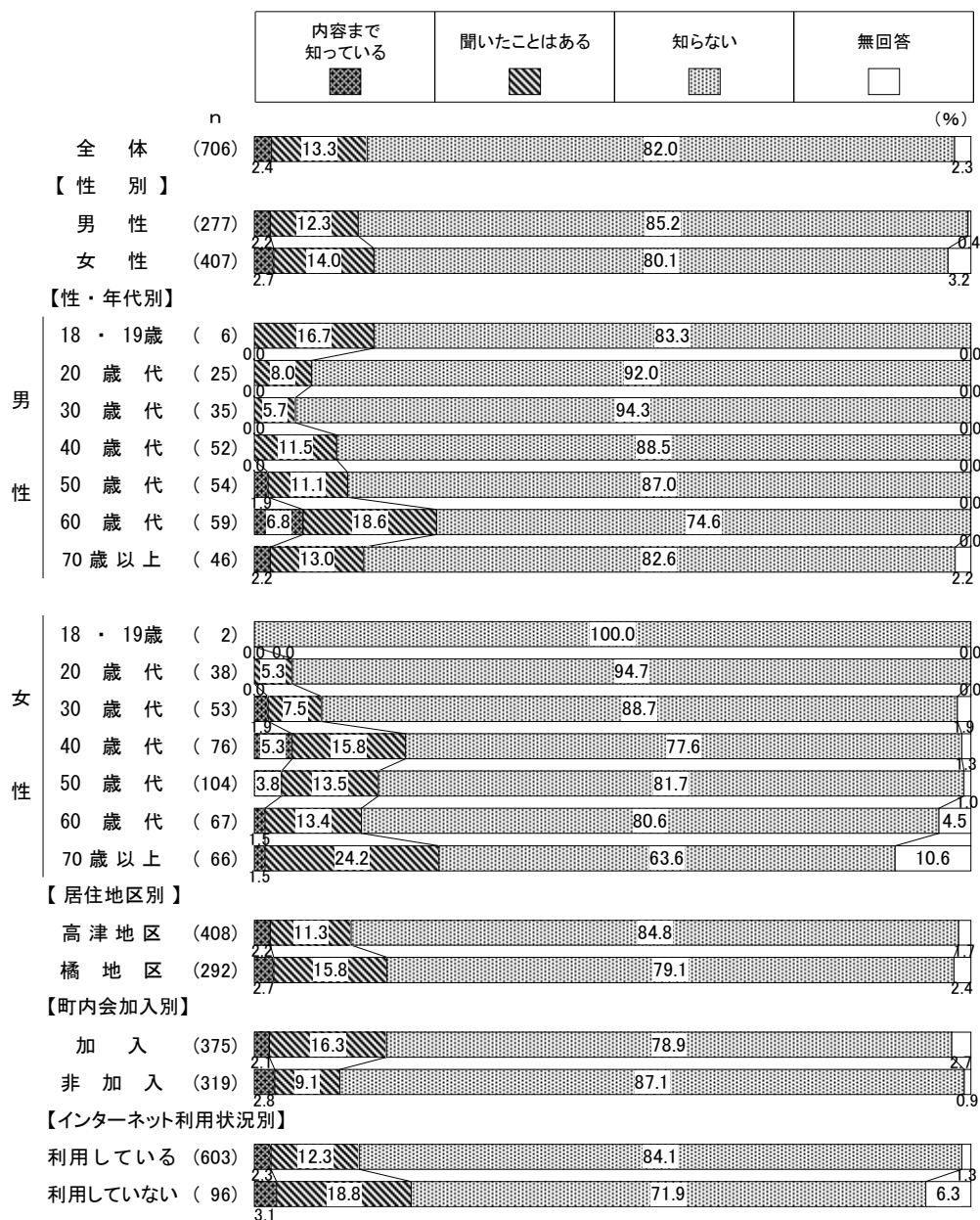
居住地区別にみると、「聞いたことはある」は高津地区（36.8％）が橘地区（24.7％）より12.1ポイント高くなっている。

町内会加入別にみると、「聞いたことはある」は加入（36.8％）が非加入（26.0％）より10.8ポイント高くなっている。

インターネット利用状況別にみると、「聞いたことはある」は利用していない人（38.5％）が利用している人（30.7％）より7.8ポイント高くなっている。（図 2-4）

図 2-5 各取り組みの認知度(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)
【問27 「たちばな農のあるまちづくり」推進の取り組み】

内容：橘地区にある豊かな自然や農地、多くの歴史的資源を活かして、地域への愛着やふるさと意識の高まりなどから地域の活性化につなげる取り組みとして、ファーマーズマーケット「高津さんの市」や農業体験、フォトコンテストなどを実施している。



性別にみると、「知らない」は男性（85.2%）が女性（80.1%）より 5.1 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「聞いたことはある」は女性70歳以上（24.2%）で2割半ばと高くなっている。

居住地区別にみると、「聞いたことはある」は橘地区（15.8%）が高津地区（11.3%）より4.5ポイント高くなっている。

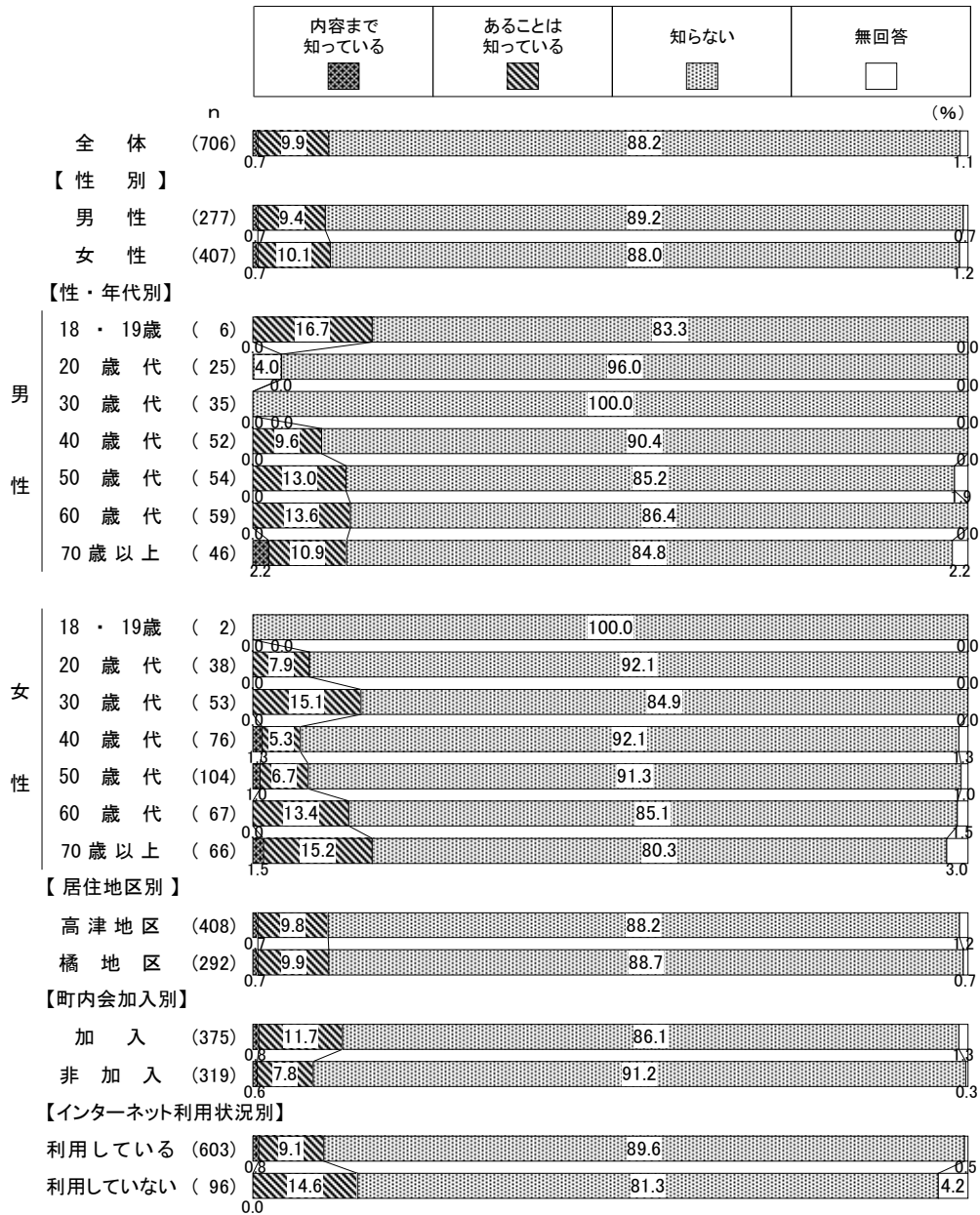
町内会加入別にみると、「聞いたことはある」は加入（16.3%）が非加入（9.1%）より7.2ポイント高くなっている。

インターネット利用状況別にみると、「聞いたことはある」は利用していない人（18.8%）が利用している人（12.3%）より6.5ポイント高くなっている。（図 2-5）

図 2-6 各取り組みの認知度(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)

【問36 市民活動団体支援の取り組み】

内容：区内の市民活動団体の活動の場所として「市民活動支援ルーム」の設置や、区民及び市民活動団体の交流の場である「高津区市民活動見本市（通称：まちかつフェス高津）」を開催している。



性別にみると、大きな違いはみられない。

性・年代別にみると、「知らない」は男性30歳代（100.0%）で10割と高くなっている。

居住地区別にみると、大きな違いはみられない。

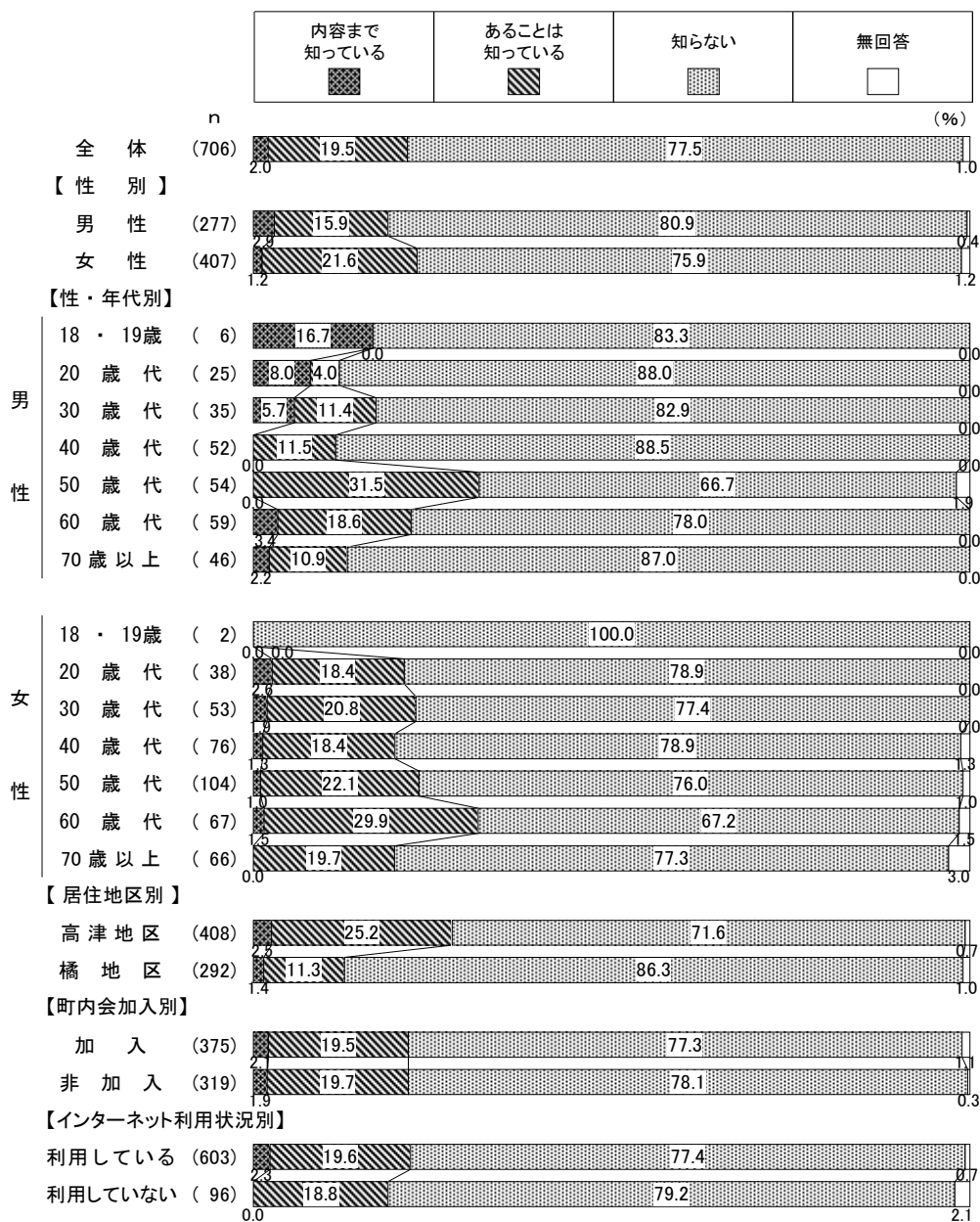
町内会加入別にみると、「あることは知っている」は加入（11.7%）が非加入（7.8%）より3.9ポイント高くなっている。

インターネット利用状況別にみると、「あることは知っている」は利用していない人（14.6%）が利用している人（9.1%）より5.5ポイント高くなっている。（図 2-6）

図 2-7 各取り組みの認知度(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)

【問42 高津区ふるさとアーカイブ】

内容：区民に高津区の魅力を伝え、地域に愛着と親しみを持ってもらうため、高津区のまちなみを伝える資料を収集し、それを活用したワークショップやまち歩きを開催している。



性別にみると、「あることは知っている」は女性（21.6％）が男性（15.9％）より 5.7 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「あることは知っている」は男性50歳代（31.5％）で3割を超えて高くなっている。

居住地区別にみると、「あることは知っている」は高津地区（25.2％）が橘地区（11.3％）より 13.9ポイント高くなっている。

町内会加入別にみると、大きな違いはみられない。

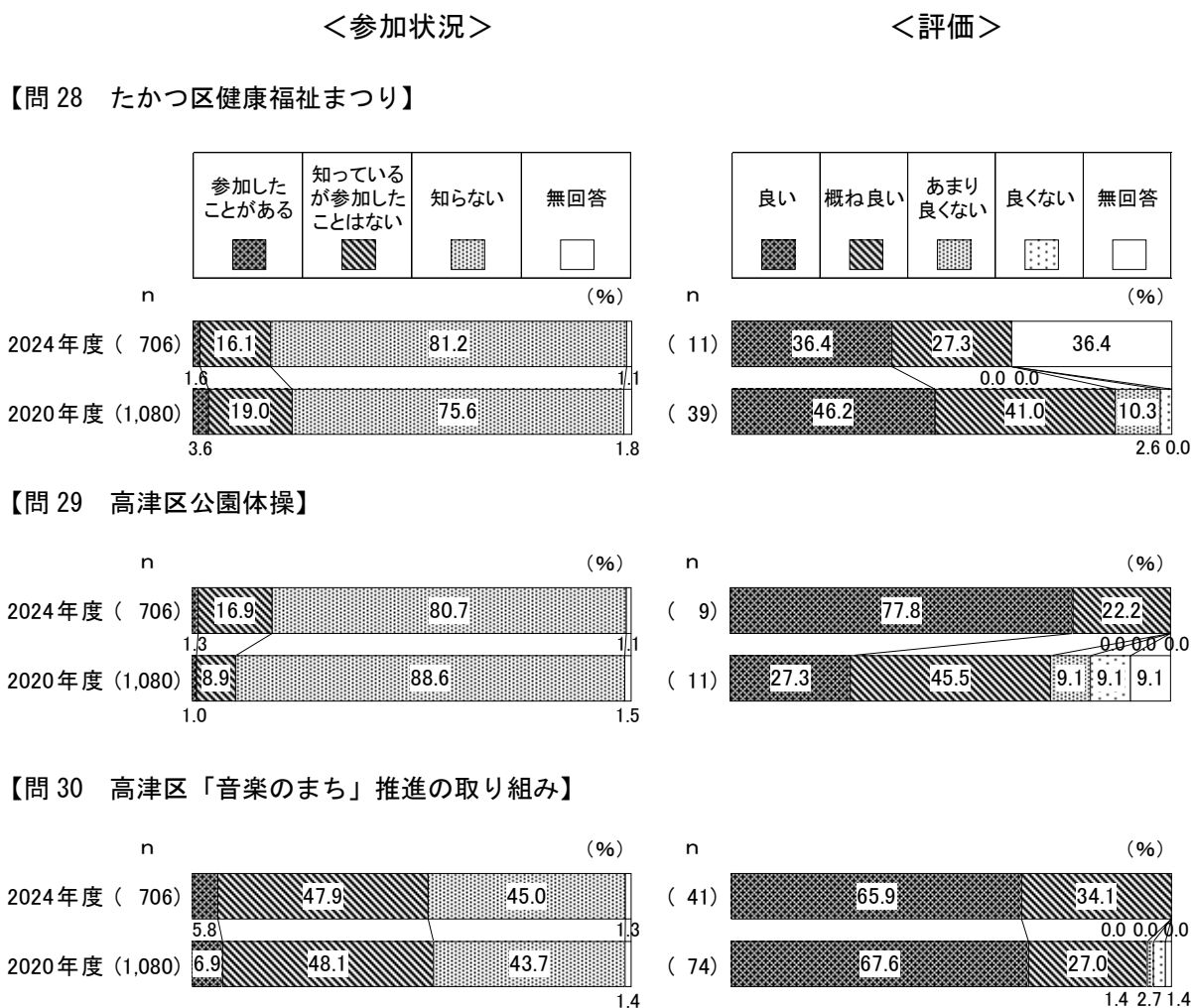
インターネット利用状況別にみると、大きな違いはみられない。（図 2-7）

(2) 各取り組みへの参加状況・評価 ①

問 あなたは高津区に行っている取り組みについてご存知でしょうか。

(1) については取り組みの認知度およびその取り組みの評価について該当するものに○をつけてください。(認知度について、「参加したことがある」を選んだ方のみ評価について○をつけてください)

図 2-8 各取り組みへの参加状況・評価 ①



各取り組みへの参加状況・評価の＜参加状況＞をみると、「参加したことがある」は【たかつ区健康福祉まつり】が1.6%、【高津区公園体操】が1.3%、【高津区「音楽のまち」推進の取り組み】が5.8%となっている。

2020年度と比較すると、「知っているが参加したことはない」は【高津区公園体操】で8.0ポイント増加している。

＜評価＞をみると、「良い」は【たかつ区健康福祉まつり】が36.4%、【高津区公園体操】が77.8%、【高津区「音楽のまち」推進の取り組み】が65.9%となっている。

2020年度と比較すると、「概ね良い」は【高津区「音楽のまち」推進の取り組み】で7.1ポイント増加している。(図 2-8)

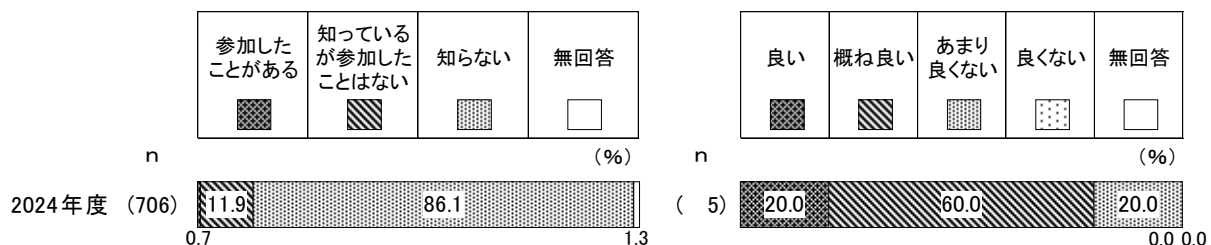
(2) 各取り組みへの参加状況・評価 ②

図 2-9 各取り組みへの参加状況・評価 ②

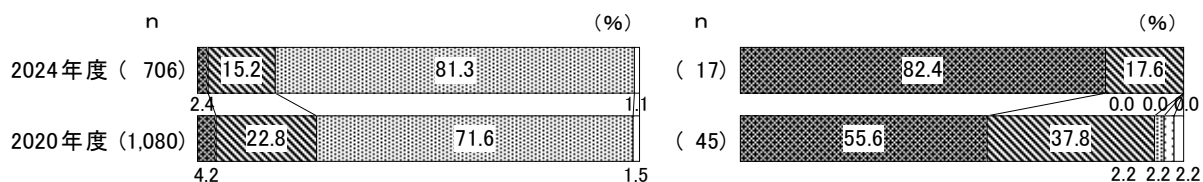
<参加状況>

<評価>

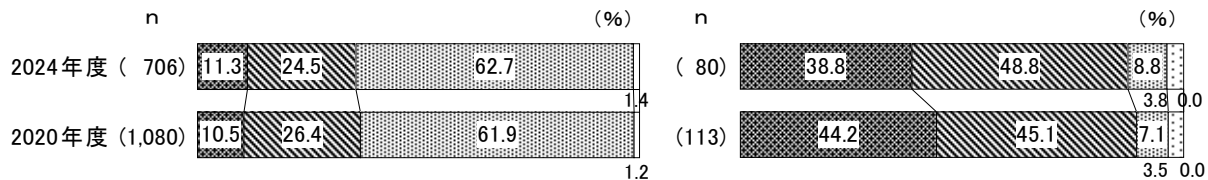
【問 31 ダンス！ダンス！たかつ】



【問 32 高津区子どもフェア】



【問 33 高津地区親子運動会】



各取り組みへの参加状況・評価の<参加状況>をみると、「参加したことがある」は【ダンス！ダンス！たかつ】が0.7%、【高津区子どもフェア】が2.4%、【高津地区親子運動会】が11.3%となっている。

2020年度と比較すると、「知っているが参加したことはない」は【高津区子どもフェア】で7.6ポイント減少している。

<評価>をみると、「良い」は【ダンス！ダンス！たかつ】が20.0%、【高津区子どもフェア】が82.4%、【高津地区親子運動会】が38.8%となっている。

2020年度と比較すると、「良い」は【高津地区親子運動会】で5.4ポイント減少している。

(図 2-9)

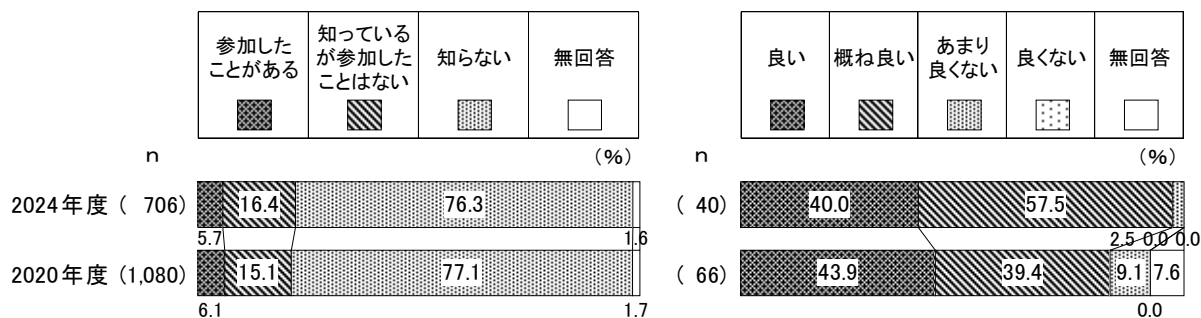
(2) 各取り組みへの参加状況・評価 ③

図 2-10 各取り組みへの参加状況・評価 ③

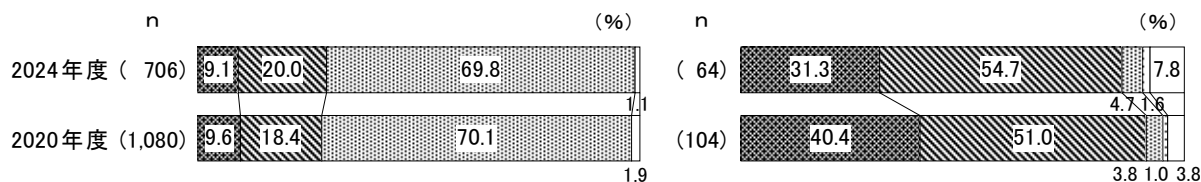
<参加状況>

<評価>

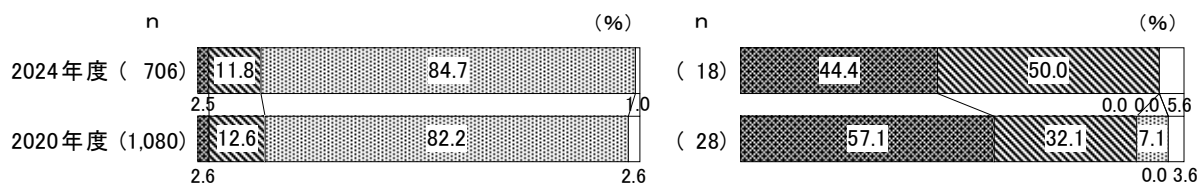
【問 34 橘地区親子運動会】



【問 35 橘ふるさと祭り こどもイベント】



【問 40 子ども・子育てフェスタ】



各取り組みへの参加状況・評価の<参加状況>をみると、「参加したことがある」は【橘地区親子運動会】が5.7%、【橘ふるさと祭り こどもイベント】が9.1%、【子ども・子育てフェスタ】が2.5%となっている。

2020年度と比較すると、大きな傾向の変化はみられない。

<評価>をみると、「良い」は【橘地区親子運動会】が40.0%、【橘ふるさと祭り こどもイベント】が31.3%、【子ども・子育てフェスタ】が44.4%となっている。

2020年度と比較すると、「概ね良い」は【橘地区親子運動会】で18.1ポイント増加している。一方、「良い」は【橘ふるさと祭り こどもイベント】で9.1ポイント減少している。(図 2-10)

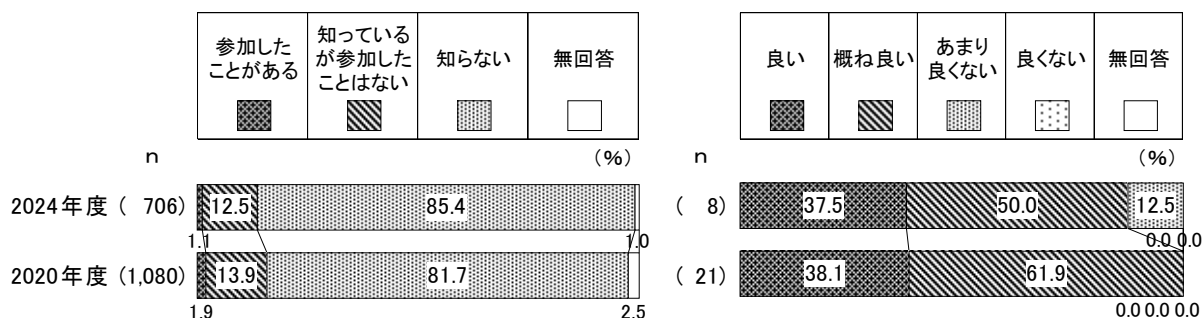
(2) 各取り組みへの参加状況・評価 ④

図 2-11 各取り組みへの参加状況・評価 ④

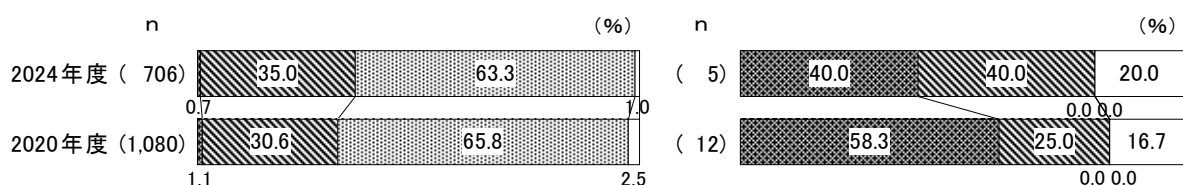
<参加状況>

<評価>

【問 41 高津区地域連携スポーツの取り組み】



【問 43 花と緑のたかつ推進（区民ミニ・ガーデン）の取り組み】



各取り組みへの参加状況・評価の<参加状況>をみると、「参加したことがある」は【高津区地域連携スポーツの取り組み】が1.1%、【花と緑のたかつ推進（区民ミニ・ガーデン）の取り組み】が0.7%となっている。

2020年度と比較すると、「知っているが参加したことはない」は【花と緑のたかつ推進（区民ミニ・ガーデン）の取り組み】で4.4ポイント増加している。

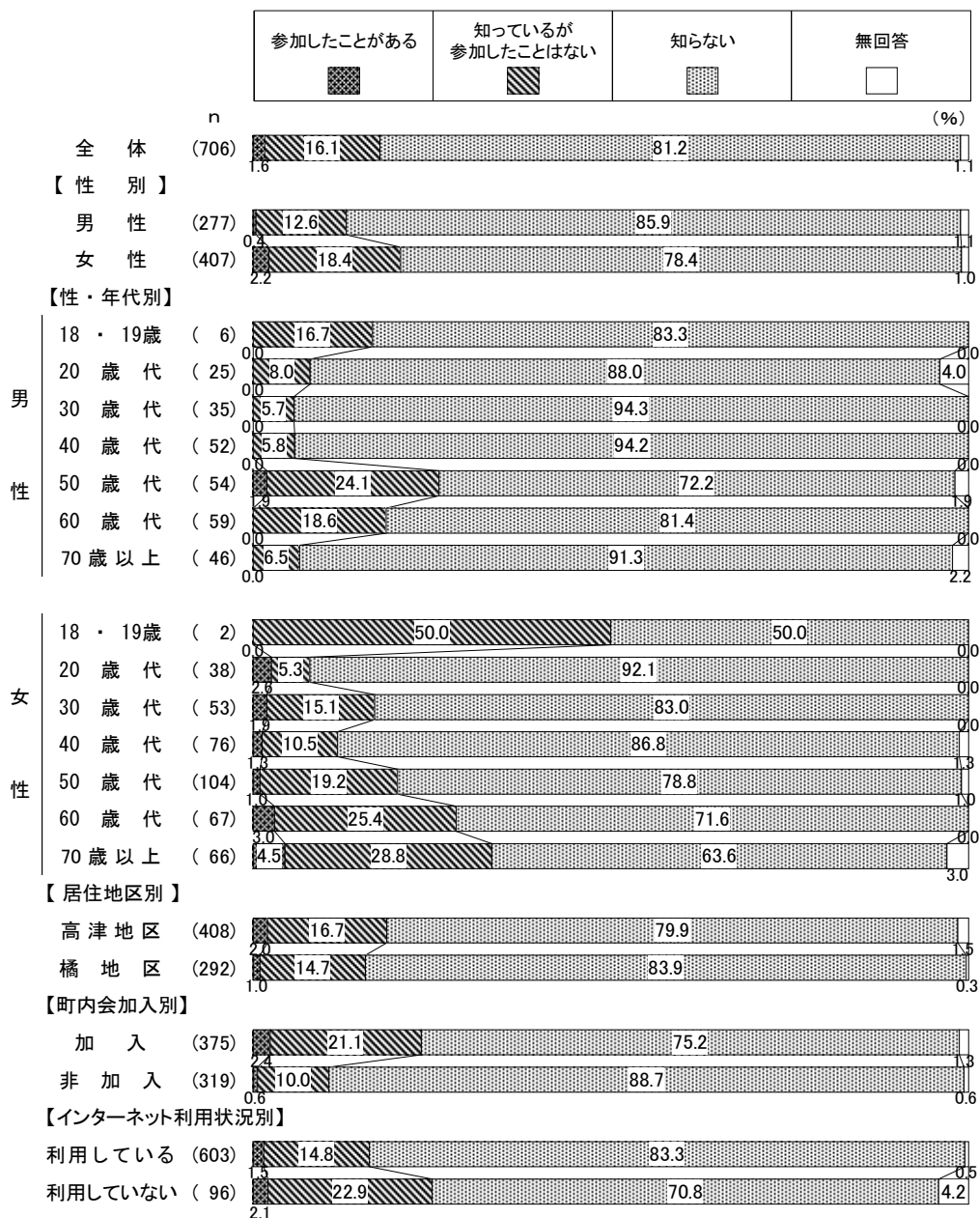
<評価>をみると、「良い」は【高津区地域連携スポーツの取り組み】が37.5%、【花と緑のたかつ推進（区民ミニ・ガーデン）の取り組み】が40.0%となっている。

2020年度との比較は、基数が少ないため参考に図示する。(図 2-11)

図2-12 各取り組みへの参加状況(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)

【問28 たかつ区健康福祉まつり】

内容：区民の健康・福祉に対する意識を向上させるため、毎年7月に開催している。福祉施設自主製品販売、健康・福祉関連グループの活動紹介、体脂肪率測定、健康相談、育児交流会などの催し物が行われる。



性別にみると、「知っているが参加したことはない」は女性（18.4%）が男性（12.6%）より5.8ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「知っているが参加したことはない」は女性70歳以上（28.8%）で3割近くと高くなっている。

居住地区別にみると、「知らない」は橘地区（83.9%）が高津地区（79.9%）より4.0ポイント高くなっている。

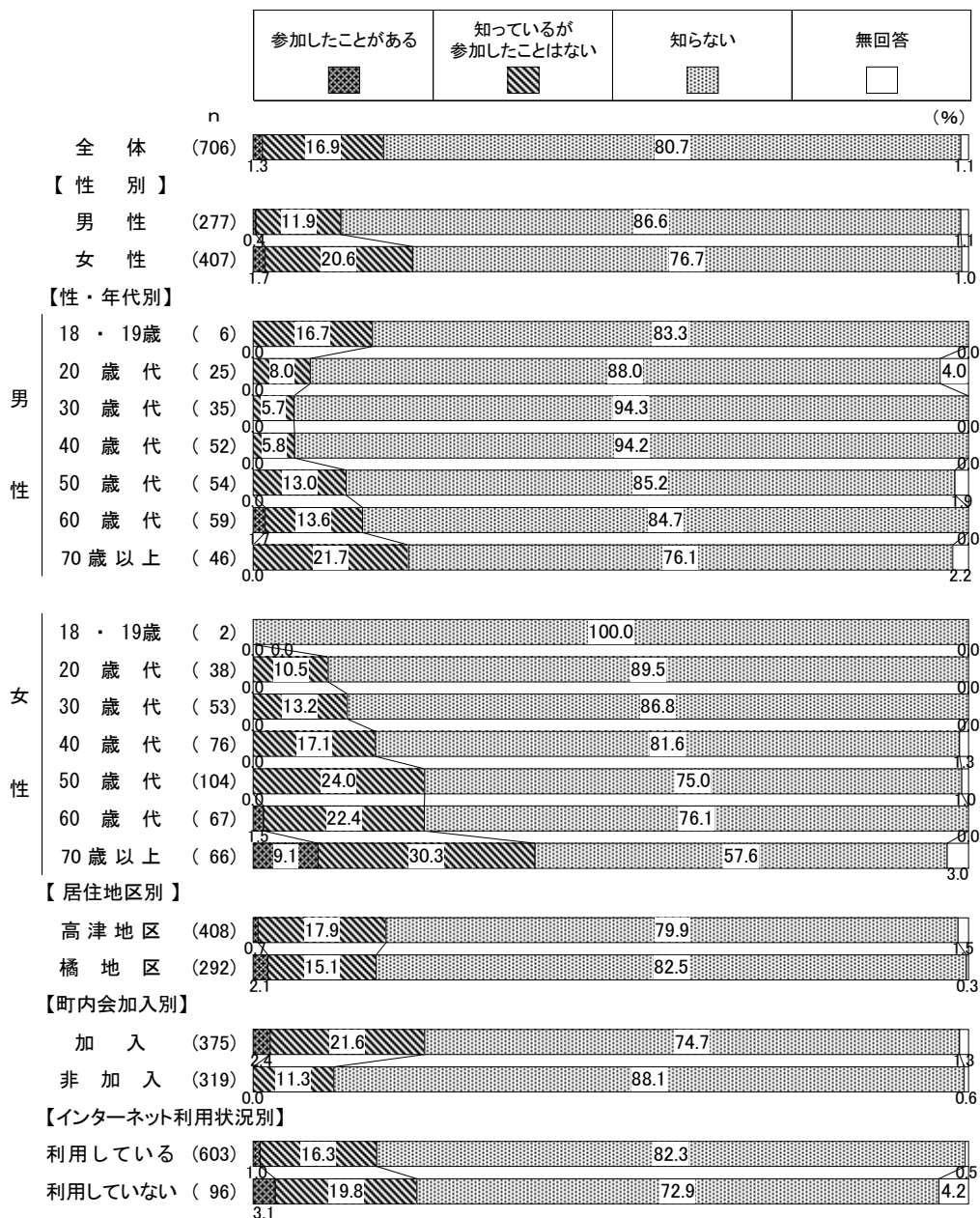
町内会加入別にみると、「知っているが参加したことはない」は加入（21.1%）が非加入（10.0%）より11.1ポイント高くなっている。

インターネット利用状況別にみると、「知っているが参加したことはない」は利用していない人（22.9%）が利用している人（14.8%）より8.1ポイント高くなっている。（図2-12）

図2-13 各取り組みへの参加状況(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)

【問29 高津区公園体操】

内容：住民にとって身近な公園を活用した「高津公園体操」を町内会等の住民組織や関係機関と連携し実施している。また、その普及啓発のため、地域住民を対象にした公園体操に関する講演会を実施し、リーフレットの配布、DVDの販売を行っている。



性別にみると、「知っているが参加したことはない」は女性（20.6%）が男性（11.9%）より8.7ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「知っているが参加したことはない」は女性70歳以上（30.3%）で3割と高くなっている。

居住地区別にみると、大きな違いはみられない。

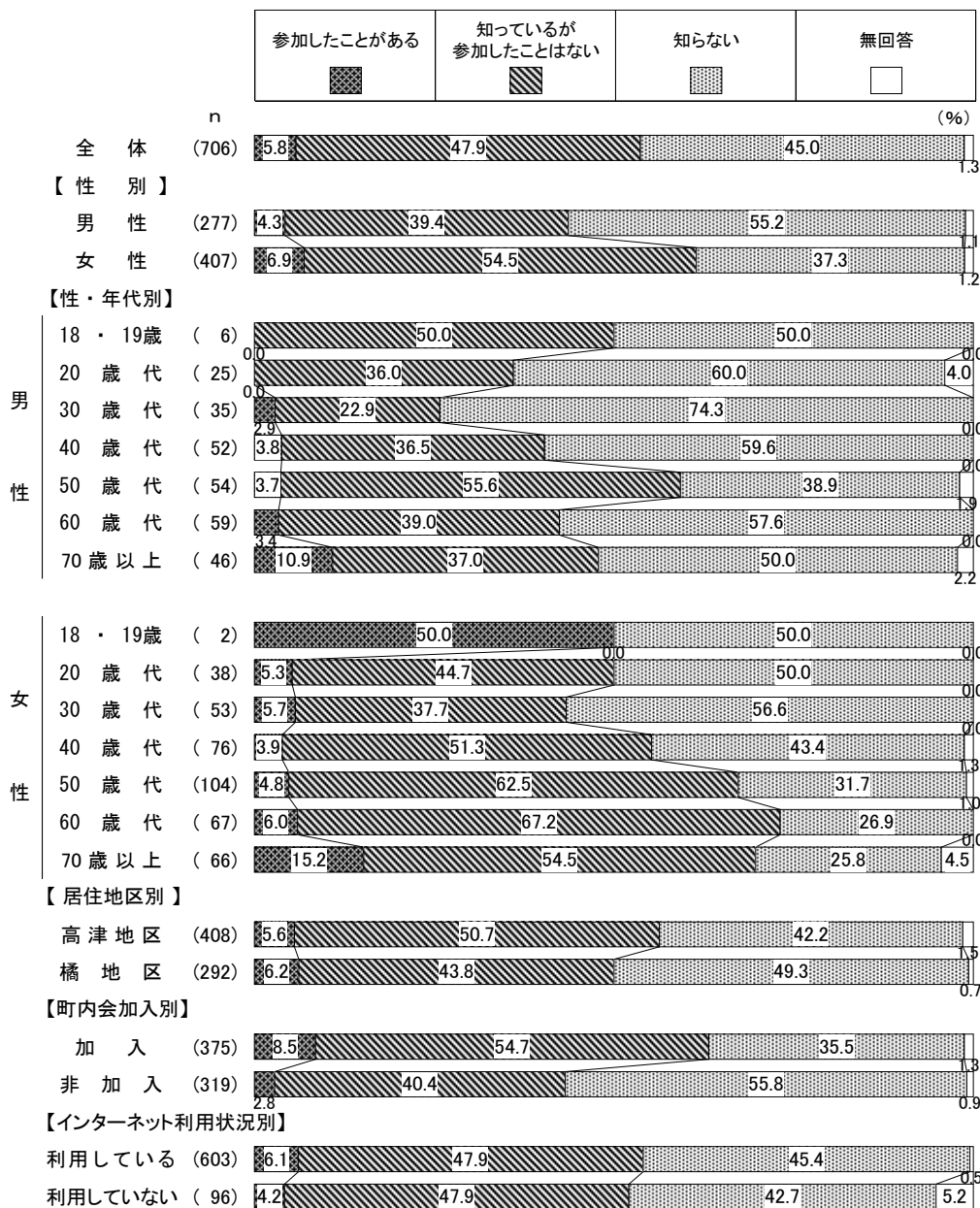
町内会加入別にみると、「知っているが参加したことはない」は加入（21.6%）が非加入（11.3%）より10.3ポイント高くなっている。

インターネット利用状況別にみると、「知っているが参加したことはない」は利用していない人（19.8%）が利用している人（16.3%）より3.5ポイント高くなっている。（図2-13）

図2-14 各取り組みへの参加状況(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)

【問30 高津区「音楽のまち」推進の取り組み】

内容：音楽を通じて区民にゆとりとやすらぎを提供するとともに、地域の音楽文化の振興を図ることを目的とし、区役所ロビーで行う「花コンサート」、区民参加型の音楽祭である「高津区民音楽祭」など様々なコンサートを開催している。



性別にみると、「知っているが参加したことはない」は女性（54.5%）が男性（39.4%）より15.1ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「知っているが参加したことはない」は女性60歳代（67.2%）で7割近くと高くなっている。

居住地区別にみると、「知っているが参加したことはない」は高津地区（50.7%）が橘地区（43.8%）より6.9ポイント高くなっている。

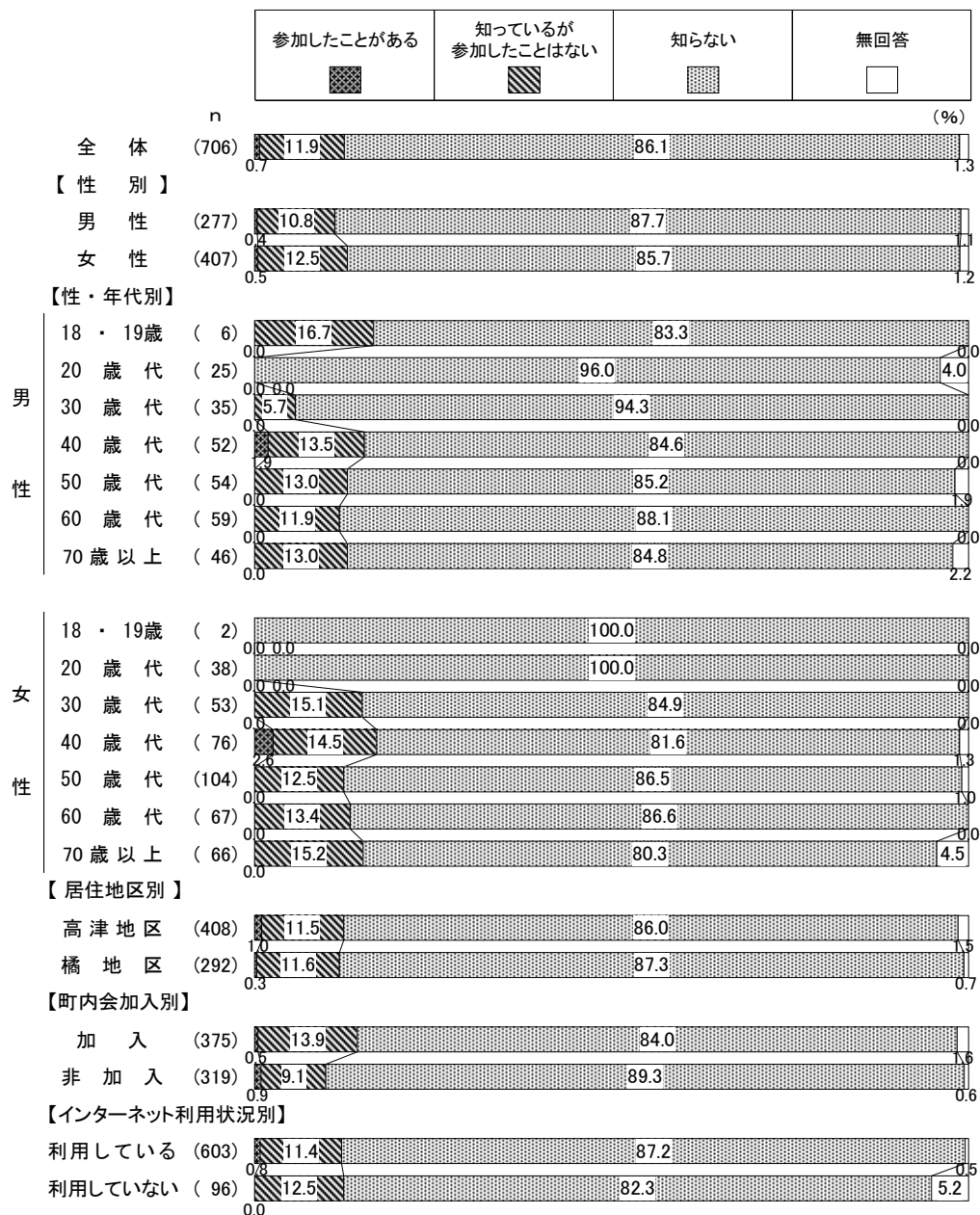
町内会加入別にみると、「参加したことがある」は加入（8.5%）が非加入（2.8%）より5.7ポイント高くなっている。

インターネット利用状況別にみると、大きな違いはみられない。（図2-14）

図2-15 各取り組みへの参加状況(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)

【問31 ダンス！ダンス！たかつ】

内容：ダンスに関する地域資源を活用した取り組みとして、まちのにぎわいづくりや区への愛着・誇りの醸成を促すため、オールジャンルのダンスイベント「ダンス！ダンス！たかつ (D!D!T)」を開催している。



性別にみると、大きな違いはみられない。

性・年代別にみると、「知らない」は女性20歳代（100.0%）で10割と高くなっている。

居住地区別にみると、大きな違いはみられない。

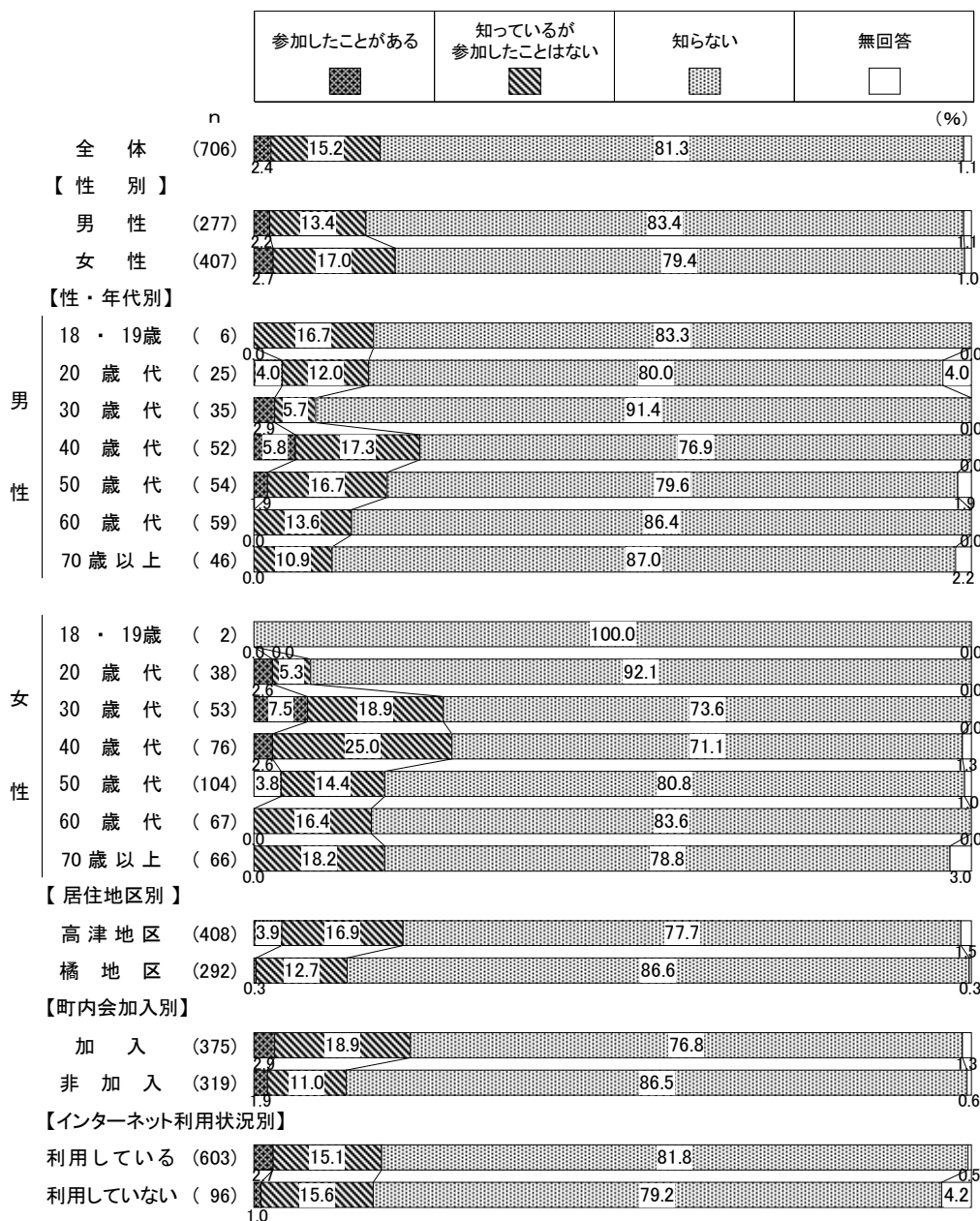
町内会加入別にみると、「知っているが参加したことはない」は加入（13.9%）が非加入（9.1%）より4.8ポイント高くなっている。

インターネット利用状況別にみると、「知らない」は利用している人（87.2%）が利用していない人（82.3%）より4.9ポイント高くなっている。（図2-15）

図2-16 各取り組みへの参加状況(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)

【問32 高津区子どもフェア】

内容：子どもの健全育成を図るため、11月の第2日曜日に、新二子橋下の多摩川河川敷で、昔遊び（こま、たこあげ）、とあみ体験、紙飛行機遊びなどの各種イベントを実施している。



性別にみると、「知っているが参加したことはない」は女性（17.0%）が男性（13.4%）より3.6ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「知っているが参加したことはない」は女性40歳代（25.0%）で2割半ばと高くなっている。

居住地区別にみると、「参加したことがある」は高津地区（3.9%）が橘地区（0.3%）より3.6ポイント高くなっている。

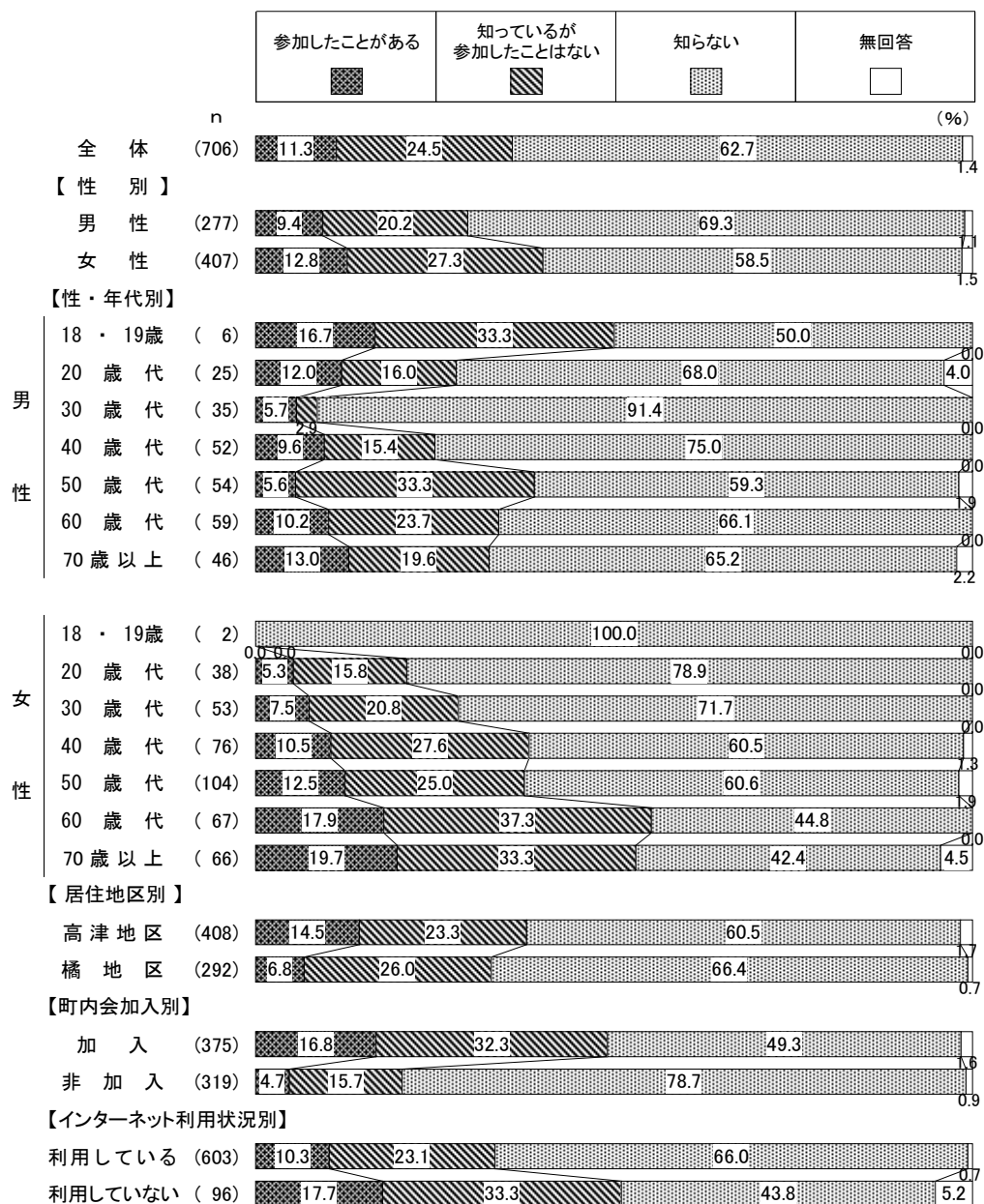
町内会加入別にみると、「知っているが参加したことはない」は加入（18.9%）が非加入（11.0%）より7.9ポイント高くなっている。

インターネット利用状況別にみると、大きな違いはみられない。（図2-16）

図2-17 各取り組みへの参加状況(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)

【問33 高津地区親子運動会】

内容：毎年10月の第3日曜日に、高津中学校で高津地区の親子等を対象に運動会を行っている。町会対抗リレーや、むかで競争などの地域住民が参加できる様々な競技を実施している。



性別にみると、「参加したことがある」は女性（12.8%）が男性（9.4%）より3.4ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「参加したことがある」は女性70歳以上（19.7%）で2割となっている。

居住地区別にみると、「参加したことがある」は高津地区（14.5%）が橘地区（6.8%）より7.7ポイント高くなっている。

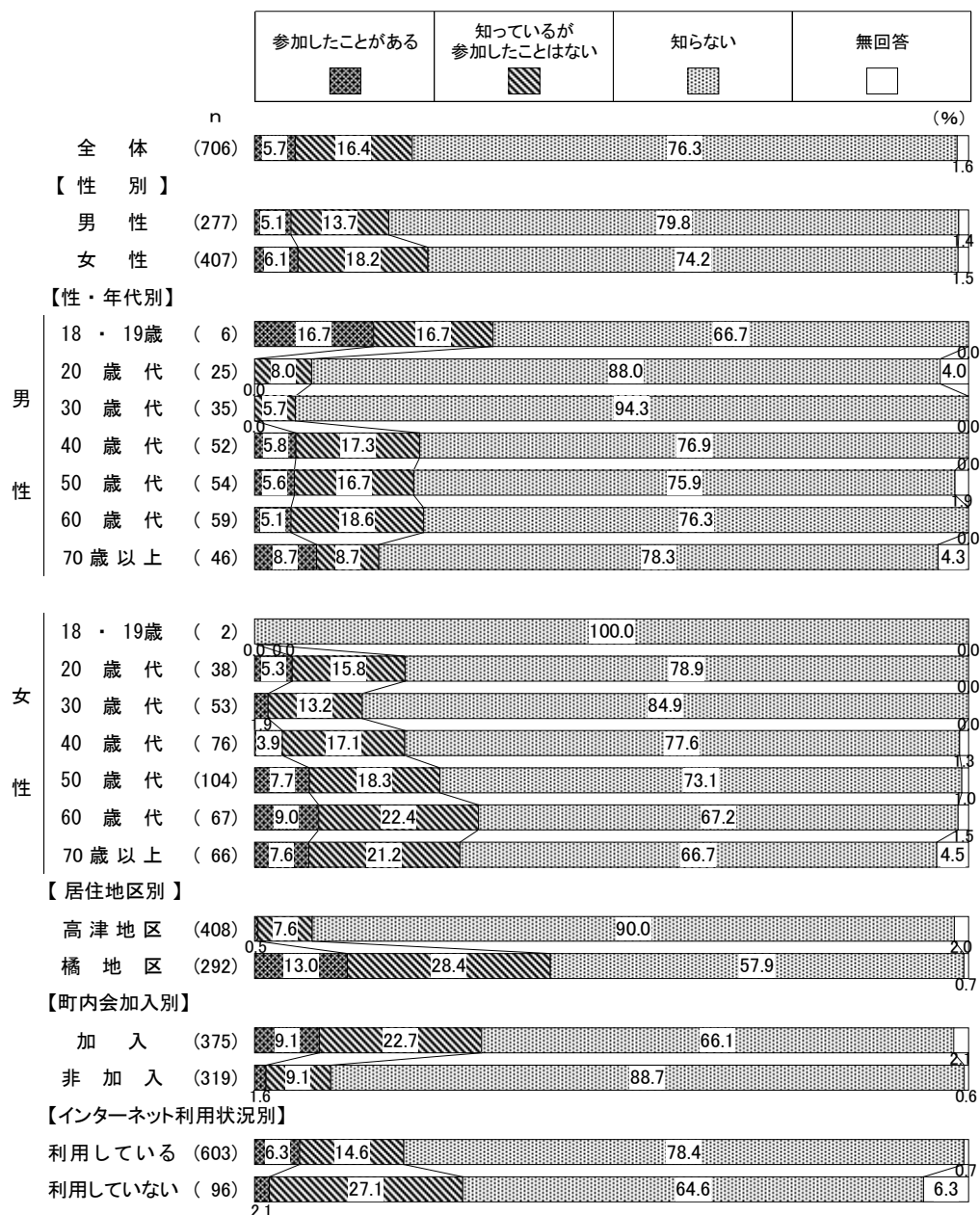
町内会加入別にみると、「参加したことがある」は加入（16.8%）が非加入（4.7%）より12.1ポイント高くなっている。

インターネット利用状況別にみると、「参加したことがある」は利用していない人（17.7%）が利用している人（10.3%）より7.4ポイント高くなっている。（図2-17）

図2-18 各取り組みへの参加状況(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)

【問34 橘地区親子運動会】

内容：毎年10月の第3日曜日に、橘中学校で橘地区の親子等を対象に運動会を行っている。100m競争、町会対抗リレーなどの地域住民が参加できる様々な競技を実施している。



性別にみると、「知っているが参加したことはない」は女性（18.2%）が男性（13.7%）より4.5ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「知っているが参加したことはない」は女性60歳代（22.4%）と女性70歳以上（21.2%）で2割を超えて高くなっている。

居住地区別にみると、「参加したことがある」は橘地区（13.0%）が高津地区（0.5%）より12.5ポイント高くなっている。

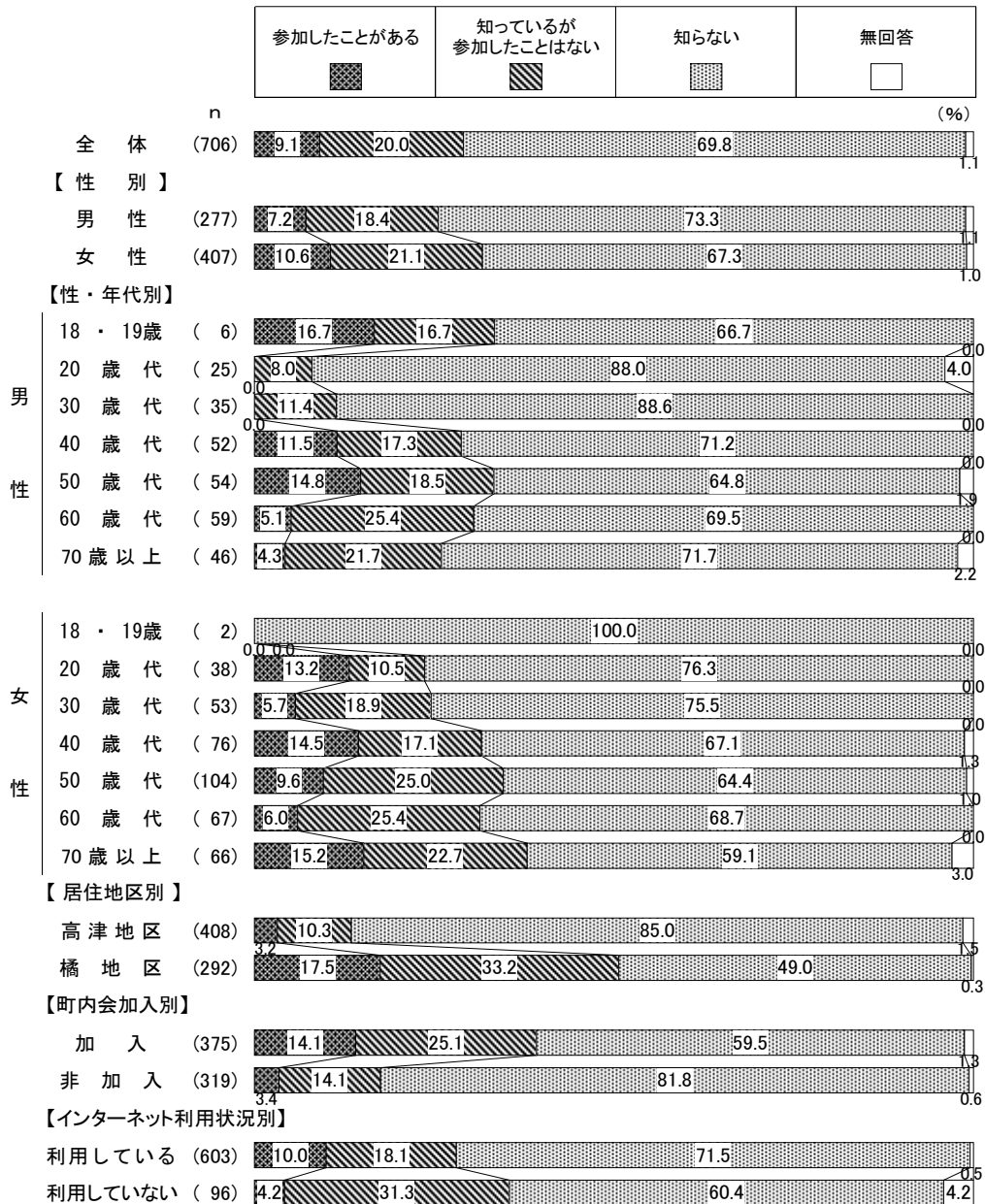
町内会加入別にみると、「参加したことがある」は加入（9.1%）が非加入（1.6%）より7.5ポイント高くなっている。

インターネット利用状況別にみると、「参加したことがある」は利用している人（6.3%）が利用していない人（2.1%）より4.2ポイント高くなっている。（図2-18）

図2-19 各取り組みへの参加状況(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)

【問35 橘ふるさと祭り こどもイベント】

内容：「地域の活性化」と「ふるさと意識の醸成」を図るため、毎年、川崎市民プラザで開催される「橘ふるさと祭り」(8月上旬の日曜日)において、広く子どもも大人も楽しめるイベントを実施している。



性別にみると、「参加したことがある」は女性(10.6%)が男性(7.2%)より3.4ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「知っているが参加したことはない」は女性50歳代(25.0%)、男性60歳代と女性60歳代(ともに25.4%)で2割半ばと高くなっている。

居住地区別にみると、「参加したことがある」は橘地区(17.5%)が高津地区(3.2%)より14.3ポイント高くなっている。

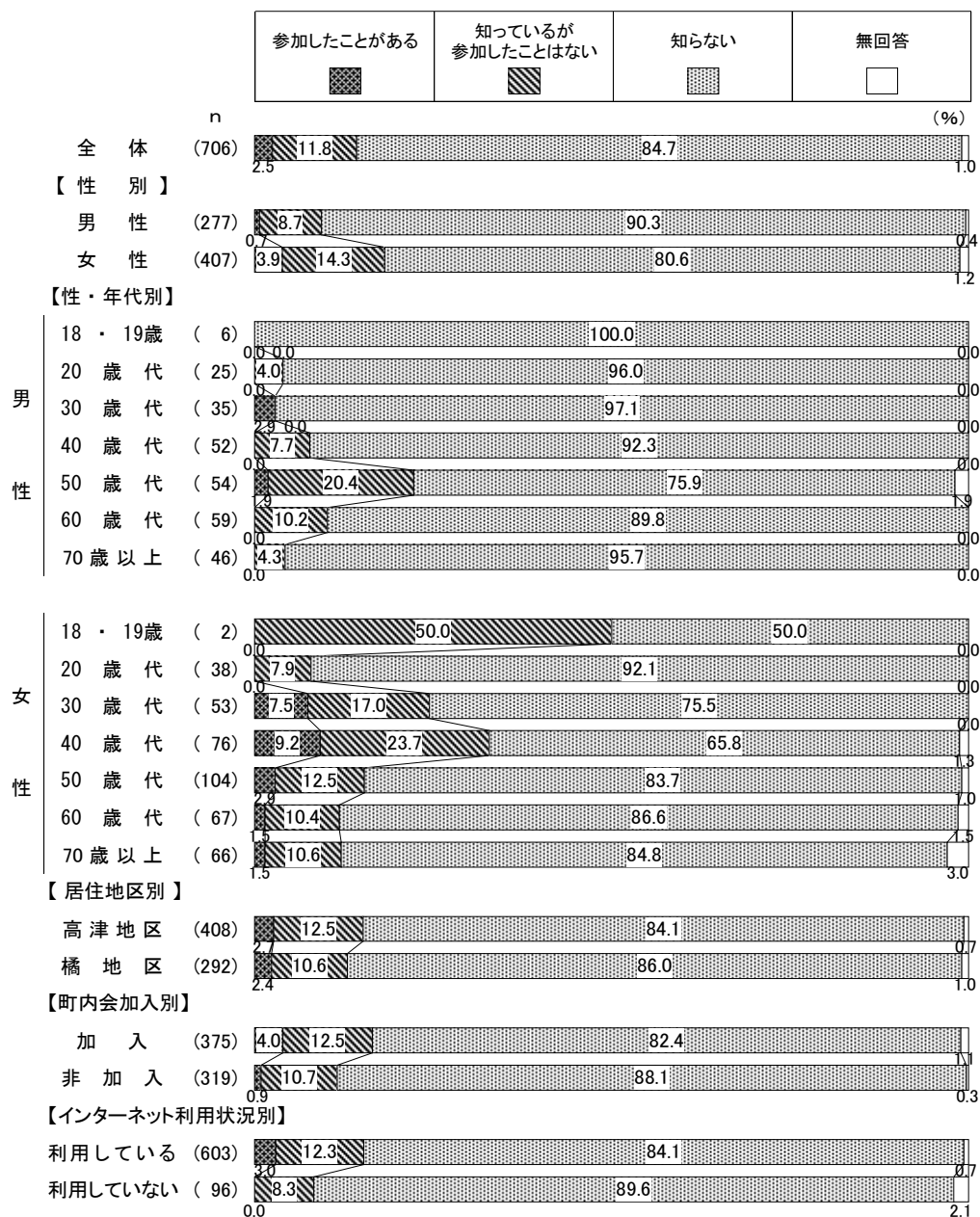
町内会加入別にみると、「参加したことがある」は加入(14.1%)が非加入(3.4%)より10.7ポイント高くなっている。

インターネット利用状況別にみると、「参加したことがある」は利用している人(10.0%)が利用していない人(4.2%)より5.8ポイント高くなっている。(図2-19)

図2-20 各取り組みへの参加状況(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)

【問40 子ども・子育てフェスタ】

内容：毎年11月の土曜日に高津市民館において開催し、親子で参加できる楽しいイベント、学習・講演会、地域子育てグループ等の紹介などを実施している。その中で、市民と行政との協働により子どもの育ちを支えあうネットワークづくりを行っている。



性別にみると、「参加したことがある」は女性（3.9％）が男性（0.7％）より3.2ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「知っているが参加したことはない」は女性40歳代（23.7％）と男性50歳代（20.4％）で2割台と高くなっている。

居住地区別にみると、大きな違いはみられない。

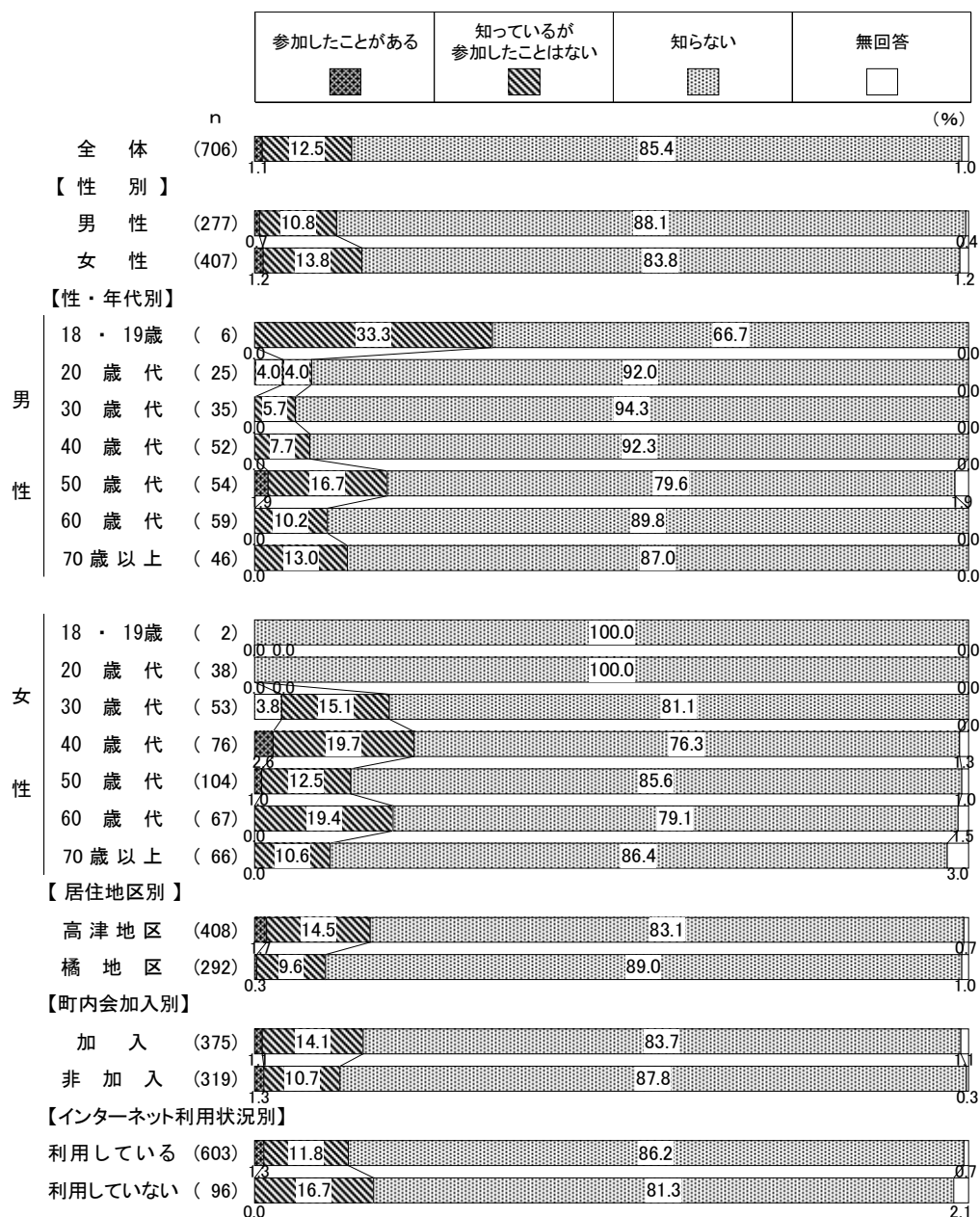
町内会加入別にみると、「参加したことがある」は加入（4.0％）が非加入（0.9％）より3.1ポイント高くなっている。

インターネット利用状況別にみると、「参加したことがある」は利用している人（3.0％）が利用していない人（0.0％）より3.0ポイント高くなっている。（図2-20）

図2-21 各取り組みへの参加状況(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)

【問41 高津区地域連携スポーツの取り組み】

内容：スポーツを通じた地域コミュニティの活性化や世代間交流、地域におけるスポーツ参加機会の拡充を図るため、「ファミリースポーツ縁日」、「スポーツインクルージョン縁日」といったスポーツイベントを開催している。



性別にみると、「知っているが参加したことはない」は女性（13.8%）が男性（10.8%）より3.0ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「知っているが参加したことはない」は女性40歳代（19.7%）と女性60歳代（19.4%）で約2割となっている。

居住地区別にみると、「知っているが参加したことはない」は高津地区（14.5%）が橘地区（9.6%）より4.9ポイント高くなっている。

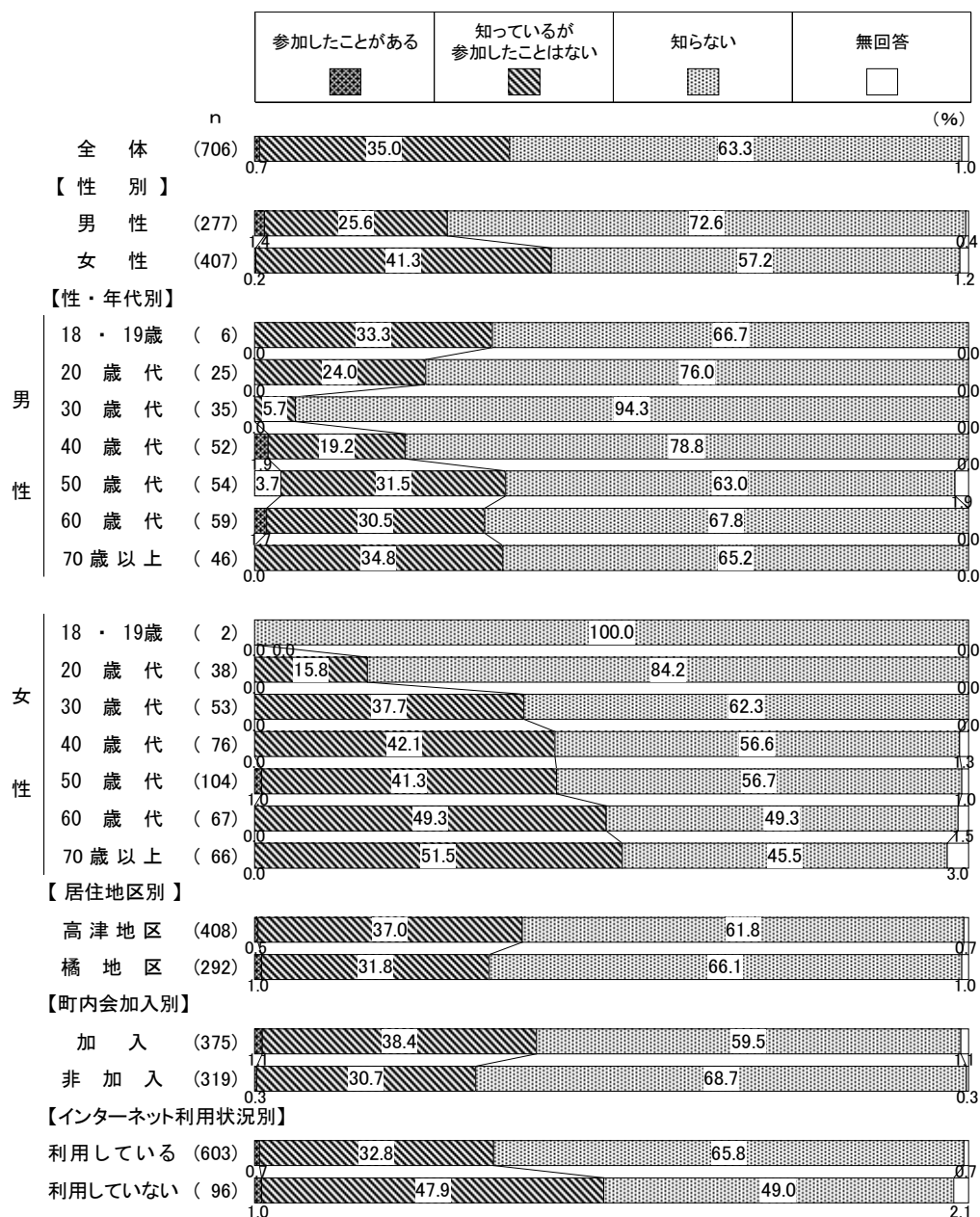
町内会加入別にみると、「知っているが参加したことはない」は加入（14.1%）が非加入（10.7%）より3.4ポイント高くなっている。

インターネット利用状況別にみると、「知っているが参加したことはない」は利用していない人（16.7%）が利用している人（11.8%）より4.9ポイント高くなっている。（図2-21）

図2-22 各取り組みへの参加状況(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)

【問43 花と緑のたかつ推進(区民ミニ・ガーデン)の取り組み】

内容：区内に潤いのある空間を創出するため、市民との協働による花と緑のまちづくりの推進を図ることを目的として、区民ボランティアを中心に区内各所に設置した花苗のコンテナ及び花壇の植栽・管理を行っている。



性別にみると、「知っているが参加したことはない」は女性(41.3%)が男性(25.6%)より15.7ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「知っているが参加したことはない」は女性70歳以上(51.5%)で5割を超えて高くなっている。

居住地区別にみると、「知っているが参加したことはない」は高津地区(37.0%)が橘地区(31.8%)より5.2ポイント高くなっている。

町内会加入別にみると、「知っているが参加したことはない」は加入(38.4%)が非加入(30.7%)より7.7ポイント高くなっている。

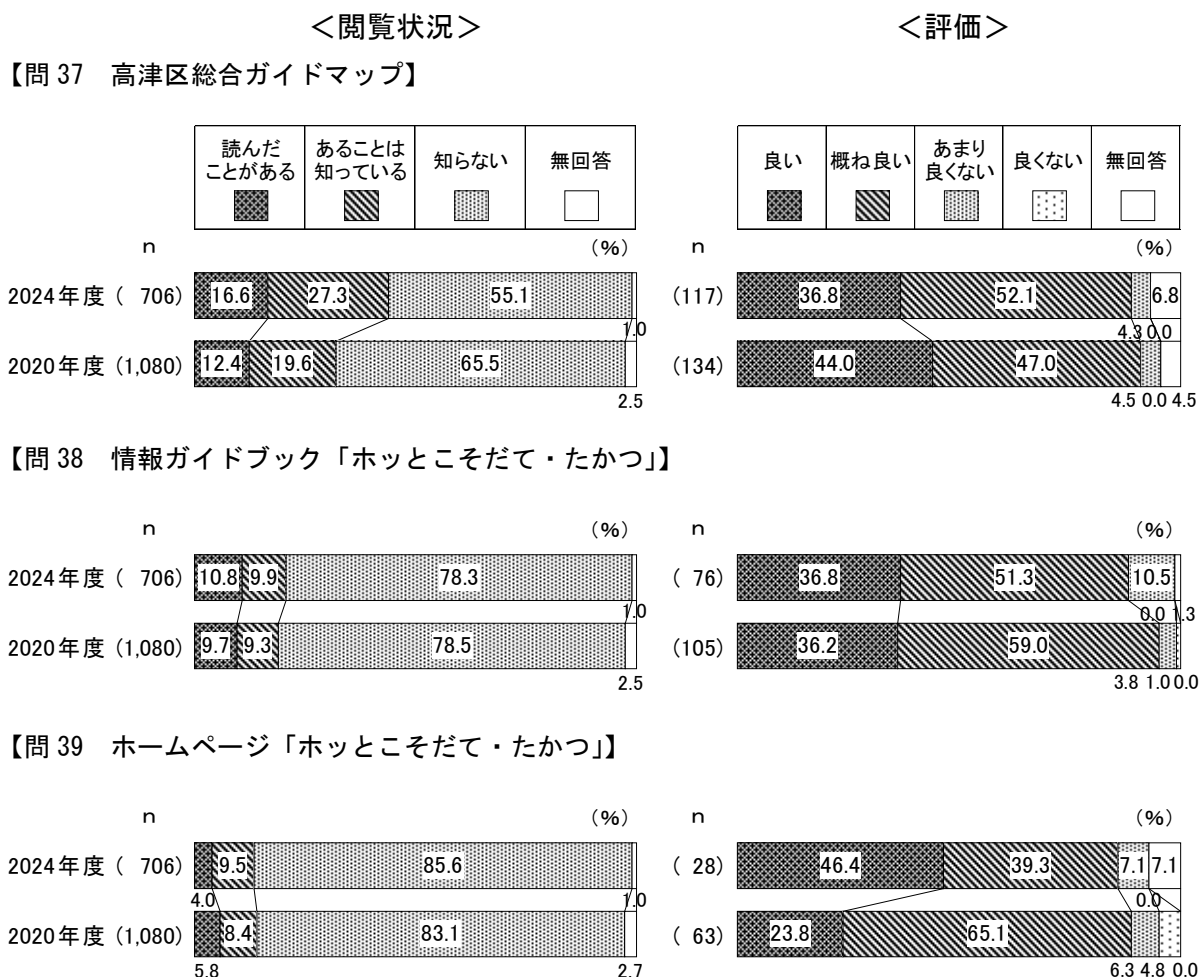
インターネット利用状況別にみると、「知っているが参加したことはない」は利用していない人(47.9%)が利用している人(32.8%)より15.1ポイント高くなっている。(図2-22)

(3) 各広報媒体等の閲覧状況・評価

問 あなたは高津区に行っている取り組みについてご存知でしょうか。

(1) については取り組みの認知度およびその取り組みの評価について該当するものに○をつけてください。(認知度について、「読んだことがある・見たことがある」を選んだ方のみ評価について○をつけてください)

図 2-23 各広報媒体等の閲覧状況・評価



各広報媒体等の閲覧状況・評価の＜閲覧状況＞をみると、「読んだことがある（見たことがある）」は【高津区総合ガイドマップ】が16.6%、【情報ガイドブック「ホッとこそだて・たかつ」】が10.8%、【ホームページ「ホッとこそだて・たかつ」】が4.0%となっている。

2020年度と比較すると、「読んだことがある」は【高津区総合ガイドマップ】で4.2ポイント増加している。

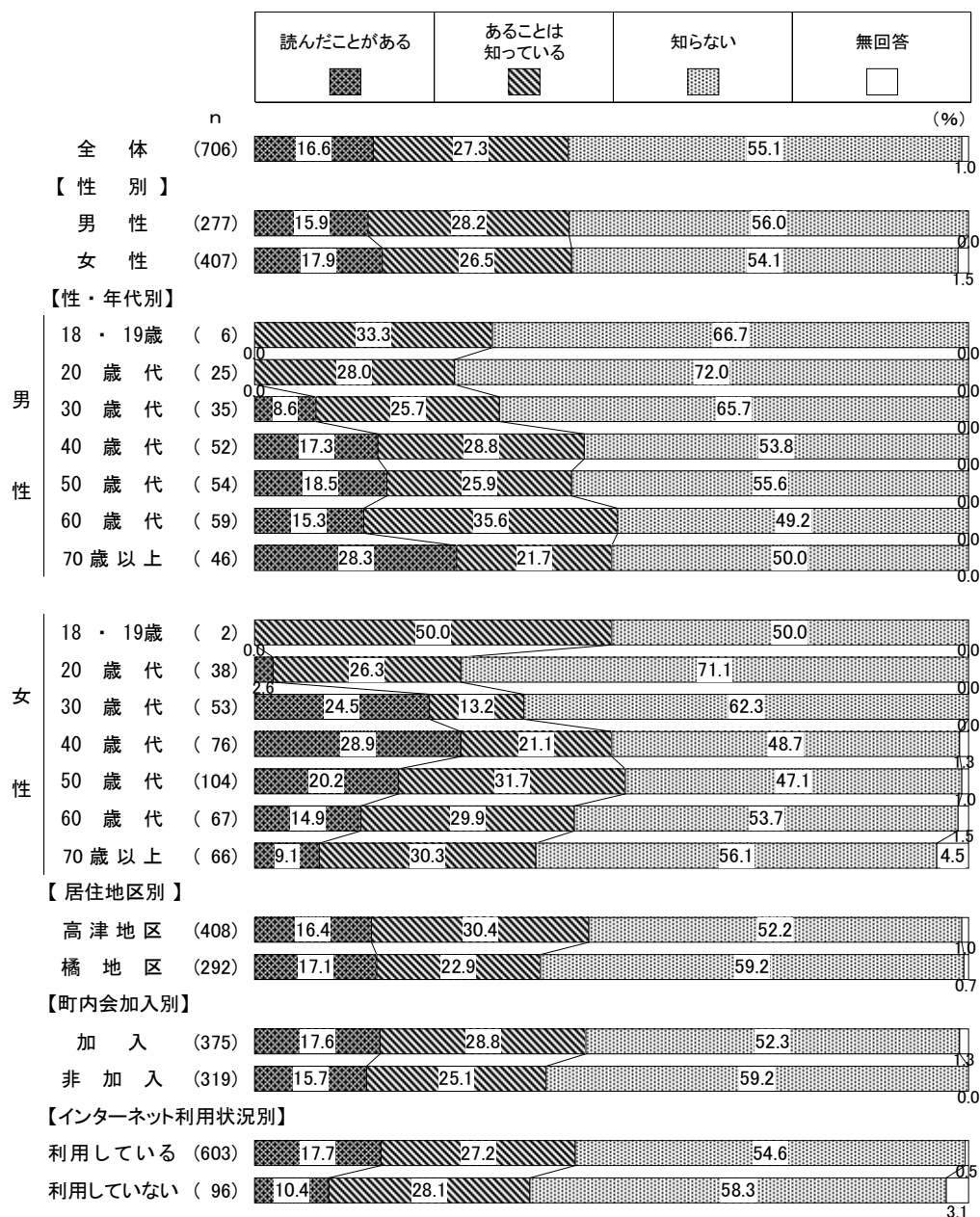
＜評価＞をみると、「良い」は【高津区総合ガイドマップ】が36.8%、【情報ガイドブック「ホッとこそだて・たかつ」】が36.8%、【ホームページ「ホッとこそだて・たかつ」】が46.4%となっている。

2020年度と比較すると、「良い」は【ホームページ「ホッとこそだて・たかつ」】で22.6ポイント増加している。(図 2-23)

図2-24 各広報媒体等の閲覧状況(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)

【問37 高津区総合ガイドマップ】

内容：区内への転入者と在住の希望者を対象に、高津区の地図や公共施設の一覧、バス路線図、防災情報、区役所の電話番号案内などの区の基礎的な情報が入った総合ガイドマップを作成し配布している。



性別にみると、大きな違いはみられない。

性・年代別にみると、「読んだことがある」は女性40歳代（28.9%）と男性70歳以上（28.3%）で3割近くと高くなっている。

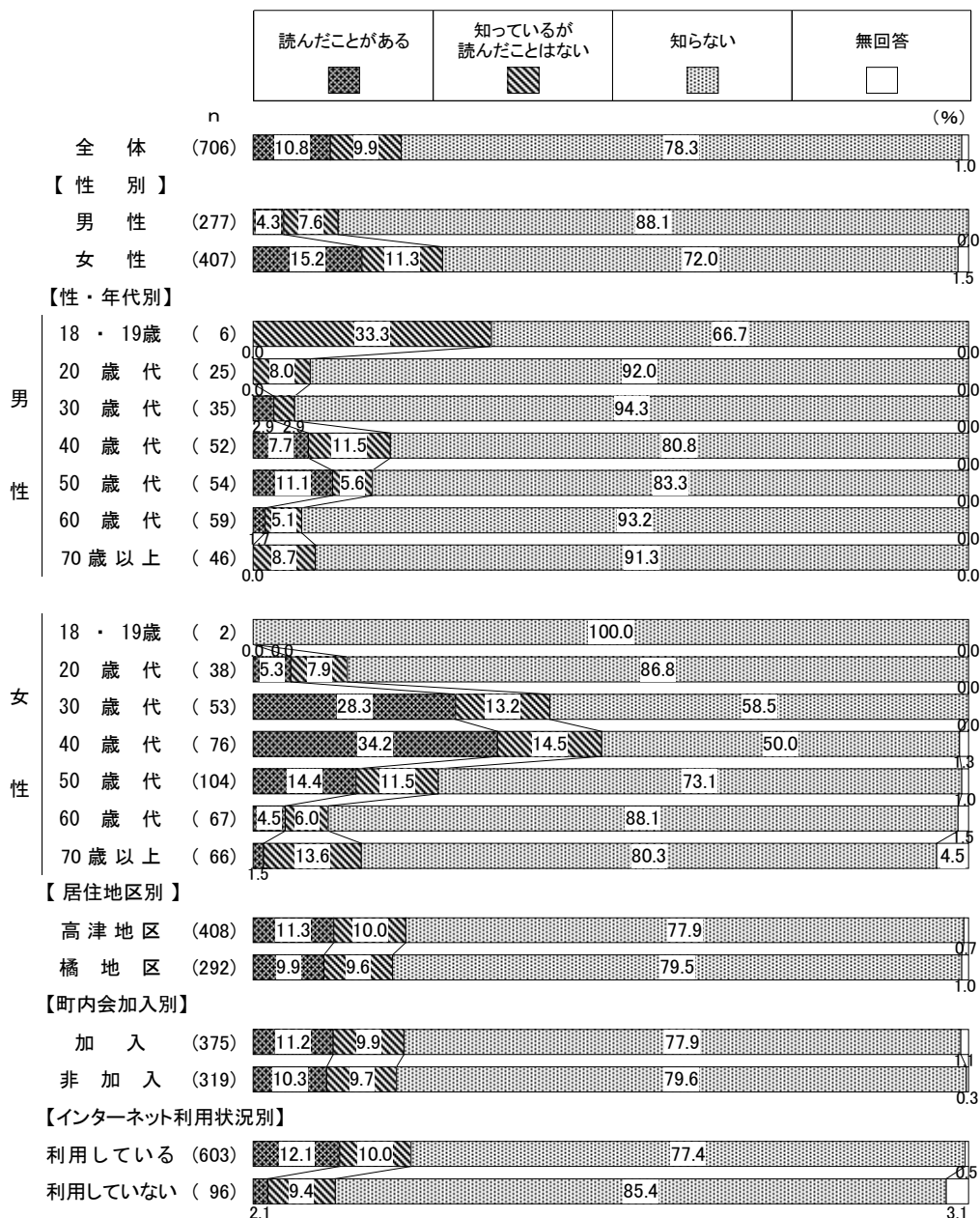
居住地区別にみると、「あることは知っている」は高津地区（30.4%）が橘地区（22.9%）より7.5ポイント高くなっている。

町内会加入別にみると、「あることは知っている」は加入（28.8%）が非加入（25.1%）より3.7ポイント高くなっている。

インターネット利用状況別にみると、「読んだことがある」は利用している人（17.7%）が利用していない人（10.4%）より7.3ポイント高くなっている。（図2-24）

図2-25 各広報媒体等の閲覧状況(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)
【問38 情報ガイドブック「ホッとこそだて・たかつ」】

内容：地域における子ども・子育て支援のより一層の充実を図ることを目的に区民協働で立ち上げた「ホッとこそだて・たかつ」という情報ガイドブックを区民と協働で作成し、情報発信を行っている。



性別にみると、「読んだことがある」は女性（15.2％）が男性（4.3％）より 10.9 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「読んだことがある」は女性40歳代（34.2％）で3割半ば、女性30歳代（28.3％）で3割近くと高くなっている。

居住地区別にみると、大きな違いはみられない。

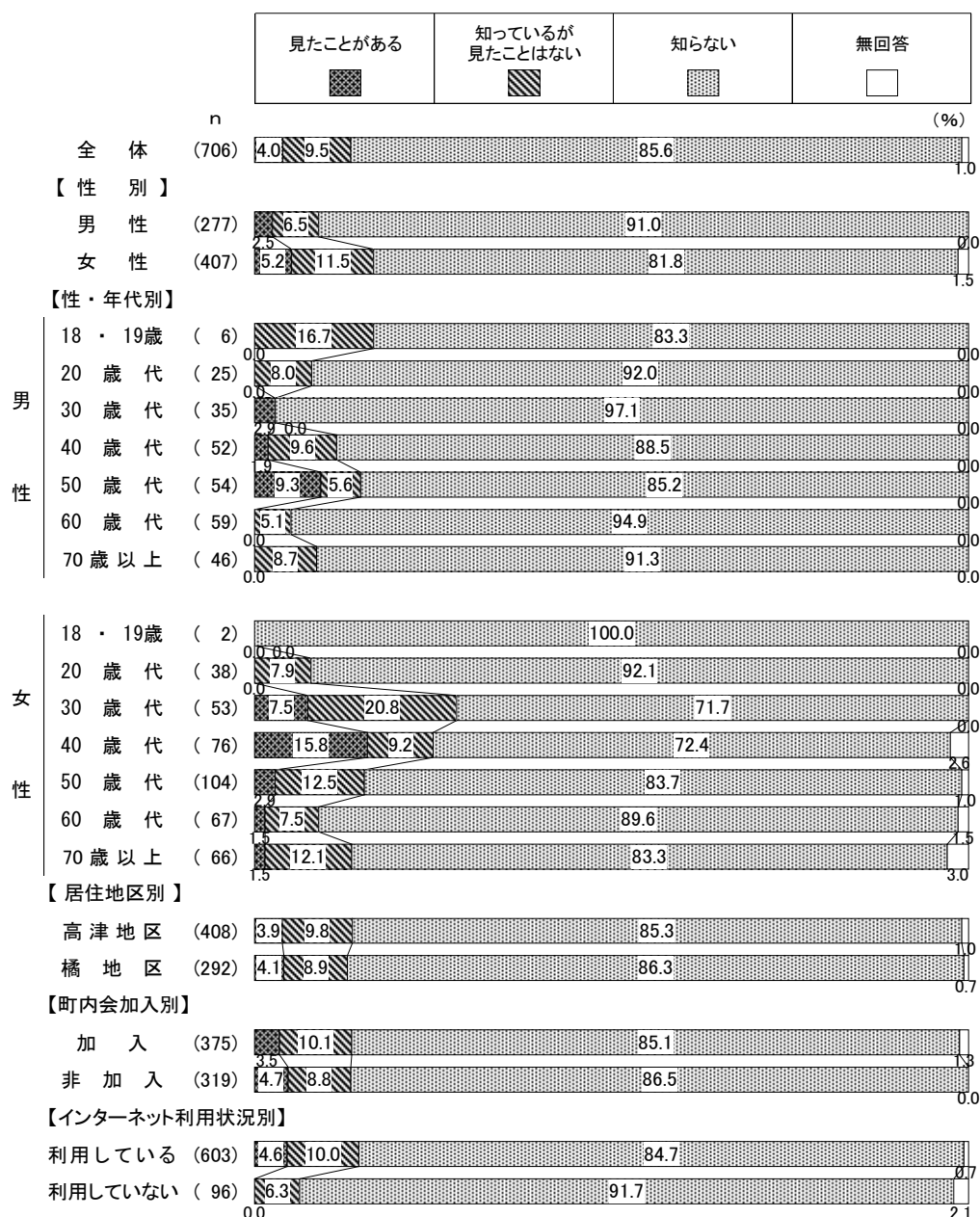
町内会加入別にみると、大きな違いはみられない。

インターネット利用状況別にみると、「読んだことがある」は利用している人（12.1％）が利用していない人（2.1％）より10.0ポイント高くなっている。（図2-25）

図2-26 各広報媒体等の閲覧状況(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)

【問39 ホームページ「ホッとこそだて・たかつ」】

内容：地域における子ども・子育て支援のより一層の充実を図ることを目的に、高津区ホームページの中のメニュー「ホッとこそだて・たかつ」にタイムリーな情報を掲載し、情報提供を行っている。



性別にみると、「知っているが見たことはない」は女性（11.5%）が男性（6.5%）より 5.0 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「知っているが見たことはない」は女性30歳代（20.8%）で約 2 割と高くなっている。

居住地区別にみると、大きな違いはみられない。

町内会加入別にみると、大きな違いはみられない。

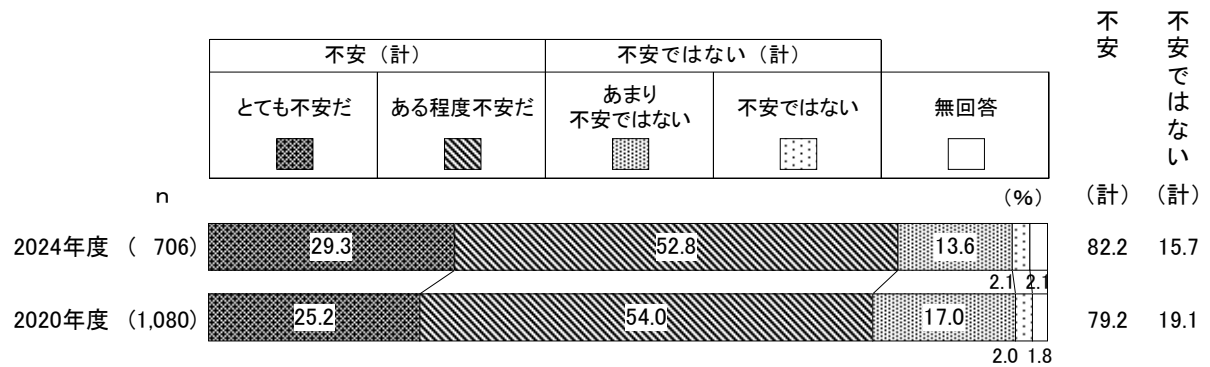
インターネット利用状況別にみると、「見たことがある」は利用している人（4.6%）が利用していない人（0.0%）より 4.6 ポイント高くなっている。（図 2-26）

3. 地域防災について

(1) 大規模地震発生時の「不安度」

問 44 現在お住まいの地域での大規模地震の発生について、あなたはどの程度不安ですか。
(1つだけ○)

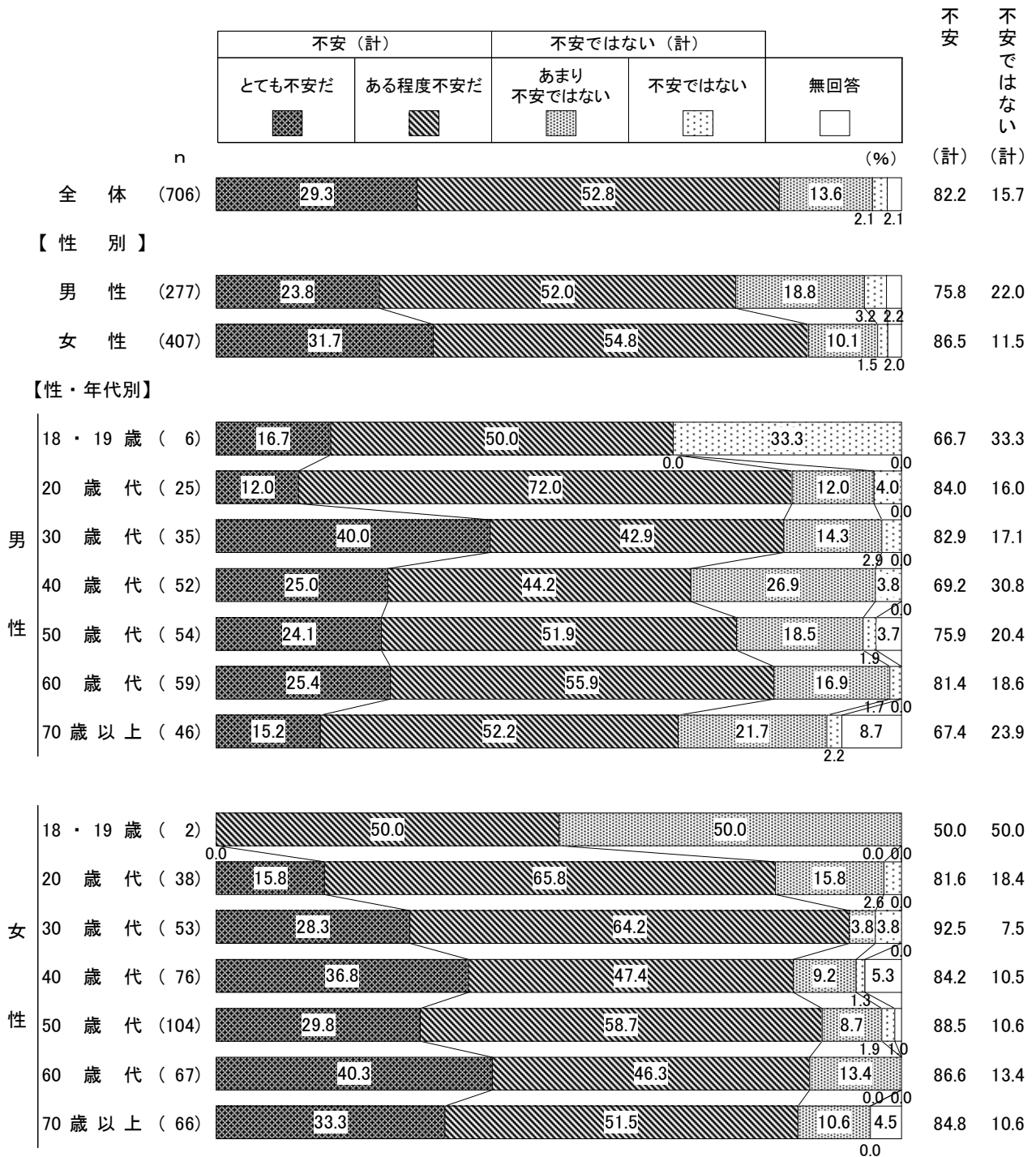
図 3-1 大規模地震発生時の「不安度」



大規模地震発生時の「不安度」を聞いたところ、「とても不安だ」(29.3%)と「ある程度不安だ」(52.8%)を合わせた『不安(計)』(82.2%)は8割を超えている。一方、「あまり不安ではない」(13.6%)と「不安ではない」(2.1%)を合わせた『不安ではない(計)』(15.7%)は1割半ばとなっている。

2020年度と比較すると、『不安(計)』は3.0ポイント増加している。(図3-1)

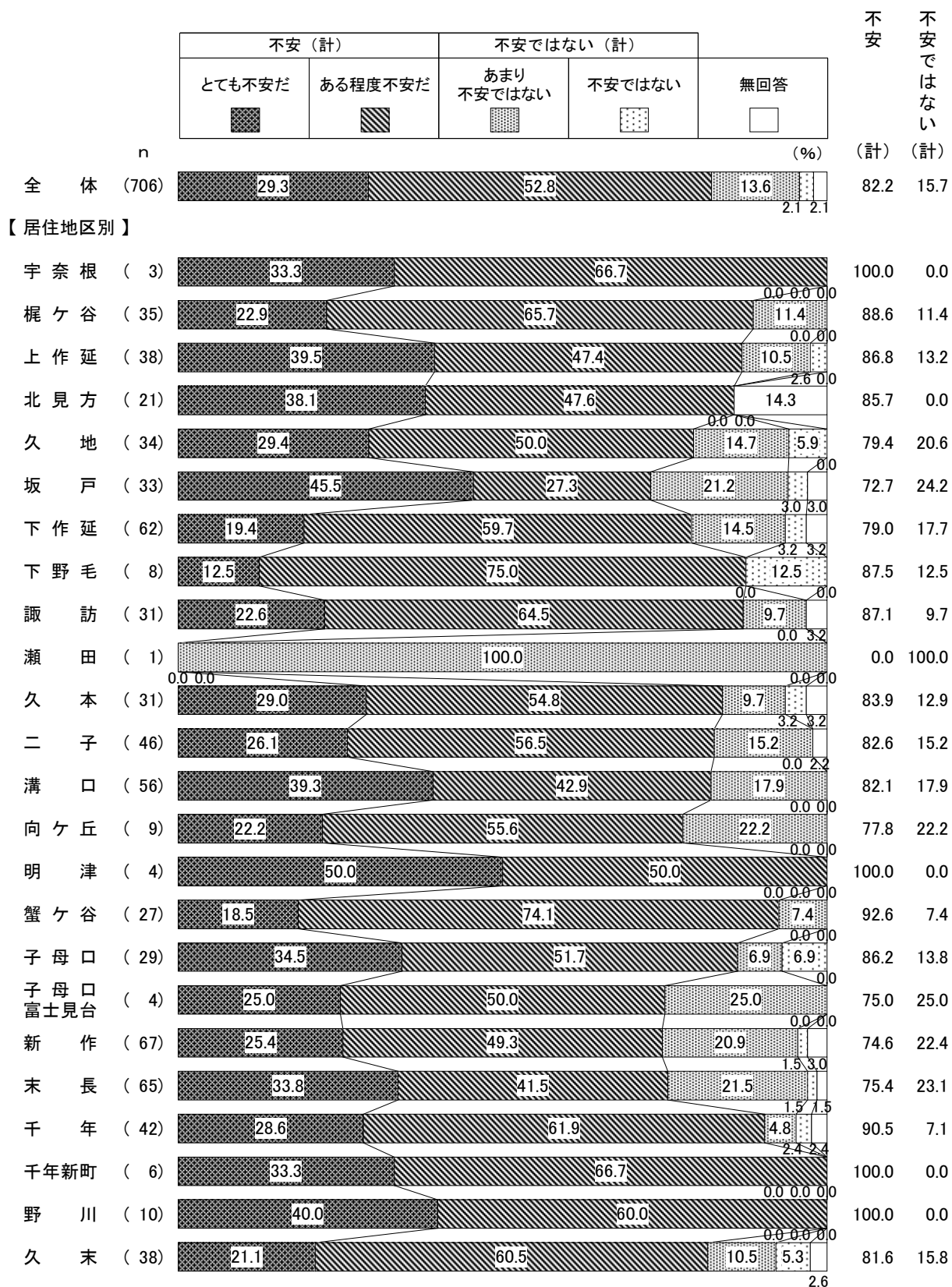
図3-2 大規模地震発生時の「不安度」(性別、性・年代別)



性別にみると、『不安 (計)』は女性 (86.5%) が男性 (75.8%) より 10.7 ポイント高くなっている。

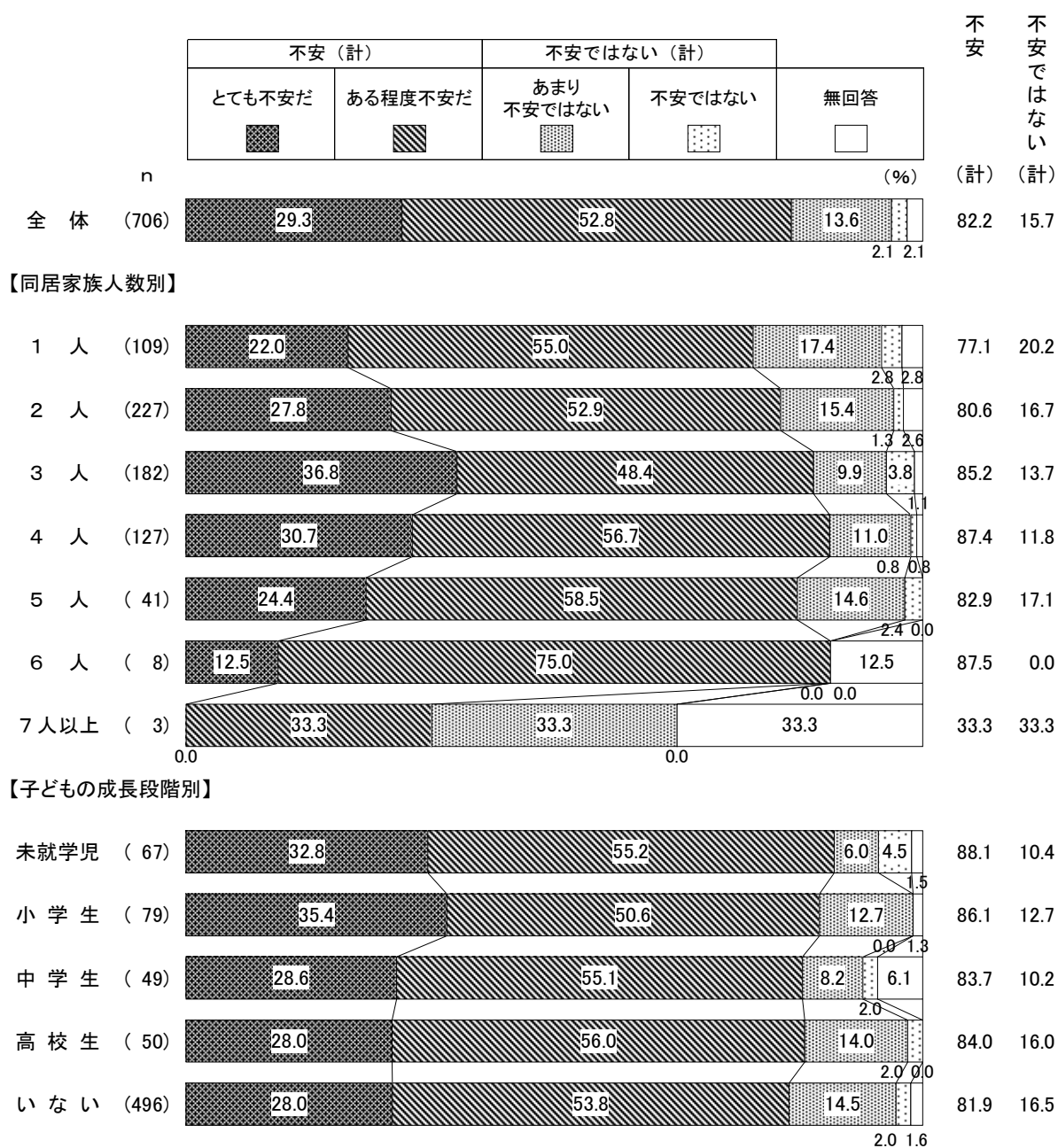
性・年代別にみると、『不安 (計)』は女性 30 歳代 (92.5%) で 9 割を超えて高くなっている。一方、『不安ではない (計)』は男性 40 歳代 (30.8%) で約 3 割と高くなっている。(図 3-2)

図3-3 大規模地震発生時の「不安度」(居住地区別)



居住地区別にみると、『不安 (計)』は蟹ヶ谷 (92.6%) と千年 (90.5%) で9割台と高くなっている。一方、『不安ではない (計)』は坂戸 (24.2%) で2割半ばと高くなっている。(図3-3)

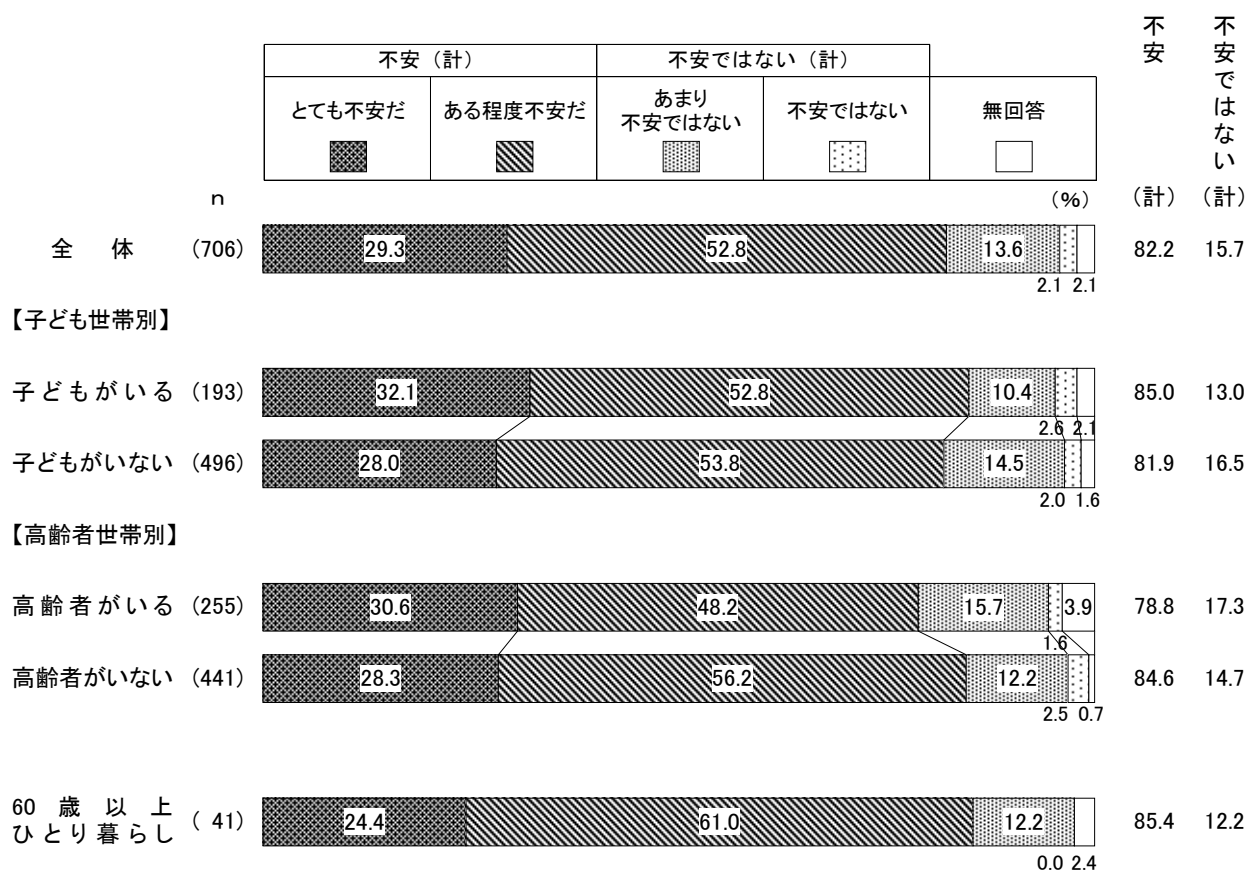
図3-4 大規模地震発生時の「不安度」(同居家族人数別、子どもの成長段階別)



同居家族人数別にみると、『不安 (計)』は4人家族 (87.4%) で9割近くと高くなっている。一方、『不安ではない (計)』は1人家族 (20.2%) で2割と高くなっている。

子どもの成長段階別にみると、『不安 (計)』は未就学児がいる世帯 (88.1%) で9割近くと高くなっている。(図3-4)

図3-5 大規模地震発生時の「不安度」(子ども世帯別、高齢者世帯別、60歳以上ひとり暮らし)



子ども世帯別にみると、『不安(計)』は子どもがいる世帯(85.0%)が子どもがいない世帯(81.9%)より3.1ポイント高くなっている。

高齢者世帯別にみると、『不安(計)』は高齢者がいない世帯(84.6%)が高齢者がいる世帯(78.8%)より5.8ポイント高くなっている。

60歳以上ひとり暮らし世帯では、『不安(計)』(85.4%)が8割半ばと高くなっている。

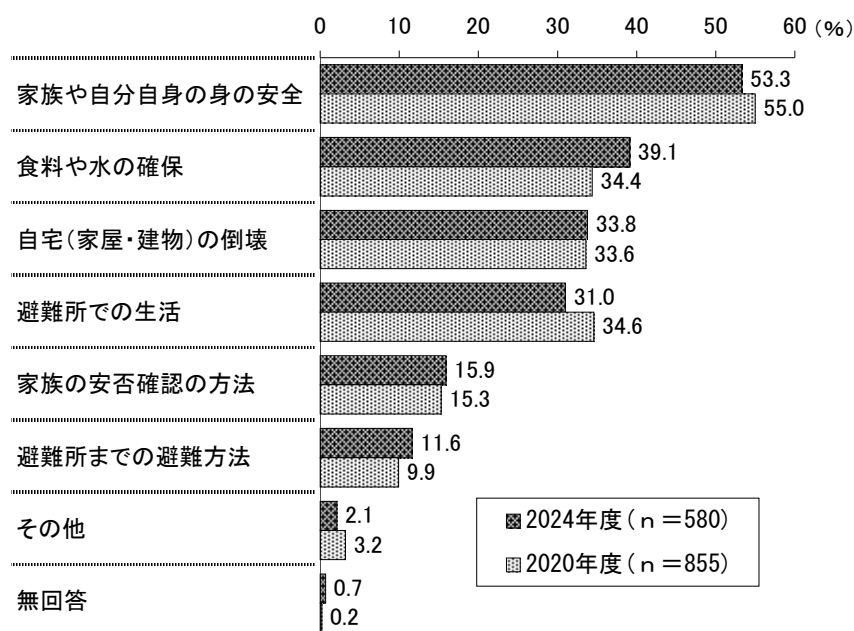
(図3-5)

（２）大規模地震発生時の「不安内容」

（問 44 で、「とても不安だ」「ある程度不安だ」と回答した方に伺います）

問 44－１ 特に不安なことは何ですか。（２つまで○）

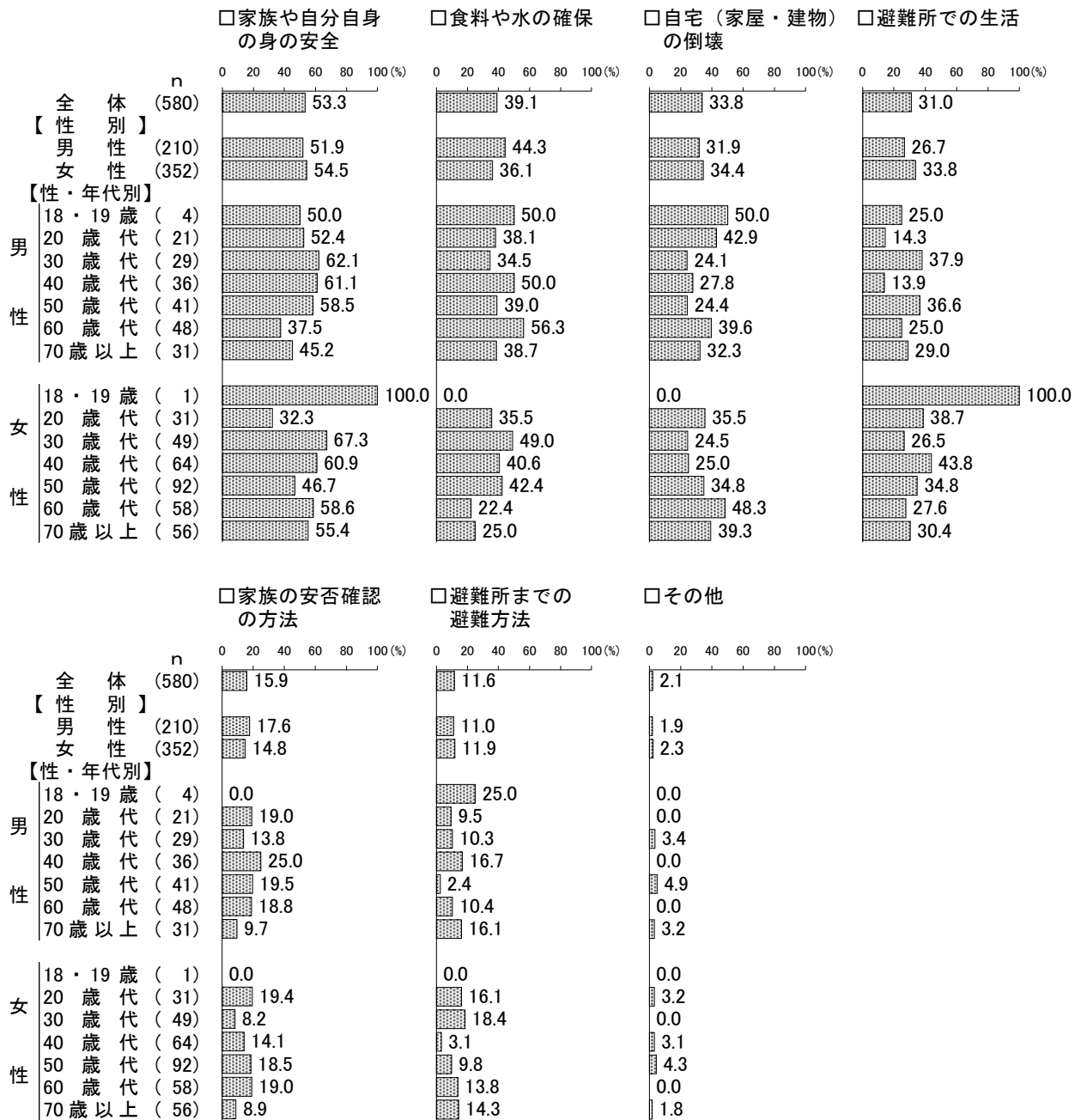
図 3-6 大規模地震発生時の「不安内容」



大規模地震発生時の「不安内容」を聞いたところ、「家族や自分自身の身の安全」(53.3%)が5割を超えて最も高く、次いで「食料や水の確保」(39.1%)、「自宅(家屋・建物)の倒壊」(33.8%)、「避難所での生活」(31.0%)となっている。

2020年度と比較すると、「食料や水の確保」は4.7ポイント増加している。一方、「避難所での生活」は3.6ポイント減少している。(図3-6)

図3-7 大規模地震発生時の「不安内容」(性別、性・年代別)

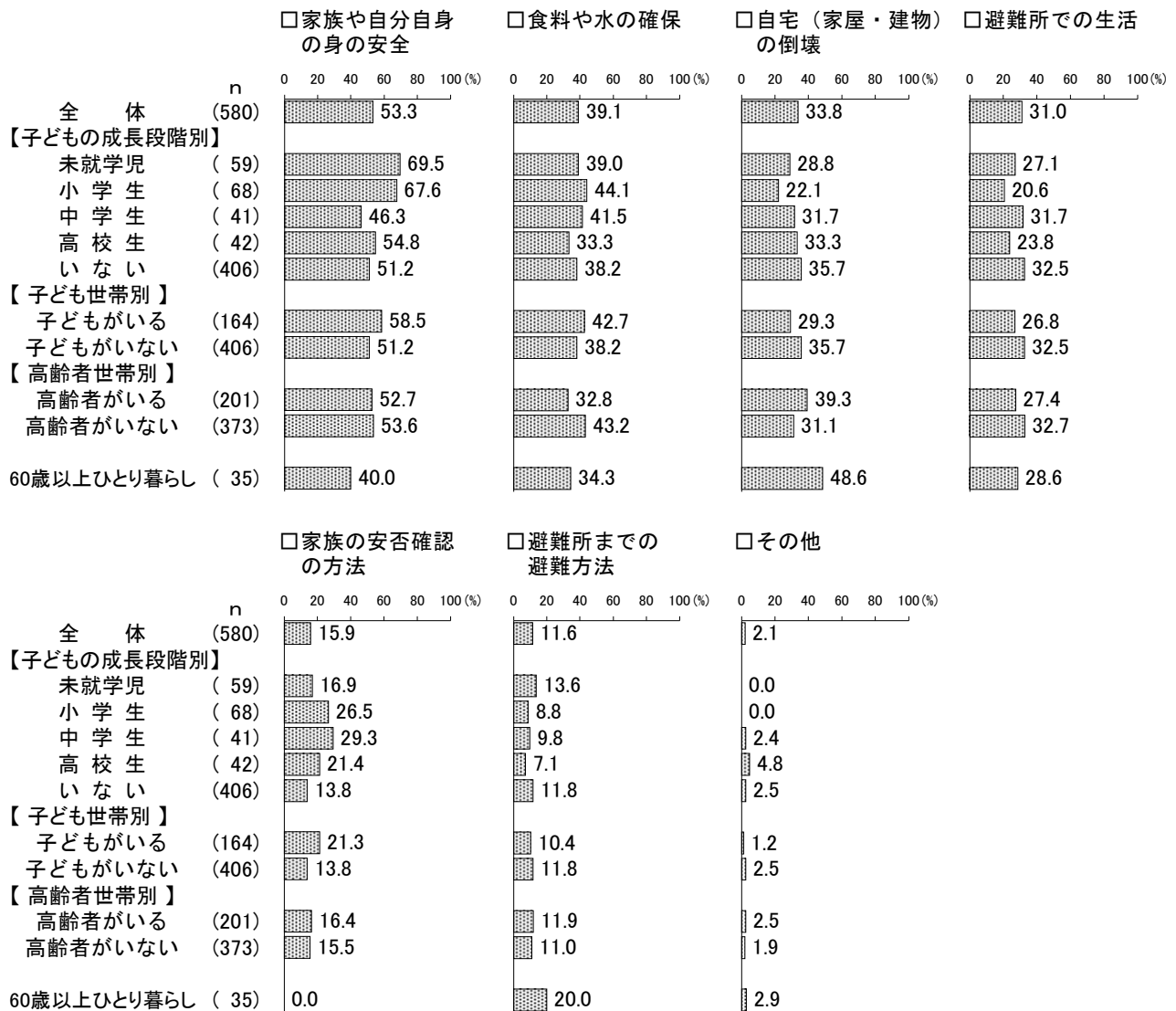


性別にみると、「食料や水の確保」は男性(44.3%)が女性(36.1%)より8.2ポイント高くなっている。一方、「避難所での生活」は女性(33.8%)が男性(26.7%)より7.1ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「家族や自分自身の身の安全」は女性30歳代(67.3%)で7割近くと高くなっている。「食料や水の確保」は男性60歳代(56.3%)で5割半ばと高くなっている。「自宅(家屋・建物)の倒壊」は女性60歳代(48.3%)で5割近くと高くなっている。(図3-7)

図 3-8 大規模地震発生時の「不安内容」

(子どもの成長段階別、子ども世帯別、高齢者世帯別、60歳以上ひとり暮らし)



子どもの成長段階別にみると、「家族や自分自身の身の安全」は未就学児がいる世帯（69.5%）と小学生がいる世帯（67.6%）で6割台と高くなっている。「食料や水の確保」は小学生がいる世帯（44.1%）で4割半ばと高くなっている。

子ども世帯別にみると、「家族の安否確認の方法」は子どもがいる世帯（21.3%）が子どもがいない世帯（13.8%）より7.5ポイント高くなっている。一方、「自宅（家屋・建物）の倒壊」は子どもがいない世帯（35.7%）が子どもがいる世帯（29.3%）より6.4ポイント高くなっている。

高齢者世帯別にみると、「食料や水の確保」は高齢者がいない世帯（43.2%）が高齢者がいる世帯（32.8%）より10.4ポイント高くなっている。一方、「自宅（家屋・建物）の倒壊」は高齢者がいる世帯（39.3%）が高齢者がいない世帯（31.1%）より8.2ポイント高くなっている。

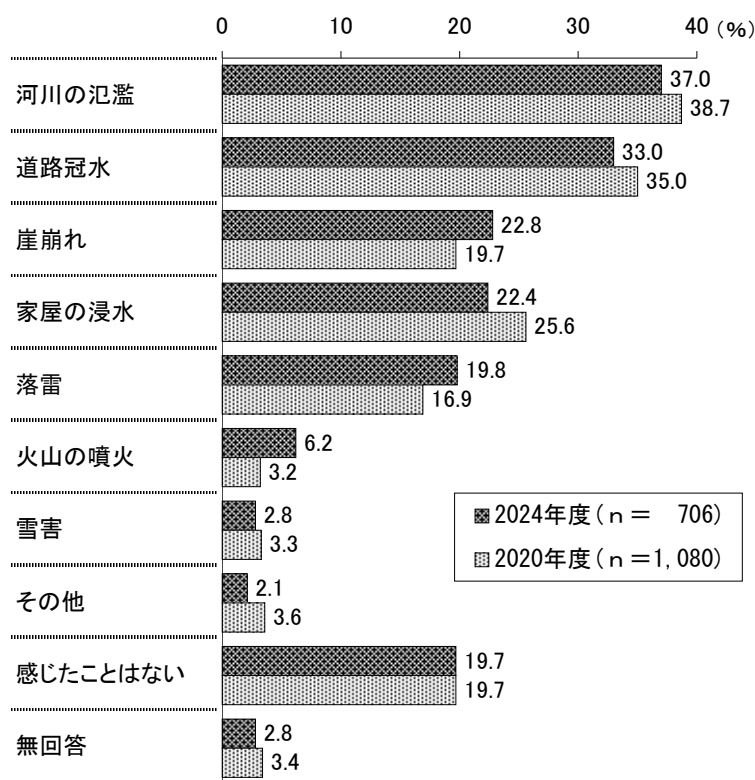
60歳以上ひとり暮らし世帯では、「自宅（家屋・建物）の倒壊」（48.6%）が5割近くで最も高く、次いで「家族や自分自身の身の安全」（40.0%）となっている。（図3-8）

(3) 災害に対する不安

問 45 現在お住まいの地域で、次の災害に対する不安はありますか。

(あてはまるもの全てに○)

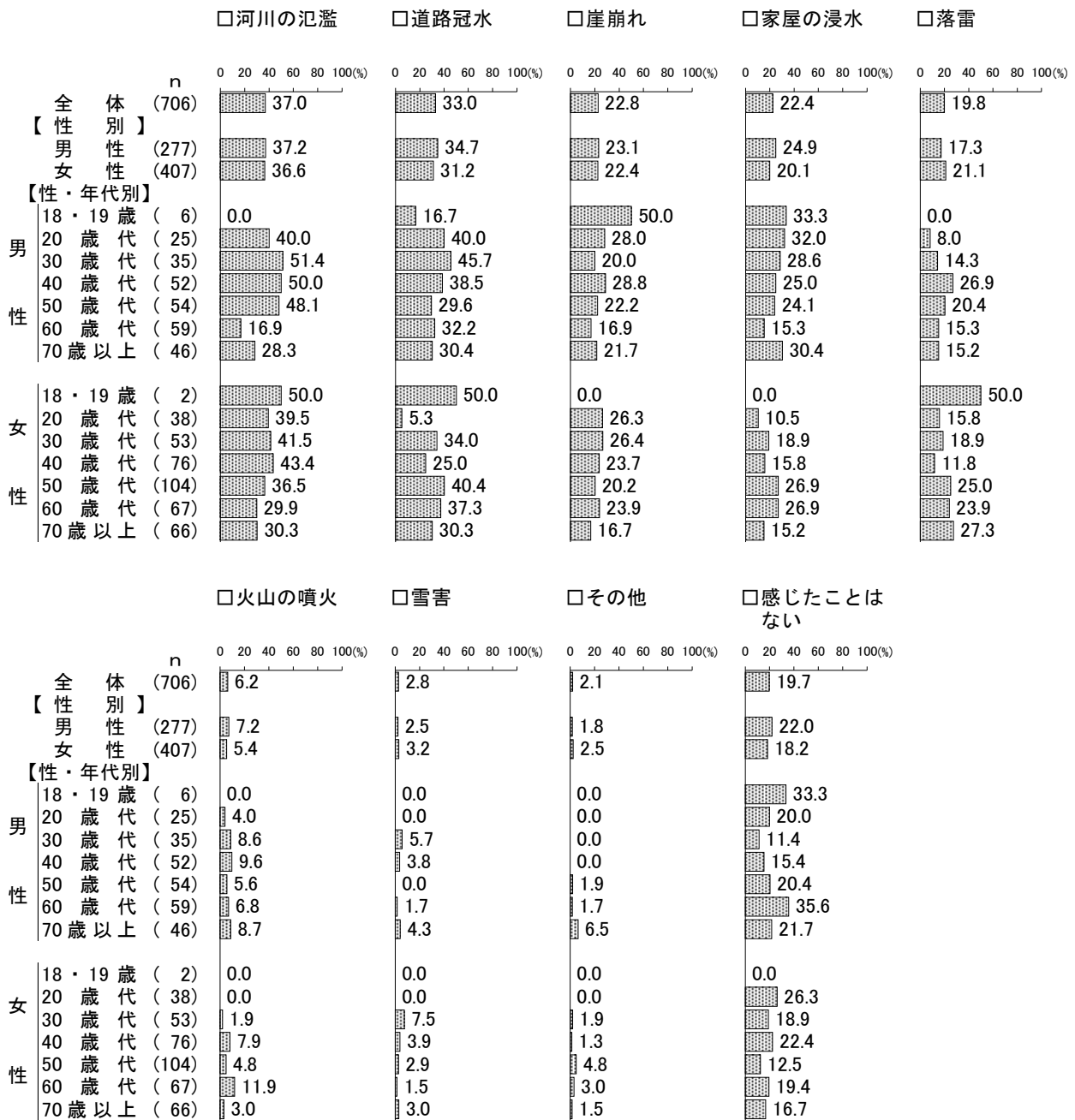
図 3-9 災害に対する不安



災害に対する不安を聞いたところ、「河川の氾濫」(37.0%)が4割近くで最も高く、次いで「道路冠水」(33.0%)、「崖崩れ」(22.8%)、「家屋の浸水」(22.4%)となっている。一方、「感じたことはない」(19.7%)は2割となっている。

2020年度と比較すると、「崖崩れ」は3.1ポイント、「火山の噴火」は3.0ポイント、それぞれ増加している。一方、「家屋の浸水」は3.2ポイント減少している。(図3-9)

図 3-10 災害に対する不安（性別、性・年代別）

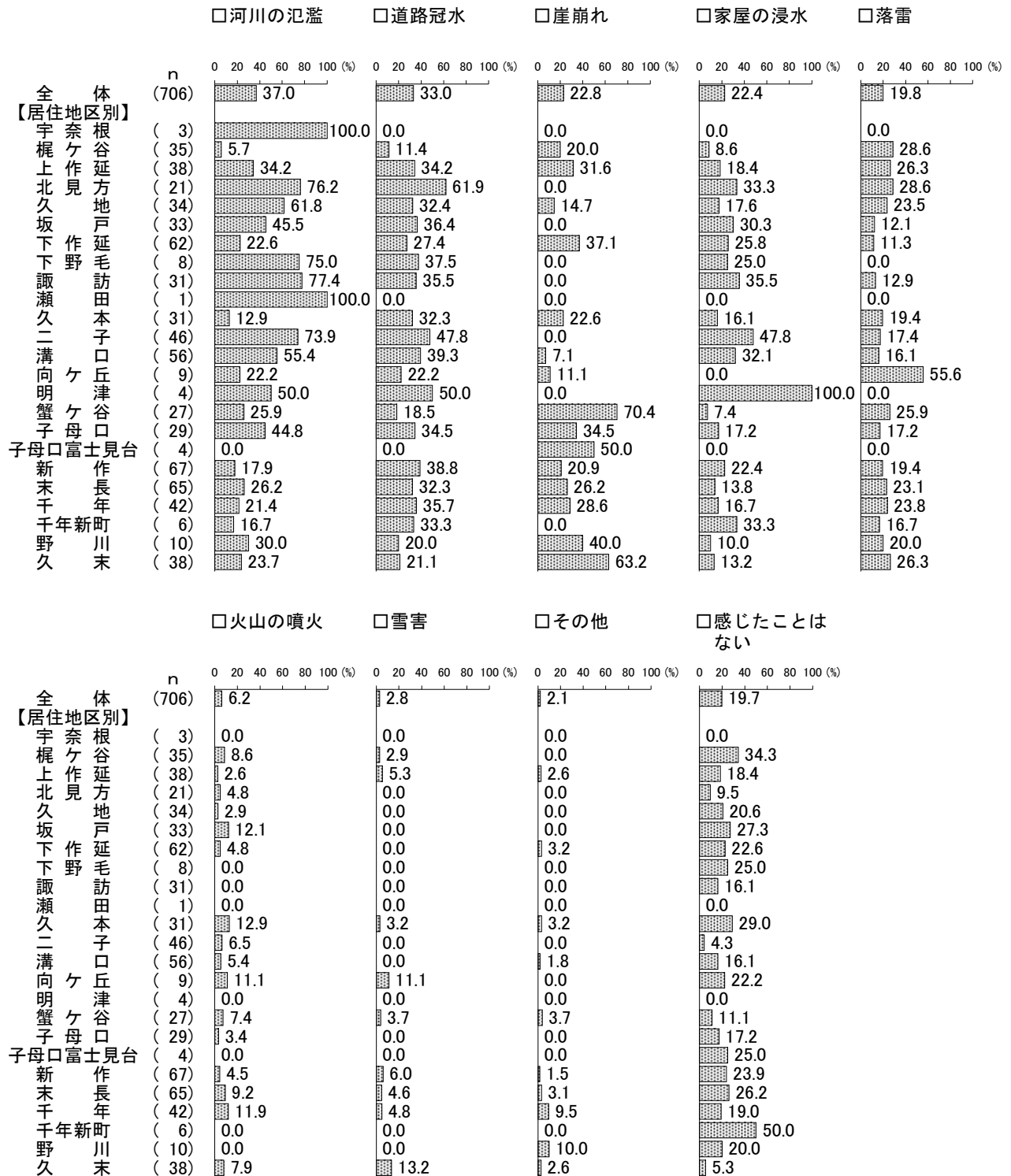


性別にみると、「家屋の浸水」は男性（24.9%）が女性（20.1%）より 4.8 ポイント高くなっている。一方、「落雷」は女性（21.1%）が男性（17.3%）より 3.8 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「河川の氾濫」は男性 30 歳代（51.4%）と男性 40 歳代（50.0%）で 5 割台と高くなっている。「道路冠水」は男性 30 歳代（45.7%）で 4 割半ばと高くなっている。「家屋の浸水」は男性 20 歳代（32.0%）と男性 70 歳以上（30.4%）で 3 割台と高くなっている。

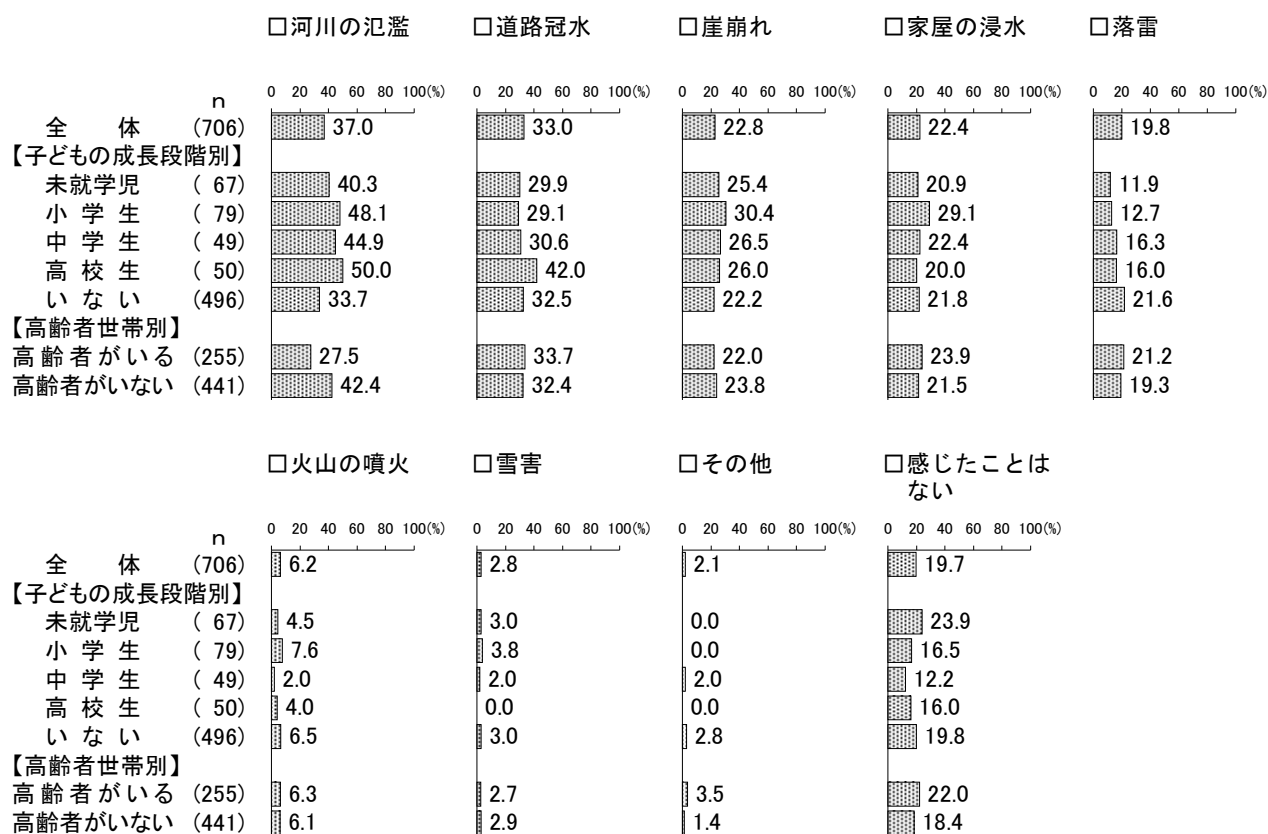
（図 3-10）

図3-11 災害に対する不安（居住地区別）



居住地区別にみると、「河川の氾濫」は諏訪（77.4%）で8割近くと高くなっている。「道路冠水」は北見方（61.9%）で6割を超えて高くなっている。「崖崩れ」は蟹ヶ谷（70.4%）で7割と高くなっている。（図3-11）

図3-12 災害に対する不安（子どもの成長段階別、高齢者世帯別）



子どもの成長段階別にみると、「河川の氾濫」は高校生がいる世帯（50.0%）で5割と高くなっている。「道路冠水」は高校生がいる世帯（42.0%）で4割を超えて高くなっている。「崖崩れ」は小学生がいる世帯（30.4%）で3割と高くなっている。

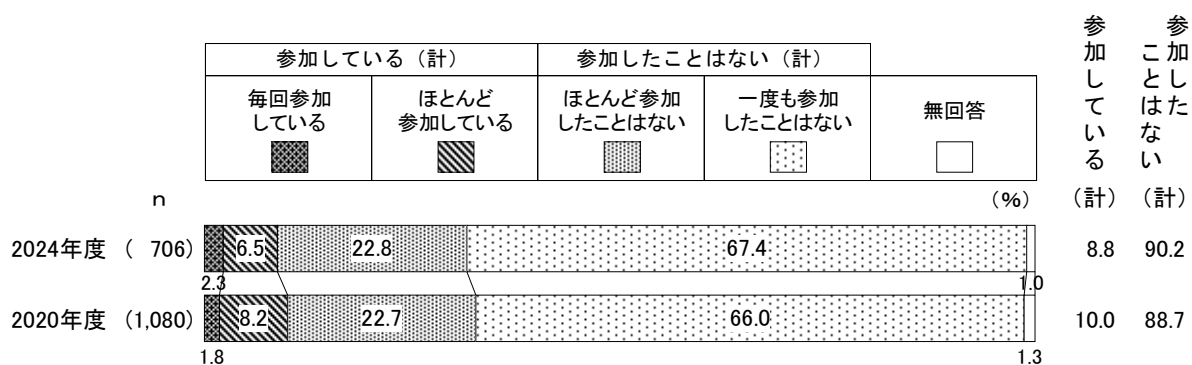
高齢者世帯別にみると、「河川の氾濫」は高齢者がいない世帯（42.4%）が高齢者がいる世帯（27.5%）より14.9ポイント高くなっている。一方、「感じたことはない」は高齢者がいる世帯（22.0%）が高齢者がいない世帯（18.4%）より3.6ポイント高くなっている。（図3-12）

(4) 町内会・自治会等主催の防災訓練参加有無

問 46 あなたは町内会・自治会等が主催する地域の防災訓練に参加していますか。

(1つだけ○)

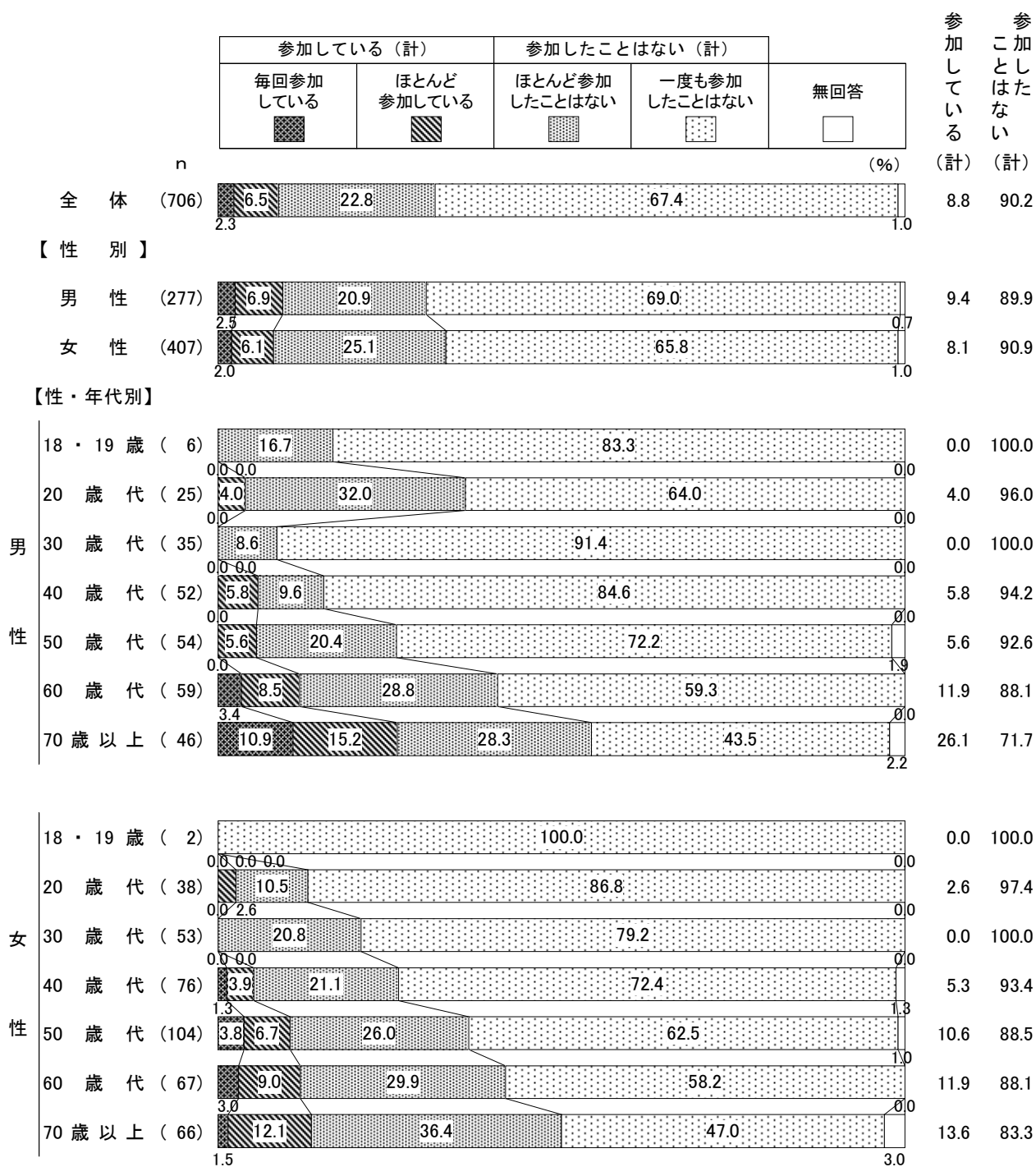
図 3-13 町内会・自治会等主催の防災訓練参加有無



町内会・自治会等主催の防災訓練に参加しているか聞いたところ、「毎回参加している」(2.3%)と「ほとんど参加している」(6.5%)を合わせた『参加している(計)』(8.8%)は1割未満となっている。一方、「ほとんど参加したことはない」(22.8%)と「一度も参加したことはない」(67.4%)を合わせた『参加したことはない(計)』(90.2%)は9割となっている。

2020年度と比較すると、大きな傾向の変化はみられない。(図3-13)

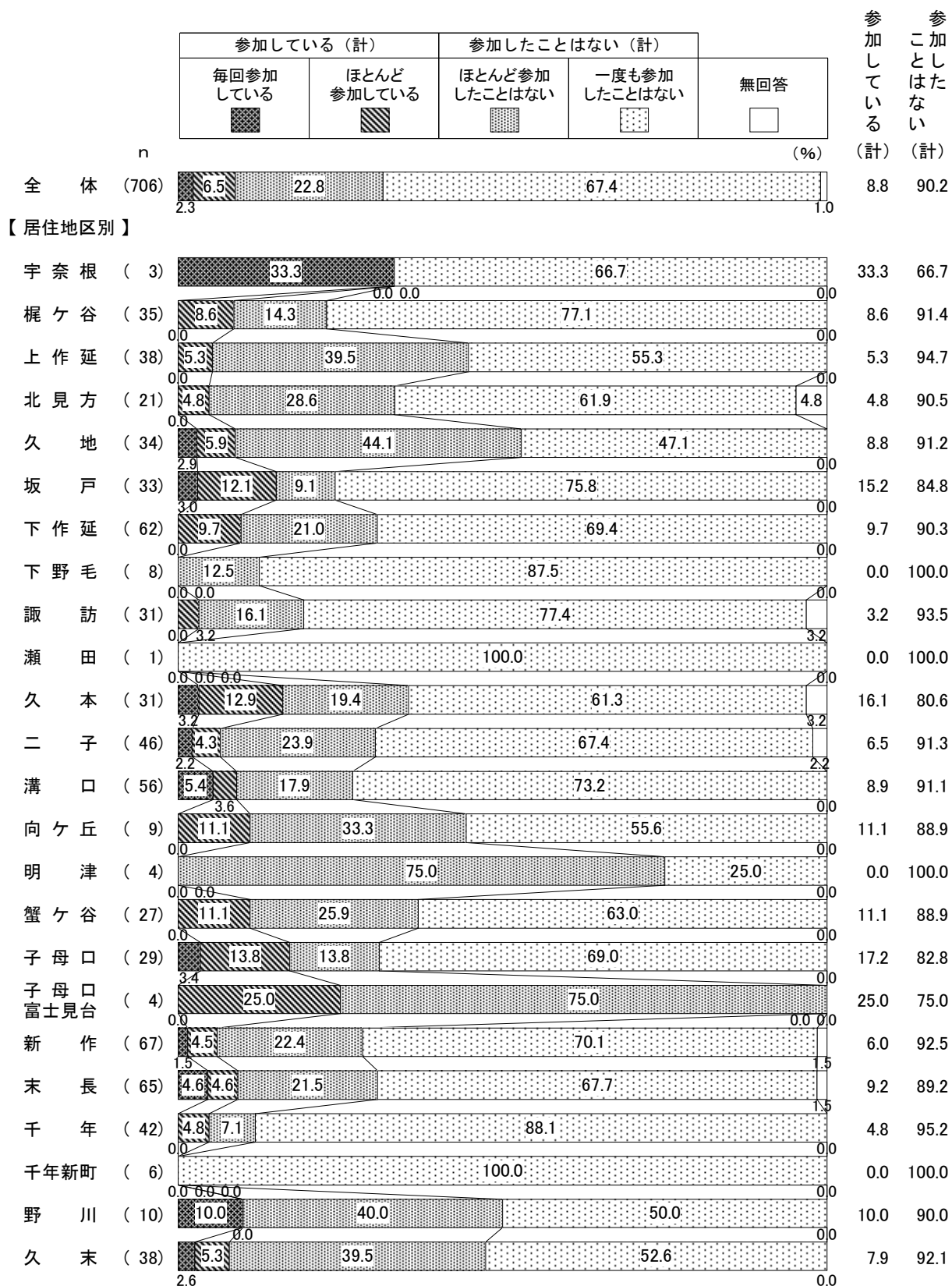
図3-14 町内会・自治会等主催の防災訓練参加有無（性別、性・年代別）



性別にみると、「一度も参加したことはない」は男性（69.0％）が女性（65.8％）より3.2ポイント高くなっている。

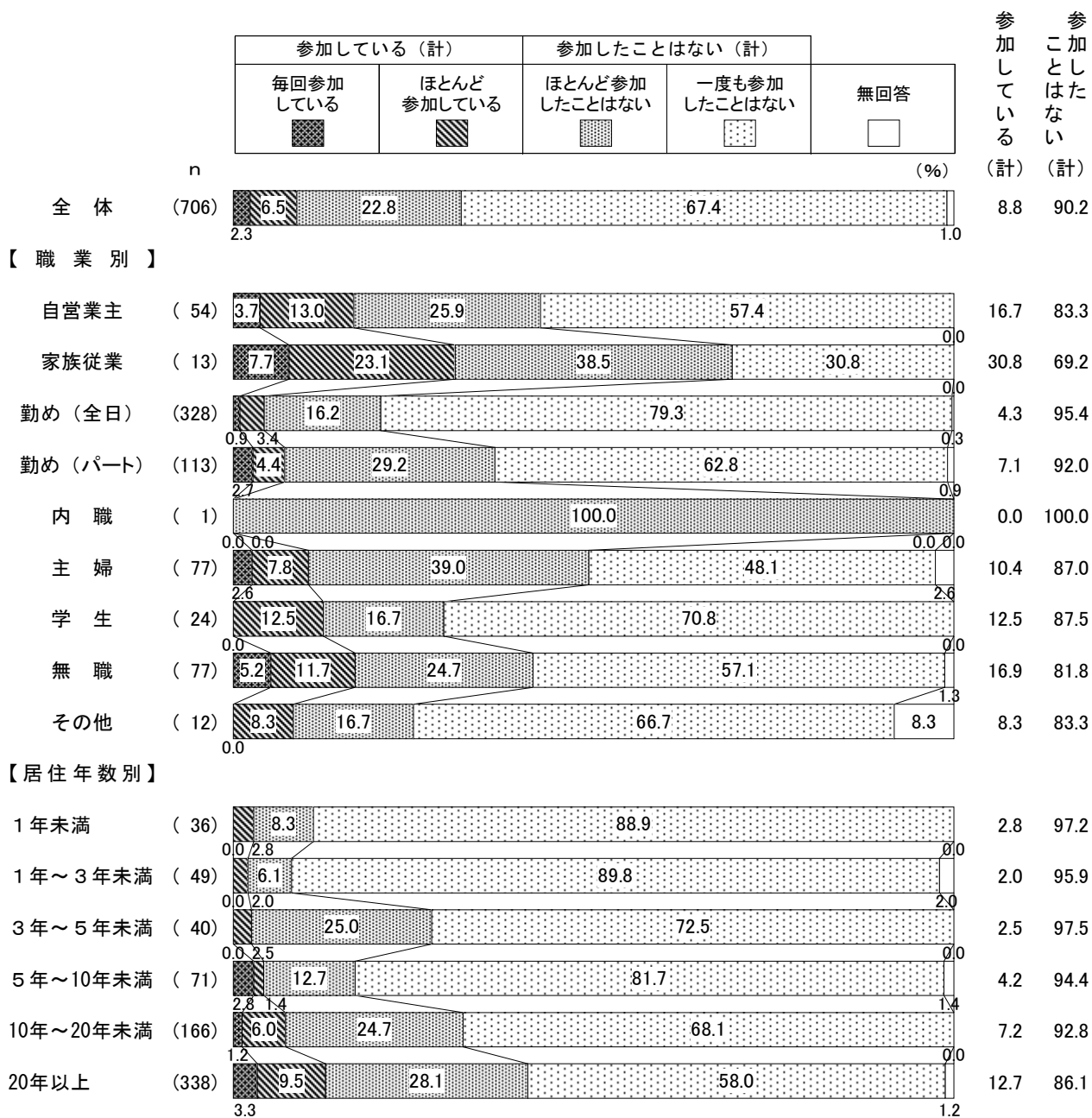
性・年代別にみると、『参加している（計）』は男性70歳以上（26.1％）で2割半ばと高くなっている。一方、『参加したことはない（計）』は男性30歳代と女性30歳代（ともに100.0％）で10割と高くなっている。（図3-14）

図 3-15 町内会・自治会等主催の防災訓練参加有無（居住地区別）



居住地区別にみると、『参加している（計）』は子母口（17.2%）で2割近くとなっている。一方、『参加したことはない（計）』は千年（95.2%）と上作延（94.7%）で9割半ばと高くなっている。（図 3-15）

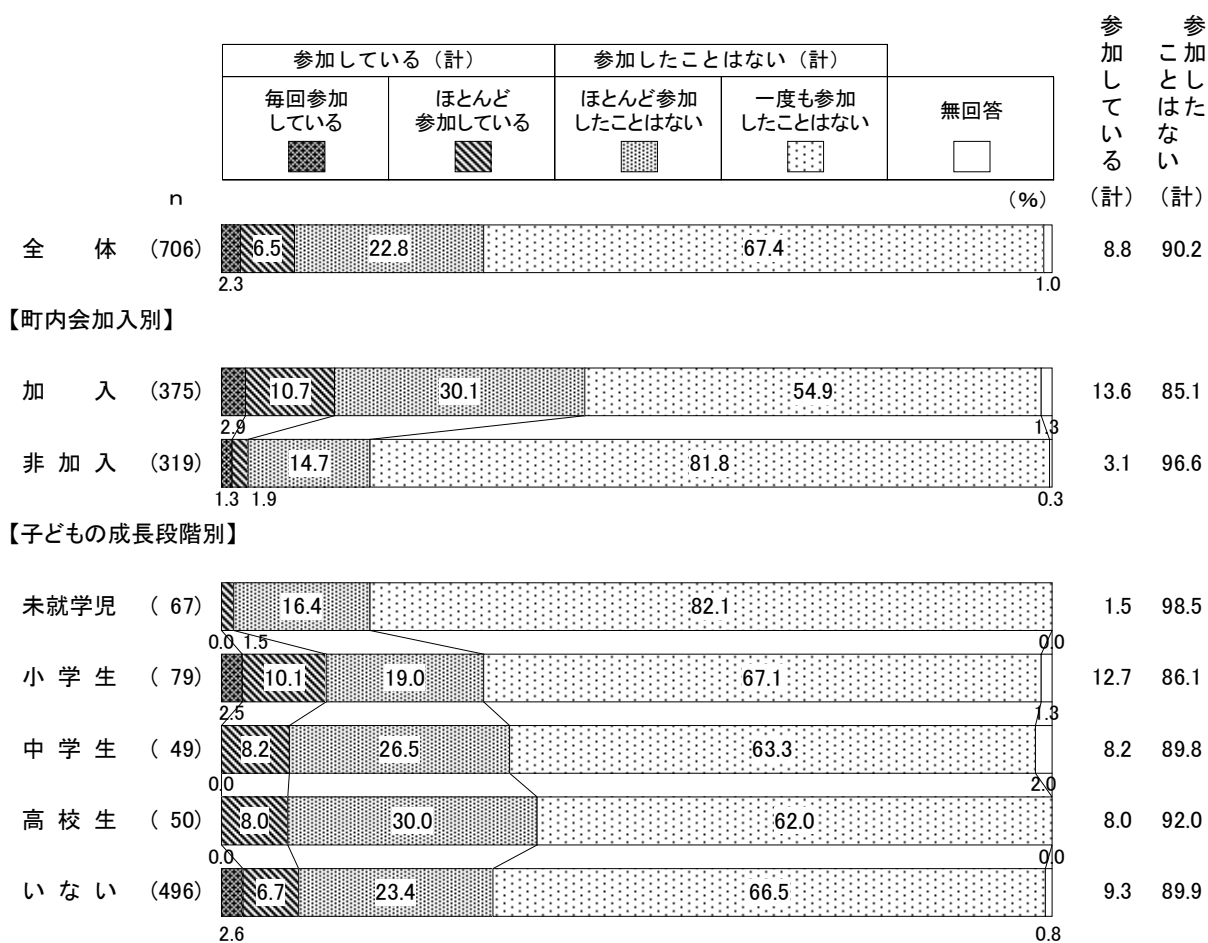
図3-16 町内会・自治会等主催の防災訓練参加有無（職業別、居住年数別）



職業別にみると、『参加している（計）』は無職（16.9%）と自営業主（16.7%）で2割近くとなっている。一方、『参加したことはない（計）』は勤め（全日）（95.4%）で9割半ばと高くなっている。

居住年数別にみると、『参加したことはない（計）』は1年未満（97.2%）と3年～5年未満（97.5%）で10割近くと高くなっている。（図3-16）

図 3-17 町内会・自治会等主催の防災訓練参加有無（町内会加入別、子どもの成長段階別）



町内会加入別にみると、『参加している（計）』は加入（13.6％）が非加入（3.1％）より 10.5 ポイント高くなっている。

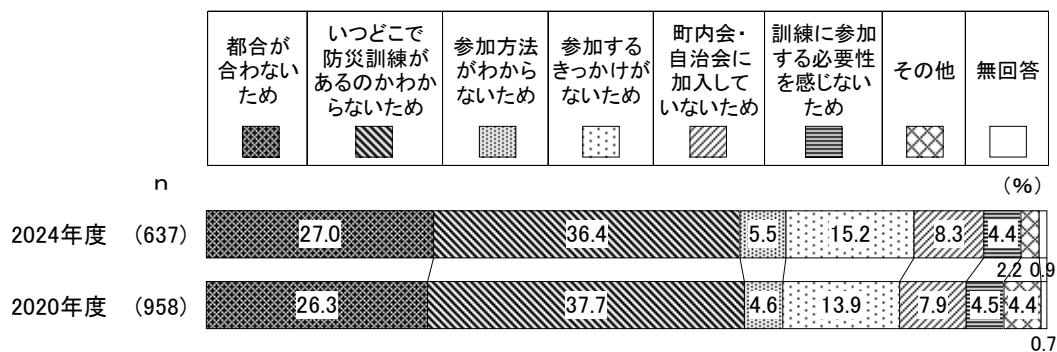
子どもの成長段階別にみると、『参加したことはない（計）』は未就学児がいる世帯（98.5％）で 10 割近くと高くなっている。（図 3-17）

（５）町内会・自治会等主催の防災訓練に参加しない理由

（問 46 で、「ほとんど参加したことはない」「一度も参加したことはない」と回答した方に伺います）

問 46－１ 地域の防災訓練に参加しない主な理由は何ですか。（１つだけ○）

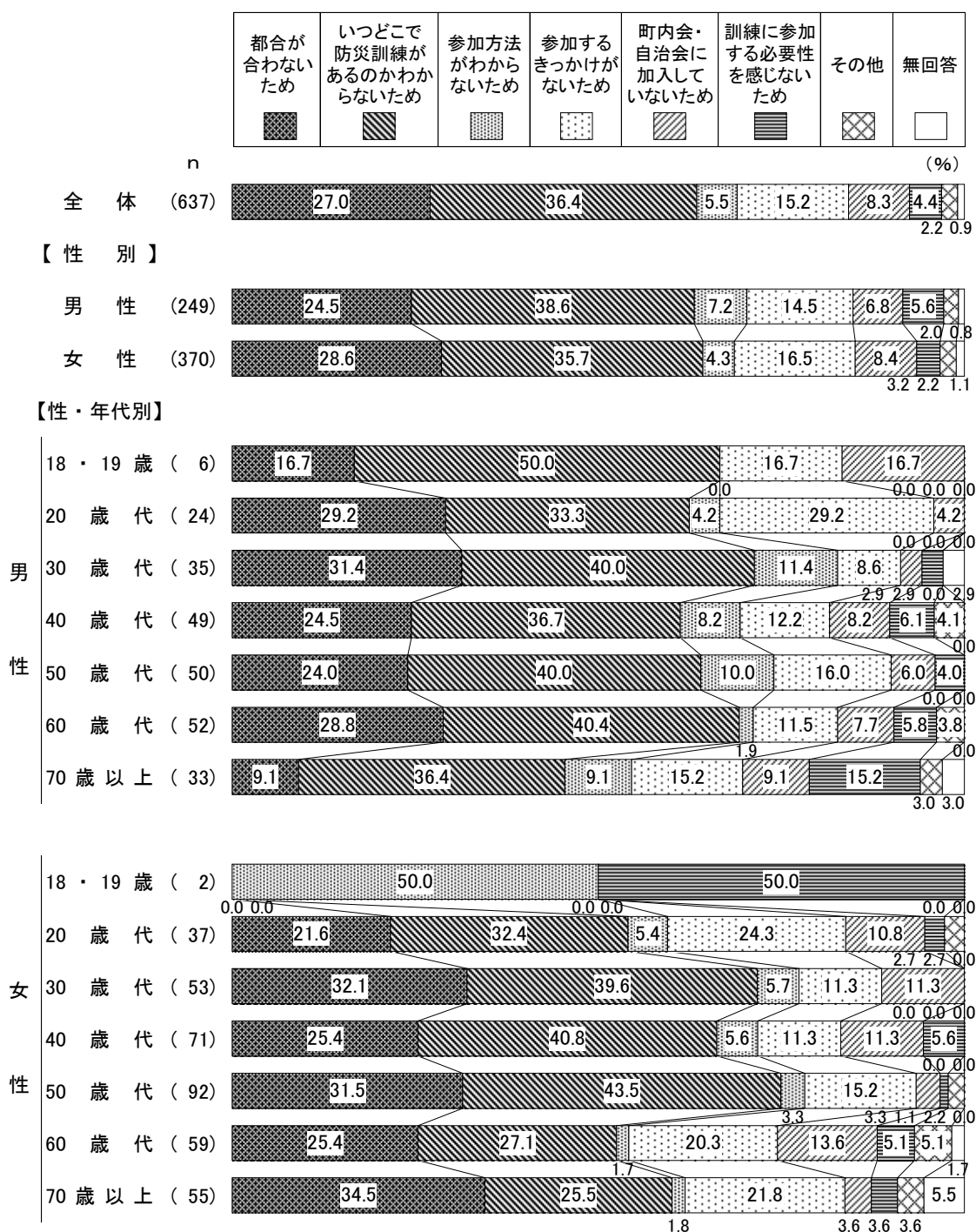
図 3-18 町内会・自治会等主催の防災訓練に参加しない理由



町内会・自治会等主催の防災訓練に参加しない理由を聞いたところ、「いつどこで防災訓練があるのかわからないため」(36.4%) が３割半ばで最も高く、次いで「都合が合わないため」(27.0%)、「参加するきっかけがないため」(15.2%)、「町内会・自治会に加入していないため」(8.3%) となっている。

2020 年度と比較すると、大きな傾向の変化はみられない。(図 3-18)

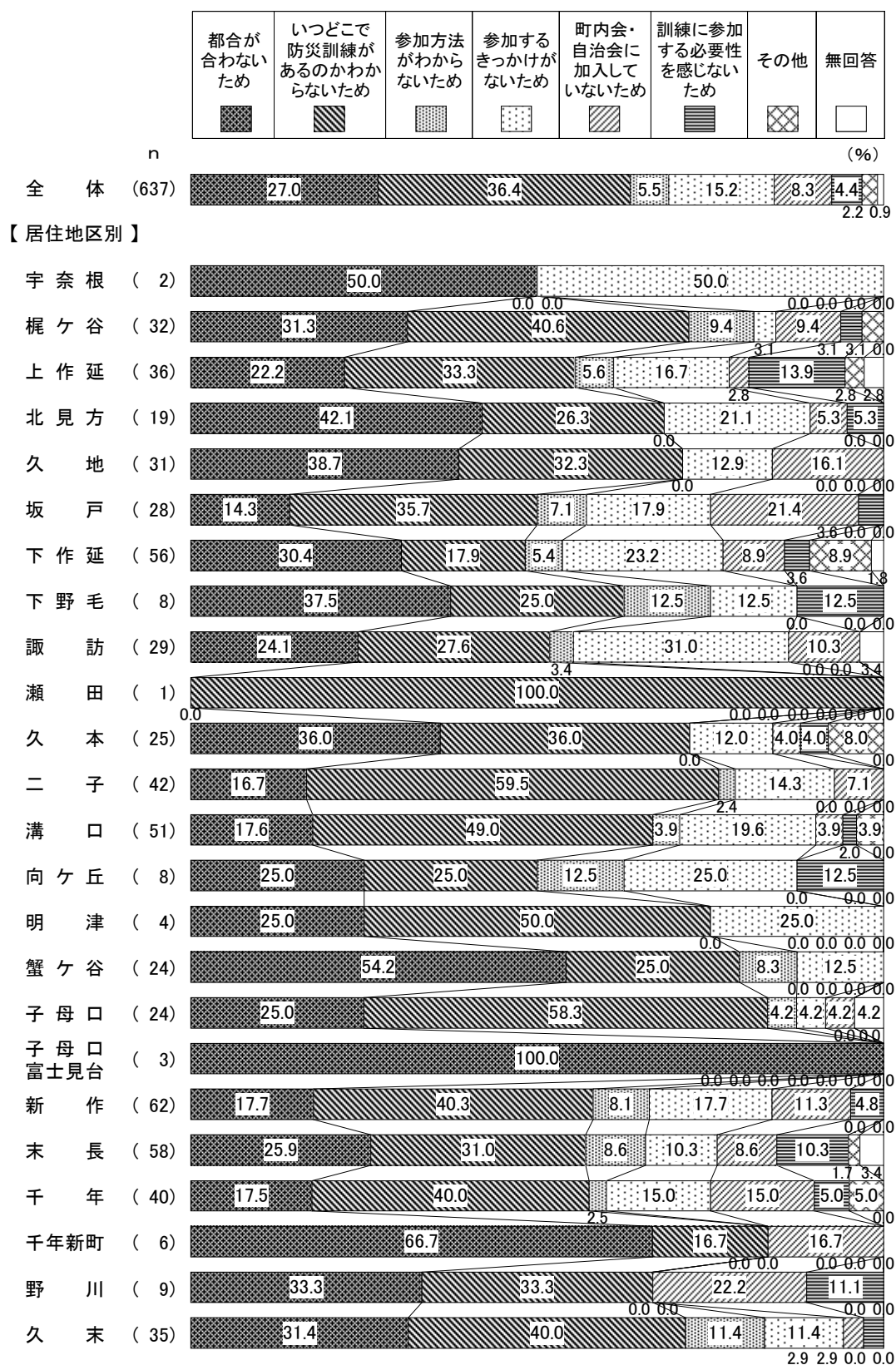
図 3-19 町内会・自治会等主催の防災訓練に参加しない理由（性別、性・年代別）



性別にみると、「都合が合わないため」は女性（28.6％）が男性（24.5％）より 4.1 ポイント高くなっている。

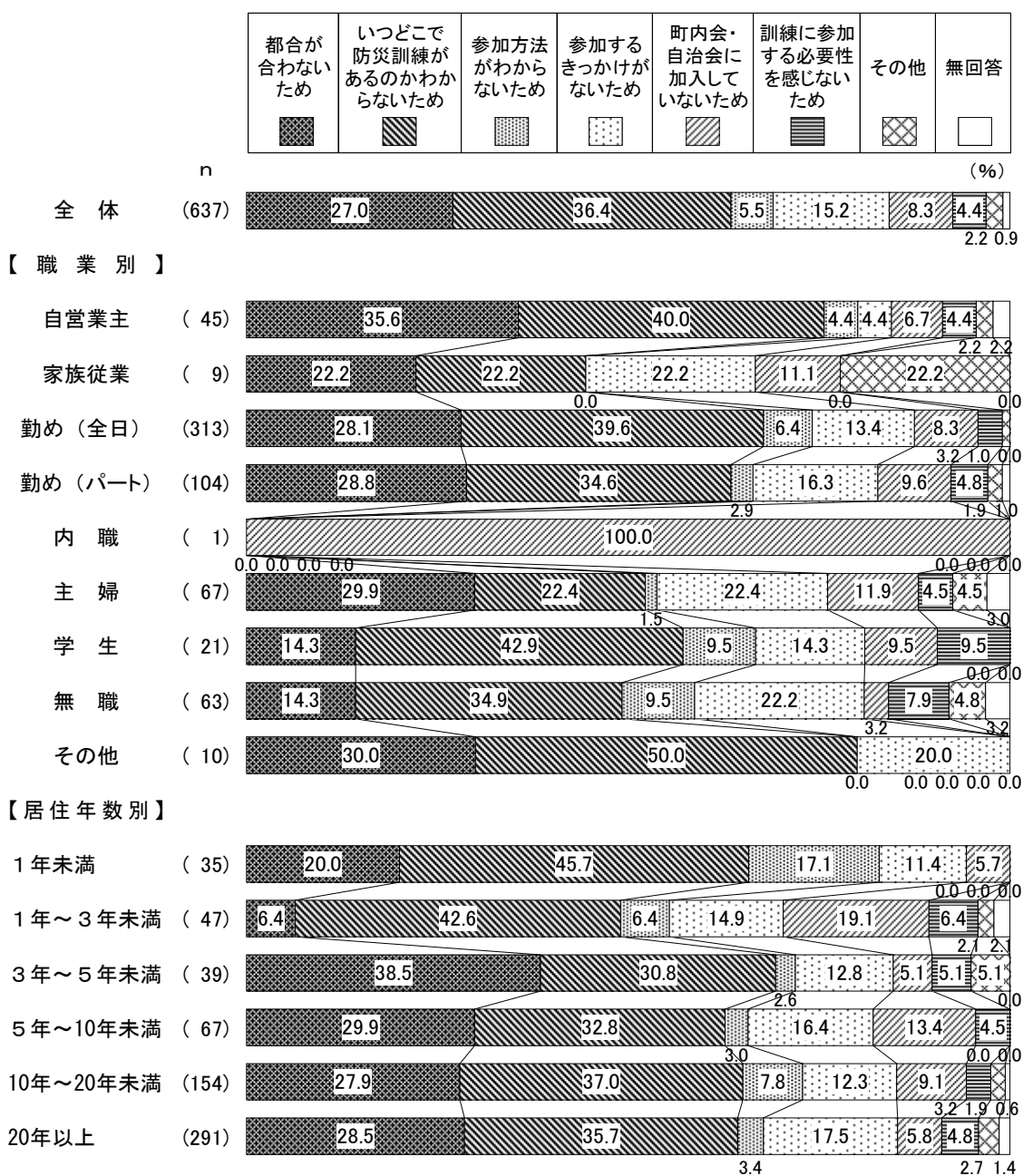
性・年代別にみると、「都合が合わないため」は女性 70 歳以上（34.5％）で 3 割半ばと高くなっている。「いつどこで防災訓練があるのかわからないため」は女性 50 歳代（43.5％）で 4 割を超えて高くなっている。「参加するきっかけがないため」は男性 20 歳代（29.2％）で約 3 割と高くなっている。（図 3-19）

図3-20 町内会・自治会等主催の防災訓練に参加しない理由（居住地区別）



居住地区別にみると、「都合が合わないため」は蟹ヶ谷（54.2%）で5割半ばと高くなっている。「いつどこで防災訓練があるのかわからないため」は二子（59.5%）で6割と高くなっている。「参加するきっかけがないため」は諏訪（31.0%）で3割を超えて高くなっている。（図3-20）

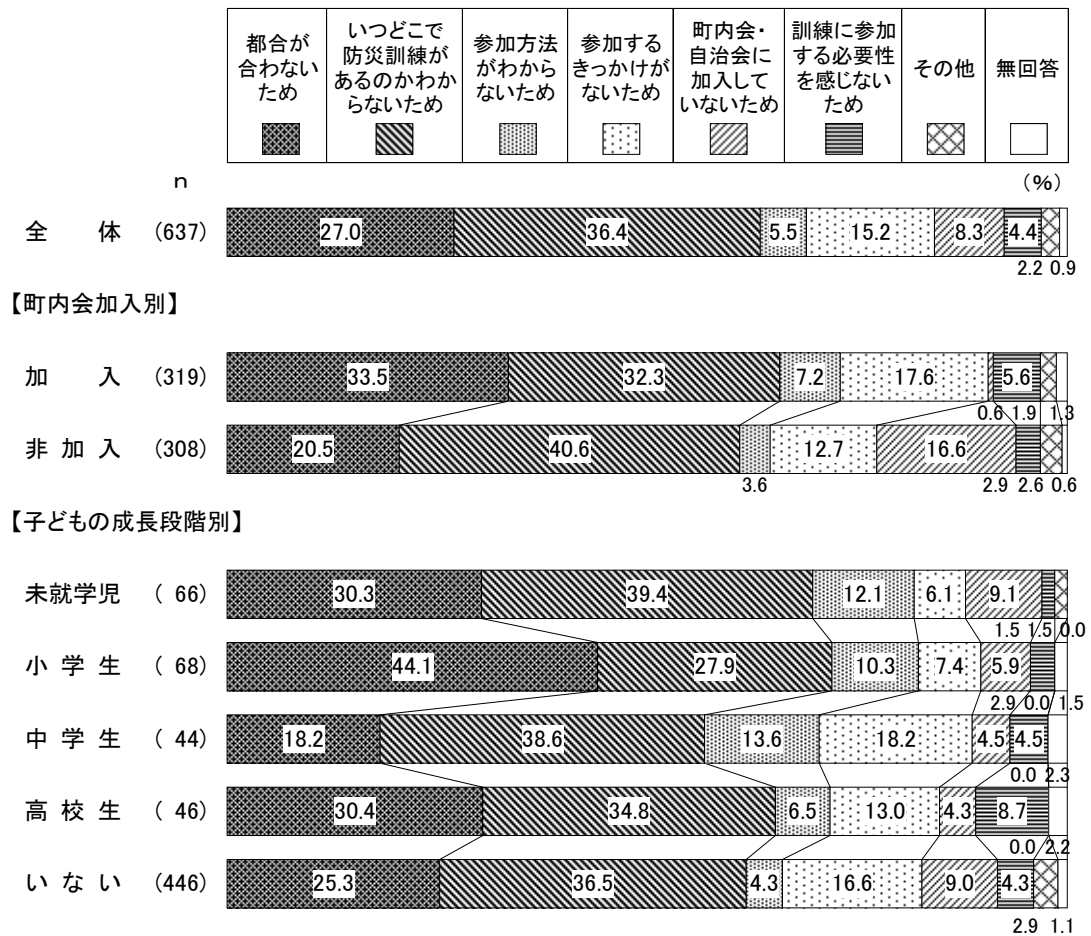
図 3-21 町内会・自治会等主催の防災訓練に参加しない理由（職業別、居住年数別）



職業別にみると、「都合が合わないため」は自営業主（35.6%）で3割半ばと高くなっている。「いつどこで防災訓練があるのかわからないため」は学生（42.9%）で4割を超えて高くなっている。

居住年数別にみると、「都合が合わないため」は3年～5年未満（38.5%）で4割近くと高くなっている。「いつどこで防災訓練があるのかわからないため」は1年未満（45.7%）で4割半ばと高くなっている。（図 3-21）

図 3-22 町内会・自治会等主催の防災訓練に参加しない理由
(町内会加入別、子どもの成長段階別)



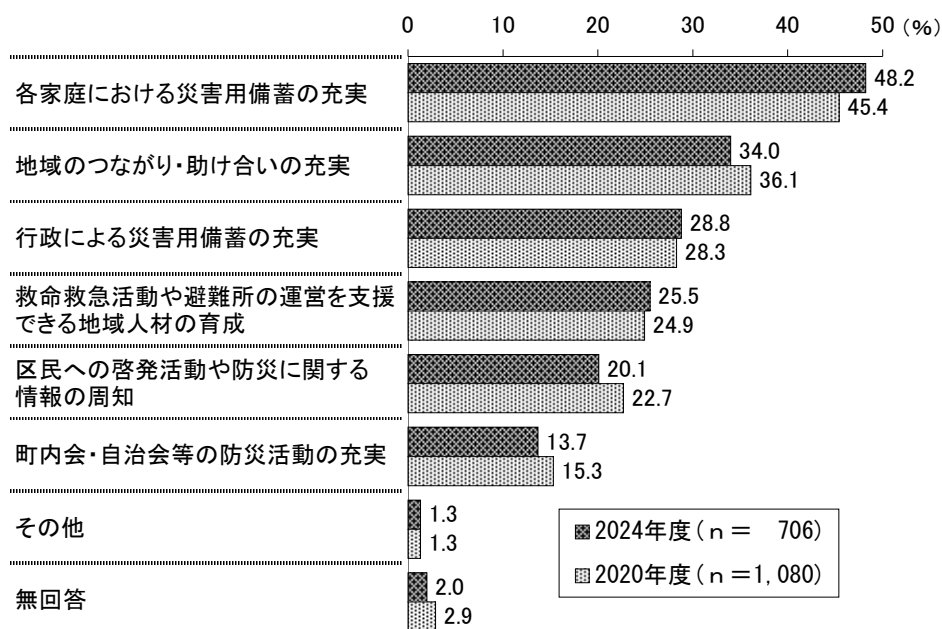
町内会加入別にみると、「町内会・自治会に加入していないため」は非加入(16.6%)が加入(0.6%)より16.0ポイント高くなっている。一方、「都合が合わないため」は加入(33.5%)が非加入(20.5%)より13.0ポイント高くなっている。

子どもの成長段階別にみると、「都合が合わないため」は小学生がいる世帯(44.1%)で4割半ばと高くなっている。「いつどこで防災訓練があるのかわからないため」は未就学児がいる世帯(39.4%)で約4割と高くなっている。(図3-22)

（６）防災力を高めるために必要なこと

問 47 地域の防災力を高めるには、何が大切だと思いますか。（２つまで○）

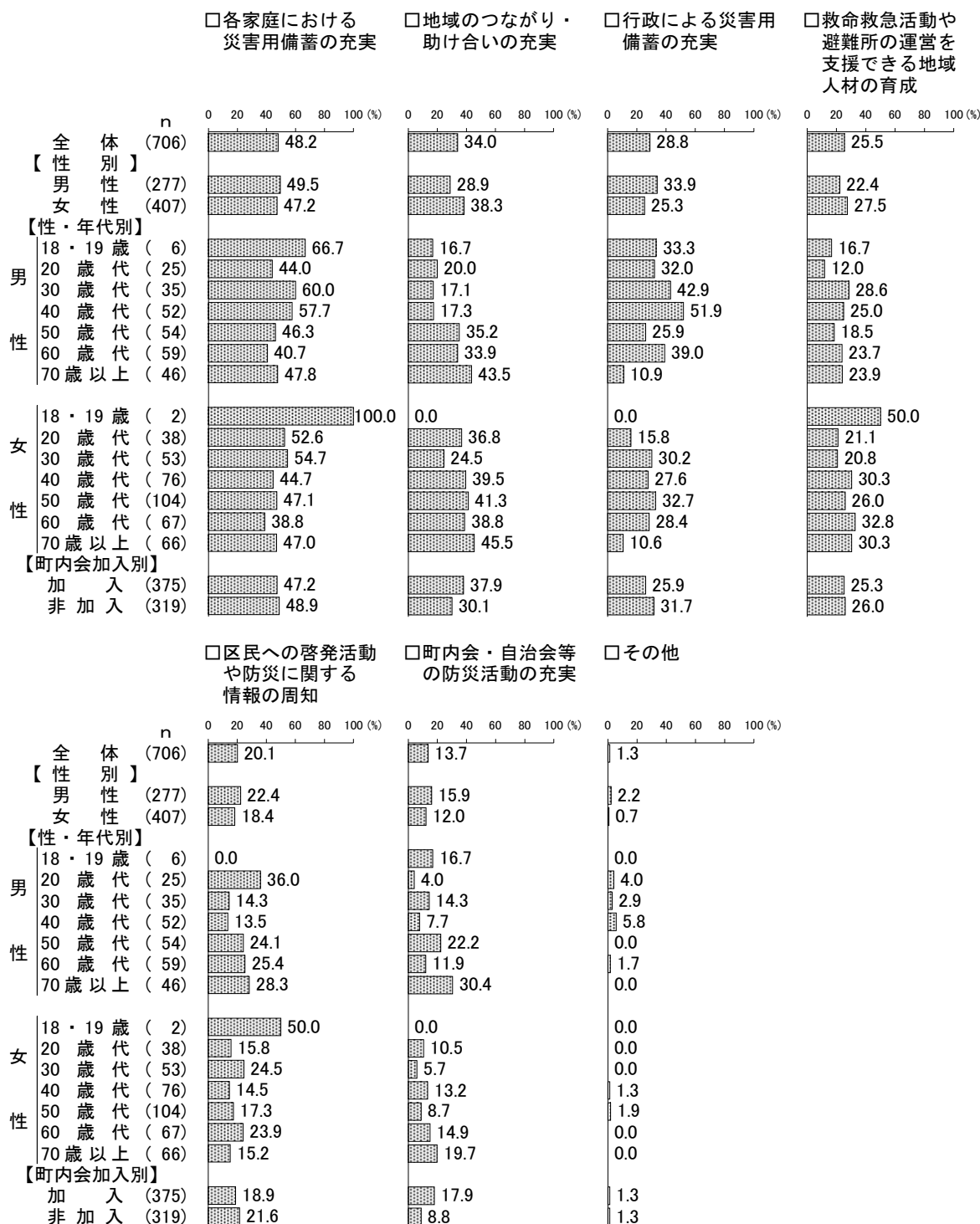
図 3-23 防災力を高めるために必要なこと



防災力を高めるために大切だと思うことを聞いたところ、「各家庭における災害用備蓄の充実」（48.2%）が5割近くで最も高く、次いで「地域のつながり・助け合いの充実」（34.0%）、「行政による災害用備蓄の充実」（28.8%）、「救命救急活動や避難所の運営を支援できる地域人材の育成」（25.5%）となっている。

2020年度と比較すると、大きな傾向の変化はみられない。（図 3-23）

図 3-24 防災力を高めるために必要なこと（性別、性・年代別、町内会加入別）



性別にみると、「地域のつながり・助け合いの充実」は女性（38.3%）が男性（28.9%）より 9.4 ポイント高くなっている。一方、「行政による災害用備蓄の充実」は男性（33.9%）が女性（25.3%）より 8.6 ポイント高くなっている。

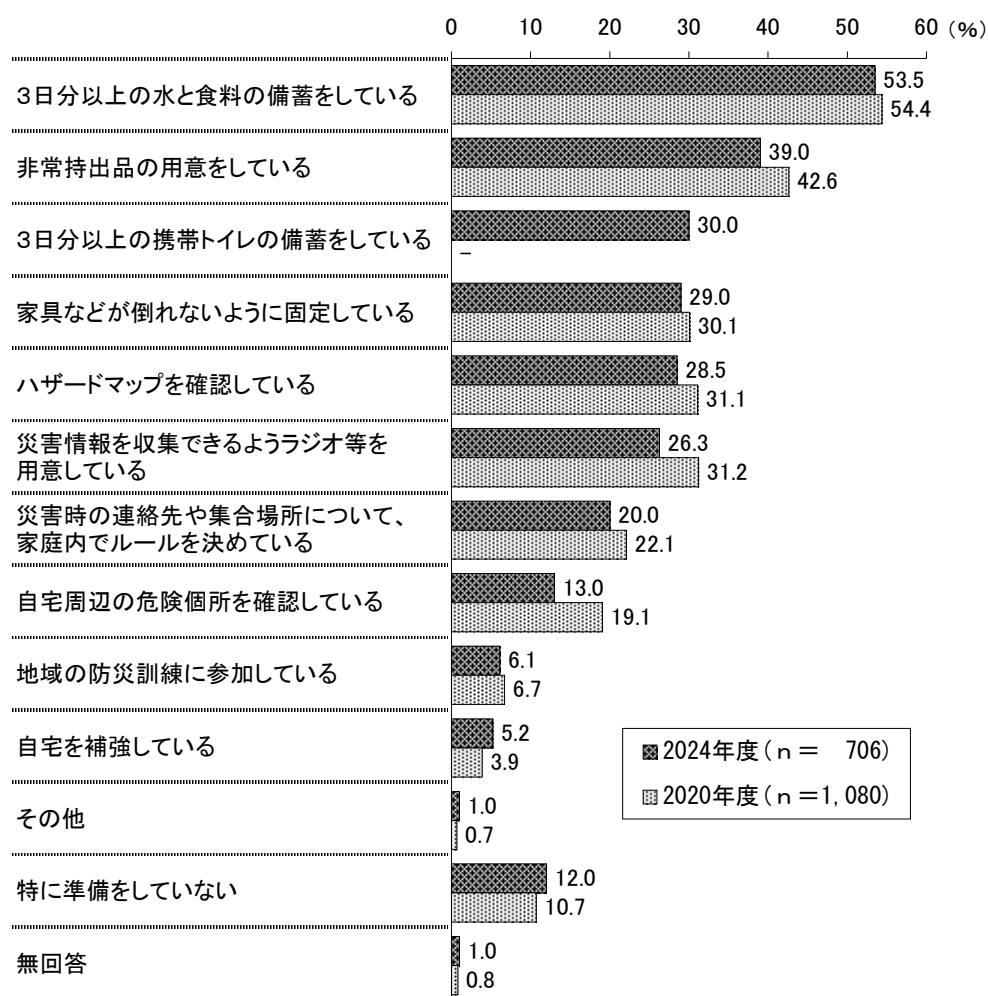
性・年代別にみると、「各家庭における災害用備蓄の充実」は男性 30 歳代（60.0%）で 6 割と高くなっている。「行政による災害用備蓄の充実」は男性 40 歳代（51.9%）で 5 割を超えて高くなっている。

町内会加入別にみると、「町内会・自治会等の防災活動の充実」は加入（17.9%）が非加入（8.8%）より 9.1 ポイント高くなっている。一方、「行政による災害用備蓄の充実」は非加入（31.7%）が加入（25.9%）より 5.8 ポイント高くなっている。（図 3-24）

(7) 大規模災害発生への備え

問 48 あなたの家庭では、普段から大規模災害の発生に備え、どのようなことをしていますか。(あてはまるもの全てに○)

図 3-25 大規模災害発生への備え



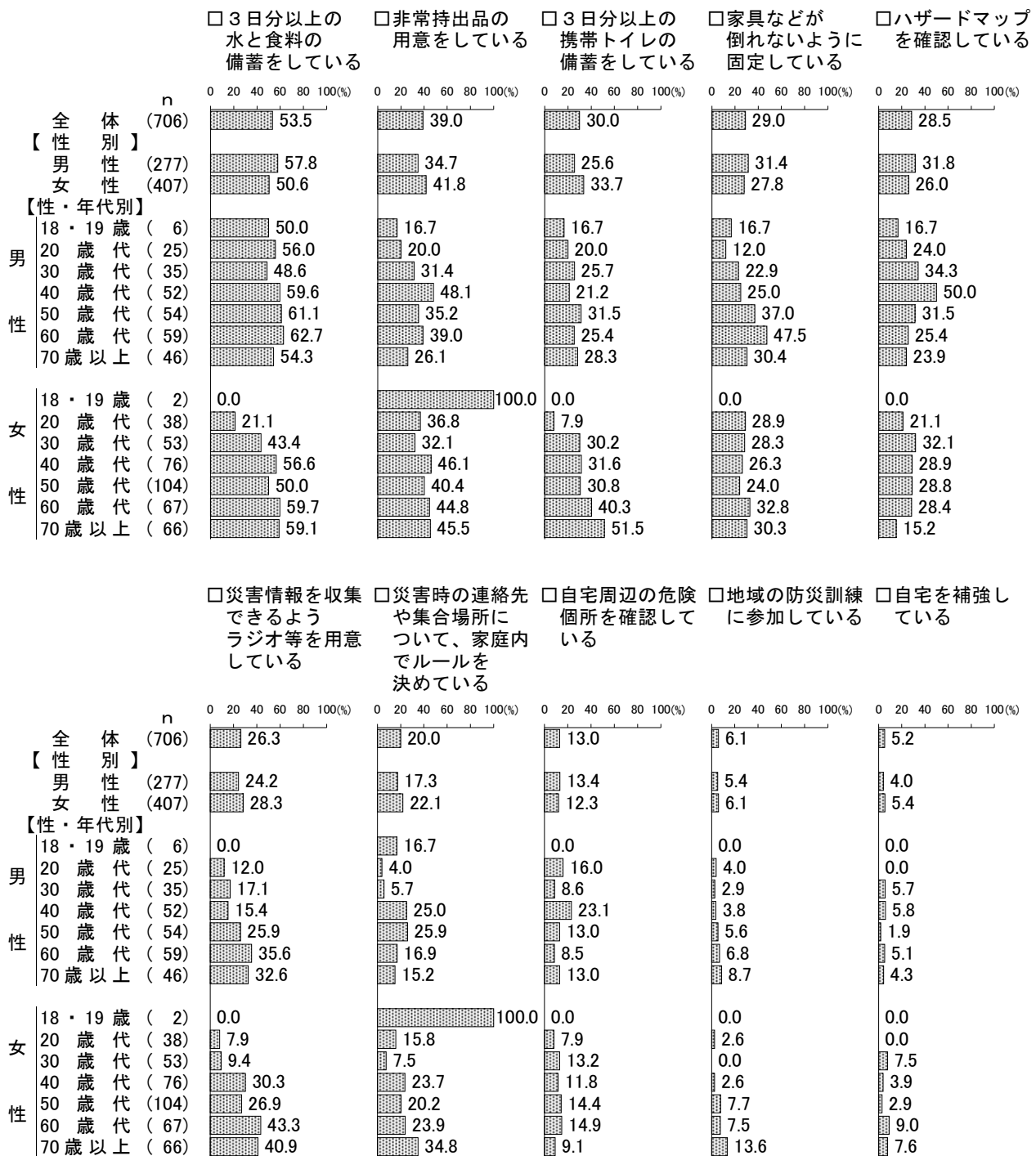
※「3日以上の水と食料の備蓄をしている」は、2020年度では「3日分程度の水と食料の備蓄をしている」としていた

※「3日以上携帯トイレの備蓄をしている」は、2024年度に追加された選択肢

大規模災害発生への備えを聞いたところ、「3日以上の水と食料の備蓄をしている」(53.5%)が5割を超えて最も高く、次いで「非常持出品の用意をしている」(39.0%)、「3日以上携帯トイレの備蓄をしている」(30.0%)、「家具などが倒れないように固定している」(29.0%)となっている。

2020年度と比較すると、「自宅周辺の危険個所を確認している」は6.1ポイント、「災害情報を収集できるようラジオ等を用意している」は4.9ポイント、「非常持出品の用意をしている」は3.6ポイント、それぞれ減少している。(図3-25)

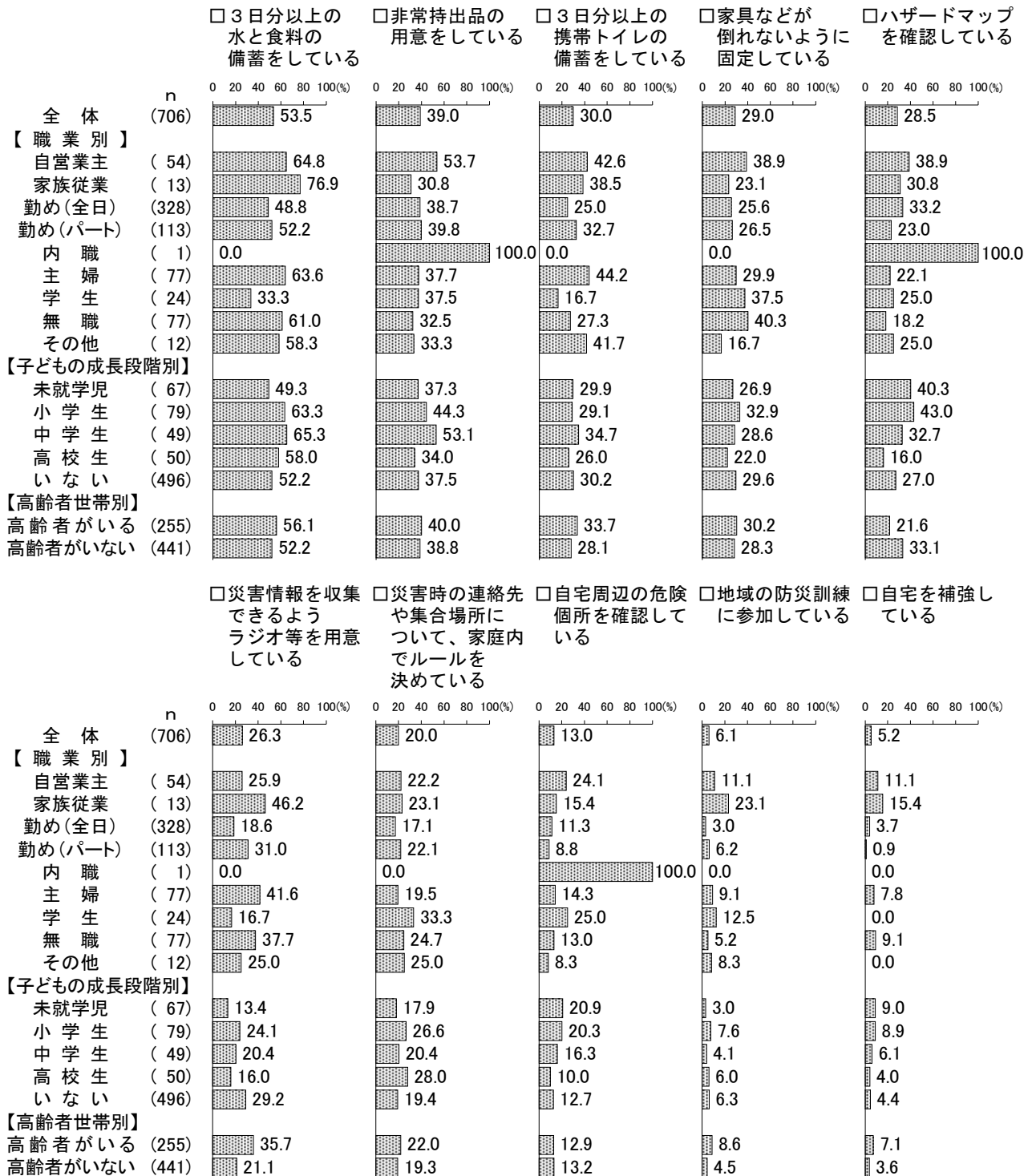
図3-26 大規模災害発生への備え（性別、性・年代別）ー上位10項目



性別にみると、「3日分以上の携帯トイレの備蓄をしている」は女性（33.7%）が男性（25.6%）より8.1ポイント高くなっている。一方、「3日分以上の水と食料の備蓄をしている」は男性（57.8%）が女性（50.6%）より7.2ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「3日分以上の水と食料の備蓄をしている」は男性50歳代（61.1%）と男性60歳代（62.7%）で6割を超えて高くなっている。「3日分以上の携帯トイレの備蓄をしている」は女性70歳以上（51.5%）で5割を超えて高くなっている。（図3-26）

図3-27 大規模災害発生への備え（職業別、子どもの成長段階別、高齢者世帯別）ー上位10項目

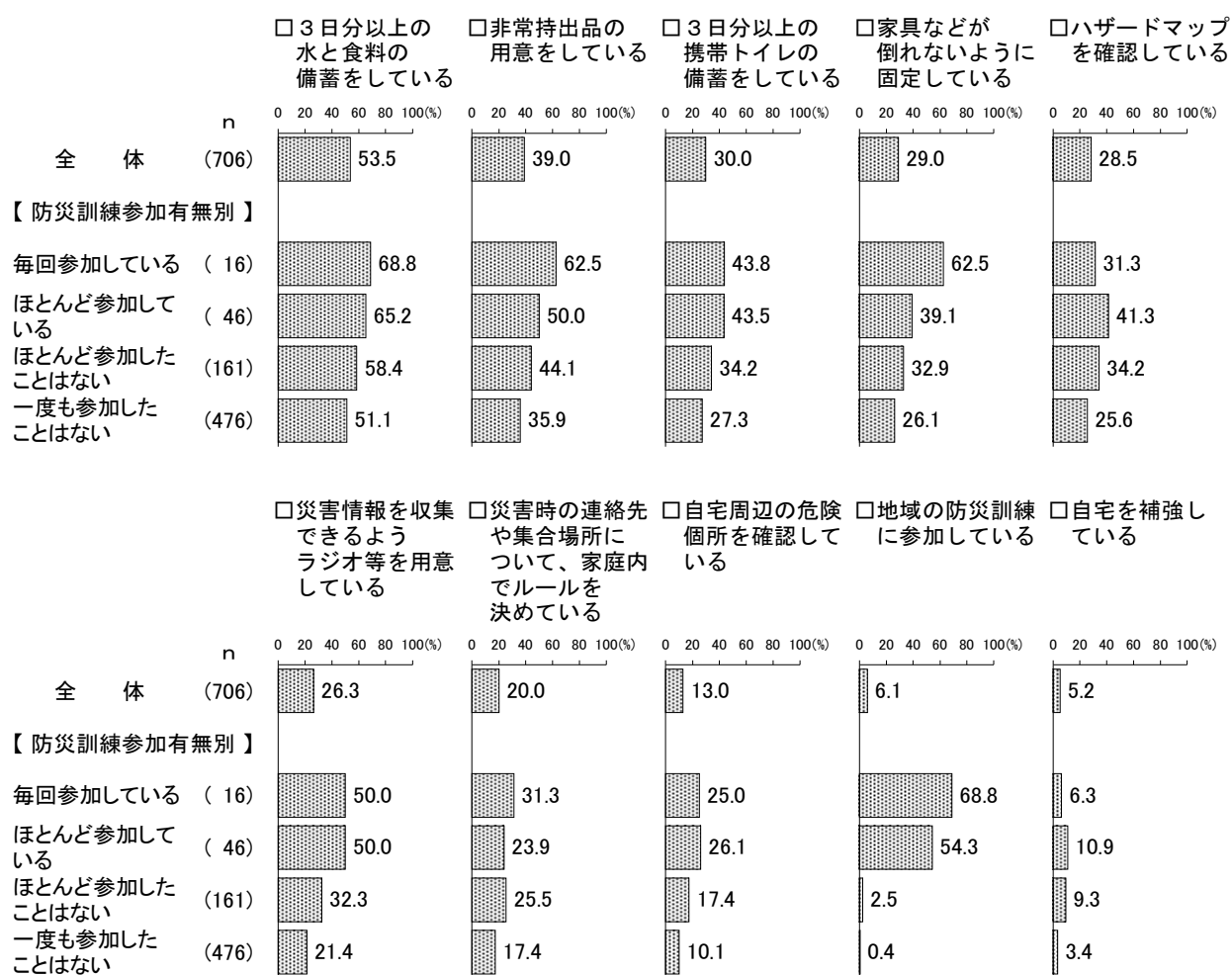


職業別にみると、「3日分以上の水と食料の備蓄をしている」は自営業主（64.8%）で6割半ばと高くなっている。「非常持出品の用意をしている」は自営業主（53.7%）で5割を超えて高くなっている。

子どもの成長段階別にみると、「3日分以上の水と食料の備蓄をしている」は中学生がいる世帯（65.3%）で6割半ばと高くなっている。「非常持出品の用意をしている」は中学生がいる世帯（53.1%）で5割を超えて高くなっている。

高齢者世帯別にみると、「災害情報を収集できるようにラジオ等を用意している」は高齢者がいる世帯（35.7%）が高齢者がいない世帯（21.1%）より14.6ポイント高くなっている。（図3-27）

図 3-28 大規模災害発生への備え（町内会・自治会等主催の防災訓練参加有無別）－上位10項目



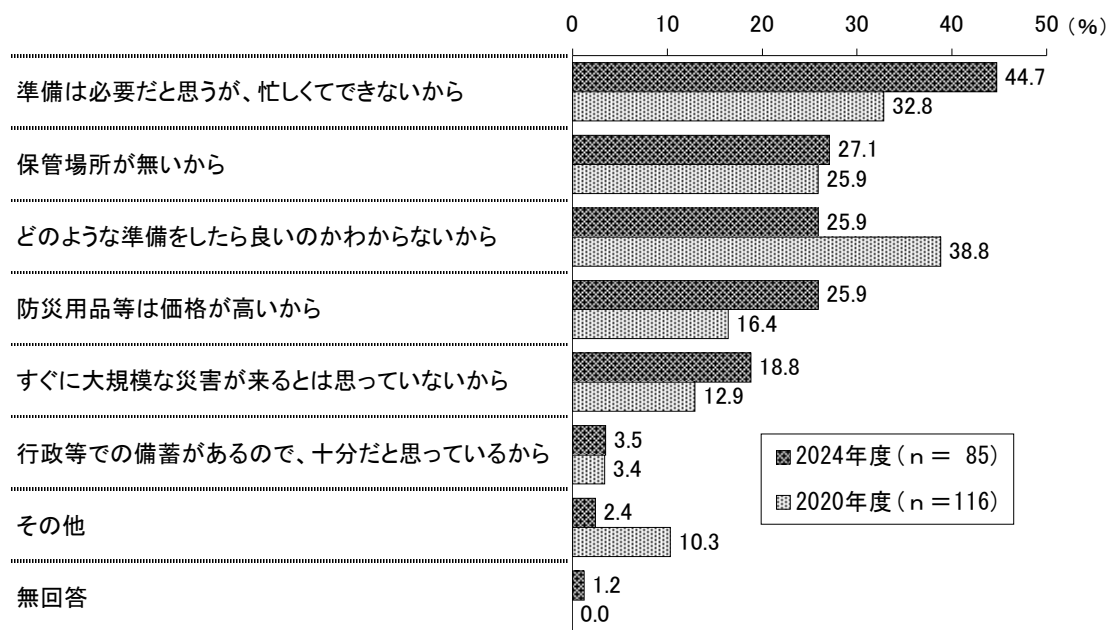
町内会・自治会等主催の防災訓練参加有無別にみると、「3日分以上の水と食料の備蓄をしている」、「非常持出品の用意をしている」、「3日分以上の携帯トイレの備蓄をしている」、「家具などが倒れないように固定している」、「地域の防災訓練に参加している」は参加頻度が高くなるほど割合が高くなっている。(図 3-28)

（８）大規模災害発生に備え、特に準備をしていない理由

（問 48 で、「特に準備をしていない」と回答した方に伺います）

問 48－１ 特に準備していない主な理由は次のうちどれですか。（２つまで○）

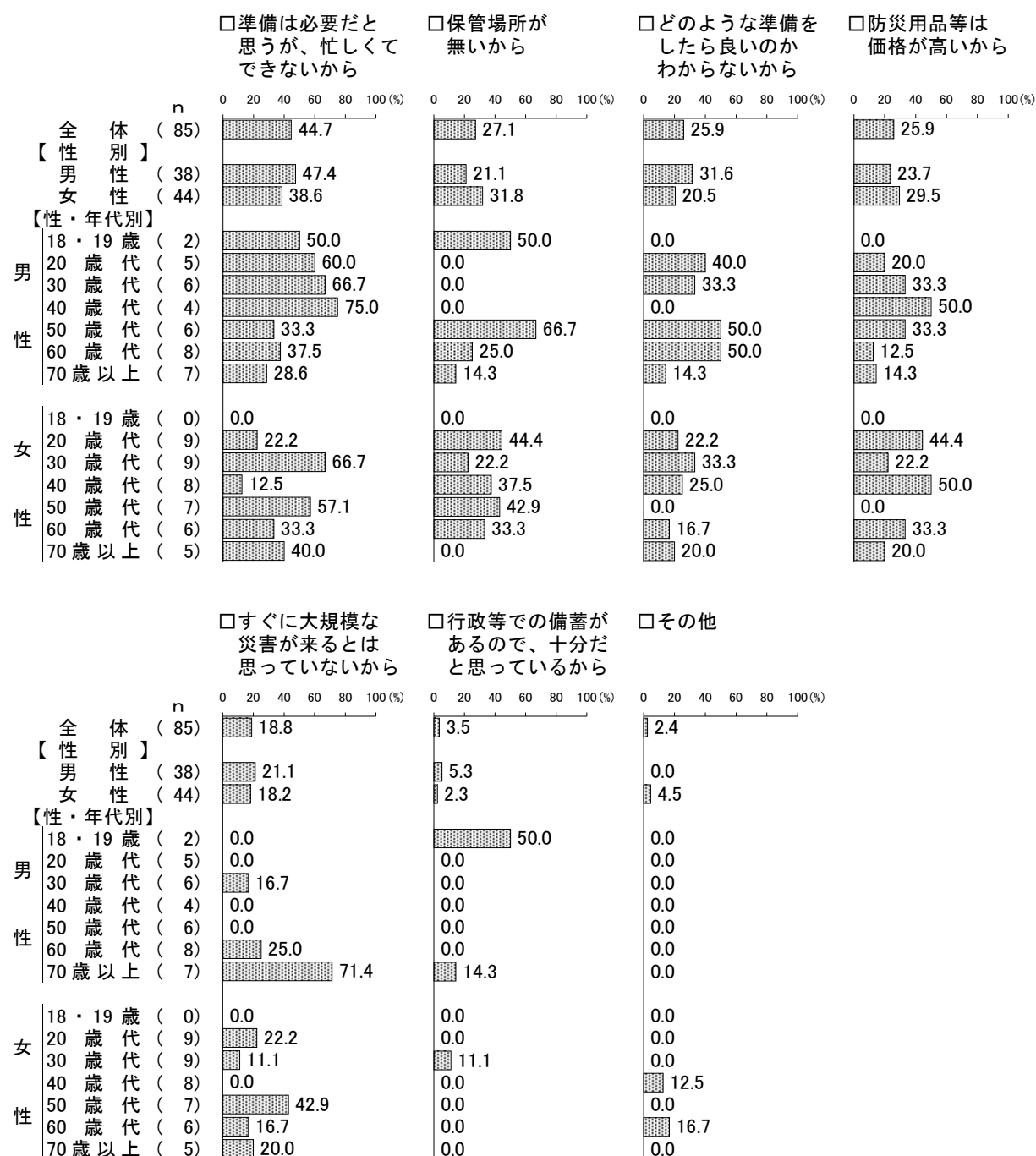
図 3-29 大規模災害発生に備え、特に準備をしていない理由



大規模災害発生に備え、特に準備をしていない理由を聞いたところ、「準備は必要だと思うが、忙しくてできないから」(44.7%) が4割半ばで最も高く、次いで「保管場所が無いから」(27.1%)、「どのような準備をしたら良いのかわからないから」と「防災用品等は価格が高いから」(ともに25.9%) となっている。

2020年度と比較すると、「準備は必要だと思うが、忙しくてできないから」は11.9ポイント、「防災用品等は価格が高いから」は9.5ポイント、「すぐに大規模な災害が来るとは思っていないから」は5.9ポイント、それぞれ増加している。一方、「どのような準備をしたら良いのかわからないから」は12.9ポイント減少している。(図3-29)

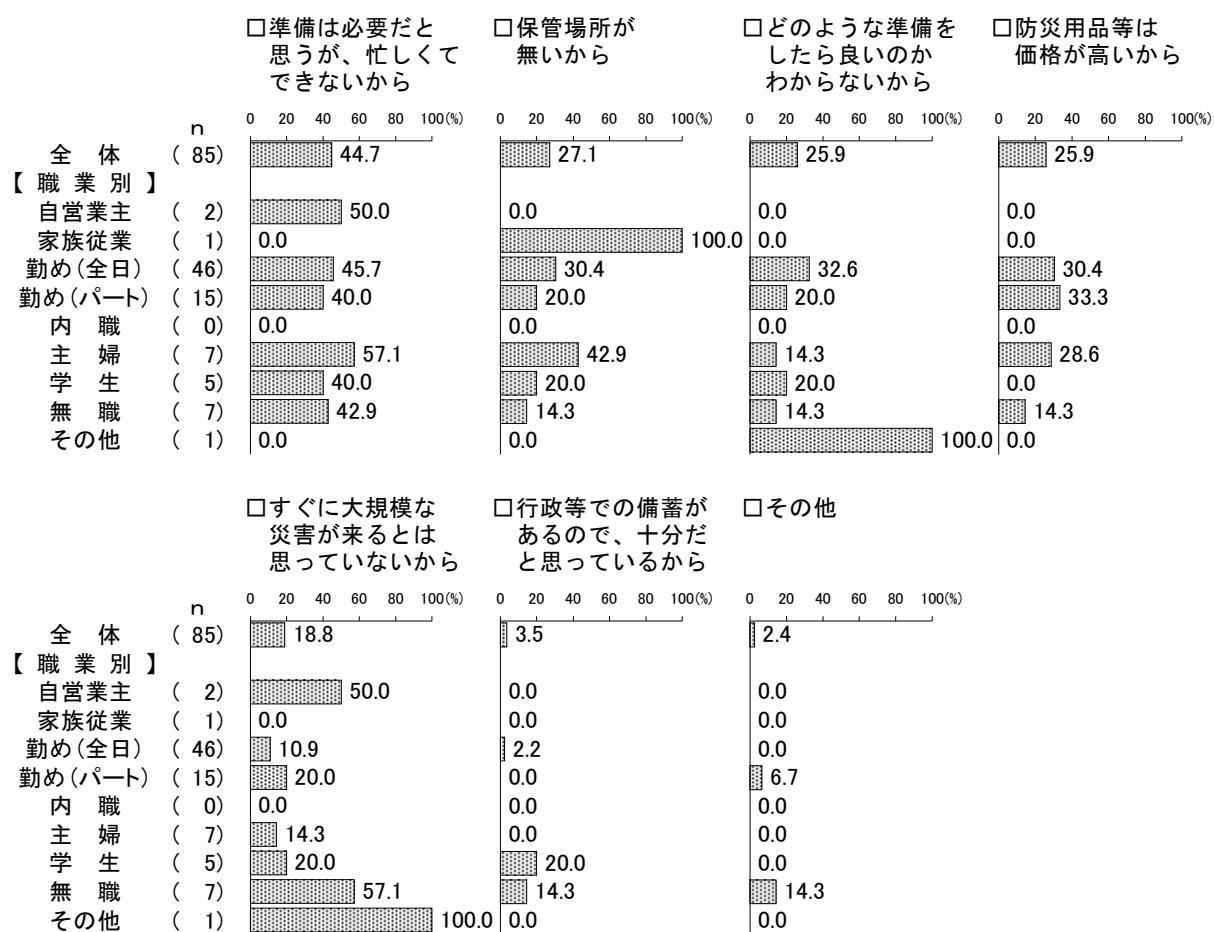
図 3-30 大規模災害発生に備え、特に準備をしていない理由（性別、性・年代別）



性別にみると、「どのような準備をしたら良いかわからないから」は男性（31.6%）が女性（20.5%）より 11.1 ポイント、「準備は必要だと思うが、忙しくてできないから」は男性（47.4%）が女性（38.6%）より 8.8 ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「保管場所が無いから」は女性（31.8%）が男性（21.1%）より 10.7 ポイント高くなっている。

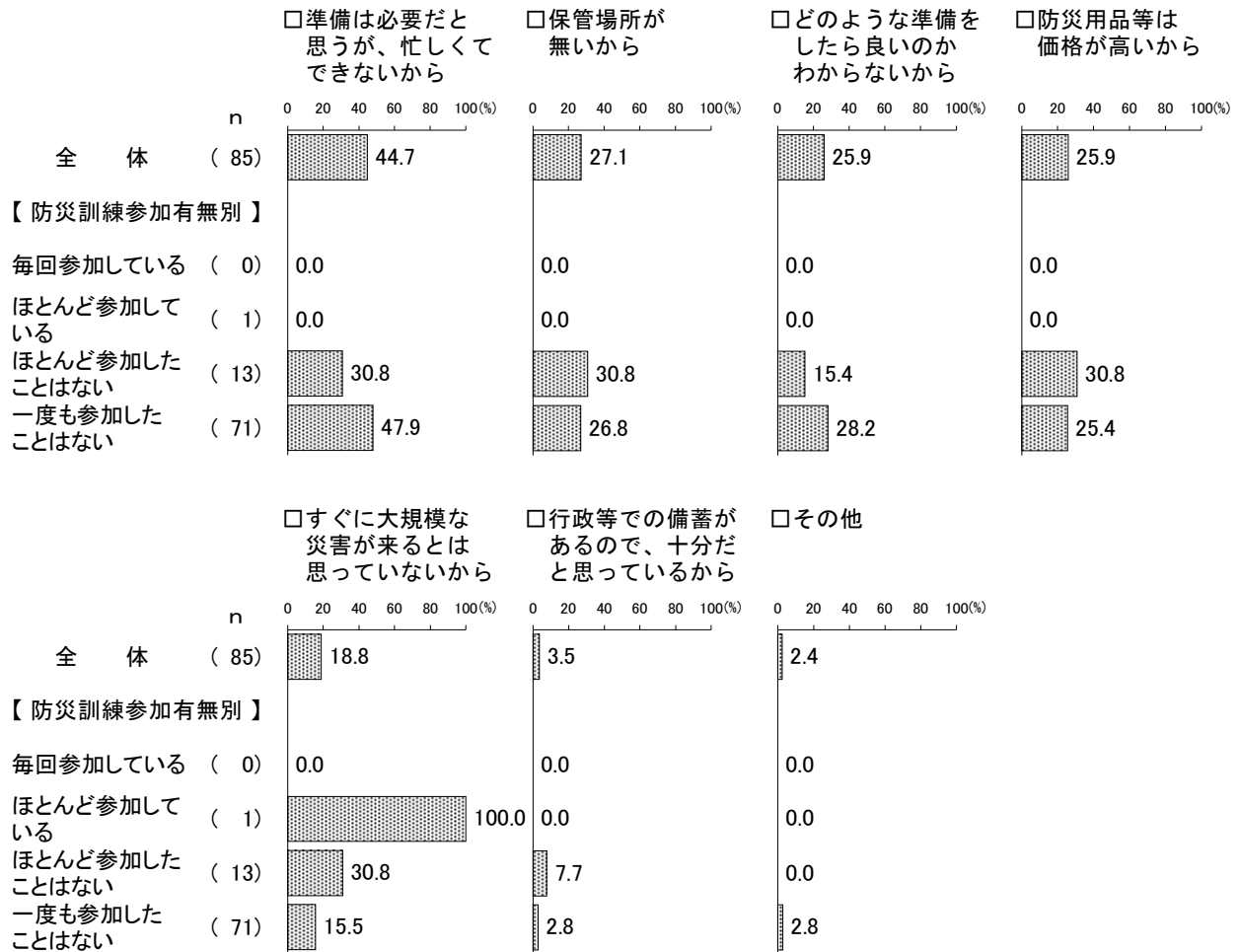
性・年代別は、基数が少ないため参考に図示する。（図 3-30）

図3-31 大規模災害発生に備え、特に準備をしていない理由（職業別）



職業別は、基数が少ないため参考に図示する。(図3-31)

図 3-32 大規模災害発生に備え、特に準備をしていない理由
(町内会・自治会等主催の防災訓練参加有無別)

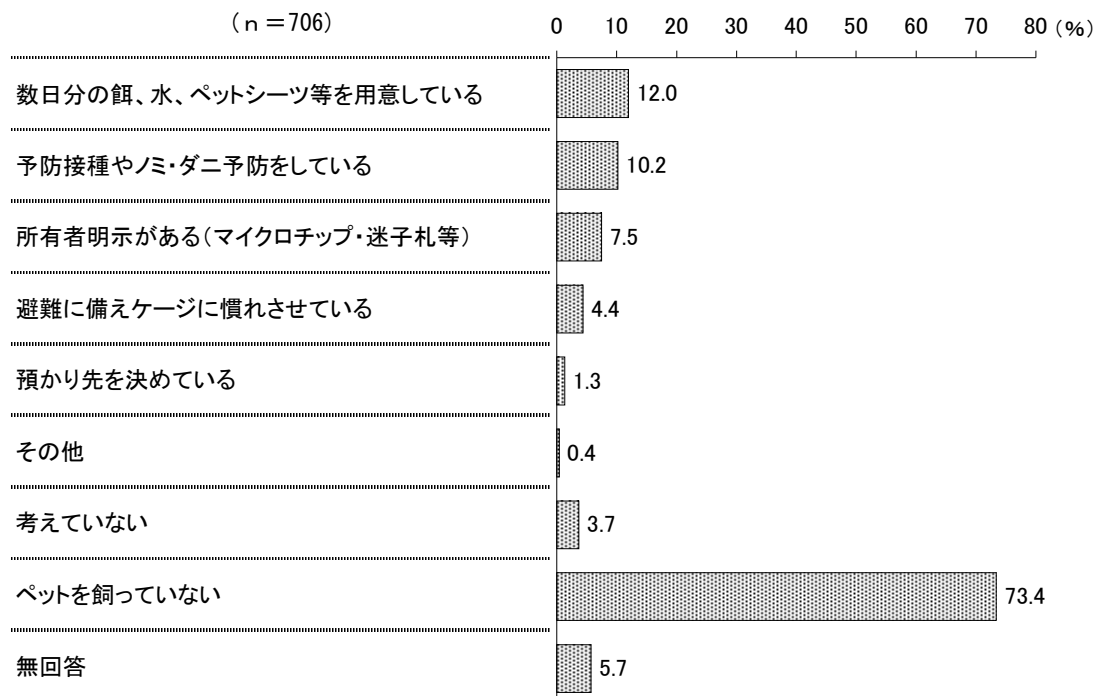


町内会・自治会等主催の防災訓練参加有無別は、基数が少ないため参考に図示する。(図 3-32)

(9) ペットの防災対策 (2024年度新設)

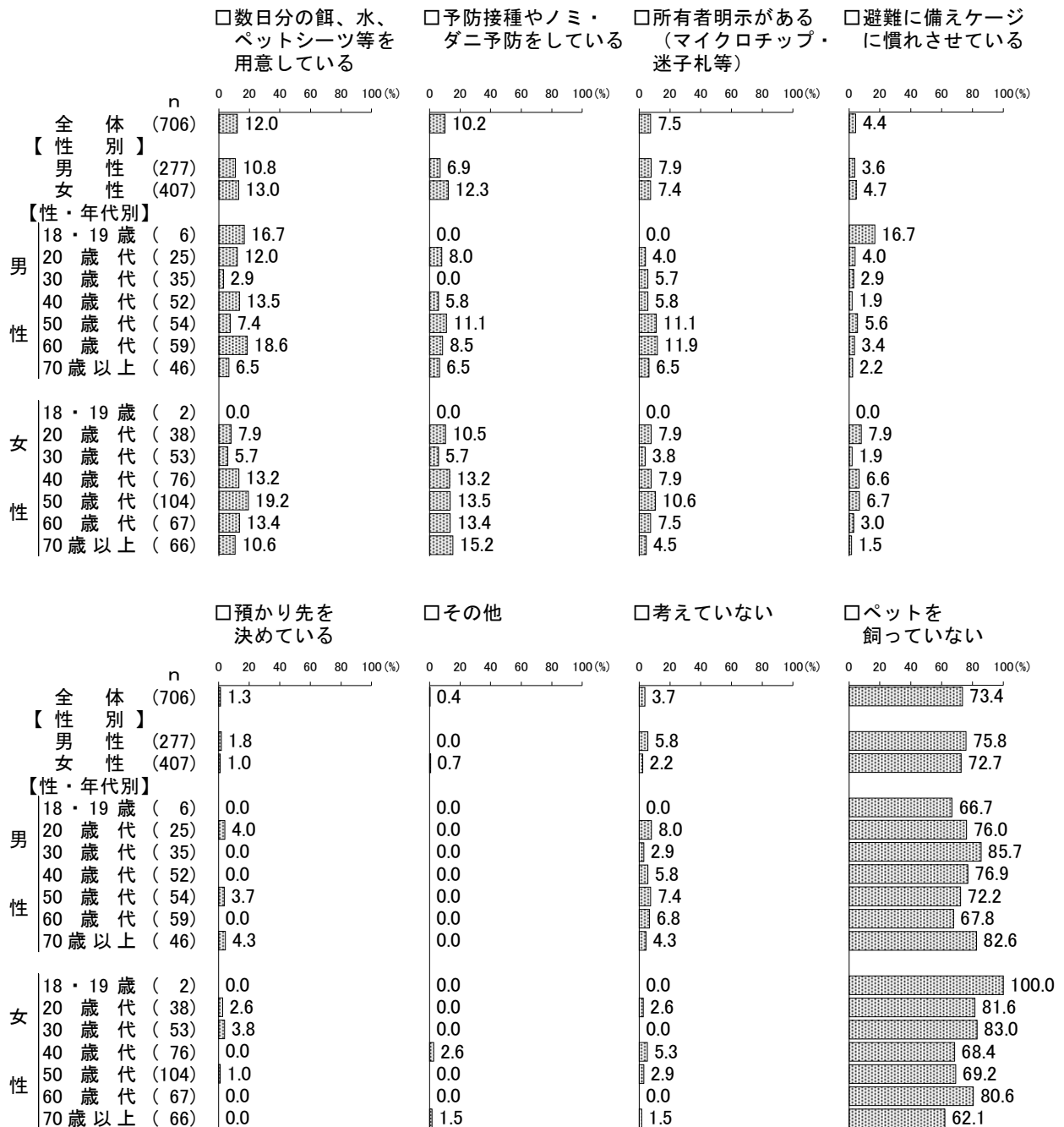
問 49 ペットの防災について検討していることはありますか。(あてはまるもの全てに○)

図 3-33 ペットの防災対策



ペットの防災対策を聞いたところ、「数日分の餌、水、ペットシート等を用意している」(12.0%) が1割を超えて最も高く、次いで「予防接種やノミ・ダニ予防をしている」(10.2%)、「所有者明示がある(マイクロチップ・迷子札等)」(7.5%) となっている。また、「ペットを飼っていない」(73.4%) は7割を超えている。(図 3-33)

図3-34 ペットの防災対策（性別、性・年代別）



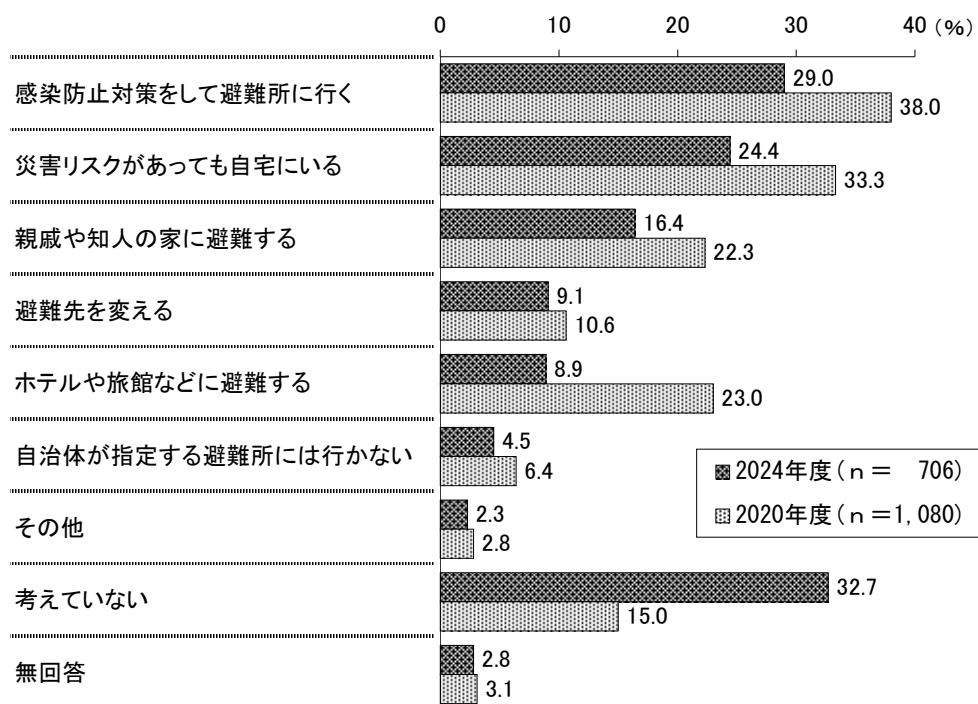
性別にみると、「予防接種やノミ・ダニ予防をしている」は女性（12.3%）が男性（6.9%）より5.4ポイント高くなっている。一方、「考えていない」は男性（5.8%）が女性（2.2%）より3.6ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「数日分の餌、水、ペットシート等を用意している」は女性50歳代（19.2%）で約2割となっている。（図3-34）

(10) 避難方法について検討していること

問 50 災害時における感染症拡大防止のため避難方法について検討していることはありますか。(あてはまるもの全てに○)

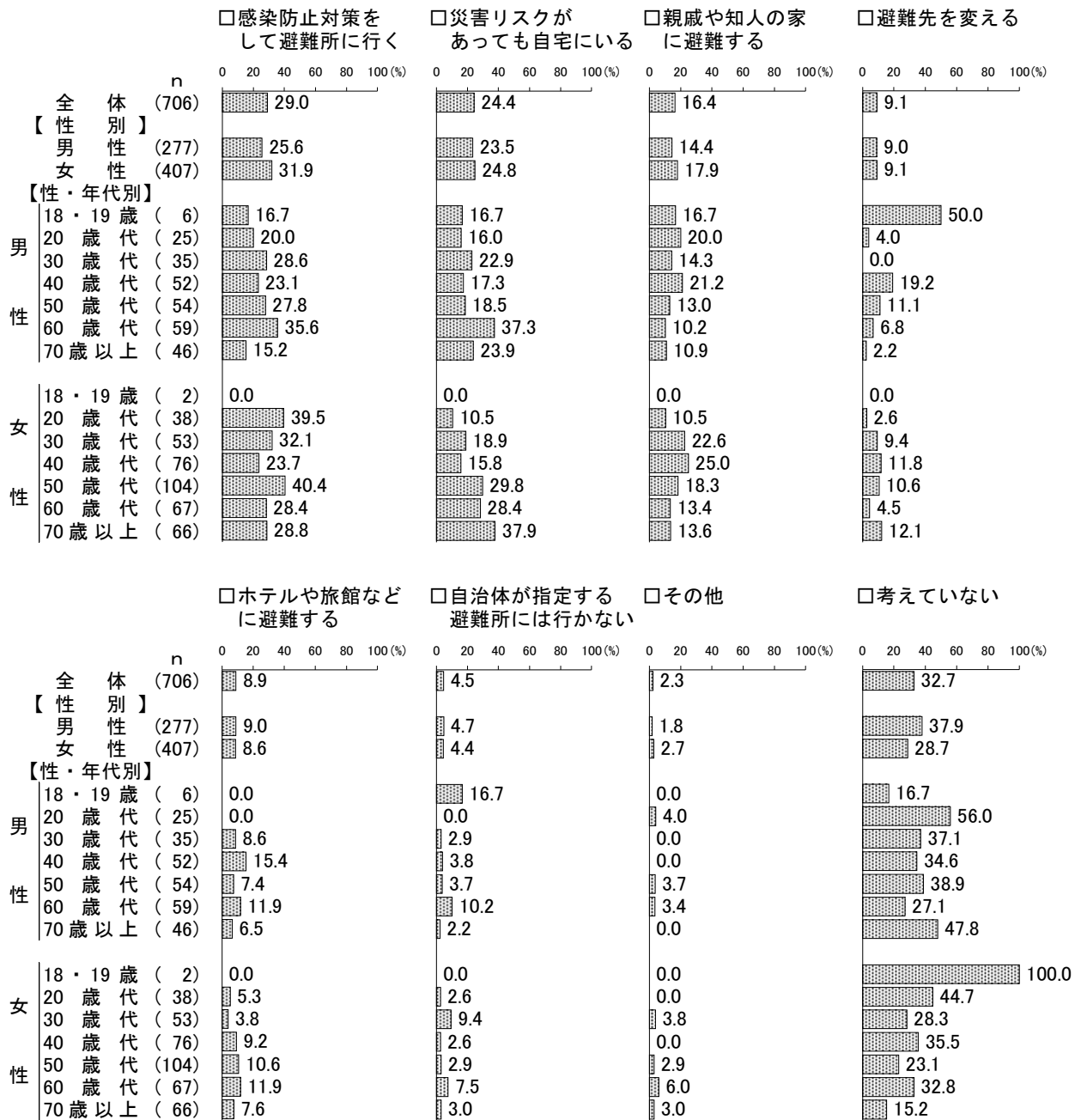
図 3-35 避難方法について検討していること



避難方法について検討していることを聞いたところ、「感染防止対策をして避難所に行く」(29.0%)が約3割で最も高く、次いで「災害リスクがあっても自宅にいる」(24.4%)、「親戚や知人の家に避難する」(16.4%)となっている。一方、「考えていない」(32.7%)は3割を超えている。

2020年度と比較すると、「考えていない」は17.7ポイント増加している。一方、「ホテルや旅館などに避難する」は14.1ポイント、「感染防止対策をして避難所に行く」は9.0ポイント、「災害リスクがあっても自宅にいる」は8.9ポイント、それぞれ減少している。(図3-35)

図 3-36 避難方法について検討していること（性別、性・年代別）



性別にみると、「考えていない」は男性（37.9%）が女性（28.7%）より 9.2 ポイント高くなっている。一方、「感染防止対策をして避難所に行く」は女性（31.9%）が男性（25.6%）より 6.3 ポイント高くなっている。

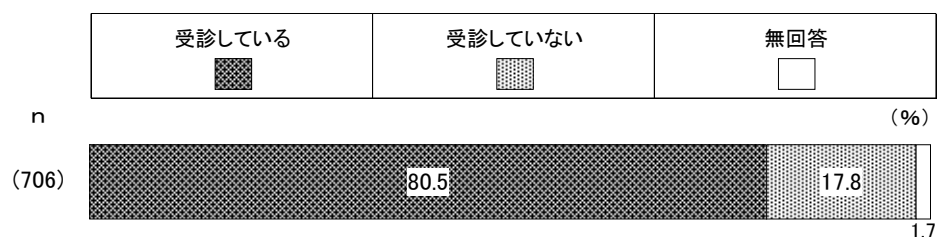
性・年代別にみると、「感染防止対策をして避難所に行く」は女性 20 歳代（39.5%）と女性 50 歳代（40.4%）で 4 割と高くなっている。「災害リスクがあっても自宅にいる」は女性 70 歳以上（37.9%）と男性 60 歳代（37.3%）で 4 割近くと高くなっている。「親戚や知人の家に避難する」は女性 40 歳代（25.0%）で 2 割半ばと高くなっている。（図 3-36）

4. 自身の健康について

(1) 健康診断の受診状況（2024年度新設）

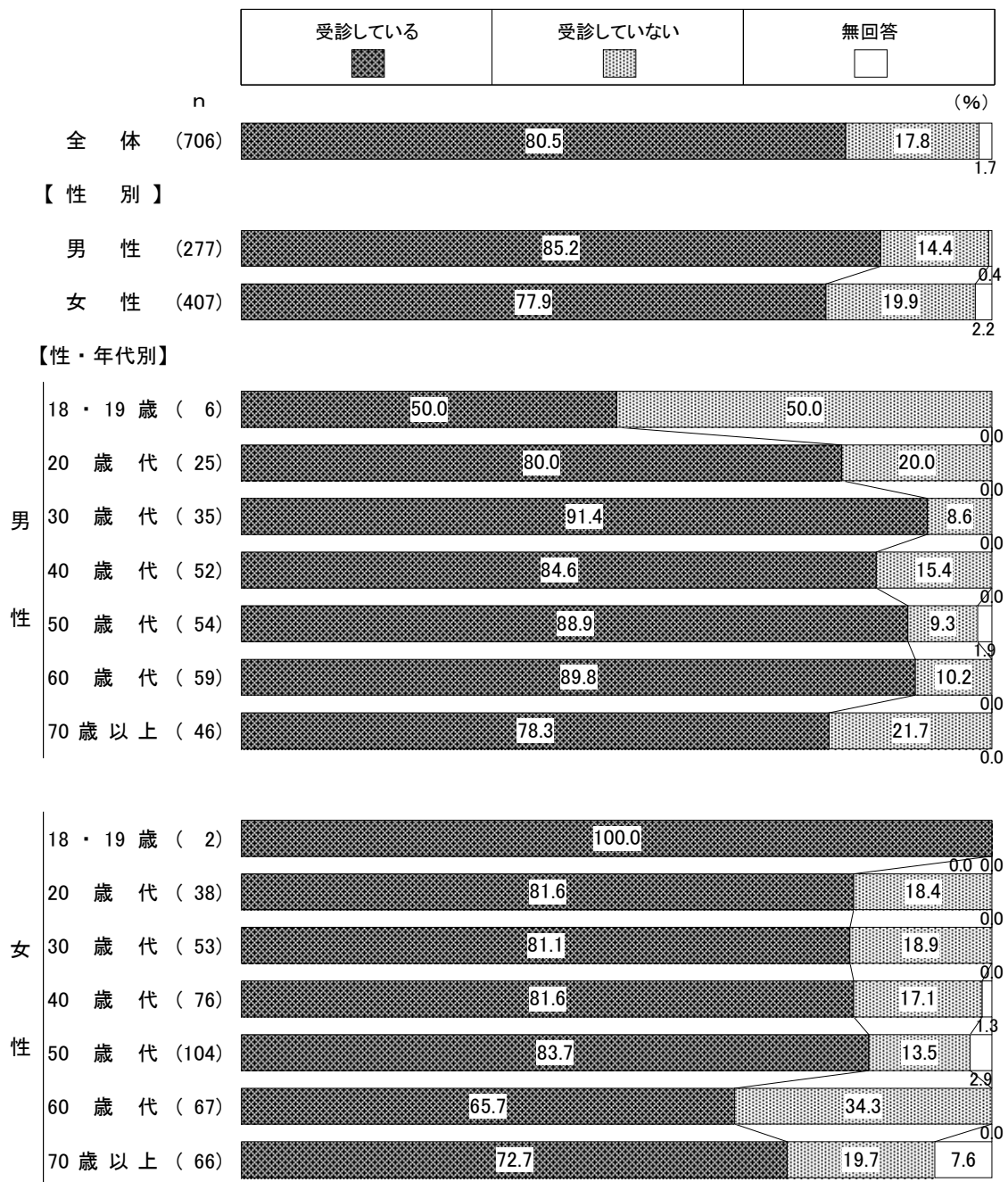
問 51 年に1回以上、健康診断を受診していますか。（1つだけ○）

図 4-1 健康診断の受診状況



健康診断の受診状況を聞いたところ、「受診している」（80.5％）が約8割、「受診していない」（17.8％）は2割近くとなっている。（図4-1）

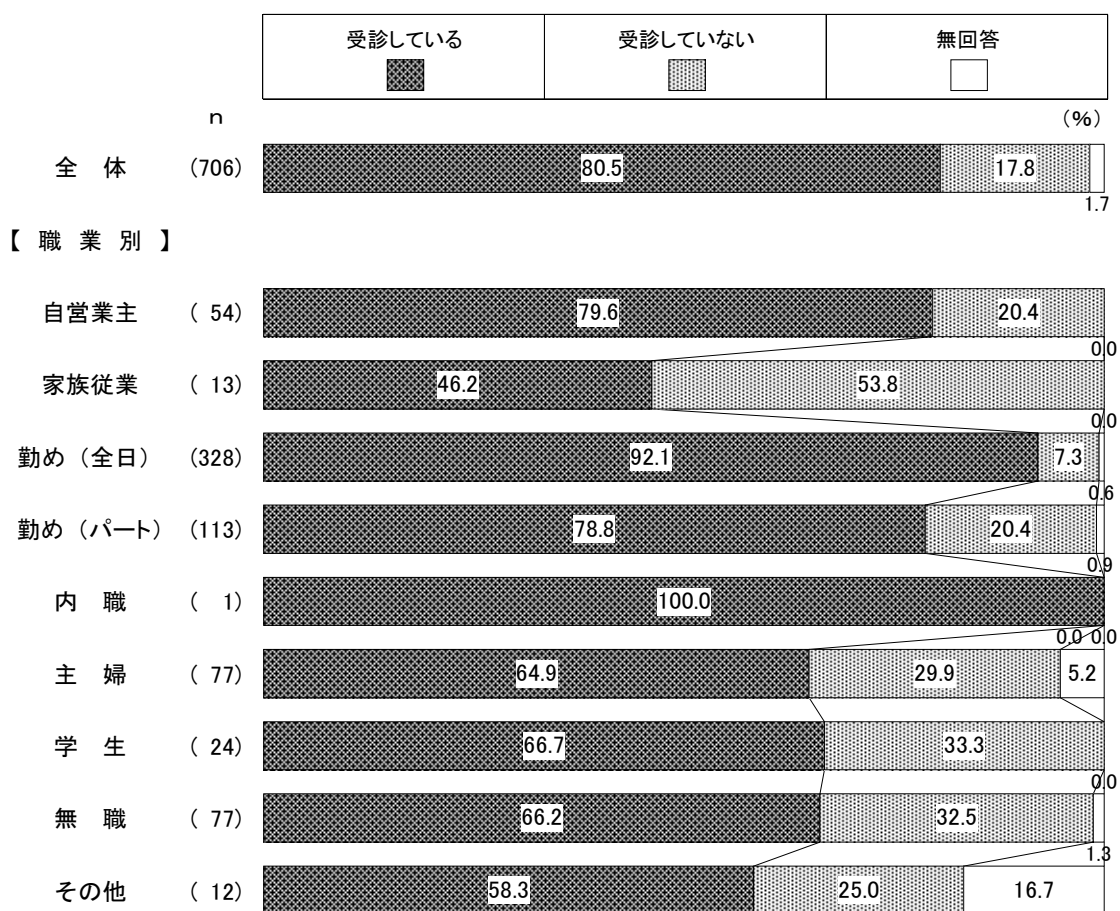
図 4-2 健康診断の受診状況（性別、性・年代別）



性別にみると、「受診している」は男性（85.2%）が女性（77.9%）より 7.3 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「受診している」は男性 30 歳代（91.4%）で 9 割を超えて高くなっている。一方、「受診していない」は女性 60 歳代（34.3%）で 3 割半ばと高くなっている。（図 4-2）

図 4-3 健康診断の受診状況（職業別）



職業別にみると、「受診している」は勤め（全日）（92.1%）で9割を超えて高くなっている。一方、「受診していない」は学生（33.3%）と無職（32.5%）で3割を超えて高くなっている。

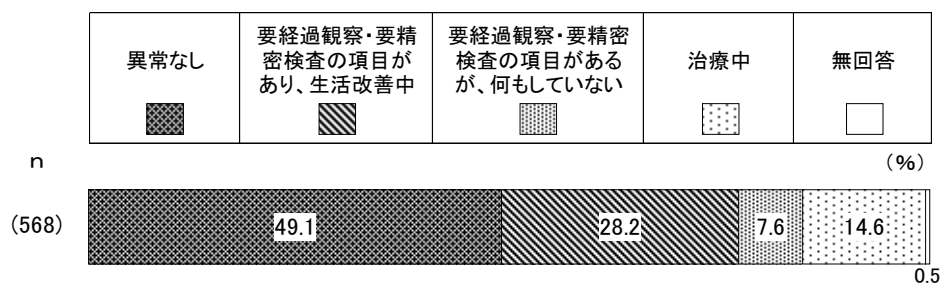
（図 4-3）

(2) 健康診断後の対応 (2024年度新設)

(問 51 で、「受診している」と回答した方に伺います)

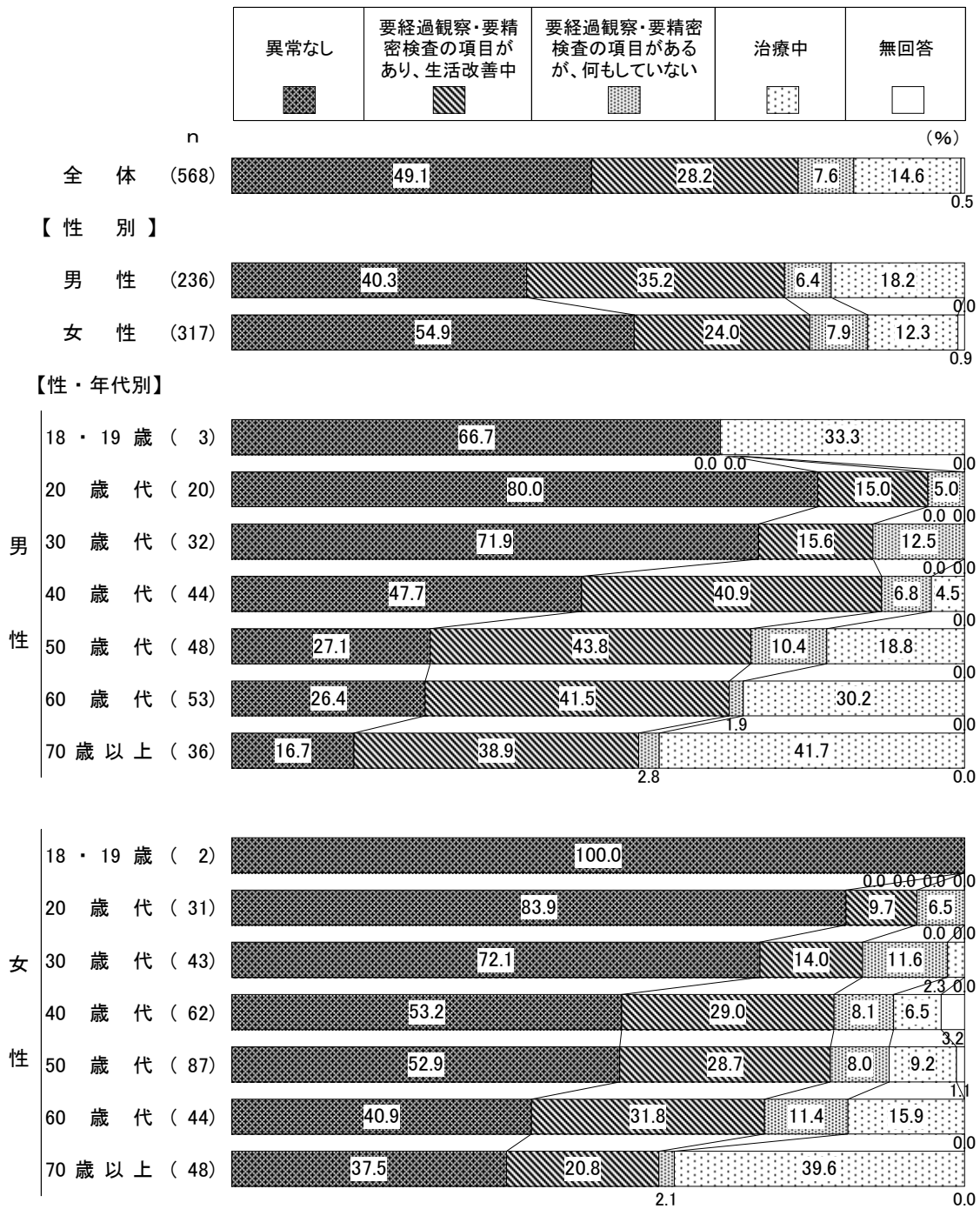
問 51－1 健康診断の結果を受けてどうしましたか。(1つだけ○)

図 4-4 健康診断後の対応



健康診断後の対応を聞いたところ、「異常なし」(49.1%)が約5割となっている。一方、異常がある中では、「要経過観察・要精密検査の項目があり、生活改善中」(28.2%)が3割近くで最も高く、次いで「治療中」(14.6%)、「要経過観察・要精密検査の項目があるが、何もしていない」(7.6%)となっている。(図 4-4)

図 4-5 健康診断後の対応（性別、性・年代別）



性別にみると、「異常なし」は女性（54.9%）が男性（40.3%）より14.6ポイント高くなっている。一方、「要経過観察・要精密検査の項目があり、生活改善中」は男性（35.2%）が女性（24.0%）より11.2ポイント、「治療中」は男性（18.2%）が女性（12.3%）より5.9ポイント、それぞれ高くなっている。

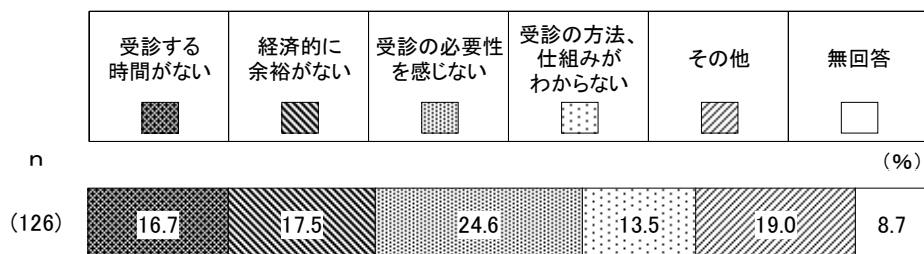
性・年代別は、「異常なし」は女性20歳代（83.9%）と男性20歳代（80.0%）で8割台と高くなっている。「要経過観察・要精密検査の項目があり、生活改善中」は男性50歳代（43.8%）と男性60歳代（41.5%）で4割を超えて高くなっている。（図4-5）

(3) 健康診断を受診していない理由（2024年度新設）

（問 51 で、「受診していない」と回答した方に伺います）

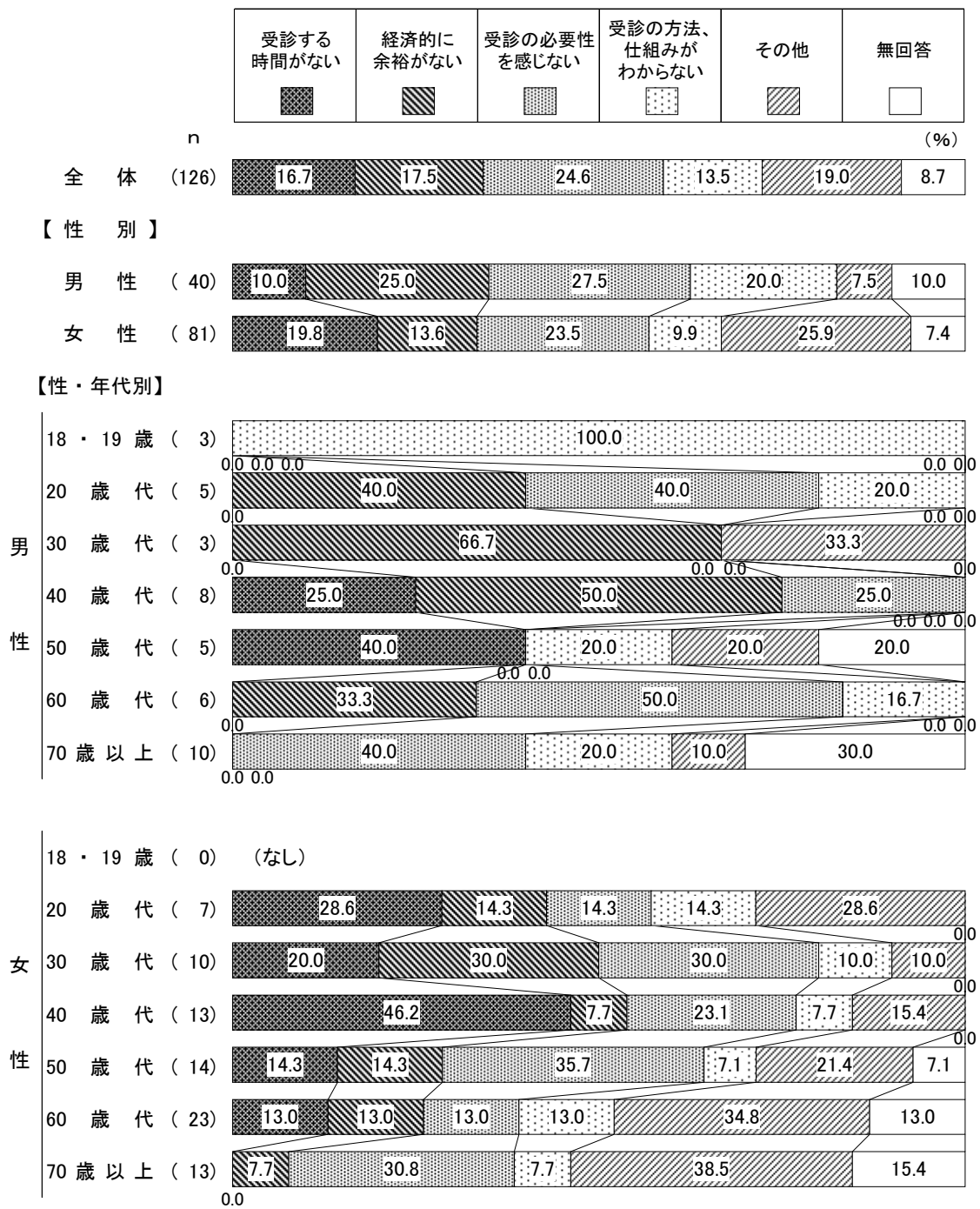
問 51－2 受診していない主な理由は何ですか。（1 つだけ○）

図 4－6 健康診断を受診していない理由



健康診断を受診していない理由を聞いたところ、「受診の必要性を感じない」（24.6%）が2割半ばで最も高く、次いで「経済的に余裕がない」（17.5%）、「受診する時間がない」（16.7%）、「受診の方法、仕組みがわからない」（13.5%）となっている。（図 4－6）

図 4-7 健康診断を受診していない理由（性別、性・年代別）



性別にみると、「経済的に余裕がない」は男性（25.0％）が女性（13.6％）より 11.4 ポイント、「受診の方法、仕組みがわからない」は男性（20.0％）が女性（9.9％）より 10.1 ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「受診する時間がない」は女性（19.8％）が男性（10.0％）より 9.8 ポイント高くなっている。

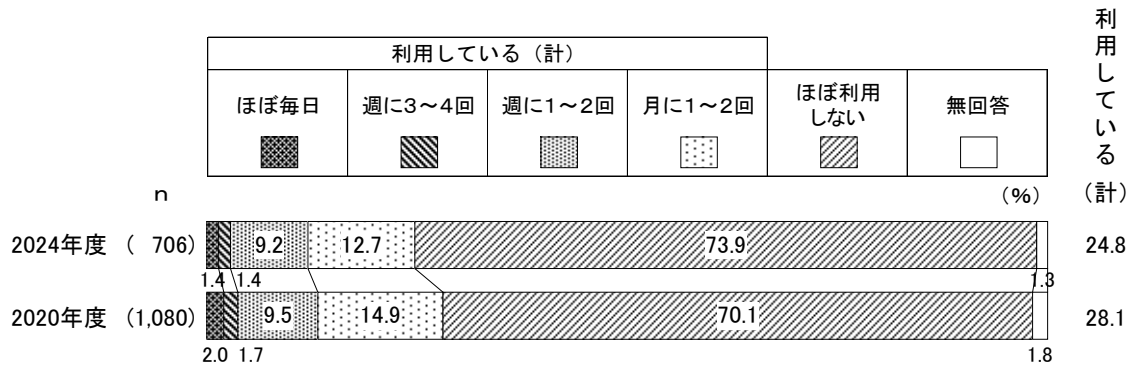
性・年代別は、基数が少ないため参考に図示する。（図 4-7）

5. 公共施設や公共空間の整備について

(1) 公園の利用頻度

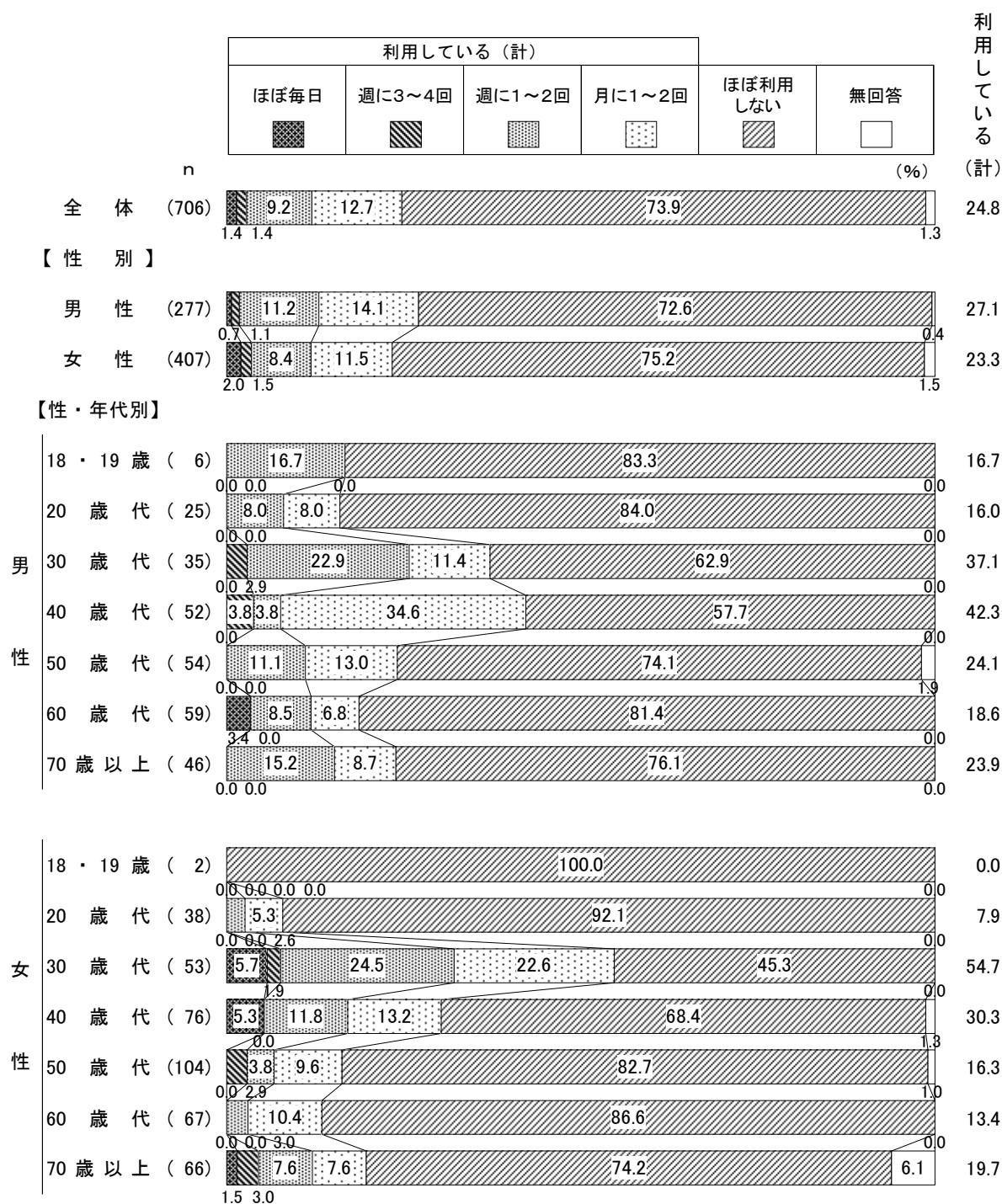
問 52 あなたは公園をどのくらいの頻度で利用していますか。(1つだけ○)

図 5-1 公園の利用頻度



公園をどのくらいの頻度で利用しているか聞いたところ、「ほぼ毎日」(1.4%)、「週に3~4回」(1.4%)、「週に1~2回」(9.2%)、「月に1~2回」(12.7%)を合わせた『利用している(計)』(24.8%)は2割半ばとなっている。一方、「ほぼ利用しない」(73.9%)は7割を超えている。2020年度と比較すると、『利用している(計)』は3.3ポイント減少している。(図5-1)

図5-2 公園の利用頻度（性別、性・年代別）



性別にみると、『利用している（計）』は男性（27.1%）が女性（23.3%）より3.8ポイント高くなっている。

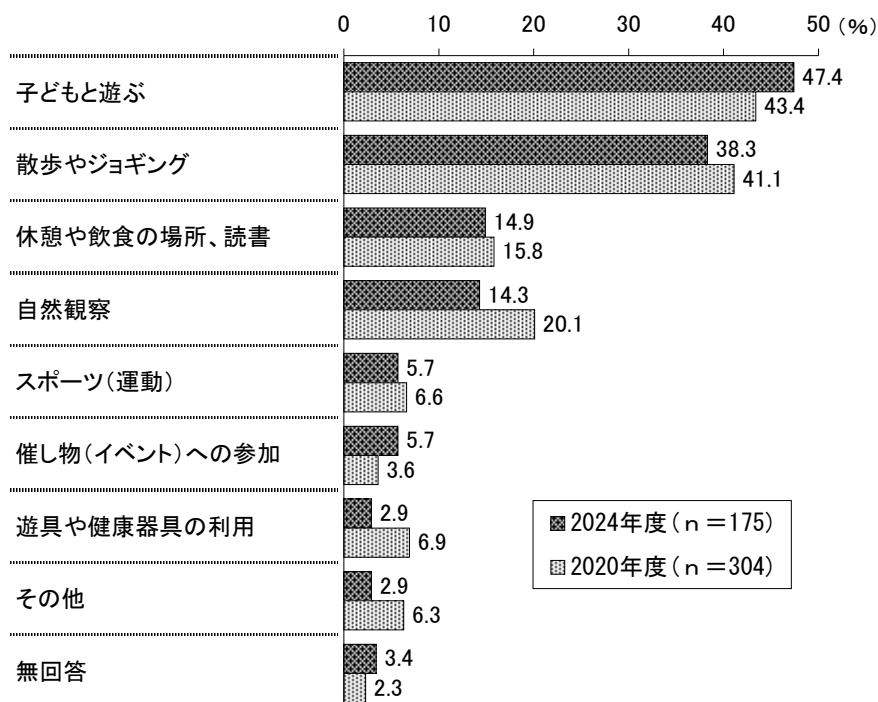
性・年代別にみると、『利用している（計）』は女性30歳代（54.7%）で5割半ば、男性40歳代（42.3%）で4割を超えて高くなっている。一方、「ほぼ利用しない」は女性20歳代（92.1%）で9割を超えて高くなっている。（図5-2）

(2) 公園を訪れる目的

(問 52 で、「ほぼ毎日」「週に 3 ～ 4 回」「週に 1 ～ 2 回」「月に 1 ～ 2 回」と回答した方に伺います)

問 52－1 公園を訪れる目的はなんですか。(あてはまるもの全てに○)

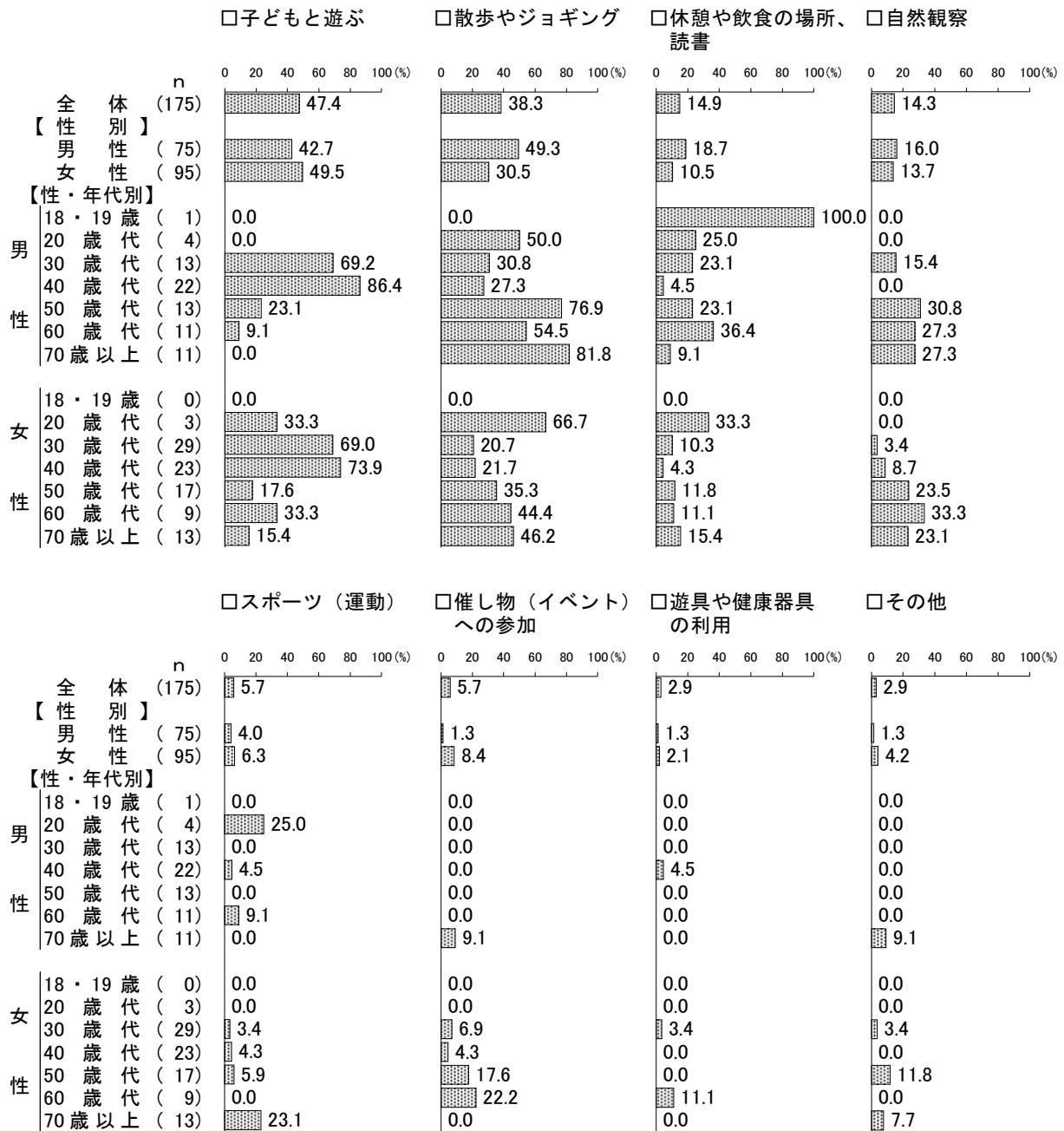
図 5-3 公園を訪れる目的



公園を訪れる目的を聞いたところ、「子どもと遊ぶ」(47.4%) が5割近くで最も高く、次いで「散歩やジョギング」(38.3%)、「休憩や飲食の場所、読書」(14.9%)、「自然観察」(14.3%) となっている。

2020 年度と比較すると、「子どもと遊ぶ」は 4.0 ポイント増加している。一方、「自然観察」は 5.8 ポイント、「遊具や健康器具の利用」は 4.0 ポイント、それぞれ減少している。(図 5-3)

図5-4 公園を訪れる目的（性別、性・年代別）



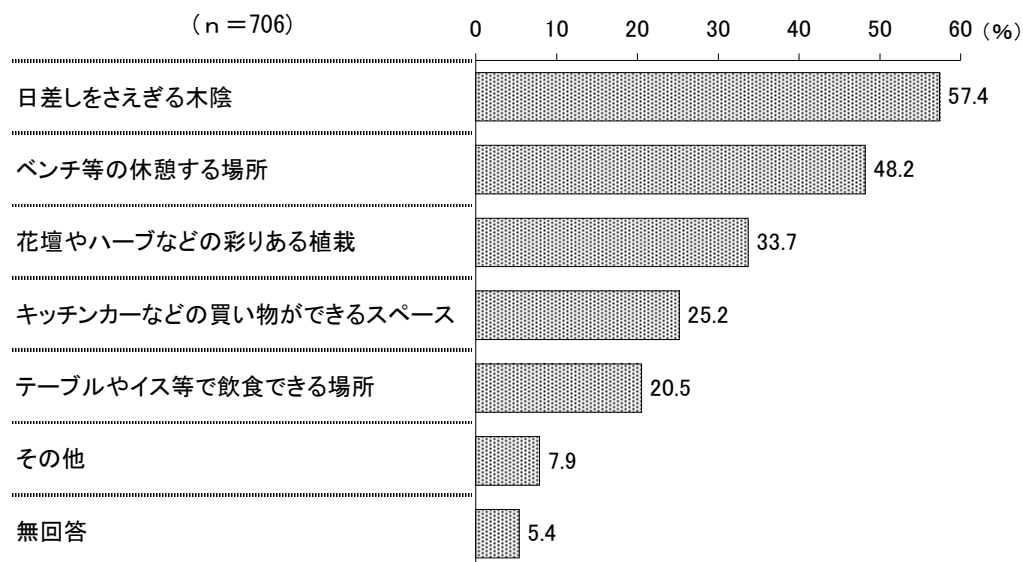
性別にみると、「散歩やジョギング」は男性（49.3%）が女性（30.5%）より 18.8 ポイント高くなっている。一方、「催し物（イベント）への参加」は女性（8.4%）が男性（1.3%）より 7.1 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「子どもと遊ぶ」は男性 40 歳代（86.4%）で 8 割半ば、女性 40 歳代（73.9%）で 7 割を超えて高くなっている。（図 5-4）

(3) 居心地の良い駅前広場づくりのために望む機能（2024年度新設）

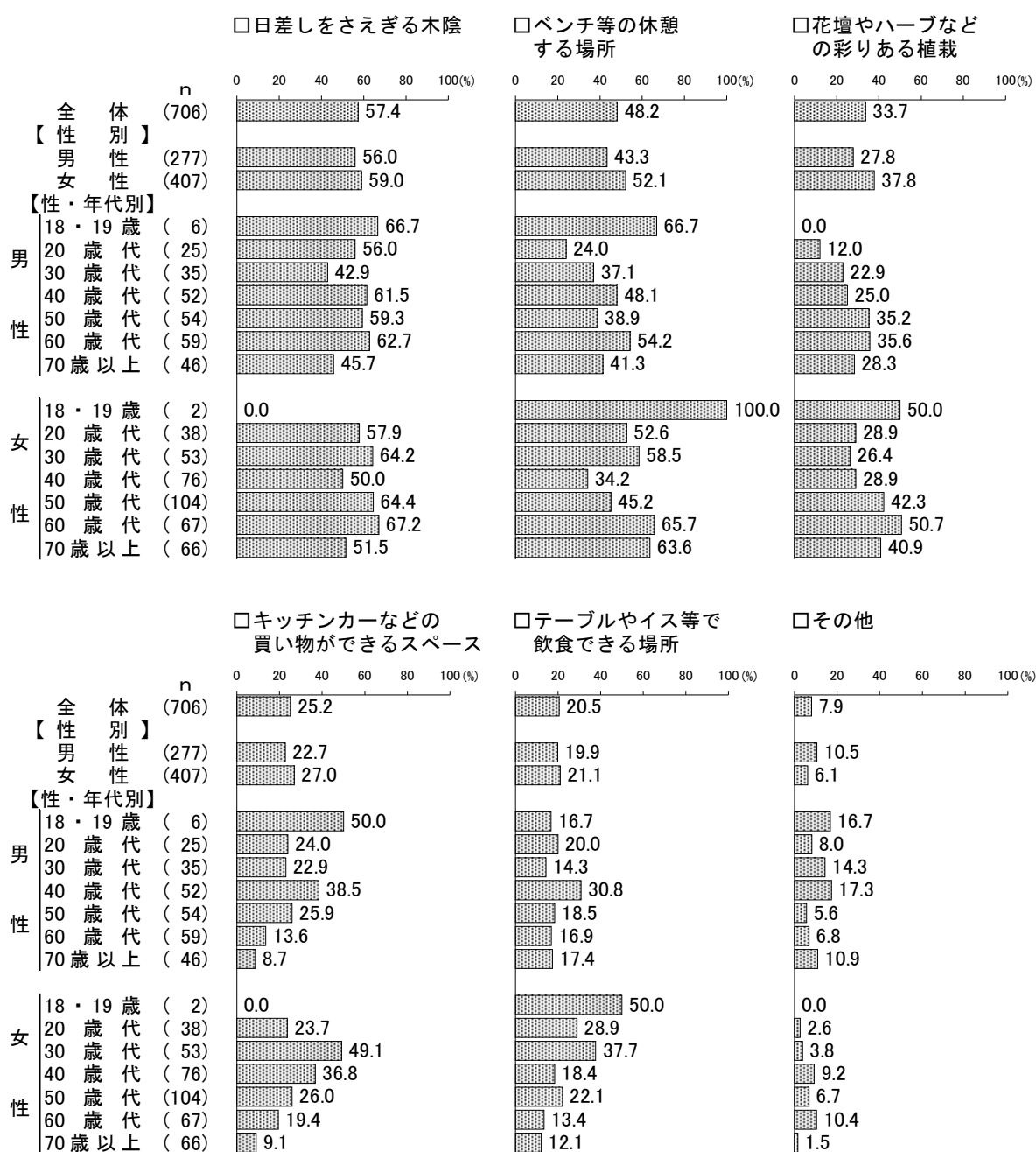
問 53 武蔵溝ノ口駅北口ペデストリアンデッキ（愛称：キラリデッキ）は駅間や商業施設を結ぶ重要な歩行空間ですが、完成後20年以上経過しており、利用の仕方が変わってきています。今後居心地の良い駅前広場づくりに向けて、どのような機能が道路空間にあれば利用したいと思いますか。（あてはまるもの全てに○）

図 5-5 居心地の良い駅前広場づくりのために望む機能



居心地の良い駅前広場づくりのために望む機能を聞いたところ、「日差しをさえぎる木陰」（57.4%）が6割近くで最も高く、次いで「ベンチ等の休憩する場所」（48.2%）、「花壇やハーブなどの彩りある植栽」（33.7%）、「キッチンカーなどの買い物ができるスペース」（25.2%）となっている。（図 5-5）

図5-6 居心地の良い駅前広場づくりのために望む機能（性別、性・年代別）



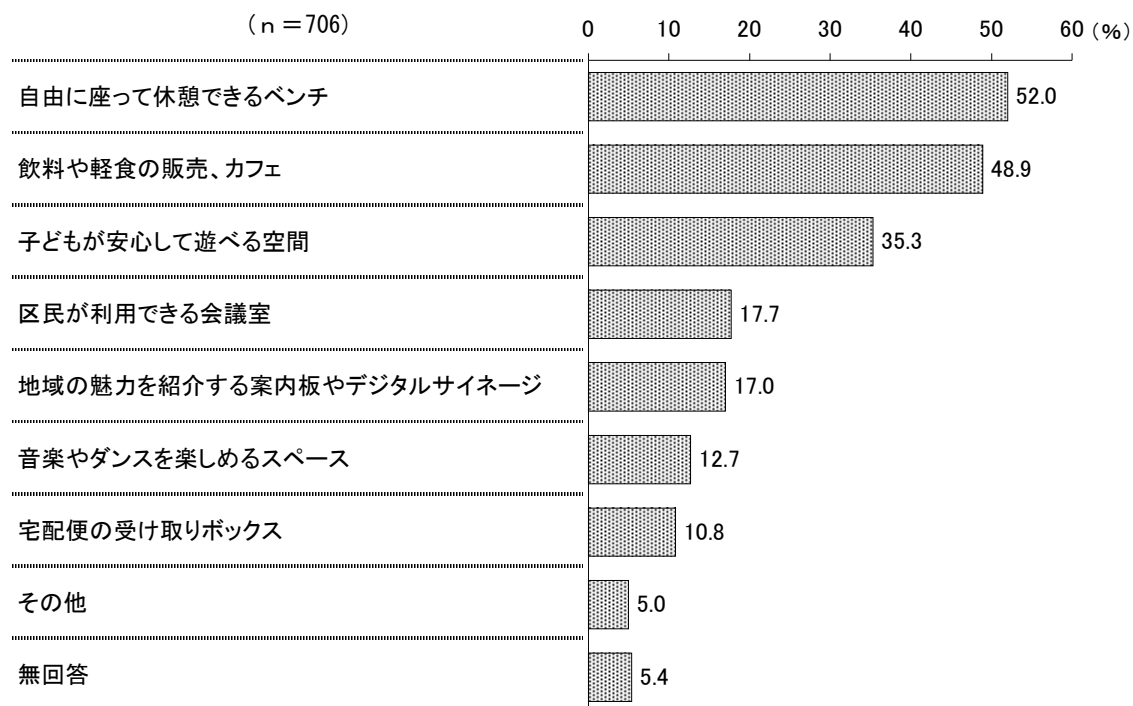
性別にみると、「花壇やハーブなどの彩りある植栽」は女性（37.8%）が男性（27.8%）より 10.0 ポイント、「ベンチ等の休憩する場所」は女性（52.1%）が男性（43.3%）より 8.8 ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別にみると、「日差しをさえぎる木陰」は女性 60 歳代（67.2%）で 7 割近くと高くなっている。「ベンチ等の休憩する場所」は女性 60 歳代（65.7%）と女性 70 歳以上（63.6%）で 6 割台と高くなっている。「花壇やハーブなどの彩りある植栽」は女性 60 歳代（50.7%）で約 5 割と高くなっている。（図 5-6）

(4) 区役所や出張所にあったらよいと思うもの（2024年度新設）

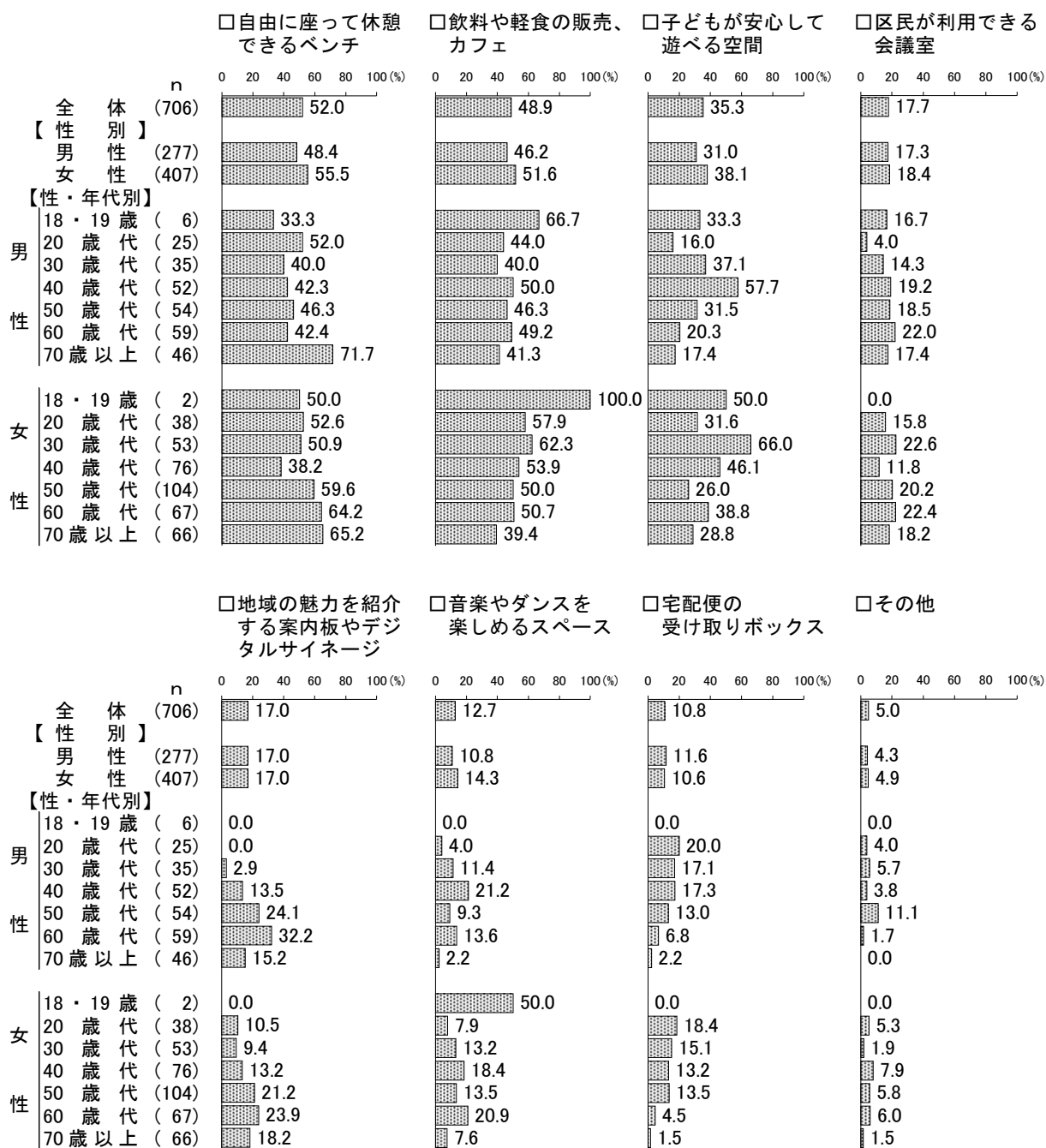
問 54 川崎市では公共施設の地域化を進めており、高津区でも、橘出張所において地域の拠点となるようリニューアルを進めています。区役所や出張所にあったらよいと思うものはなんですか。（あてはまるもの全てに○）

図 5-7 区役所や出張所にあたらよいと思うもの



区役所や出張所にあたらよいと思うものを聞いたところ、「自由に座って休憩できるベンチ」（52.0%）が5割を超えて最も高く、次いで「飲料や軽食の販売、カフェ」（48.9%）、「子どもが安心して遊べる空間」（35.3%）、「区民が利用できる会議室」（17.7%）となっている。（図 5-7）

図5-8 区役所や出張所にあったらよいと思うもの（性別、性・年代別）



性別にみると、「自由に座って休憩できるベンチ」は女性（55.5%）が男性（48.4%）より 7.1 ポイント、「子どもが安心して遊べる空間」は女性（38.1%）が男性（31.0%）より 7.1 ポイント、それぞれ高くなっている。

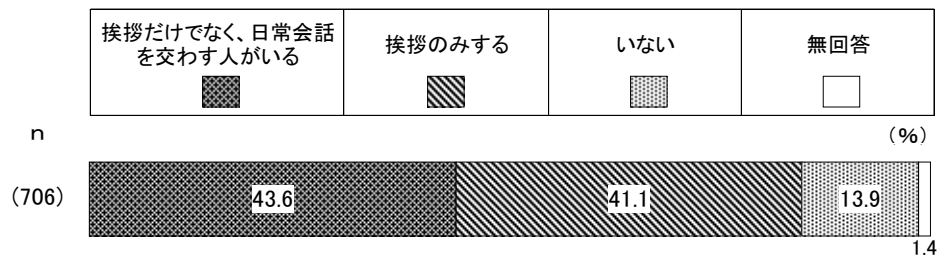
性・年代別にみると、「自由に座って休憩できるベンチ」は男性 70 歳以上（71.7%）で 7 割を超えて高くなっている。「飲料や軽食の販売、カフェ」は女性 30 歳代（62.3%）で 6 割を超えて高くなっている。「子どもが安心して遊べる空間」は女性 30 歳代（66.0%）で 6 割半ばと高くなっている。（図 5-8）

6. 地域におけるつながり・コミュニティについて

(1) 気軽に挨拶できる相手 (2024年度新設)

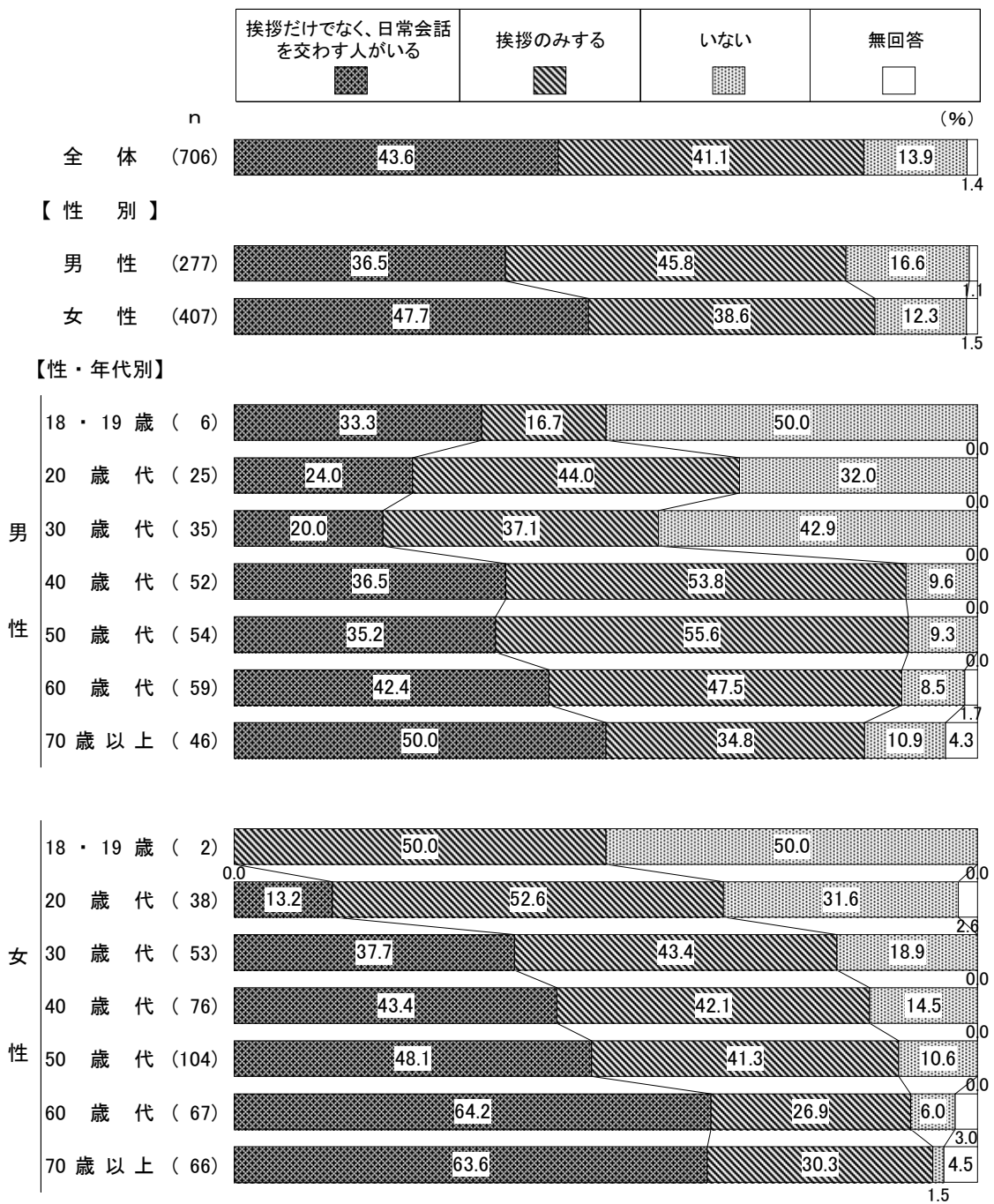
問 55 身近な地域において、気軽に挨拶できる相手はいますか。(1つだけ○)

図 6-1 気軽に挨拶できる相手



気軽に挨拶できる相手はいるか聞いたところ、「挨拶だけでなく、日常会話を交わす人がある」(43.6%)と「挨拶のみする」(41.1%)がともに4割を超えている。一方、「いない」(13.9%)は1割を超えている。(図 6-1)

図 6-2 気軽に挨拶できる相手（性別、性・年代別）



性別にみると、「挨拶だけでなく、日常会話を交わす人がある」は女性（47.7%）が男性（36.5%）より 11.2 ポイント高くなっている。一方、「挨拶のみする」は男性（45.8%）が女性（38.6%）より 7.2 ポイント、「いない」は男性（16.6%）が女性（12.3%）より 4.3 ポイント、それぞれ高くなっている。

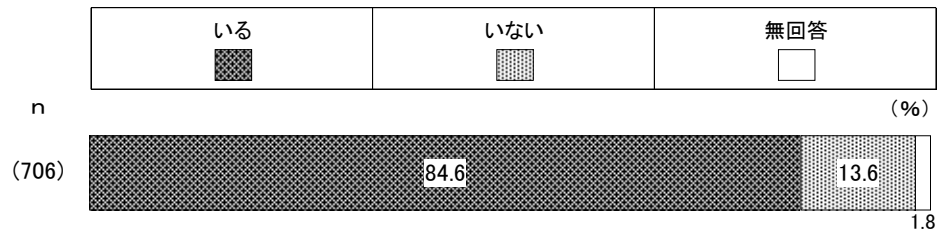
性・年代別にみると、「挨拶だけでなく、日常会話を交わす人がある」は女性 60 歳代（64.2%）と女性 70 歳以上（63.6%）で 6 割台と高くなっている。「挨拶のみする」は男性 50 歳代（55.6%）で 5 割半ばと高くなっている。「いない」は男性 30 歳代（42.9%）で 4 割を超えて高くなっている。

（図 6-2）

(2) 困ったときに相談できる人の有無 (2024年度新設)

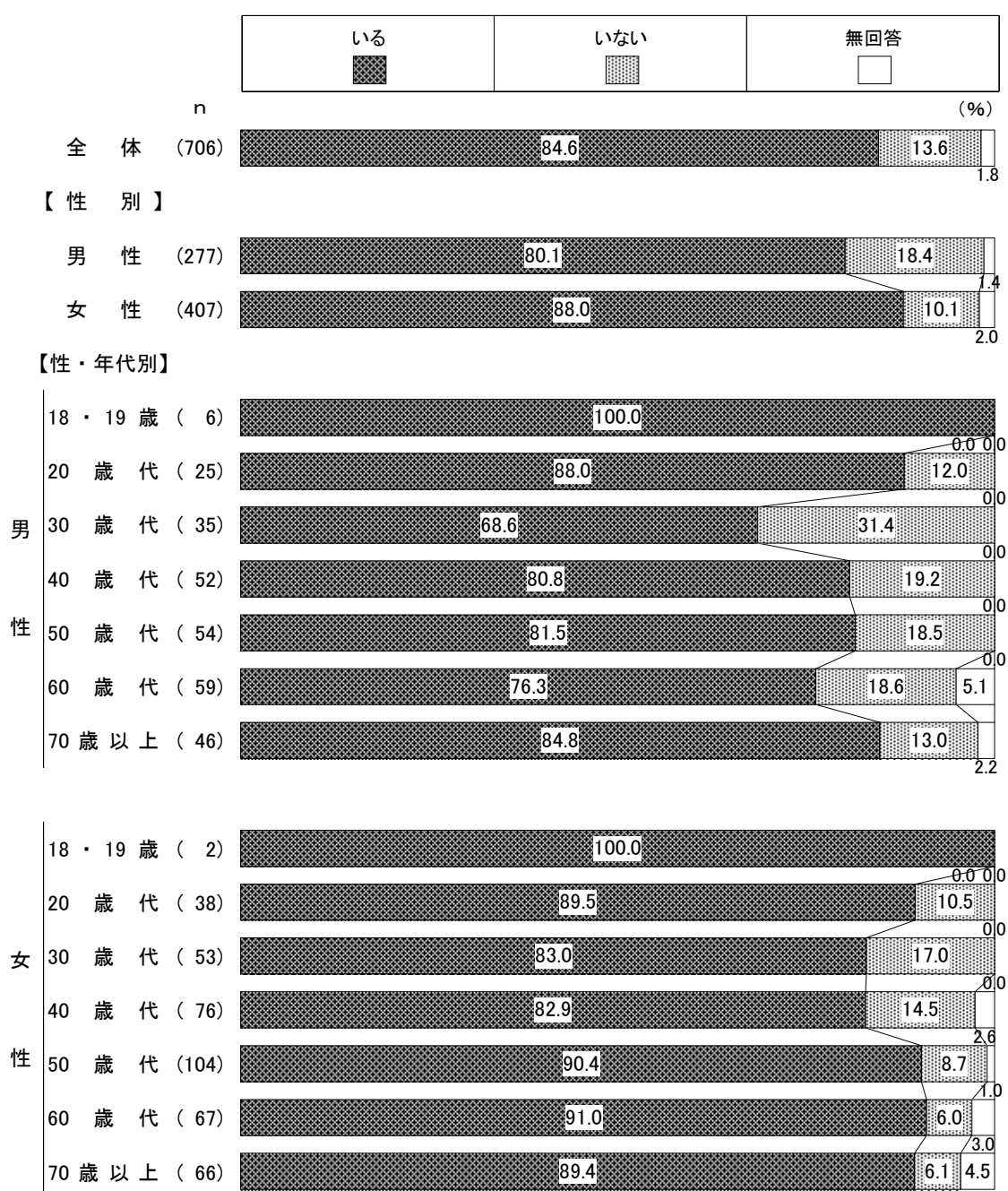
問 56 あなたが困ったときに相談できる人はいますか。(1つだけ○)

図 6-3 困ったときに相談できる人の有無



困ったときに相談できる人の有無を聞いたところ、「いる」(84.6%)が8割半ば、「いない」(13.6%)は1割を超えている。(図 6-3)

図 6-4 困ったときに相談できる人の有無（性別、性・年代別）



性別にみると、「いる」は女性（88.0%）が男性（80.1%）より 7.9 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「いる」は女性 50 歳代（90.4%）と女性 60 歳代（91.0%）で 9 割台と高くなっている。一方、「いない」は男性 30 歳代（31.4%）で 3 割を超えて高くなっている。

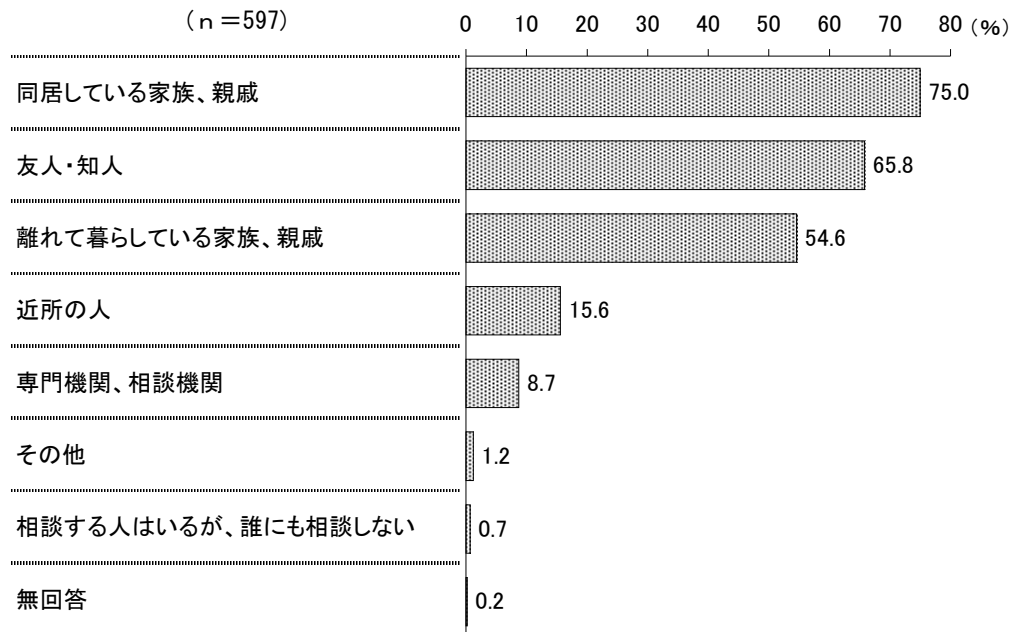
（図 6-4）

(3) 困ったときの相談相手 (2024年度新設)

(問 56 で、「いる」と回答した方に)

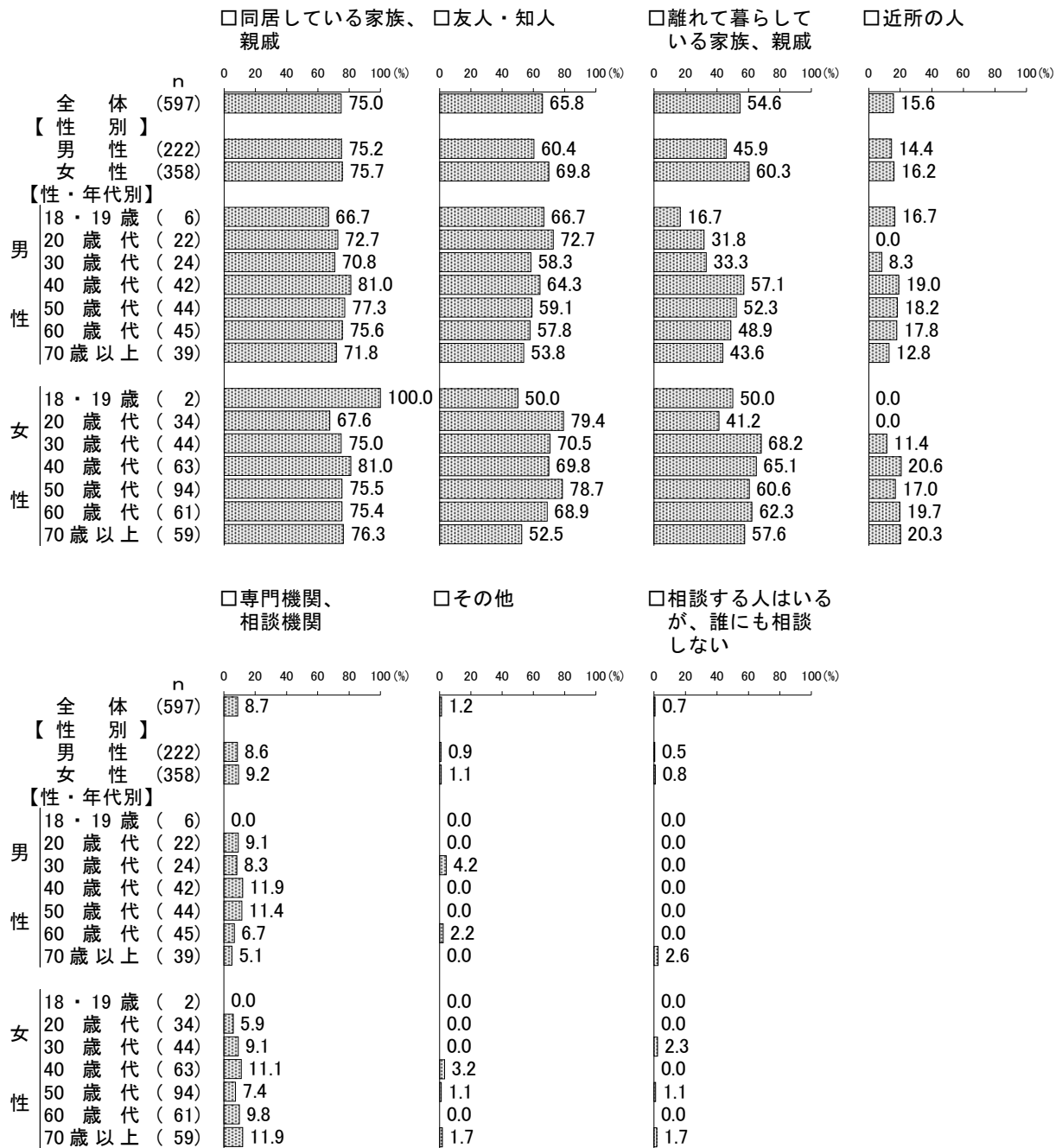
問 56－1 相談できる人は誰ですか。(あてはまるもの全てに○)

図 6－5 困ったときの相談相手



困ったときの相談相手を聞いたところ、「同居している家族、親戚」(75.0%)が7割半ばで最も高く、次いで「友人・知人」(65.8%)、「離れて暮らしている家族、親戚」(54.6%)、「近所の人」(15.6%)となっている。(図 6－5)

図 6-6 困ったときの相談相手（性別、性・年代別）



性別にみると、「離れて暮らしている家族、親戚」は女性（60.3%）が男性（45.9%）より 14.4 ポイント、「友人・知人」は女性（69.8%）が男性（60.4%）より 9.4 ポイント、それぞれ高くなっている。

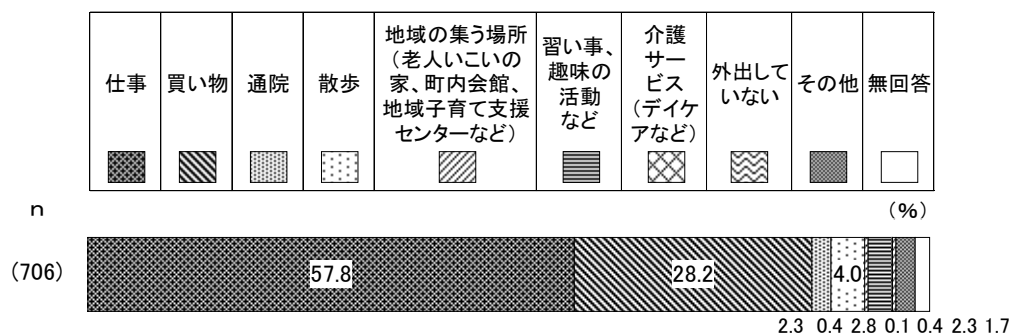
性・年代別にみると、「同居している家族、親戚」は男性 40 歳代と女性 40 歳代（ともに 81.0%）で 8 割を超えて高くなっている。「友人・知人」は女性 20 歳代（79.4%）で約 8 割と高くなっている。「離れて暮らしている家族、親戚」は女性 30 歳代（68.2%）で 7 割近くと高くなっている。

（図 6-6）

(4) 直近1週間の外出状況 (2024年度新設)

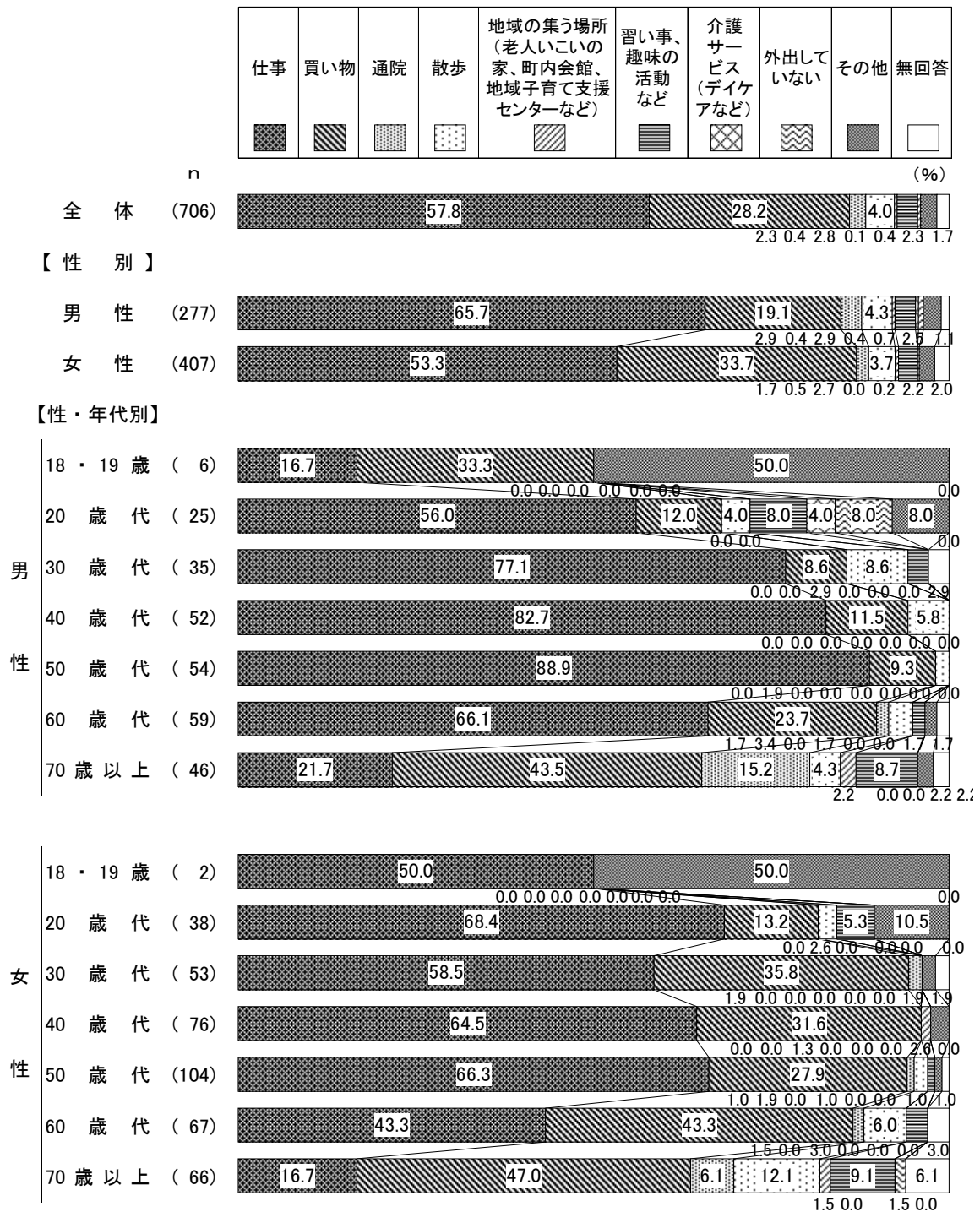
問 57 あなたの直近1週間の外出についてお答えください。1番多い外出理由は何ですか。
(1つだけ○)

図 6-7 直近1週間の外出状況



直近1週間の外出状況を聞いたところ、「仕事」(57.8%)が6割近くと最も高く、次いで「買い物」(28.2%)、「散歩」(4.0%)となっている。(図6-7)

図 6-8 直近 1 週間の外出状況（性別、性・年代別）



性別にみると、「買い物」は女性（33.7%）が男性（19.1%）より 14.6 ポイント高くなっている。一方、「仕事」は男性（65.7%）が女性（53.3%）より 12.4 ポイント高くなっている。

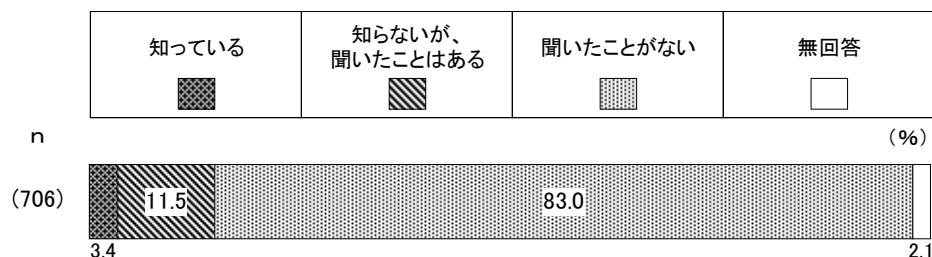
性・年代別にみると、「仕事」は男性 40 歳代（82.7%）と男性 50 歳代（88.9%）で 8 割台と高くなっている。「買い物」は女性 70 歳以上（47.0%）で 5 割近くと高くなっている。（図 6-8）

(5)「ソーシャルデザインセンター（SDC）」の認知度（2024年度新設）

問 58 川崎市では、「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」に基づき、各区において、多様な主体の連携により、市民創発によって課題解決する区域レベルの新たな仕組みとして、地域でのさまざまな新しい活動や価値を生み出し、社会変革を促す基盤としての「ソーシャルデザインセンター（SDC）」を通じて、人や団体・企業、資源・活動をつなぐコーディネート機能とプロデュース機能や人材育成、まちのひろばへの支援等を進めています。

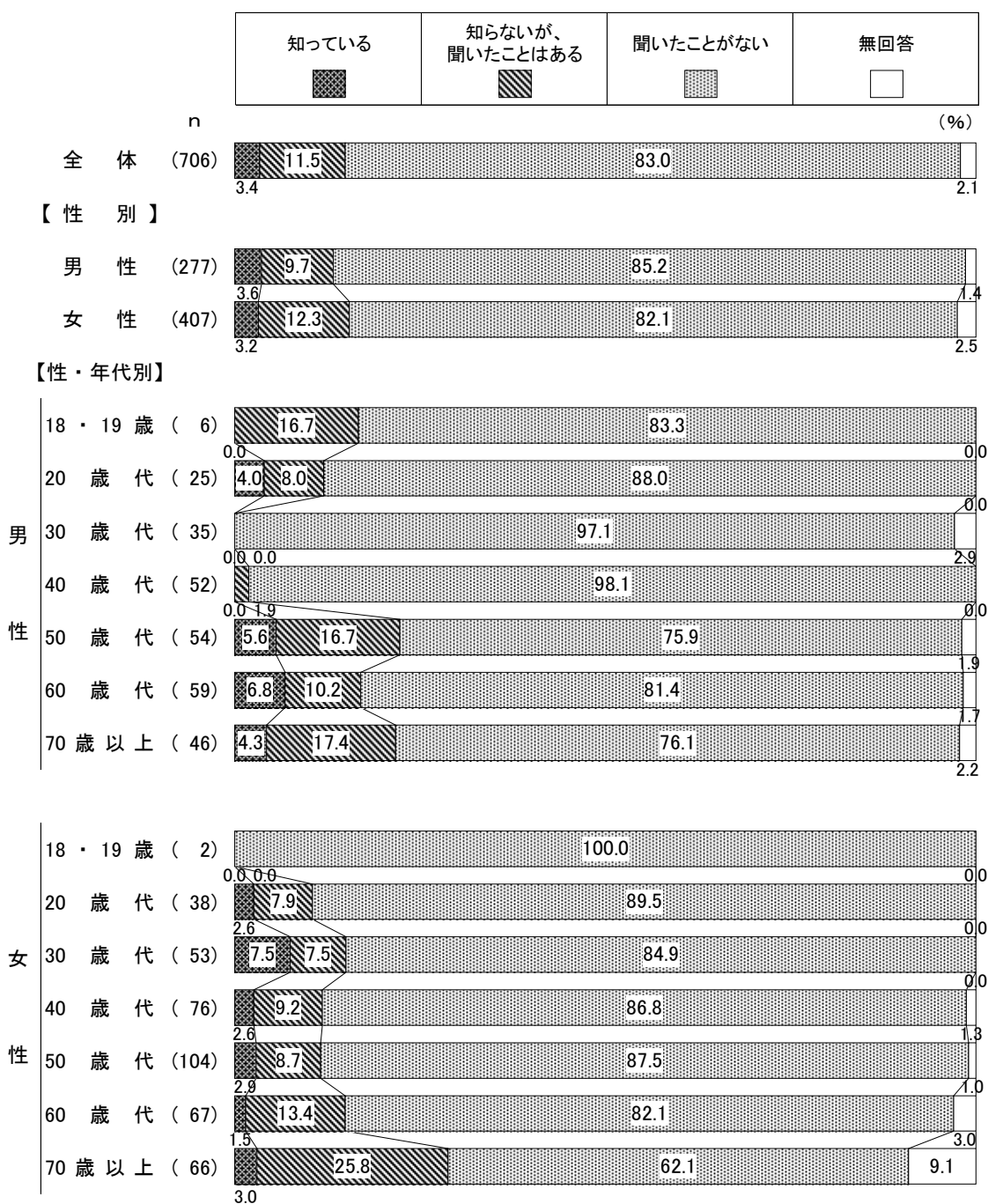
「ソーシャルデザインセンター（SDC）」を知っていますか（1つだけ○）

図 6-9 「ソーシャルデザインセンター（SDC）」の認知度



「ソーシャルデザインセンター（SDC）」の認知度を聞いたところ、「知っている」（3.4%）が1割未満、「知らないが、聞いたことはある」（11.5%）は1割を超えている。一方、「聞いたことがない」（83.0%）は8割を超えている。（図 6-9）

図6-10 「ソーシャルデザインセンター（SDC）」の認知度（性別、性・年代別）



性別にみると、「聞いたことがない」は男性（85.2%）が女性（82.1%）より 3.1 ポイント高くなっている。

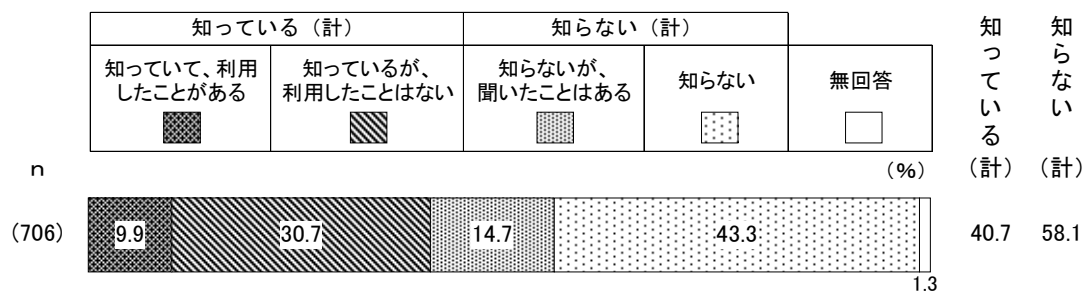
性・年代別にみると、「知らないが、聞いたことはある」は女性 70 歳以上（25.8%）で 2 割半ばと高くなっている。一方、「聞いたことがない」は男性 30 歳代（97.1%）と男性 40 歳代（98.1%）で 10 割近くと高くなっている。（図 6-10）

7. 高齢者支援について

(1) 地域包括支援センターの認知度（2024年度新設）

問 59 地域包括支援センターを知っていますか。（1つだけ○）

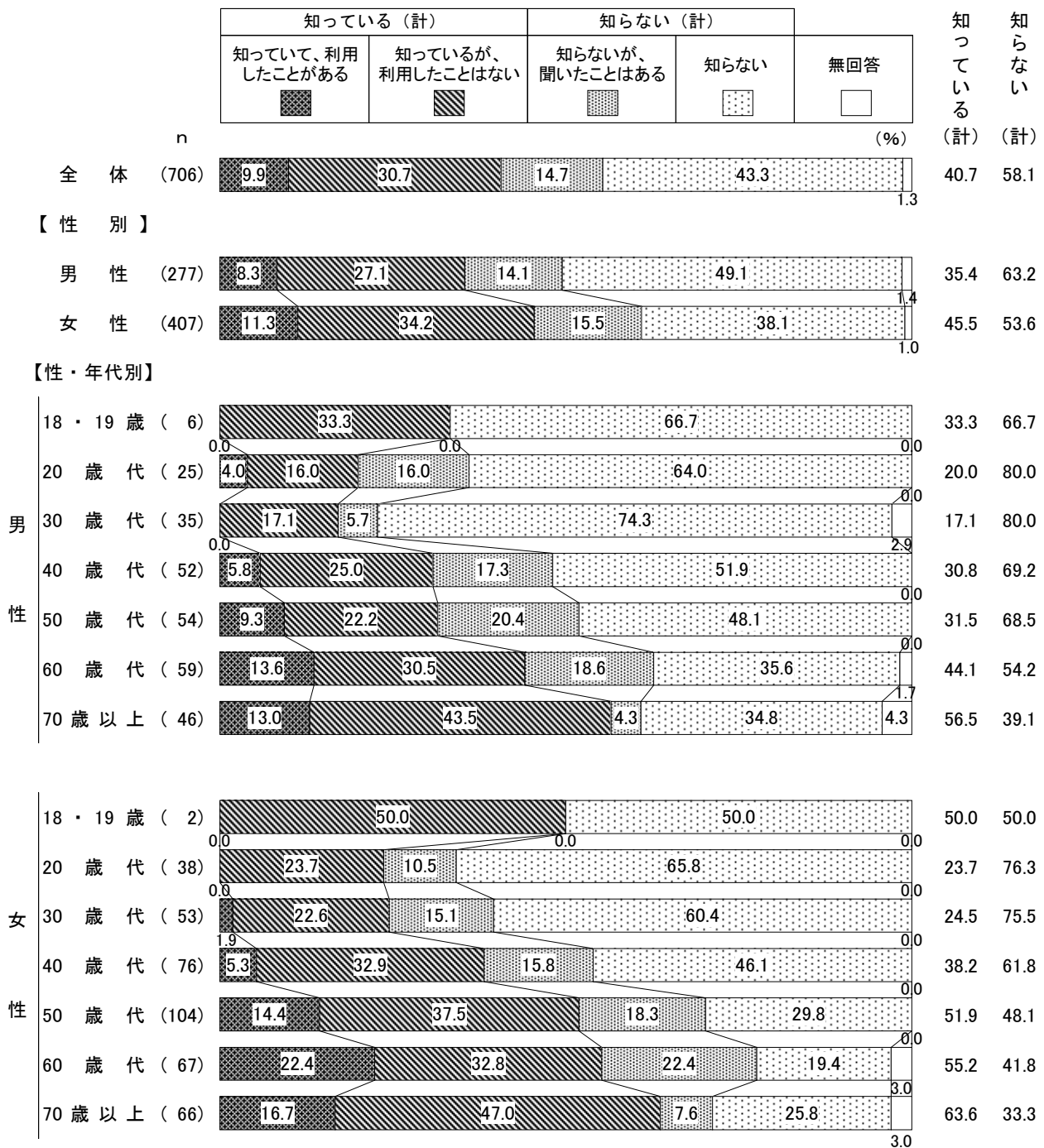
図 7-1 地域包括支援センターの認知度



※地域包括支援センターとは、川崎市から委託を受けた、公的な相談機関です。高齢者や家族、地域の方が身近に相談できる窓口で、高齢者の健康や生活、介護などに関する悩みや問題に対応します。高津区内には7箇所の地域包括支援センター（わらく、すえなが、陽だまりの園、溝口、ひさすえ、樹の丘、リ・ケア向ヶ丘）があります。

地域包括支援センターの認知度を聞いたところ、「知っていて、利用したことがある」（9.9%）と「知っているが、利用したことはない」（30.7%）を合わせた『知っている（計）』（40.7%）は約4割となっている。一方、「知らないが、聞いたことはある」（14.7%）と「知らない」（43.3%）を合わせた『知らない（計）』（58.1%）は6割近くとなっている。（図 7-1）

図 7-2 地域包括支援センターの認知度（性別、性・年代別）



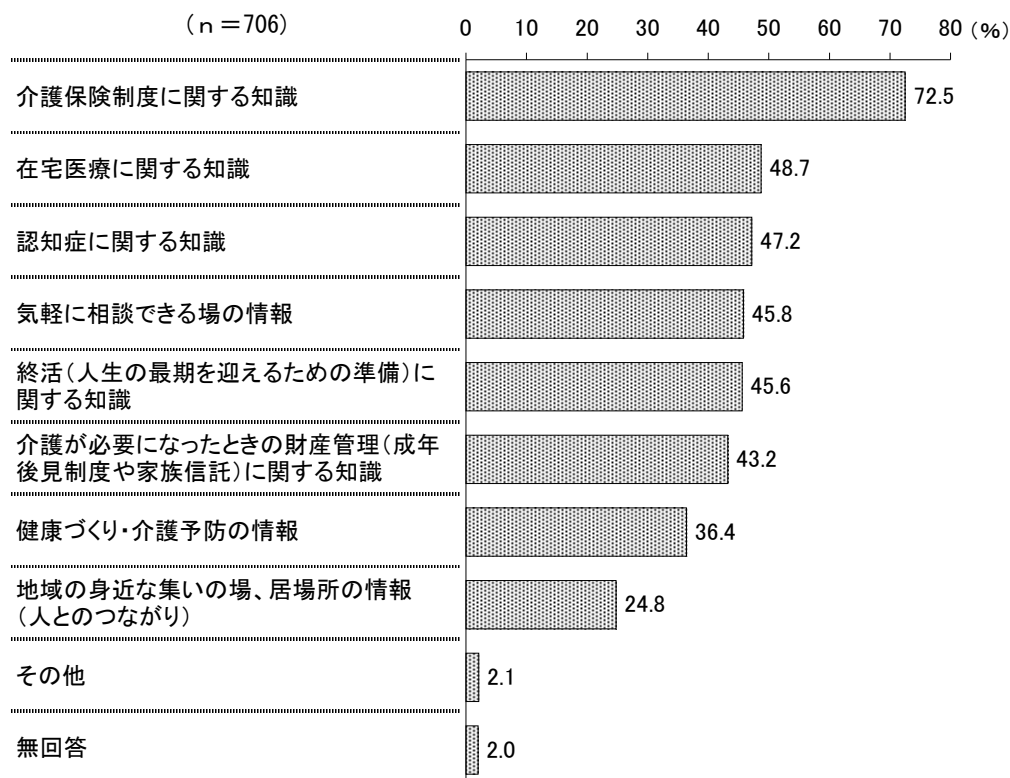
性別にみると、『知っている（計）』は女性（45.5%）が男性（35.4%）より 10.1 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『知っている（計）』は女性 70 歳以上（63.6%）で 6 割を超えて高くなっている。一方、『知らない（計）』は男性 20 歳代と男性 30 歳代（ともに 80.0%）で 8 割と高くなっている。（図 7-2）

(2) 安心して暮らし続けるために必要な知識 (2024年度新設)

問 60 自分が年を取って（高齢の方は現在）、安心して暮らし続けるために知識を得ておく必要があると思うことは何ですか。（あてはまるもの全てに○）

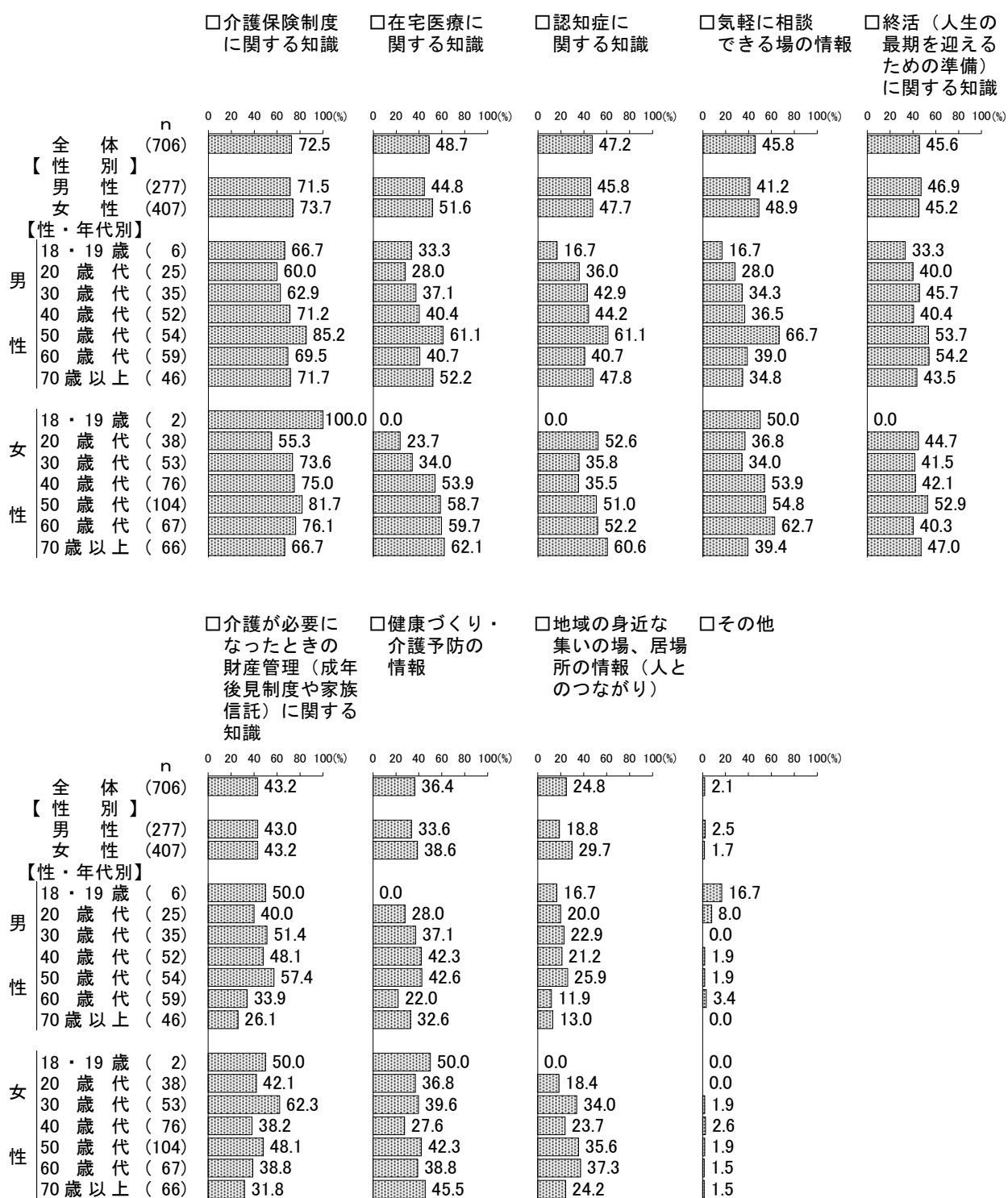
図 7-3 安心して暮らし続けるために必要な知識



※在宅医療とは、通院や入院ではなく、自宅や施設などの生活の場で受ける医療です。身体の状態等により通院が困難になった時、かかりつけ医や看護師、リハビリ従事者などが自宅や施設に伺い、診察・治療・処置などを行います。

安心して暮らし続けるために必要な知識を聞いたところ、「介護保険制度に関する知識」(72.5%)が7割を超えて最も高く、次いで「在宅医療に関する知識」(48.7%)、「認知症に関する知識」(47.2%)、「気軽に相談できる場の情報」(45.8%)となっている。(図 7-3)

図 7-4 安心して暮らし続けるために必要な知識（性別、性・年代別）



性別にみると、「地域の身近な集いの場、居場所の情報（人とのつながり）」は女性（29.7%）が男性（18.8%）より 10.9 ポイント、「気軽に相談できる場の情報」は女性（48.9%）が男性（41.2%）より 7.7 ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別にみると、「介護保険制度に関する知識」は男性 50 歳代（85.2%）で 8 割半ばと高くなっている。「気軽に相談できる場の情報」は男性 50 歳代（66.7%）で 7 割近くと高くなっている。

（図 7-4）

IV 使用した調査票

高津区区民生活に関わるニーズ調査

2024年 9 月

高津区では、区政を進める上での参考資料を得ることを目的として、「高津区区民生活に関わるニーズ調査」を実施いたします。

今年度の実施に当たり、全区民の方々を対象に、偏ることのないよう統計的な方法（住民基本台帳から無作為抽出）で選ばせていただきましたところ、あなた様にご意見をお伺いすることになりました。お忙しいところ誠に恐縮ですが、ご協力の程お願い申し上げます。

調査の結果は、「こういう方々のご意見が何パーセント」というように数表としてまとめますので、あなた様のお名前が外部に洩れたり、ご意見をお聞きしたことでご迷惑をおかけしたりするようなことは絶対にございません。ご安心ください。

ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒に入れ、無記名のまま切手を貼らずに、**9月30日（月）**までにご投函ください。

なお、調査結果につきましては、2025 年 3 月頃に、区役所ホームページに掲載するほか、区役所に閲覧用の調査結果報告書を設置する予定です。

今回の調査はオンライン併用です。右記の2次元コードより、お手持ちのパソコン・スマートフォンやタブレット等から回答もできますので、ご自身の状況に合わせて回答ください。また、**オンラインで回答された際は紙での回答は不要**です。

<URL> <https://logoform.jp/form/FUQz/681410>



< 2次元コード >

～ご記入に際してのお願い～

1. アンケートのご回答は、必ずご本人が行ってください。
2. ご回答は、次の要領で行ってください。
 - 各項目について、お気軽に感じたままをお答えください。
 - 回答項目のうち、あてはまると思われる番号に○をつけてください。
 - の数は、（3つまで○）（いくつでも○）といった（ ）内の指示に合わせてつけてください。
 - 「その他」の（ ）内や 内には、ご意見を具体的にお書きください。

この調査についてご不明な点等がございましたら、下記までお気軽にお問合せください。

川崎市高津区役所 まちづくり推進部企画課

電 話 044-861-3131

FAX 044-861-3103

【第1部 通常アンケート】

問1 次にあげる区役所の仕事で、よくやっていると思われるものは、どれですか。(いくつでも○)

問2 今後、特に力を入れてほしいとお考えのものは、どれですか。(いくつでも○)

	問1 よくやっている と思うもの (いくつでも○)	問2 特に力を入れて ほしいと思うもの (いくつでも○)
回答例 ⇒	①	①
(1) 放置自転車対策	1	1
(2) 交通事故防止対策	2	2
(3) 路上喫煙防止対策	3	3
(4) 街頭犯罪の防止	4	4
(5) 地震や風水害への対策	5	5
(6) 駅周辺の環境整備	6	6
(7) 道路、歩道の整備	7	7
(8) 公園、緑地の整備	8	8
(9) 水辺の整備	9	9
(10) 建築、開発計画、景観ルールなどまちづくりに関する相談・支援	10	10
(11) 健康づくりに関する事業	11	11
(12) 高齢者関係の事業	12	12
(13) 子どもや子育ての支援	13	13
(14) 心身の不自由な人の支援	14	14
(15) 区内で多様な主体による連携を進める事業	15	15
(16) 地域の住民同士のつながりを深める事業	16	16
(17) 市民活動の支援	17	17
(18) 区の広報の充実	18	18
(19) 区の広聴 ^{※1} や参加 ^{※2} の機会の充実	19	19
(20) 花と緑のまちづくりの推進	20	20
(21) 文化的な催し（音楽祭、コンサートなど）の開催	21	21
(22) スポーツの振興	22	22
(23) 区のイメージアップ	23	23
(24) 地域の魅力を生かした事業	24	24
(25) 区民と行政が協力してまちづくりを進める仕組みづくり	25	25

	問 1	問 2
	よくやっている と思うもの (いくつでも○)	特に力を入れて ほしいと思うもの (いくつでも○)
(26) 区役所の窓口サービスの向上	26	26
(27) 地球温暖化対策に関する事業	27	27
(28) 区内在住の外国人に対する支援	28	28
(29) 生涯学習※ ³ の支援・推進	29	29
(30) 地域包括ケアシステム※ ⁴ の推進	30	30
(31) D X (デジタルトランスフォーメーション) ※ ⁵ の推進	31	31
(32) 特になし	32	32
(33) わからない	33	33
(34) その他 ()	34	34

※ 1) 広聴：行政機関などが広く一般の人の意見や要望などを聞くこと

※ 2) 参加：市民の参加の下で市政が行われ、市民の意思を自治体運営に反映すること。(この調査では、区民の皆さまの声を区政に反映することを指します。)

※ 3) 生涯学習：人々が生涯にわたって、様々な場や機会において行う学習

※ 4) 地域包括ケアシステム：住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、自助・互助・共助・公助の適切な役割分担のもと、住まい・医療・介護・予防・福祉・生活支援などが切れ目なく、一体的に提供される体制づくり

※ 5) D X：デジタル技術を活用してビジネスモデルや職場文化を変革すること、また、それにより顧客満足度の向上や業務効率化を図ること

問 3 放置自転車対策としては、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

1 駅周辺に駐輪場を整備・増設する	6 バス・電車など公共交通機関の利用を促す
2 放置自転車の撤去を強化する	7 駅まで歩くように啓発する
3 整理誘導員による指導を強化する	8 過料・反則金を科す
4 自転車利用者へマナーを啓発する	9 その他 ()
5 シェアサイクルを充実する	

問4 街の安全を守るためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

- | | |
|---------------------------|----------------------|
| 1 住民が自分たちで地域をパトロールする | 6 広報物などにより防犯の啓発活動をする |
| 2 区内で発生する犯罪情報を発信する | 7 防犯灯を増設する |
| 3 防犯教室を開催する | 8 防犯カメラを増設する |
| 4 防犯グッズの配布や街頭に立つでの啓発活動をする | 9 その他 () |
| 5 地域の危険箇所を記した安全マップを作成する | |

問5 地震や風水害への対策としては、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

- | | |
|----------------------|------------------------------|
| 1 防災訓練を充実させる | 6 防災に関する情報(避難場所・避難経路など)を発信する |
| 2 被災時に必要な物資を充実させる | 7 耐震診断を充実させる |
| 3 消火や救命活動のできる人材を育成する | 8 地域の防災組織の活性化を図る |
| 4 地域のつながりの充実を図る | 9 その他 () |
| 5 防災に関する啓発活動を行う | |

問6 区民がより健康になるために、どのような支援や仕組みがあるとよいでしょうか。(3つまで○)

- | | |
|------------------------------|-----------------------------------|
| 1 健康づくりに関する情報提供 | 7 健康に配慮した食事・食品を提供する飲食店や店舗に関する情報提供 |
| 2 健康づくりに関する講座・イベント | 8 幼少期からの健康習慣獲得のための学習機会の提供 |
| 3 市民が自主的に行う健康づくりの活動に対する支援の充実 | 9 職場や学校を通した健康づくりの機会 |
| 4 健康づくりに一緒に取り組む仲間づくり | 10 その他 () |
| 5 タバコやアルコールの害に関する啓発活動 | |
| 6 健康診断やがん検診の受診に関する情報提供 | |

問7 高齢者がいきいきと生きがいを持って生活するためには、どのような支援や仕組みがあるとよいでしょうか。(3つまで○)

- | | |
|----------------------------|----------------------|
| 1 高齢者が集まれる場所をつくる | 5 趣味のサークル等に関する情報提供 |
| 2 高齢者が活躍できる機会をつくる | 6 高齢者の相談先に関する情報提供 |
| 3 高齢者の働く場や有償ボランティア等の機会をつくる | 7 介護予防に関する情報提供 |
| 4 高齢者が気軽に体操ができる機会や場所をつくる | 8 介護予防に関する講座・イベントの開催 |
| | 9 その他 () |

問8 子どもや子育てを支援するためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

- 1 子どもや子育てに関する情報を発信する
- 2 子どもの遊び場を提供する
- 3 子育て中の親が交流できる場を提供する
- 4 家事を補助する仕組みをつくる
- 5 区役所に親の不安や子育ての悩みなどを専門的に相談できる仕組みをつくる
- 6 幼稚園・保育園等の施設を増設する
- 7 保育園における保育の質を向上させる
- 8 子どもや子育て関係の団体・サークルを支援する
- 9 子どもや青少年の育ちを支援するような講座等を開催する
- 10 その他 ()

問9 地域の住民同士のつながりを深めるためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

- 1 多くの区民が参加できるようなイベント(お祭りなど)を開催する
- 2 小さなエリアを単位として住民同士のつながりづくりのきっかけとなるような機会(イベント等)をつくる
- 3 身近に集い、憩える場所や機能(まちのひろば)をつくる
- 4 市民活動団体、企業などが行う地域活動を行政が支援する
- 5 町内会、自治会の活動を行政が支援する
- 6 地域のつながりづくりを行っている区民と行政が連携を図っていく
- 7 「地域のコミュニティ」というテーマで講演会・シンポジウムを開催する
- 8 その他 ()

問10 市民活動の支援としては、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

- | | |
|-------------------------|---------------------|
| 1 活動資金を助成する | 4 市民活動の情報を共有する |
| 2 団体同士が交流する機会を設ける | 5 区内で活動する人材バンクをつくる |
| 3 市民団体が印刷や打合せができる場所を設ける | 6 有益な活動をしている団体を表彰する |
| | 7 その他 () |

問11 区の情報を提供するためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| 1 市政だより区版を拡充する | 5 メールマガジンを発行する |
| 2 施設に置くパンフレットやチラシを充実させる | 6 新聞、タウン誌などのメディアを活用する |
| 3 ホームページを充実させる | 7 町内会の回覧板で周知する |
| 4 SNS※を活用する | 8 その他 () |

※) SNS (Social Networking Service) : 個人間のコミュニケーションを促進し、社会的なネットワークの構築を支援する、インターネットを利用したサービスのこと

問 12 区民の意見を収集し、または、区民の意見を区政に反映するためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

- 1 「区役所にどのようなことを行ってほしいか」のアンケート調査を行う
- 2 区役所に直接要望を伝えられる、目安箱のような制度をつくる
- 3 公開の場で区長に直接意見を伝えられるようなタウンミーティング※¹を開く
- 4 区の将来像や地域課題等について、区民同士が話し合う大規模なワークショップ※²を開く
- 5 多様な主体※³が連携して、地域課題解決のアイデア等を具体的に話し合うワークショップを開く
- 6 SNS等を活用し、区役所とオンラインで意見交換できる仕組みをつくる
- 7 区政情報を発信するパネル展示等の会場で区職員に気軽に意見や質問をすることができる「オープンハウス※⁴」の場を設ける
- 8 区役所の取組を区民が体験し、意見や感想等を伝えるモニター制度をつくる
- 9 その他 ()

※1) タウンミーティング：行政などが市民に対して行う対話型の集会

※2) ワークショップ：参加者が主体的に参加し、体験しながら学ぶイベントや講座、グループ学習など

※3) 多様な主体：区内の企業や市民活動団体、町内会・自治会など

※4) オープンハウス：パネルの展示やリーフレット資料の配布により、事業や、その進め方に関する情報を区から提供するとともに、参加者がその場で担当の区職員に対して質問・意見できる市民参加の機会

問 13 川崎市は令和6年度に市制100周年を迎えましたが、高津区が取り組んでいる「花と緑のまちづくり」を推進していくためには、どのようにしたらよいでしょうか。(3つまで○)

- 1 街路樹による緑化を推進する
- 2 シンボルとなる魅力ある公園づくりをする
- 3 公共の場所に花壇をつくり、区民で維持管理をする
- 4 公園緑地や学校での環境教育・学習をする
- 5 ガーデニングなど個人的に活動している人を表彰する
- 6 その他 ()

問 14 川崎市が掲げている「音楽のまち」を高津区において推進するためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

- | | |
|-------------------------|-------------------|
| 1 区役所などの公共施設でコンサートを開催する | 5 区のイメージソングを作成する |
| 2 市民の音楽活動の発表の場を設ける | 6 区民の音楽団体の活動を支援する |
| 3 路上で歌うミュージシャンを支援する | 7 良質な音楽イベントを誘致する |
| 4 小学校、中学校に音楽教育をする | 8 その他 () |

問 15 区のイメージアップを図るためには、どのような手法がよいでしょうか。（3つまで○）

- 1 区を紹介する広報誌を発行する
- 2 高津区を特徴づけるイベントを開催する
- 3 駅前など人が多く集まるところをきれいにする
- 4 安心・安全なまちづくりを推進する
- 5 区内に花や緑を増やす
- 6 名所・旧跡など区のみどころを案内看板で紹介する
- 7 高津区のイメージキャラクターをつくる
- 8 その他（ ）

問 16 区の地域資源の魅力をより効果的に発信するためには、どのような手法がよいでしょうか。
（3つまで○）

- 1 地域資源をめぐるウォーキングコースを整備する
- 2 区内をめぐるランニングコース又はサイクリングコース等を整備する
- 3 区民公募により、重要な地域資源を選出する（例：（仮）たかつ百景など）
- 4 地域資源を紹介する冊子又はマップを発行する
- 5 SNSや動画を活用してオンラインで地域資源の紹介を配信する
- 6 地域資源を来訪者に説明できるような市民ガイドを養成する
- 7 その他（ ）

問 17 区役所の窓口サービスを向上させるにはどのような手法がよいでしょうか。（3つまで○）

- 1 窓口案内人（コンシェルジュ）を配置する
- 2 窓口の案内表示を分かりやすくする
- 3 申請書の書き方を分かりやすくする
- 4 土曜・日曜・祝日に窓口を開く
- 5 職員の窓口対応を区民が評価する
- 6 基本情報の反映により、申請書の記載項目を最小限にする
- 7 区役所の窓口足運ばず、オンライン申請できる手続・届出を増やす
- 8 その他（ ）

問 18 区民と行政が協力してまちづくりを進める仕組みとしては、どのようなものがよいでしょうか。
（3つまで○）

- 1 区民から事業の提案を募集し、その事業を提案者（区民）と区役所で協力して実施する
- 2 区役所が区民ボランティアを募集する
- 3 SNS等を通じて、地域の課題についてオンラインで区役所と区民が情報共有、意見交換できるようにする
- 4 区役所の予算編成に区民の意見や視点を反映させる
- 5 若者の意見やアイデアを取り入れる制度をつくる
- 6 その他（ ）

問 19 地域における地球温暖化の緩和策※¹としては、どのような手法がよいでしょうか。（3つまで○）

- 1 地球温暖化について啓発するため、体験型イベントを開催する
- 2 日常生活で身近にできる温暖化対策についての普及・啓発をする
- 3 区内小学校等において、環境教育・学習を推進する
- 4 区内に花や緑を増やす
- 5 シェアリングエコノミー※²を推進する
- 6 再生可能エネルギーを導入している区民を支援する
- 7 区内の環境に関する技術開発をしている企業等を支援する
- 8 その他（ ）

※ 1）緩和策：温暖化の原因となる温室効果ガスの排出を抑制するための取り組み

※ 2）シェアリングエコノミー：物・サービス・場所などを、多くの人と共有・交換して利用する社会的な仕組み（自転車、自動車、傘など）

問 20 地域における地球温暖化に伴う自然災害への適応策※として、どのような手法がよいでしょうか。（3つまで○）

- 1 日常生活で身近にできる適応策の普及・啓発を行う
- 2 区内小学校等において、適応策に関する学習を推進する
- 3 局地的な豪雨による洪水、土砂崩れなどの災害について、地域の地形に応じた危険性がわかるようなマップを作成する
- 4 まち歩きイベントなどを通じて、地域の地形の特徴や災害リスクを学ぶ機会を設ける
- 5 学校や空き地などに、雨水を一時的に貯めるための調整池の整備を推進する
- 6 森林や緑地を適切に管理し、保水力を維持する
- 7 その他（ ）

※）適応策：ゲリラ豪雨による洪水や土砂崩れなどの地球温暖化の影響に「適応」するための取り組み（雨水の貯留や地面の保水力向上など）

問 21 スポーツを振興するためには、どのような手法がよいでしょうか。（3つまで○）

- 1 気軽に参加できるスポーツイベントを開催する
- 2 有名選手や指導者によるスポーツ教室や講習会を開催する
- 3 スポーツに関する情報提供を充実させる
- 4 スポーツ施設や気軽に運動できる場所を充実させる
- 5 地域のクラブやサークルの活動を活性化させる
- 6 スポーツ指導者の育成をする
- 7 スポーツに係るボランティアの育成をする
- 8 その他（ ）

問 22 生涯学習を盛んにしていくためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

- 1 短時間や土日、夜間など気軽に学べる講座を増やす
- 2 講座の受講場所を増やす
- 3 インターネットを利用したオンライン学習を充実させる
- 4 SNSなどを活用し講座の情報を受け取りやすくする
- 5 自由に使える学習スペースを設ける
- 6 学習の支援や、相談できるコーディネーターを配置する
- 7 学習成果を生かす場を増やす
- 8 学びたい人同士が交流する場を増やす
- 9 企業や大学などとの連携による学習事業をつくる
- 10 その他 ()

※) 生涯学習：人々が生涯に行うあらゆる学びのことで、文化活動、スポーツ活動、レクリエーション活動、ボランティア活動、趣味など様々な場や機会において行う学習のことです。

問 23 あなたのまち（お住まいの地域や区内の生活圏）の課題・問題点と思うものは何ですか。
(いくつでも○)

- 1 地震や風水害に対する準備が不足している
- 2 街頭犯罪に対して不安がある
- 3 路上喫煙や歩きたばこが多い
- 4 駅周辺に放置自転車が多い
- 5 自転車の交通ルールやマナーが守られていない
- 6 道路や歩道の整備が不十分である
- 7 駅前広場の整備が不十分である
- 8 駅までの交通の利便性がよくない
- 9 高齢者を地域ぐるみで支える仕組みが不十分である
- 10 近所に公園が少ない
- 11 公園の維持管理が行き届いていない
- 12 子どもや子育てを地域ぐるみで支援する仕組みが不十分である
- 13 まちに木や草花など、緑が少なくなっている
- 14 水辺に親しめる環境がない
- 15 ごみの散乱や壁への落書きなど、まちが汚い
- 16 ごみの分け方や出し方などのルールが守られていない
- 17 カラスによる人への威嚇やごみの散乱などの被害が多い
- 18 商店街に活気がない
- 19 地域の中で住宅と工場が混在し、周辺の問題がある
- 20 名所・旧跡などの地域の魅力が知られていない
- 21 近隣の住民同士の関係が薄れている
- 22 シニア世代が地域に貢献できる仕組みがない
- 23 特になし
- 24 わからない
- 25 その他 ()

問 24 区役所に希望すること、期待することをご自由に記入してください。

【第2部 取り組みに対する認知度・評価】

あなたは高津区の行っている取り組みについてご存知でしょうか。

- (1) については取り組みの認知度およびその取り組みの評価について該当するものに○をつけてください。(認知度について、選択肢1を選んだ方のみ評価について○をつけてください)
- (2) については取り組みへのご意見や改善策のご提案等がございましたらご記入ください。

問25 「エコシティたかつ」推進の取り組み

内容：地域の多様な主体が協力して、総合的かつ多面的に地球温暖化などの環境問題に取り組む「エコシティたかつ」推進方針に沿って、緑ヶ丘霊園内の森の整備を行う「たかつ水と緑の探検隊」や区内小学校においてビオトープを整備し、それを活用した環境学習支援を行う「学校流域プロジェクト」区内に自生する希少な植物を地域の学校・団体・事業者等との協働により保全・育成する「みどりの里親」など様々なプロジェクトを実施している。

(1) 認知度 (1つだけ○)	1 内容まで知っている	2 聞いたことはある	3 知らない	
(1-1) 評価 (1つだけ○)	1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない	4 良くない
(2) 御意見(改善策のご提案等)				

問26 高津大山街道資源活用の取り組み

内容：大山街道及び周辺に残っている歴史的・文化的な資源を保全・活用し、魅力的な空間創造と地域活性化を図ることを目的として、市民から提案事業を募集し実施する「まちの企画室」や世田谷区と連携し大山街道沿いを歩く歴史ウォーキング、地元店舗が出店し開催する食イベントなどを行っている。

(1) 認知度 (1つだけ○)	1 内容まで知っている	2 聞いたことはある	3 知らない	
(1-1) 評価 (1つだけ○)	1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない	4 良くない
(2) 御意見(改善策のご提案等)				

問27 「たちばな農のあるまちづくり」推進の取り組み

内容：橘地区にある豊かな自然や農地、多くの歴史的資源を活かして、地域への愛着やふるさと意識の高まりなどから地域の活性化につなげる取り組みとして、ファーマーズマーケット「高津さんの市」や農業体験、フォトコンテストなどを実施している。

(1) 認知度 (1つだけ○)	1 内容まで知っている	2 聞いたことはある	3 知らない	
(1-1) 評価 (1つだけ○)	1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない	4 良くない
(2) 御意見(改善策のご提案等)				

問 28 たかつ区健康福祉まつり

内容：区民の健康・福祉に対する意識を向上させるため、毎年 7 月に開催している。福祉施設自主製品販売、健康・福祉関連グループの活動紹介、体脂肪率測定、健康相談、育児交流会などの催し物が行われる。

(1) 認知度 (1つだけ○)	1 参加したことがある 2 知っているが参加したことはない 3 知らない
(1-1) 評価 (1つだけ○)	1 良い 2 概ね良い 3 あまり良くない 4 良くない
(2) 御意見(改善策のご提案等)	

問 29 高津区公園体操

内容：住民にとって身近な公園を活用した「高津公園体操」を町内会等の住民組織や関係機関と連携し実施している。また、その普及啓発のため、地域住民を対象にした公園体操に関する講演会を実施し、リーフレットの配布、DVDの販売を行っている。

(1) 認知度 (1つだけ○)	1 参加したことがある 2 知っているが参加したことはない 3 知らない
(1-1) 評価 (1つだけ○)	1 良い 2 概ね良い 3 あまり良くない 4 良くない
(2) 御意見(改善策のご提案等)	

問 30 高津区「音楽のまち」推進の取り組み

内容：音楽を通じて区民にゆとりとやすらぎを提供するとともに、地域の音楽文化の振興を図ることを目的とし、区役所ロビーで行う「花コンサート」、区民参加型の音楽祭である「高津区民音楽祭」など様々なコンサートを開催している。

(1) 認知度 (1つだけ○)	1 参加したことがある 2 知っているが参加したことはない 3 知らない
(1-1) 評価 (1つだけ○)	1 良い 2 概ね良い 3 あまり良くない 4 良くない
(2) 御意見(改善策のご提案等)	

問 31 ダンス！ダンス！たかつ

内容：ダンスに関する地域資源を活用した取り組みとして、まちのにぎわいづくりや区への愛着・誇りの醸成を促すため、オールジャンルのダンスイベント「ダンス！ダンス！たかつ (D!D!T)」を開催している。

(1) 認知度 (1つだけ○)	1 参加したことがある 2 知っているが参加したことはない 3 知らない
(1-1) 評価 (1つだけ○)	1 良い 2 概ね良い 3 あまり良くない 4 良くない
(2) 御意見(改善策のご提案等)	

問 32 高津区子どもフェア

内容：子どもの健全育成を図るため、11月の第2日曜日に、新二子橋下の多摩川河川敷で、昔遊び（こま、たこあげ）、とあみ体験、紙飛行機遊びなどの各種イベントを実施している。

(1) 認知度 (1つだけ○)	1 参加したことがある 2 知っているが参加したことはない 3 知らない
(1-1) 評価 (1つだけ○)	1 良い 2 概ね良い 3 あまり良くない 4 良くない
(2) 御意見(改善策のご提案等)	

問 33 高津地区親子運動会

内容：毎年10月の第3日曜日に、高津中学校で高津地区の親子等を対象に運動会を行っている。町会対抗リレーや、むかで競争などの地域住民が参加できる様々な競技を実施している。

(1) 認知度 (1つだけ○)	1 参加したことがある 2 知っているが参加したことはない 3 知らない
(1-1) 評価 (1つだけ○)	1 良い 2 概ね良い 3 あまり良くない 4 良くない
(2) 御意見(改善策のご提案等)	

問 34 橋地区親子運動会

内容：毎年10月の第3日曜日に、橋中学校で橋地区の親子等を対象に運動会を行っている。100m 競争、町会対抗リレーなどの地域住民が参加できる様々な競技を実施している。

(1) 認知度 (1つだけ○)	1 参加したことがある 2 知っているが参加したことはない 3 知らない
(1-1) 評価 (1つだけ○)	1 良い 2 概ね良い 3 あまり良くない 4 良くない
(2) 御意見(改善策のご提案等)	

問 35 橋ふるさと祭り こどもイベント

内容：「地域の活性化」と「ふるさと意識の醸成」を図るため、毎年、川崎市民プラザで開催される「橋ふるさと祭り」(8月上旬の日曜日)において、広く子どもも大人も楽しめるイベントを実施している。

(1) 認知度 (1つだけ○)	1 参加したことがある 2 知っているが参加したことはない 3 知らない
(1-1) 評価 (1つだけ○)	1 良い 2 概ね良い 3 あまり良くない 4 良くない
(2) 御意見(改善策のご提案等)	

問 36 市民活動団体支援の取り組み

内容：区内の市民活動団体の活動の場所として「市民活動支援ルーム」の設置や、区民及び市民活動団体の交流の場である「高津区市民活動見本市（通称：まちかつフェス高津）」を開催している。

(1) 認知度 (1つだけ○)	1 内容まで知っている	2 あることは知っている	3 知らない	
(1-1) 評価 (1つだけ○)	1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない	4 良くない
(2) 御意見(改善策のご提案等)				

問 37 高津区総合ガイドマップ

内容：区内への転入者と在住の希望者を対象に、高津区の地図や公共施設の一覧、バス路線図、防災情報、区役所の電話番号案内などの区の基礎的な情報が入った総合ガイドマップを作成し配布している。

(1) 認知度 (1つだけ○)	1 読んだことがある	2 あることは知っている	3 知らない	
(1-1) 評価 (1つだけ○)	1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない	4 良くない
(2) 御意見(改善策のご提案等)				

問 38 情報ガイドブック「ホッとこそだて・たかつ」

内容：地域における子ども・子育て支援のより一層の充実を図ることを目的に区民協働で立ち上げた「ホッとこそだて・たかつ」という情報ガイドブックを区民と協働で作成し、情報発信を行っている。

(1) 認知度 (1つだけ○)	1 読んだことがある	2 知っているが読んだことはない	3 知らない	
(1-1) 評価 (1つだけ○)	1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない	4 良くない
(2) 御意見(改善策のご提案等)				

問 39 ホームページ「ホッとこそだて・たかつ」

内容：地域における子ども・子育て支援のより一層の充実を図ることを目的に、高津区ホームページの中のメニュー「ホッとこそだて・たかつ」にタイムリーな情報を掲載し、情報提供を行っている。

(1) 認知度 (1つだけ○)	1 見たことがある	2 知っているが見たことはない	3 知らない	
(1-1) 評価 (1つだけ○)	1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない	4 良くない
(2) 御意見(改善策のご提案等)				

問 40 子ども・子育てフェスタ

内容：毎年11月の土曜日に高津市民館において開催し、親子で参加できる楽しいイベント、学習・講演会、地域子育てグループ等の紹介などを実施している。その中で、市民と行政との協働により子どもの育ちを支えあうネットワークづくりを行っている。

(1) 認知度 (1つだけ○)	1 参加したことがある	2 知っているが参加したことはない	3 知らない	
(1-1) 評価 (1つだけ○)	1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない	4 良くない
(2) 御意見(改善策のご提案等)				

問 41 高津区地域連携スポーツの取り組み

内容：スポーツを通じた地域コミュニティの活性化や世代間交流、地域におけるスポーツ参加機会の拡充を図るため、「ファミリースポーツ縁日」、「スポーツインクルージョン縁日」といったスポーツイベントを開催している。

(1) 認知度 (1つだけ○)	1 参加したことがある	2 知っているが参加したことはない	3 知らない	
(1-1) 評価 (1つだけ○)	1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない	4 良くない
(2) 御意見(改善策のご提案等)				

問 42 高津区ふるさとアーカイブ

内容：区民に高津区の魅力を伝え、地域に愛着と親しみを持ってもらうため、高津区のまちなみを伝える資料を収集し、それを活用したワークショップやまち歩きを開催している。

(1) 認知度 (1つだけ○)	1 内容まで知っている	2 あることは知っている	3 知らない	
(1-1) 評価 (1つだけ○)	1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない	4 良くない
(2) 御意見(改善策のご提案等)				

問 43 花と緑のたかつ推進（区民ミニ・ガーデン）の取り組み

内容：区内に潤いのある空間を創出するため、市民との協働による花と緑のまちづくりの推進を図ることを目的として、区民ボランティアを中心に区内各所に設置した花苗のコンテナ及び花壇の植栽・管理を行っている。

(1) 認知度 (1つだけ○)	1 参加したことがある	2 知っているが参加したことはない	3 知らない	
(1-1) 評価 (1つだけ○)	1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない	4 良くない
(2) 御意見(改善策のご提案等)				

【第3部 区民意識アンケート】

特定のテーマについて、区民意識を把握するためのアンケート調査です。

<地域の防災について>

地域防災推進の参考とするため、以下の設問にお答えください。

問 44 現在お住まいの地域での大規模地震の発生について、あなたはどの程度不安ですか。
(1つだけ○)

- | | |
|-----------|-------------|
| 1 とても不安だ | 3 あまり不安ではない |
| 2 ある程度不安だ | 4 不安ではない |

(問 44 で、「1 とても不安だ」「2 ある程度不安だ」と回答した方に伺います)

▶ 問 44-1 特に不安なことは何ですか。(2つまで○)

- | | |
|----------------|-----------|
| 1 家族や自分自身の身の安全 | 5 食料や水の確保 |
| 2 家族の安否確認の方法 | 6 避難所での生活 |
| 3 避難所までの避難方法 | 7 その他 () |
| 4 自宅(家屋・建物)の倒壊 | |

(全員の方へ伺います)

問 45 現在お住まいの地域で、次の災害に対する不安はありますか。(あてはまるもの全てに○)

- | | |
|---------|------------|
| 1 崖崩れ | 6 火山の噴火 |
| 2 河川の氾濫 | 7 雪害 |
| 3 家屋の浸水 | 8 感じたことはない |
| 4 道路冠水 | 9 その他 () |
| 5 落雷 | |

問 46 あなたは町内会・自治会等が主催する地域の防災訓練に参加していますか。(1つだけ○)

- | | |
|--------------|-----------------|
| 1 毎回参加している | 3 ほとんど参加したことはない |
| 2 ほとんど参加している | 4 一度も参加したことはない |

(問 46 で、「3 ほとんど参加したことはない」「4 一度も参加したことはない」と回答した方に伺います)

▶ 問 46-1 地域の防災訓練に参加しない主な理由は何ですか。(1つだけ○)

- | | |
|-----------------------------|---------------------|
| 1 都合が合わないため | 4 参加するきっかけがないため |
| 2 いつどこで防災訓練があるのか
わからないため | 5 町内会・自治会に加入していないため |
| 3 参加方法がわからないため | 6 訓練に参加する必要性を感じないため |
| | 7 その他 () |

(全員の方へ伺います)

問 47 地域の防災力を高めるには、何が大切だと思いますか。(2つまで○)

- 1 救命救急活動や避難所の運営を支援できる地域人材の育成
- 2 地域のつながり・助け合いの充実
- 3 町内会・自治会等の防災活動の充実
- 4 区民への啓発活動や防災に関する情報の周知
- 5 各家庭における災害用備蓄の充実
- 6 行政による災害用備蓄の充実
- 7 その他 ()

問 48 あなたの家庭では、普段から大規模災害の発生に備え、どのようなことをしていますか。
(あてはまるもの全てに○)

- 1 3日分以上の水と食料の備蓄をしている
- 2 3日分以上の携帯トイレの備蓄をしている
- 3 非常持出品の用意をしている
- 4 家具などが倒れないように固定している
- 5 自宅を補強している
- 6 災害時の連絡先や集合場所について、家庭内でルールを決めている
- 7 地域の防災訓練に参加している
- 8 災害情報を収集できるようラジオ等を用意している
- 9 ハザードマップを確認している
- 10 自宅周辺の危険個所を確認している
- 11 特に準備をしていない
- 12 その他 ()

(問 48 で、「11 特に準備をしていない」と回答した方に伺います)

▶ 問 48-1 特に準備していない主な理由は次のうちどれですか。(2つまで○)

- 1 どのような準備をしたら良いのかわからないから
- 2 準備は必要だと思うが、忙しくてできないから
- 3 防災用品等は価格が高いから
- 4 保管場所が無いから
- 5 すぐに大規模な災害が来るとは思っていないから
- 6 行政等での備蓄があるので、十分だと思っているから
- 7 その他 ()

(全員の方へ伺います)

問 49 ペットの防災について検討していることはありますか。(あてはまるもの全てに○)

- | | |
|--------------------------|---------------------|
| 1 預かり先を決めている | 5 予防接種やノミ・ダニ予防をしている |
| 2 所有者明示がある(マイクロチップ・迷子札等) | 6 考えていない |
| 3 避難に備えケージに慣れさせている | 7 ペットを飼っていない |
| 4 数日分の餌、水、ペットシート等を用意している | 8 その他() |

問 50 災害時における感染症拡大防止のため避難方法について検討していることはありますか。
(あてはまるもの全てに○)

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1 避難先を変える | 5 災害リスクがあっても自宅にいる |
| 2 感染防止対策をして避難所に行く | 6 ホテルや旅館などに避難する |
| 3 自治体が指定する避難所には行かない | 7 考えていない |
| 4 親戚や知人の家に避難する | 8 その他() |

<ご自身の健康について>

現在高津区では、健康づくり推進会議を開催しております。区民の皆様の健康に関する状況を伺い、健康づくり施策に生かしていきたいと考えており、次の設問にお答えください。

問 51 年に1回以上、健康診断を受診していますか。(1つだけ○)

- | | |
|----------|-----------|
| 1 受診している | 2 受診していない |
|----------|-----------|

(問 51 で、「1 受診している」と回答した方に伺います)

▶ 問 51-1 健康診断の結果を受けてどうしましたか。(1つだけ○)

- | |
|------------------------------|
| 1 異常なし |
| 2 要経過観察・要精密検査の項目があり、生活改善中 |
| 3 要経過観察・要精密検査の項目があるが、何もしていない |
| 4 治療中 |

(問 51 で、「2 受診していない」と回答した方に伺います)

▶ 問 51-2 受診していない主な理由は何ですか。(1つだけ○)

- | |
|-------------------|
| 1 受診する時間がない |
| 2 経済的に余裕がない |
| 3 受診の必要性を感じない |
| 4 受診の方法、仕組みがわからない |
| 5 その他() |

<公共施設や公共空間の整備について>

問 52 あなたは公園をどのくらいの頻度で利用していますか。(1つだけ○)

- | | | |
|----------|----------|-----------|
| 1 ほぼ毎日 | 3 週に1～2回 | 5 ほぼ利用しない |
| 2 週に3～4回 | 4 月に1～2回 | |

(問 52 で、「1 ほぼ毎日」「2 週に3～4回」「3 週に1～2回」「4 月に1～2回」と回答した方に伺います)

▶ 問 52-1 公園を訪れる目的はなんですか。(あてはまるもの全てに○)

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1 休憩や飲食の場所、読書 | 5 スポーツ(運動) |
| 2 散歩やジョギング | 6 催し物(イベント)への参加 |
| 3 子どもと遊ぶ | 7 自然観察 |
| 4 遊具や健康器具の利用 | 8 その他() |

(全員の方へ伺います)

問 53 武蔵溝ノ口駅北口ペDESTリアンデッキ(愛称:キラリデッキ)は駅間や商業施設を結ぶ重要な歩行空間ですが、完成後20年以上経過しており、利用の仕方が変わってきています。今後居心地の良い駅前広場づくりに向けて、どのような機能が道路空間にあれば利用したいと思いますか。(あてはまるもの全てに○)

- | | |
|------------------------|-------------------|
| 1 ベンチ等の休憩する場所 | 5 花壇やハーブなどの彩りある植栽 |
| 2 テーブルやイス等で飲食できる場所 | 6 その他() |
| 3 日差しをさえぎる木陰 | |
| 4 キッチンカーなどの買い物ができるスペース | |

問 54 川崎市では公共施設の地域化を進めており、高津区でも、橘出張所において地域の拠点となるようなリニューアルを進めています。区役所や出張所にあったらよいと思うものはなんですか。(あてはまるもの全てに○)

- | | |
|---------------------------|----------------|
| 1 自由に座って休憩できるベンチ | 6 区民が利用できる会議室 |
| 2 子どもが安心して遊べる空間 | 7 宅配便の受け取りボックス |
| 3 音楽やダンスを楽しめるスペース | 8 その他() |
| 4 飲料や軽食の販売、カフェ | |
| 5 地域の魅力を紹介する案内板やデジタルサイネージ | |

<地域におけるつながり・コミュニティについて>

問 55 身近な地域において、気軽に挨拶できる相手はいますか。(1つだけ○)

- 1 挨拶だけでなく、日常会話を交わす人がいる
- 2 挨拶のみする
- 3 いない

問 56 あなたが困ったときに相談できる人はいますか。(1つだけ○)

- 1 いる
- 2 いない

(問 56 で、「1 いる」と回答した方に)

▶ 問 56-1 相談できる人は誰ですか。(あてはまるもの全てに○)

- 1 同居している家族、親戚
- 2 友人・知人
- 3 離れて暮らしている家族、親戚
- 4 近所の人
- 5 専門機関、相談機関
- 6 相談する人はいるが、誰にも相談しない
- 7 その他 ()

(全員の方へ伺います)

問 57 あなたの直近 1 週間の外出についてお答えください。1 番多い外出理由は何ですか。
(1つだけ○)

- 1 仕事
- 2 買い物
- 3 通院
- 4 散歩
- 5 地域の集う場所 (老人いこいの家、町内会館、地域子育て支援センターなど)
- 6 習い事、趣味の活動など
- 7 介護サービス (デイケアなど)
- 8 外出していない
- 9 その他 ()

問 58 川崎市では、「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」に基づき、各区において、多様な主体の連携により、市民創発によって課題解決する区域レベルの新たな仕組みとして、地域でのさまざまな新しい活動や価値を生み出し、社会変革を促す基盤としての「ソーシャルデザインセンター (SDC)」を通じて、人や団体・企業、資源・活動をつなぐコーディネート機能とプロデュース機能や人材育成、まちのひろばへの支援等を進めています。

「ソーシャルデザインセンター (SDC)」を知っていますか (1つだけ○)

- 1 知っている
- 2 知らないが、聞いたことはある
- 3 聞いたことがない

＜高齢者支援について＞

川崎市では、高齢者が住み慣れた地域や自らが望む場で安心して暮らし続けることができるために関係機関と連携して支援を行っています。今後の高齢者支援の参考とするため、以下の設問にお答えください。

問 59 地域包括支援センターを知っていますか。（１つだけ○）

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1 知っていて、利用したことがある | 3 知らないが、聞いたことはある |
| 2 知っているが、利用したことはない | 4 知らない |

※）地域包括支援センターとは、川崎市から委託を受けた、公的な相談機関です。高齢者や家族、地域の方が身近に相談できる窓口で、高齢者の健康や生活、介護などに関する悩みや問題に対応します。高津区内には7箇所の地域包括支援センター（わらく、すえなが、陽だまりの園、溝口、ひさすえ、樹の丘、リ・ケア向ヶ丘）があります。

問 60 自分が年を取って（高齢の方は現在）、安心して暮らし続けるために知識を得ておく必要があると思うことは何ですか。（あてはまるもの全てに○）

- | |
|---|
| 1 介護保険制度に関する知識 |
| 2 認知症に関する知識 |
| 3 在宅医療に関する知識 |
| 4 終活（人生の最期を迎えるための準備）に関する知識 |
| 5 介護が必要になったときの財産管理（成年後見制度や家族信託）に関する知識 |
| 6 地域の身近な集いの場、居場所の情報（人とのつながり） |
| 7 気軽に相談できる場の情報 |
| 8 健康づくり・介護予防の情報 |
| 9 その他（ ） |

※）在宅医療とは、通院や入院ではなく、自宅や施設などの生活の場で受ける医療です。身体状況等により通院が困難になった時、かかりつけ医や看護師、リハビリ従事者などが自宅や施設に伺い、診察・治療・処置などを行います。

<あなた御自身について>

F 1 性別（１つだけ○）

1 男性	2 女性	3 その他	4 回答したくない
------	------	-------	-----------

F 2 年齢（１つだけ○）

1 18～19歳	4 30～34歳	7 45～49歳	10 60～64歳
2 20～24歳	5 35～39歳	8 50～54歳	11 65～69歳
3 25～29歳	6 40～44歳	9 55～59歳	12 70歳以上

F 3 職業（１つだけ○）

1 自営業主	4 勤め（パートタイム）	7 学生
2 家族従業（家業手伝い）	5 内職	8 無職
3 勤め（全日）	6 主婦（仕事はしていない）	9 その他（ ）

F 4 お住まいの地域（１つだけ○）

1 宇奈根	6 坂戸	11 久本	16 蟹ヶ谷	21 千年
2 梶ヶ谷	7 下作延	12 二子	17 子母口	22 千年新町
3 上作延	8 下野毛	13 溝口	18 子母口富士見台	23 野川
4 北見方	9 諏訪	14 向ヶ丘	19 新作	24 久末
5 久地	10 瀬田	15 明津	20 末長	

F 5 高津区にお住まいになって、何年になりますか。（１つだけ○）

1 1年未満	3 3年～5年未満	5 10年～20年未満
2 1年～3年未満	4 5年～10年未満	6 20年以上

F 6 あなたは町内会・自治会に加入していますか。（１つだけ○）

1 はい	2 いいえ
------	-------

F 7 あなたはインターネットを利用していますか。（１つだけ○）

1 はい	2 いいえ
------	-------

F 8 現在、一緒にお住まいのご家族は、あなたを含めて何人いらっしゃいますか。(1つだけ○)

1	1人	3	3人	5	5人	7	7人以上
2	2人	4	4人	6	6人		

F 9 あなたを含めてご家族の中に、次に該当する人はいらっしゃいますか。

(該当する年代全てに○をつけてください)

1	未就学児	3	中学生	5	いない
2	小学生	4	高校生		

F 10 65歳以上の方は同居していらっしゃいますか。(ご自分が65歳以上の方は「1」に○をつけてください。)(1つだけ○)

1	いる	2	いない
---	----	---	-----

以上でアンケートは終了です。

同封の返信用封筒(切手不要)に入れ、9月30日(月)までにご投函ください。

ご協力誠にありがとうございました。

高津区区民生活に関わるニーズ調査
報 告 書

2025（令和7）年3月

調査主体	高津区役所まちづくり推進部企画課 〒213-8570 川崎市高津区下作延2-8-1 電話 044-861-3131
調査実施	株式会社エスピー研 〒102-0072 東京都千代田区飯田橋3-11-20 電話 03-3239-0071